



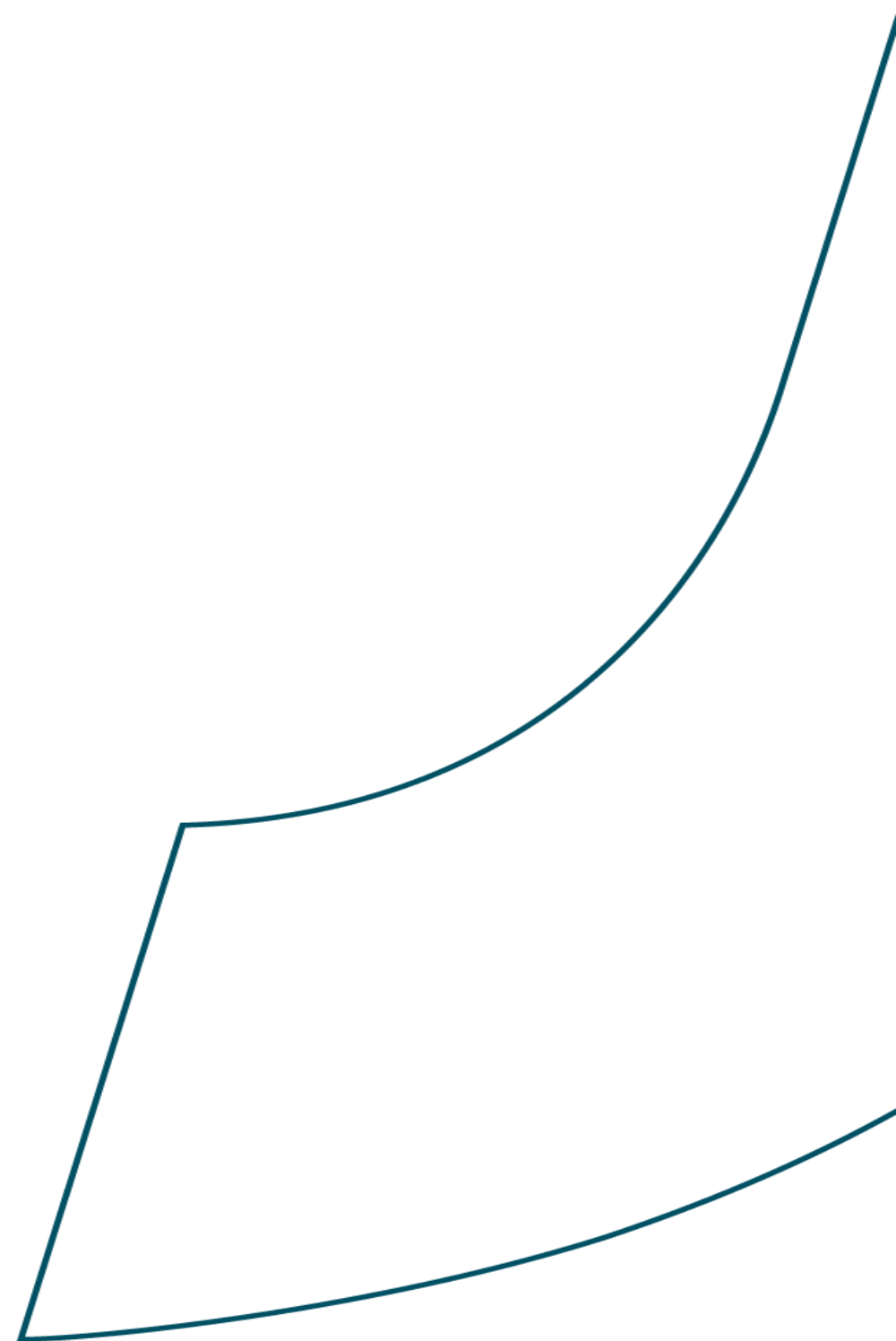
感動のそばに、いつも。

appendix

目次

1.自治体向けアンケート	… P.3	4.実地調査結果	… P.126
(1)調査方法	… P.4	5.ヒアリング調査結果	… P.138
(2)調査項目	… P.6	ヒアリング報告	… P.139
(3)調査結果	… P.17	民間企業との連携モデル	… P.180
(4)考察・提言	… P.18		
2.競技団体向けアンケート	… P.31	6. 有識者会議議事録	… P.181
(1)調査方法	… P.32	有識者会議議事録（第1回）	… P.182
(2)調査項目	… P.34	有識者会議議事録（第2回）	… P.184
(3)調査結果	… P.40	有識者会議議事録（第3回）	… P.187
(4)考察・提言	… P.60	有識者会議議事録（第4回）	… P.190
3. 一般向けアンケート	… P.68		
(1)調査方法	… P.69		
(2)調査項目	… P.71		
(3)調査結果	… P.77		
(4)考察・提言	… P.113		

1.自治体向けアンケート



(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

項目	過去開催自治体	直近開催自治体	未開催自治体
対象自治体	都道府県・政令指定都市		
調査対象自治体数	44自治体	8自治体	15自治体
回答自治体数 (回収率)	38自治体(86.3%)	6自治体(75.0%)	15自治体(100.0%)
実施方法	郵送法＋Web回答調査		
実施時期	2025年9月10日～11月19日		

(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

【共通調査項目(Q1～Q36)】※過去開催自治体は共通調査項目のみ

厚生労働省「令和7年度老人保健健康増進等事業」よりアンケートご協力をお願い

(①自治体用)

ねんりんピックに関するアンケート調査

アンケート記入日: 令和7年 月 日

* 囲みなしの番号は調査票での設問番号、囲みありの番号はオンラインでの設問番号です。
例: Q7. Q8 → 調査票 7 問目、オンラインでは 8 問目

Q1. Q1 貴自治体の種類について、該当する箇所のひとつだけ☑をつけてください

☐ 都道府県 ☐ 政令指定都市

Q2. Q2 貴自治体の名称を教えてください

自治体名

Q3. Q3 所属する部署名を教えてください（記載例: ○○部○○課○○係）

部署名

Q4. Q4 差し支えなければ、ご担当者様の氏名を教えてください(任意)

担当者名

Q5. Q5 差し支えなければ、ご連絡先を記入してください(任意)

電話番号

E-mail

本調査研究事業では、これまでのねんりんピックの運営方法にこだわらない効率的かつ持続的な運営方法の検討を行っています。それぞれの行事(事業)について、過去大会を開催した経験や、過去大会に選手団派遣(引率)した経験などから、あり方の課題、改善点、要望したい点について、幅広くご回答願います。

参考: ねんりんピックの目的(全国健康福祉祭開催要綱より)

高齢者を中心とする国民の健康の保持・増進・社会参加、生きがいの高揚等を図り、ふれあいと活力のある長寿社会の形成に寄与する。

Q6. Q6～7 以下の事業番号を記載のうえ、自由にご記載ください。

- ① 開催時期や期間
- ② 開催種目数
- ③ 参加者数(大会の規模)
- ④ 大会運営方法(開催都道府県が設置する実行委員会事務局を中心に運営)
- ⑤ 総合開会式
- ⑥ 種目別交流大会
- ⑦ その他イベント(美術展・地域文化伝承館・音楽文化祭・講演会・ふれあい広場等)
- ⑧ 宿泊輸送(ホテル・バス・昼食弁当の手配)
- ⑨ 総合閉会式
- ⑩ 広報(開催自治体オリジナルイベント・県民運動)等
- ⑪ 協賛イベント・協賛募集・企業連携
- ⑫ その他()

事業番号	あり方の課題・改善点・要望したい点など(自由記述)

記載行が不足する場合は追加してください。

選手団派遣について

※選手団派遣(引率)の立場からご回答願います。

Q7. Q8 ねんりんピックへの選手団派遣に要する経費にかかる、貴自治体の令和7年度当初予算額を回答してください。
※本設問は参考のためにうかがうものです。本設問への回答結果が外部に公表されないよう配慮いたします。

令和7年度当初予算額 千円

Q8. Q9～10 Q7で回答いただいた令和7年度当初予算について、支出科目ごとの予算額内訳を記載してください。
※本設問は参考のためにうかがうものです。本設問への回答結果が外部に公表されないよう配慮いたします。

報償費	千円
旅費	千円
交際費	千円
需用費	千円
役務費	千円
委託料	千円
使用料及び賃借料	千円
備品購入費	千円
負担金、補助金及び交付金	千円
その他	千円
※支出科目名	

【共通調査項目(Q1～Q36)】※過去開催自治体は共通調査項目のみ

Q13. **Q21** より多くの種目で、より多くの選手が参加するための、改善点はありますか。自由にご記載ください。

Q14. **Q22～24** 新たに開催を希望する種目または、継続開催を希望する種目があれば、種目名をご記載ください。(最大3つまで)

種目1 種目2 種目3

Q15. **Q25～27**
(Q14で新規または継続開催を希望する種目を記載いただいた方)
Q14でご記載いただいた種目について開催を希望する理由を
種目ごとに下記のなかから上位3つまで☑をつけてください。
※⑫その他を選んだ場合は、具体的な理由も記載してください。

	種目1	種目2	種目3
① 地域での人気・参加希望者が多い	☐	☐	☐
② 高齢者の健康増進・介護予防に効果期待できる	☐	☐	☐
③ 地域の伝統・特色を活かせる	☐	☐	☐
④ 他の自治体との差別化が図れる	☐	☐	☐
⑤ 地域のスポーツ団体やクラブの要望がある	☐	☐	☐
⑥ 地域活性化や観光振興につながる	☐	☐	☐
⑦ 初心者や未経験者でも参加しやすい	☐	☐	☐
⑧ 世代間交流や多様な交流が促進できる	☐	☐	☐
⑨ 既存の施設・設備を有効活用できる	☐	☐	☐
⑩ 開催運営が比較的容易である	☐	☐	☐
⑪ 継続的な地域活動につながる	☐	☐	☐
⑫ その他	☐	☐	☐

上位3つ以内

【「⑫その他」に☑をつけた方】具体的な理由をご記入ください。

⑫その他[種目1]	
⑫その他[種目2]	
⑫その他[種目3]	

【共通調査項目(Q1～Q36)】※過去開催自治体は共通調査項目のみ

Q16. **Q28** スポーツ交流大会について、大会の規定(開催要領)により2大会連続の参加を制限していますが、当該制限があることによって生じた課題・トラブルがあれば教えてください。

スポーツ交流大会の参加制限(R7 岐阜大会開催要領より抜粋)：
ねりんピックはばたけ鳥取 2024 に選手もしくは監督として参加した者については、同一種目への参加を認めない。ただし、鳥取県及び岐阜県の選手については、この限りでない。

Q17. **Q29～30** ふれあいスポーツ交流大会について、自治体独自に、「2 大会連続出場不可」の規定を設けていますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
☐ ふれあいスポーツ交流大会のすべての種目について設けている
☐ 一部の種目について設けている ⇒その場合の種目()
☐ 設けていない

Q18. **Q31** (Q17 で「ふれあいスポーツ交流大会のすべての種目について設けている」または「一部の種目について設けている」と回答した方)
独自に「連続出場不可」の規定を設けている理由に該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、あわせて具体的な内容を括弧内に記載してください。
☐ より多くの選手に出場してもらうため
☐ 競技団体からの要望
☐ その他()

Q19. **Q32** (Q17 で「ふれあいスポーツ交流大会のすべての種目について設けている」または「一部の種目について設けている」と回答した方)
ふれあいスポーツ交流大会について、自治体独自に設けている「2大会連続出場不可」の規定を見直す予定はありますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
☐ 見直す予定はない
☐ 見直す予定がある ⇒その場合の時期()

Q20. **Q33** 総合開会式への原則全員参加について、選手団派遣の立場からのご意見として該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、あわせて具体的な内容を括弧内に記載してください。
☐ 原則全員参加が良い
☐ 任意参加が良い
☐ その他()

Q21. **Q34** Q20 で回答した内容について、その選択肢を選んだ理由を記載してください。

Q22. **Q35** 総合開会式開催場所について、選手団派遣の立場からのご意見として該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、あわせて具体的な内容を括弧内に記載してください。

【参考】 R7 岐阜大会 岐阜メモリアルセンター陸上競技場(屋外)
R6 鳥取大会 鳥取県民体育館(屋内) ※荒天のため
R5 愛媛大会 愛媛県総合運動公園陸上競技場(屋外)
R4 神奈川大会 横浜アリーナ(屋内)

- ☐ 屋外開催が良い
- ☐ 屋内開催が良い
- ☐ オンライン開催が良い
- ☐ 現地とオンラインのハイブリッド開催(サテライト会場有り)が良い
- ☐ 現地とオンラインのハイブリッド開催(サテライト会場無し)が良い
- ☐ その他()

Q23. **Q36** Q22 で回答した内容について、その選択肢を選んだ理由を記載してください。

Q24. **Q37** 選手団代表入場(行進)について、選手団派遣の立場からのご意見として該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、あわせて具体的な内容を括弧内に記載してください。

【参考】 R7 岐阜大会 (選手団一斉更新)
R6 鳥取大会 ※荒天のため一部プログラムを変更
R5 愛媛大会 (選手団代表入場(行進))
R4 神奈川大会 (選手団代表入場(行進))

- ☐ 人数制限を設ける等、選手団代表入場(行進)が良い
- ☐ 選手団一斉行進が良い
- ☐ 行進は無しがよい
- ☐ その他()

Q25. **Q38** Q24 で回答した内容について、その選択肢を選んだ理由を記載してください。

【共通調査項目(Q1～Q36)】※過去開催自治体は共通調査項目のみ

- Q26. **Q39** 総合開会式の時間について(開式通告から閉式通告まで)、選手団派遣の立場からのご意見として該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、あわせて具体的な内容を括弧内に記載してください。
- 【参考】 R7 岐阜大会 (1時間 40分)※予定
R6 鳥取大会 (41分)※荒天のため一部プログラムを変更
R5 愛媛大会 (2時間 11分)
R4 神奈川大会 (1時間 51分)
- ☐ 1時間未満が良い
☐ 1時間程度が良い
☐ 1時間 30分程度が良い
☐ 2時間程度が良い
☐ 2時間以上が良い
☐ その他()

Q27. **Q40** Q26 で回答した内容について、その選択肢を選んだ理由を記載してください。

- Q28. **Q41** ねんりんピックに限らず、都道府県・政令指定都市規模で実施している、高齢者のスポーツイベント、文化イベント等がありますか。都道府県・指定都市主催以外のイベントも含め、分かる範囲でご回答ください。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
- ☐ ある
☐ 過去にはあった(現在は無い)
☐ ない
☐ 把握していない

Q29. **Q42～45** (Q28 で「ある」または「過去にはあった(現在は無い)」と回答した方) 該当のイベントの下記項目について、わかる範囲で記載してください。

	主催者	イベント名	イベント内容	実施時期	対象者
1					
2					
3					

記載行が不足する場合は追加してください。

Q30. **Q46** 貴自治体で行うスポーツ振興事業や健康増進事業について、民間企業・民間団体との連携協定等、協力関係を結んでいる事例がありますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

- ☐ 事例がある ☐ 過去には事例があった(現在は無い) ☐ 事例がない

Q31. **Q47～50** (Q30 で「事例がある」または「過去には事例があった(現在は無い)」と回答した方) 該当事例の下記項目について、記載してください。

	どのような事業に対する協力関係か	企業名	連携開始時期	連携したことで得られたメリット
1				
2				
3				

記載行が不足する場合は追加してください。

Q32. **Q51** ねんりんピック開催は、高齢者の健康づくりや社会参加を促進する貴重な機会です。今後、ねんりんピック参加者の健康に関するデータを開催自治体や民間企業等により取得し、自治体へもフィードバックすることが可能となった場合に、貴自治体の大会後の高齢者健康づくり施策等に役立つと考えられるデータを教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、あわせて具体的な内容を括弧内に記載してください。

- ☐ ① 参加者の体力測定データ(歩行速度・握力など)
☐ ② 参加者の健康データ(血圧・体重・BMI など)
☐ ③ 高齢者の運動習慣に関するデータ
☐ ④ 高齢者の食習慣・栄養状況
☐ ⑤ 健康寿命と地域特性の相関データ
☐ ⑥ その他()
☐ ⑦ 特にない

Q33. **Q52** ねんりんピック開催を通じて Q32 で回答した高齢者データの取得・活用をしたいですか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

- ☐ 取得・活用をしたい ☐ 内容・条件次第では取得・活用をしたい ☐ 取得・活用はしたくない

Q34. **Q53** (Q33 で「内容・条件次第では取得・活用をしたい」と回答した方) どういう内容・条件なら活用したいかを記載してください。

【共通調査項目(Q1～Q36)】※過去開催自治体は共通調査項目のみ

Q35. Q54 その他、ねんりんピックについて、自治体として期待することや、厚生労働省に要望したい点、協力を求めたい点があれば自由にご記入ください。

Q36. Q55 追加でインタビュー(対面またはオンライン)をお願いする可能性がございます。その場合、ご対応いただくことは可能でしょうか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

- ☐ 対応可能
- ☐ 対応は困難

アンケートは以上で終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【直近開催自治体 調査項目(Q37以降)】

Q37. **Q56**

貴自治体において、ねんりんピックを開催することになった経緯・理由について、該当する箇所すべてに☑をつけてください。

※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な経緯・理由を括弧内に記載してください。

☐ 厚生労働省からの要望

☐ 高齢者の生きがいづくり

☐ 都道府県からの要望

☐ 観光振興・地域活性化

☐ 市町村からの要望

☐ 他の自治体が開催していたから

☐ 地域の健康増進施策の一環

☐ その他()

☐ スポーツ振興施策の一環

Q38. **Q57**

ねんりんピック開催時の主な担当部署について、該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

※「その他」に☑をつけた場合は、部署名を括弧内に記載してください。

☐ スポーツ振興担当部署

☐ 健康福祉(高齢者福祉)担当部署

☐ 観光・地域振興担当部署

☐ 企画政策・総合政策担当部署

☐ その他()

Q39. **Q58**

ねんりんピックの開催準備・運営にあたって、ねんりんピック担当部署以外の部署や関係団体と役割分担して実施した(または共同で実施した)事業はありましたか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。

例:PR イベントを観光担当部署や観光協会が主催、協賛・ボランティア募集について産業振興担当部署が実施、県オリジナルイベントはスポーツ振興担当部署が主催など

※「その他」に☑をつけた場合は、連携先を括弧内に記載してください。

☐ スポーツ振興担当部署

☐ 広報担当部署

☐ 健康福祉(高齢者福祉)担当部署

☐ 地域の観光協会

☐ 観光・地域振興担当部署

☐ 地域のスポーツ団体

☐ 企画政策・総合政策担当部署

☐ 地元商工会 / 企業

☐ 産業振興担当部署

☐ ボランティア団体

☐ 交通政策担当部署

☐ その他()

Q40. **Q59~60**

ねんりんピックを開催して良かったことについて、該当する箇所すべてに☑をつけてください。

※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ ① 高齢者の健康増進につながった

☐ ② 高齢者の社会参加促進につながった

☐ ③ 参加者の地域交流が活発になった

☐ ④ スポーツや文化活動を日常的に楽しむ高齢者が増えた

☐ ⑤ 新しい世代間交流が生まれた

☐ ⑥ 多くの参加者の参加があった(延べ参加者数)

☐ ⑦ 県外観光客が増えた

☐ ⑧ 県内観光客が増えた

☐ ⑨ 県内のスポーツ振興・文化振興につながった

☐ ⑩ 地元経済が活性化した(宿泊・飲食・交通・物産販売など)

☐ ⑪ 開催地の全国的な知名度が上がった

☐ ⑫ 地域の「健康長寿の取り組みのブランド力」が強化された

☐ ⑬ 企業等との連携が強化され、地域の産業振興につながった

☐ ⑭ その他()

上記のうち、特に良かったことを一つ選び、丸数字の番号をご記入ください

Q41. **Q61**

ねんりんピック開催の前後に効果測定(例:住民への意識調査など)を実施しましたか。該当する箇所ひとつだけ☑をつけてください。

☐ 実施した(実施する予定)

☐ 実施していない

Q42. **Q62**

(Q41 で「実施した(実施する予定)」と回答した方)

具体的にどのような効果測定を実施したか(する予定か)記載してください。

Q43. **Q63**

ねんりんピック開催後、ねんりんピックのレガシーとなるような取組の実施の検討をおこないましたか。該当する箇所ひとつだけ☑をつけてください。

☐ 検討をおこない、取組を実施した(継続実施中)

☐ 検討をおこない、取組を実施した(継続実施はしていない)

☐ 検討をおこなったが、取組は実施しなかった

☐ 検討はしなかった

Q44. **Q64**

(Q43 で「検討をおこない、取組を実施した」と回答した方)

ねんりんピック開催をきっかけに始まったレガシーの取組の内容について具体的に教えてください。

© 2024 JTB Tourism Research & Consulting Co.

12

【直近開催自治体 調査項目(Q37以降)】

Q45. Q65～66 ねんりんピック開催において、課題や難しかった点があれば教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ ① 財政負担

☐ ② 人的負担(担当部署への職員数の確保)

☐ ③ 厚生労働省への職員派遣

☐ ④ 人的負担(式典等イベントへの他部署からの職員動員(実施本部員)の確保)

☐ ⑤ 準備期間の長さ

☐ ⑥ 総合開会式の準備・運営

☐ ⑦ 総合閉会式の準備・運営

☐ ⑧ お成りにかかる準備、調整

☐ ⑨ 市町村との調整

☐ ⑩ 式典施設の確保、調整

☐ ⑪ 競技施設の確保、調整

☐ ⑫ 宿泊施設の確保、調整

☐ ⑬ 県内輸送計画の作成、調整

☐ ⑭ 協賛募集活動

☐ ⑮ 広報活動

☐ ⑯ 実行委員会の準備・運営

☐ ⑰ ボランティアの準備・運営

☐ ⑱ ふれあい広場の準備・運営

☐ ⑲ 文化イベント(美術展・地域文化伝承館・短歌展等)の準備・運営

☐ ⑳ オリジナルイベントの準備・運営

☐ ㉑ 医療者の確保、医療機関との調整

☐ ㉒ ねんりんピックの知名度の低さ

☐ ㉓ 高齢者向けイベントの優先度が低い

☐ ㉔ その他()

上記のうち、特に難しかったことを一つ選び、丸数字の番号をご記入ください

Q46. Q67 (都道府県自治体の方)

競技開催市町村決定に苦勞した種目はありましたか。あれば種目名をご記載ください。

Q47. Q68～69 ねんりんピック開催において、企業・団体との協賛・連携はありましたか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

☐ あり ⇒(協賛企業・団体数:)

☐ なし

Q48. Q70 (Q47 で企業・団体との協賛・連携について「あり」と回答した方)

具体的にどのような形の協賛・連携でしたか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ 大会運営資金の協賛(スポンサー料)

☐ 大会運営資金の助成(助成事業への申請)

☐ 広告協賛(総合プログラム・大会ガイドブック等への広告掲載)

☐ 商品・サービスの提供(商品(飲料、健康食品、運動用品などの物品の提供)

☐ 企業ブースの出展・企業イベントの開催(健康測定、体験ブース・ステージイベント等)

☐ 企業との共同企画(タイアップ商品の開発など)

☐ その他()

Q49. Q71 協賛について、目標設定をしていましたか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

☐ 目標設定をしていた

☐ 目標設定をしていない

Q50. Q72 (Q49 で「目標設定をしていた」と回答した方)

具体的な目標設定の内容を回答してください。(協賛金額・協賛件数など)

Q51. Q73 協賛募集期間を設定していたら回答してください。(例:〇年〇月〇日～〇年〇月〇日)

Q52. Q74 (Q47 で企業・団体との協賛・連携について「あり」と回答した方)

協賛の合計金額(実績)を回答してください。
※本設問は参考のためにうかがうものです。本設問への回答結果が外部に公表されないよう配慮いたします。

協賛の合計金額(実績) 千円

Q53. Q75 協賛の募集のために要した費用を回答してください。(協賛募集のためのチラシ作成費・発送費・旅費・広告費等)

※感謝状や協賛ボードなど、協賛申込を受けた後に要した費用は含めないでください。
※本設問は参考のためにうかがうものです。本設問への回答結果が外部に公表されないよう配慮いたします。

協賛の募集費用 千円

【直近開催自治体 調査項目(Q37以降)】

- Q54. **Q76** (Q47 で企業・団体との協賛・連携について「あり」と回答した方)
企業・団体からの協賛・連携を集めるために、どのような働きかけを行いましたか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 大会ホームページに掲載

☐ 個別に依頼(電話)
- ☐ 県ホームページに掲載

☐ 個別に依頼(訪問)
- ☐ 外部ホームページに掲載(ポータルサイト等)

☐ 無料広告(自治体広報誌等)の活用
- ☐ 記者発表(投げ込み)

☐ 有料広告の活用
- ☐ 記者発表(知事定例)

☐ クラウドファンディングの活用
- ☐ チラシ・リーフレットの作成・発送

☐ ふるさと納税の活用
- ☐ 商工会議所等の経済団体へ依頼

☐ その他()
- ☐ 個別に依頼(メール)
- Q55. **Q77～78** (Q47 で企業・団体との協賛・連携について「あり」と回答した方)
個別に働きかけを行った企業等の選定方法について、該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「過去に開催した全国イベントへの協賛企業・団体から選定」「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 経済団体からの紹介
- ☐ 関連部署からの紹介
- ☐ 有識者からの紹介
- ☐ 過去に開催した全国イベント()への協賛企業・団体から選定
- ☐ その他()
- Q56. **Q79** (Q47 で企業・団体との協賛・連携について「あり」と回答した方)
協賛・連携によって得られたメリットについて、該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 開催費用の一部を賄うことができた
- ☐ ねんりんピック(関連イベント)の充実度が増した
- ☐ 企業ブース・企業イベントの提供により、参加者の満足度が向上した
- ☐ 企業・団体との関係強化ができ、他の自治体主催事業にも波及した

☐ 地元企業・団体の広報や、活性化に効果があった
- ☐ ねんりんピックの開催周知に効果があった
- ☐ その他()
- Q57. **Q80** (Q47 で企業・団体との協賛・連携について「あり」と回答した方)
協賛・連携のあり方について、企業や団体から提案を受けたことはありますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
- ☐ ある

☐ ない
- Q58. **Q81** (Q57 で「ある」と回答した方)
企業・団体からの具体的な提案内容を教えてください。
-

- Q59. **Q82** 協賛・連携に関して、課題や難しかった点について、該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 企業・団体数の確保が難しかった
- ☐ 企業・団体側が「ねんりんピック」への協賛・連携のメリットを理解しにくかった
- ☐ 企業ブース・企業イベントの運営や調整に手間がかかった
- ☐ 企業・団体の関与が一過性で、継続的な連携には至らなかった
- ☐ その他()
- Q60. **Q83** 今後、企業・団体との協賛・連携で期待することについて、該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 開催費用のさらなる負担軽減
- ☐ 企業との共同イベントの充実(健康講座、運動プログラムなど)
- ☐ シニア向けの商品開発・実証実験の場としての活用
- ☐ 地域産業・企業とのコラボレーション(地元特産品とのコラボなど)
- ☐ その他()
- Q61. **Q84** 企業・団体等との協賛・連携にあたり、厚生労働省の協力があると良かった点があれば教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 協賛企業・団体の紹介やマッチング
- ☐ 協賛企業・団体への働きかけ・後援の依頼
- ☐ 協賛に関するガイドラインや手続きの整備
- ☐ 協賛企業・団体との契約・調整に関する支援
- ☐ 協賛金や物品協賛の獲得に向けた広報・PR の強化
- ☐ 協賛企業・団体のメリット・事例の情報提供
- ☐ 企業・団体との連携によるイベント企画や運営支援
- ☐ その他()
- Q62. **Q85** 大会運営全体や本調査にご回答いただいた内容について、補足や改善要望、追加意見等ございましたら、自由にご記載ください。
また、後催県へ向けた伝達事項などございましたら、自由にご記載ください。
-

アンケートは以上で終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【未開催自治体 調査項目(Q37以降)】

Q37. Q56～57 今後、ねんりんピックを開催するにあたって期待することを教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

- ☐ ① 高齢者の健康増進
- ☐ ② 高齢者の社会参加促進
- ☐ ③ 参加者の地域交流
- ☐ ④ スポーツや文化活動を日常的に楽しむ高齢者の増加
- ☐ ⑤ 新たな世代間交流の促進
- ☐ ⑥ 県外観光客の増加
- ☐ ⑦ 県内観光客の増加
- ☐ ⑧ 県内のスポーツ振興・文化振興
- ☐ ⑨ 地元経済の活性化(宿泊・飲食・交通・物産販売など)
- ☐ ⑩ 開催地の全国的な知名度の向上
- ☐ ⑪ 地域の「健康長寿の取り組みのブランド力」の強化
- ☐ ⑫ 企業等との連携強化、地域の産業振興
- ☐ ⑬ その他()

上記のうち、特に期待していることを一つ選び、丸数字の番号をご記入ください

Q38. Q58～59 ねんりんピックを開催するにあたっての懸念点を教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

- ☐ ① 財政負担
- ☐ ② 人的負担(担当部署への職員数の確保)
- ☐ ③ 厚生労働省への職員派遣
- ☐ ④ 人的負担(式典等イベントへの他部署からの職員動員(実施本部員)の確保)
- ☐ ⑤ 準備期間の長さ
- ☐ ⑥ 総合開会式の準備・運営
- ☐ ⑦ 総合閉会式の準備・運営
- ☐ ⑧ お成りにかかる準備、調整
- ☐ ⑨ 市町村との調整
- ☐ ⑩ 式典施設の確保、調整
- ☐ ⑪ 競技施設の確保、調整
- ☐ ⑫ 宿泊施設の確保、調整
- ☐ ⑬ 県内輸送計画の作成、調整
- ☐ ⑭ 協賛募集活動
- ☐ ⑮ 広報活動
- ☐ ⑯ 実行委員会の準備・運営
- ☐ ⑰ ボランティアの準備・運営
- ☐ ⑱ ふれあい広場の準備・運営
- ☐ ⑲ 文化イベント(美術展・地域文化伝承館・短歌展等)の準備・運営
- ☐ ⑳ オリジナルイベントの準備・運営
- ☐ ㉑ 医療者の確保、医療機関との調整
- ☐ ㉒ ねんりんピックの知名度の低さ
- ☐ ㉓ 高齢者向けイベントの優先度が低い
- ☐ ㉔ その他()

上記のうち、特に懸念していることを一つ選び、丸数字の番号をご記入ください

Q39. Q60 ねんりんピックを開催するにあたって、企業との協賛・連携を強化したいですか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

- ☐ 強化したい
- ☐ 強化したくない

Q40. Q61 (Q39で「強化したい」と回答した方)
具体的にどのような企業と、どのような協賛・連携を強化したいですか。

【未開催自治体 調査項目(Q37以降)】

- Q41. Q62 企業・団体等との協賛・連携にあたり、厚生労働省に要望したい点、協力を求めたい点があれば教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 協賛企業・団体の紹介やマッチング
 - ☐ 協賛企業・団体への働きかけ・後援の依頼
 - ☐ 協賛に関するガイドラインや手続きの整備
 - ☐ 協賛企業・団体との契約・調整に関する支援
 - ☐ 協賛金や物品協賛の獲得に向けた広報・PRの強化
 - ☐ 協賛企業・団体のメリット・事例の情報提供
 - ☐ 企業・団体との連携によるイベント企画や運営支援
 - ☐ その他()

アンケートは以上で終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果 ※掲載省略

(4) 考察・提言

(1) 調査方法

(2) 調査項目

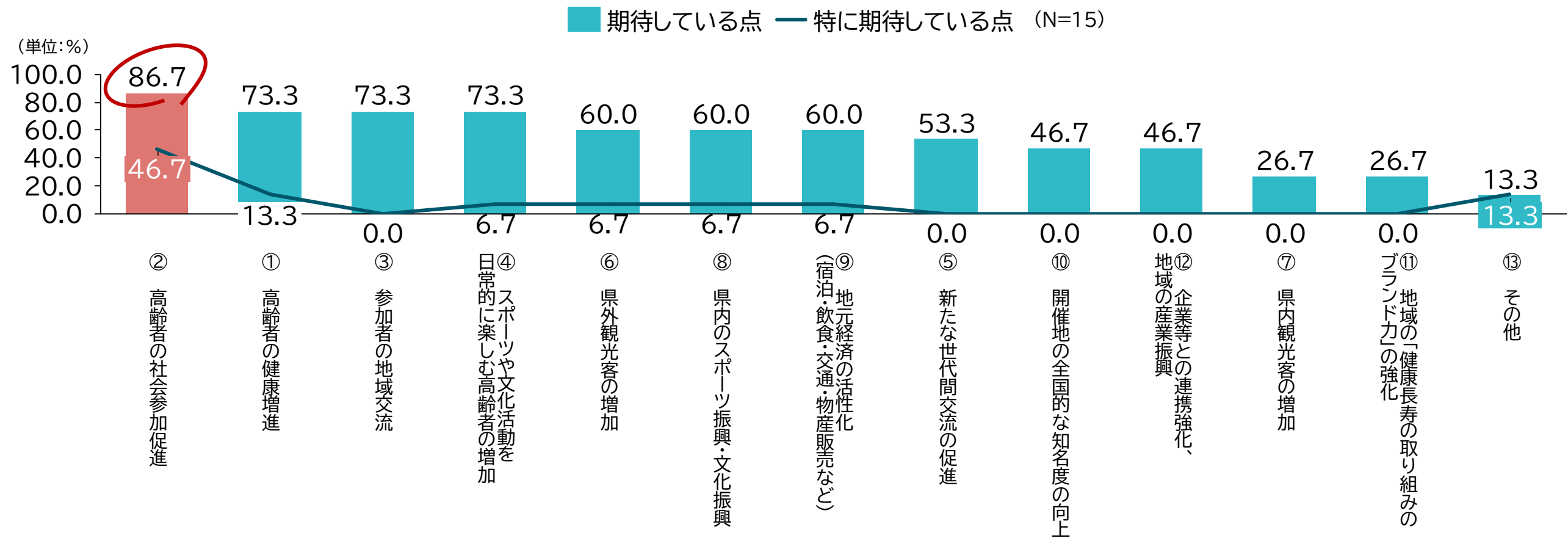
(3) 調査結果

(4) 考察・提言

自治体から見るねんりんピックの魅力①高齢者の社会参加促進

- ねんりんピックは、高齢者が社会とつながり、活動的な生活を送るための重要な機会を提供している。

【再掲：ねんりんピックに期待している点】



ねんりんピックの
果たす役割

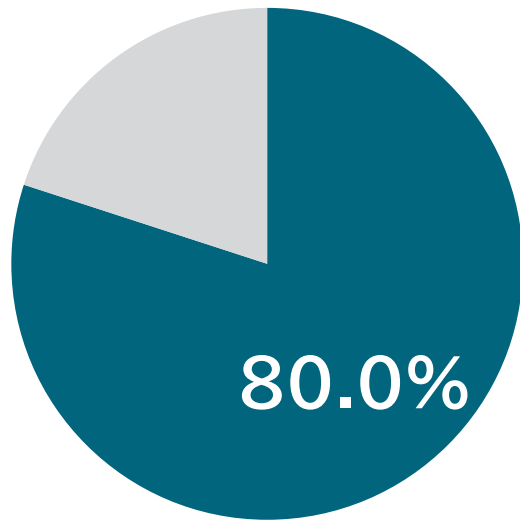
- ねんりんピックを通じて高齢者の社会的孤立を防ぎ、活動意欲の向上を促す可能性があるほか、新たな趣味や役割を見つけるきっかけとなり得る。
- 競技や文化プログラムへの参加だけでなく、ボランティア活動や観覧を通じて、多様な形で社会との接点を持つことができる。

自治体から見るねんりんピックの魅力②高齢者の健康増進と生きがいづくり

- ねんりんピックは、スポーツや文化活動を通じて、高齢者の心身の健康を維持し、充実した生きがいを創出している。

【ねんりんピックを開催して良かったこと】(再掲)

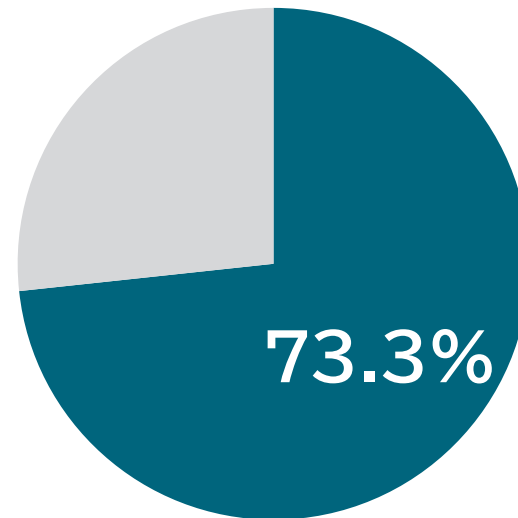
(N=5)



- 直近開催自治体の80.0%が高齢者の健康増進につながったと評価

【ねんりんピックの開催にあたって期待すること】(再掲)

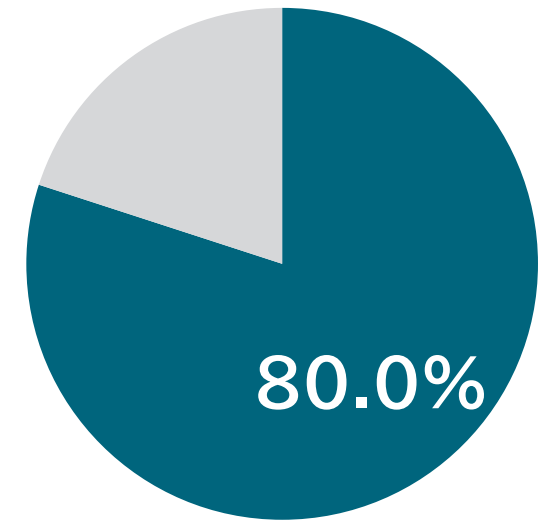
(N=15)



- 未開催自治体の73.3%がねんりんピック開催による高齢者の健康増進について期待

【ねんりんピック開催のきっかけ】(再掲)

(N=5)



- 直近開催自治体の80.0%がねんりんピック開催の経緯として「高齢者の生きがいづくり」を狙う

ねんりんピックの 果たす役割

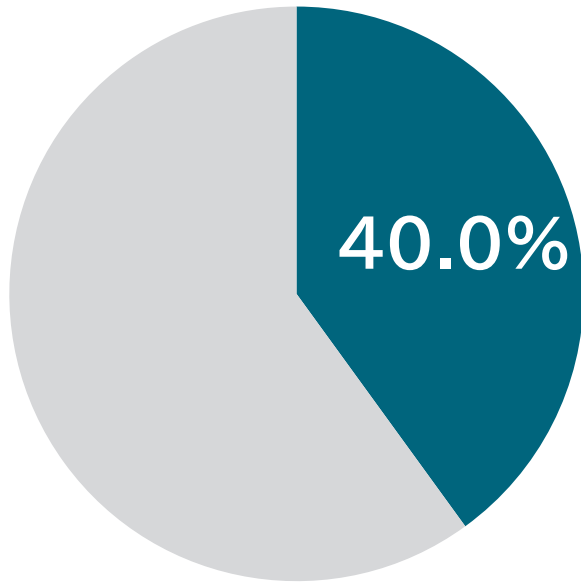
- 身体活動による健康維持、趣味や特技を通じた精神的な充実、目標を持つことによる日々の生きがいが持てる。
- 多様な競技種目や文化プログラムが用意されており、高齢者の幅広いニーズに応じた活動の場を提供できる。

自治体から見るねんりんピックの魅力③参加者間の地域交流活性化

- ねんりんピックは、全国各地から集まる参加者同士が交流を深め、新たな関係性と地域間の絆を育む貴重な場となる。

【ねんりんピック開催のメリット】(再掲)

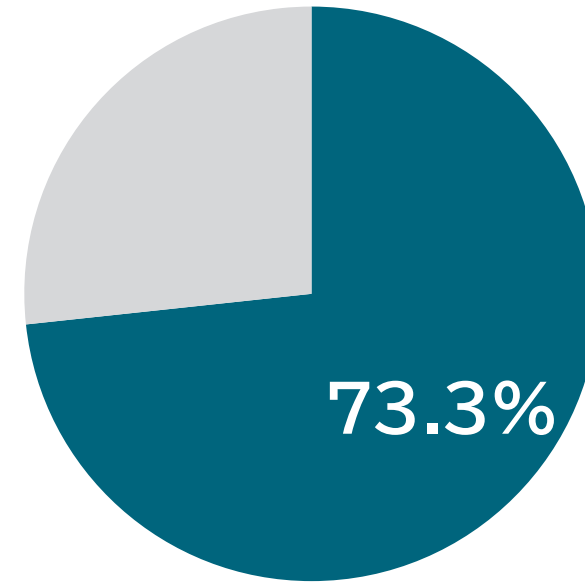
(N=5)



- 直近開催自治体の40.0%がねんりんピックによって地域交流が活発になったと評価

【ねんりんピック開催への期待】(再掲)

(N=15)



- 未開催自治体の73.3%がねんりんピックによって地域交流が活発になることを期待

ねんりんピックの
果たす役割

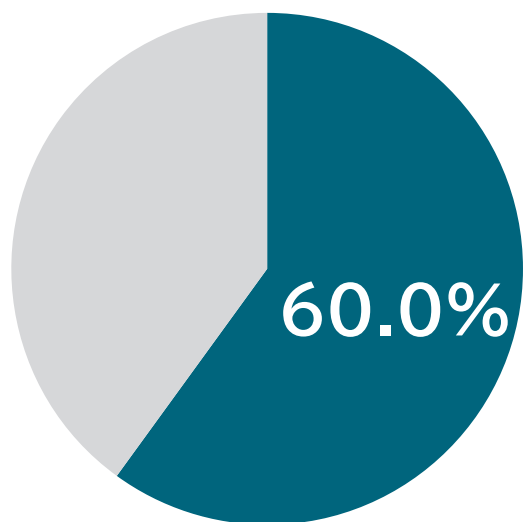
- 異なる地域の文化や習慣に触れる機会を提供し、相互理解を促進している。
- 共通の趣味や目的を持つ人々との出会いを通じて、新たな人間関係を築くことができる。
- 競技会場や関連イベント、ふれあい広場など、様々な場所で自然な交流が生まれるよう工夫されている。

自治体から見るねんりんピックの魅力④地域経済・文化振興への貢献

- ねんりんピックは、開催地域に経済的恩恵をもたらし、地域の文化やスポーツの発展を幅広く促進している。

【ねんりんピック開催のメリット】(再掲)

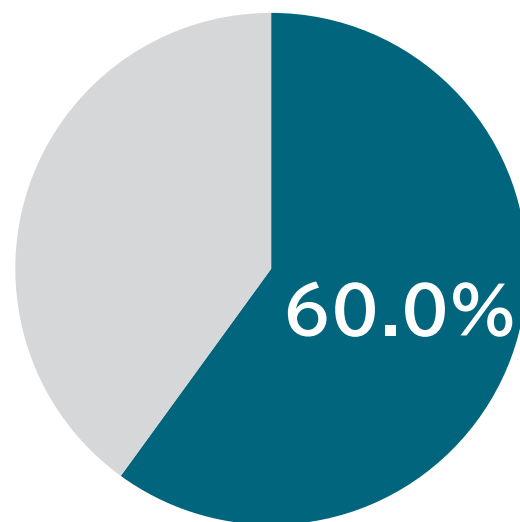
(N=5)



- 直近開催自治体の60.0%がねんりんピックによって県内のスポーツ振興・文化振興につながったと評価

【レガシーとなる取り組みの検討】(再掲)

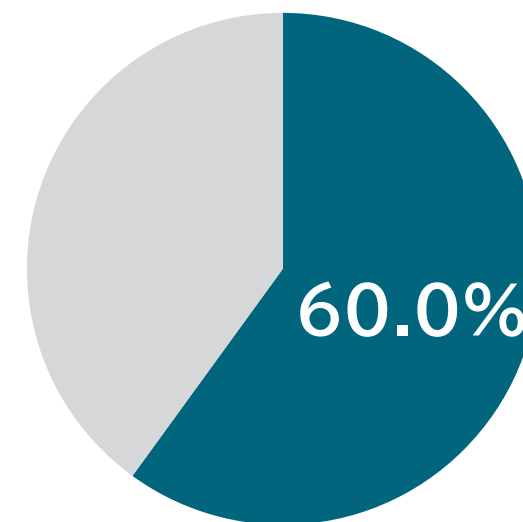
(N=5)



- 直近開催自治体の60.0%がねんりんピックによるレガシーとなるような取り組みを実施している

【ねんりんピックへの期待】(再掲)

(N=15)



- 未開催自治体の60.0%がねんりんピック開催によって県内のスポーツ振興・文化振興がなされると期待

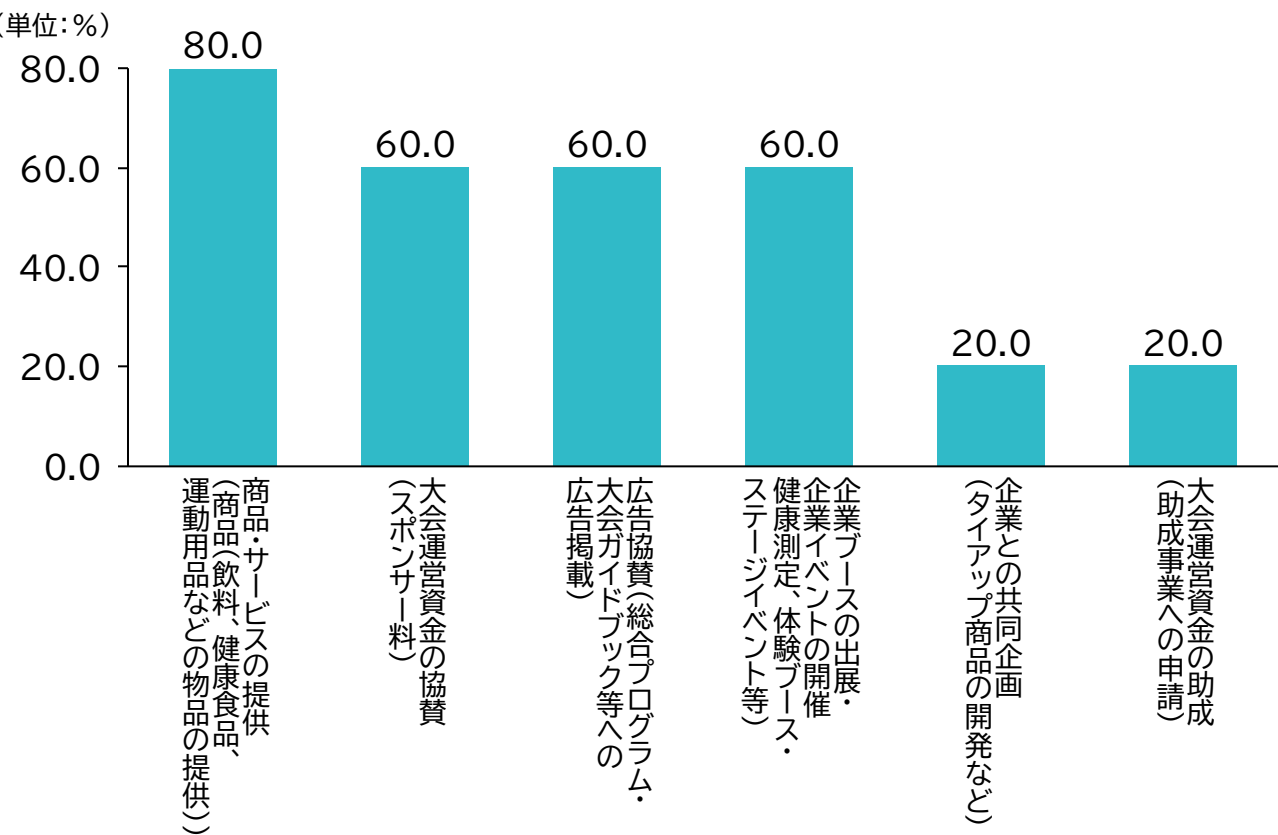
ねんりんピックの
果たす役割

- ねんりんピック開催は、地域のスポーツ施設活用や文化活動の発表の場を創出している。
- ねんりんピックが単なる競技会に留まらず、地域全体を巻き込む「祭り」としての側面を持ち、住民の参加意識を高める可能性がある。

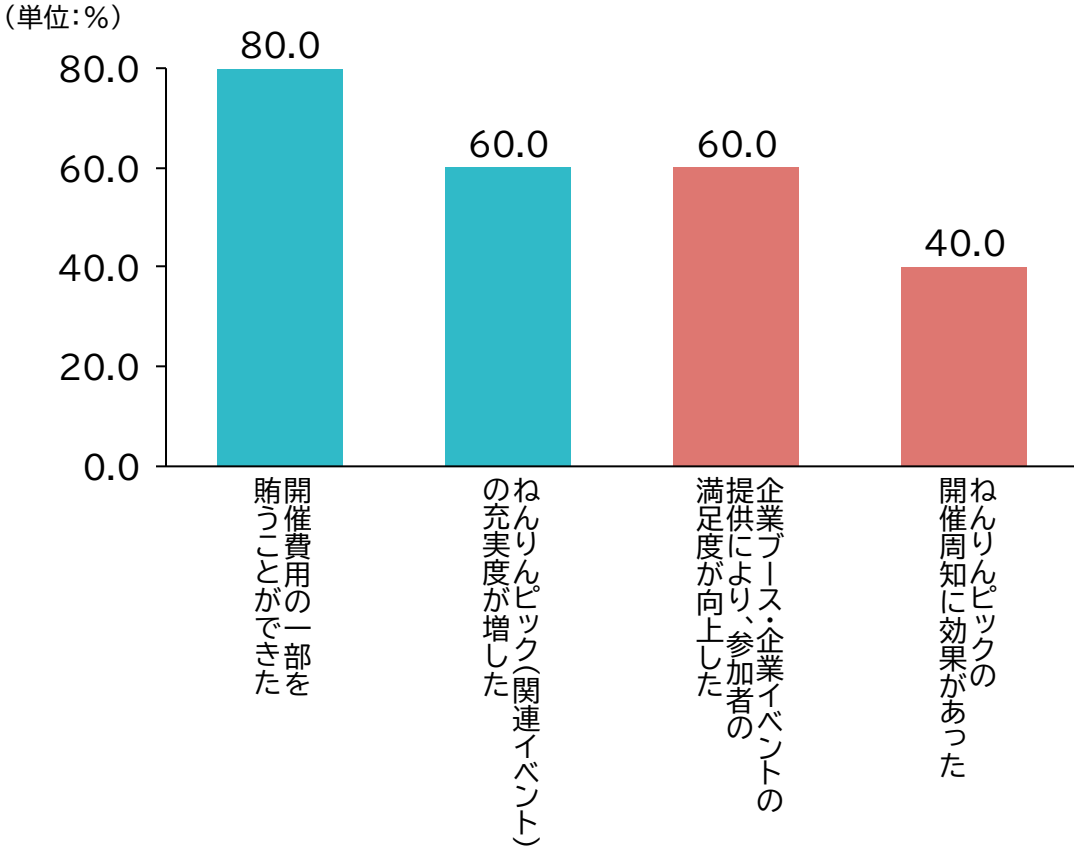
自治体から見るねんりんピックの魅力⑤企業・団体連携によるイベントの質向上

- ねんりんピックは、多様な企業・団体とのパートナーシップにより、より豊かで質の高いイベントとして実現されている。

【企業・団体との連携の形】(一部再掲)



【連携・協賛のメリット】(一部再掲)



ねんりんピックの
果たす役割

- 企業や団体による協賛は、財政的支援だけでなく、専門知識やリソースの提供、新たな企画の実現など、イベントの多角的な価値向上に貢献している。

自治体から見るねんりんピックの課題①開催時期・期間

【開催時期】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
希望開催時期												
避けたい時期												

- 10月下旬から11月上旬の開催は、地球温暖化の影響で10月中旬まで気温が高い日があり、運動に適しているほか、熱中症のリスクも低下する。
- 9月の開催は高齢者向けのスポーツ大会等が開催されるほか、老人習慣であるため様々なイベントが開催され、自治体及びスポーツ関連団体の繁忙期であるため、十分な労力を当該大会に割くことが困難もしくは大きな負担となる。

【開催期間】

- 開会式への参加のための前泊を含む4泊5日は長いと感じられており、休みが取れず参加辞退者が発生している。
- ホテル価格の高騰もあり、閑散期開催での全体的なコスト削減が求められる。



開催時期の柔軟化

- 原則「秋後半シーズン」に統一し、負担の大きい9月開催を避ける方針を明確化。
- 将来的な気候変動も踏まえ、数年単位で時期のレビューを行う。

開催期間の短縮

- 開会式の午後開催なども含め、前泊の必要運用を見直す。
- 開催日程も1日短縮し、業務負担軽減や休暇取得問題を緩和することも考えられる。

自治体から見るねんりんピックの課題②開催種目数・内容

【開催種目数】

	神奈川大会(第34回)	愛媛大会(第35回)	鳥取大会(第36回)	岐阜大会(第37回)	埼玉大会(第38回)
スポーツ交流大会	10	10	10	10	10
文化交流大会	4	4	6	5	4
ふれあいスポーツ交流大会	18	15	13	16	16
ふれあいレク大会	-	-	-	25	-

- スポーツ交流大会は毎年10種目開催しているが、その他の種目(ふれあいスポーツ・文化交流大会等)は不定となる。
- 近年は30種目前後で開催されているものの、種目数が多くなると会場確保などが困難となる。
- 参加対象の60代の就労増加でチーム編成が困難な事象も起きている。



種目数の最適化

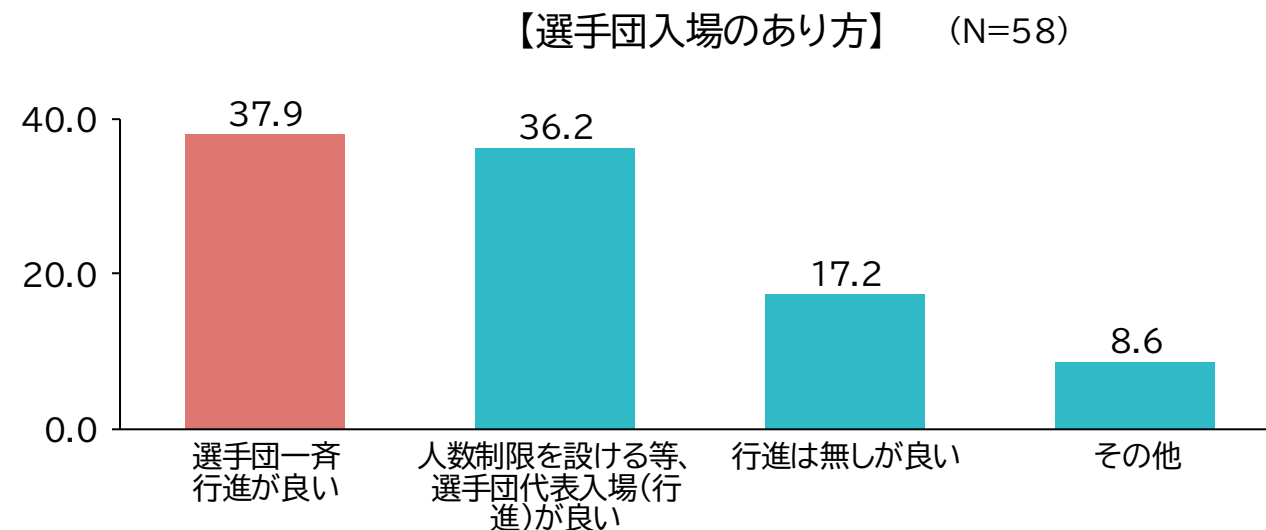
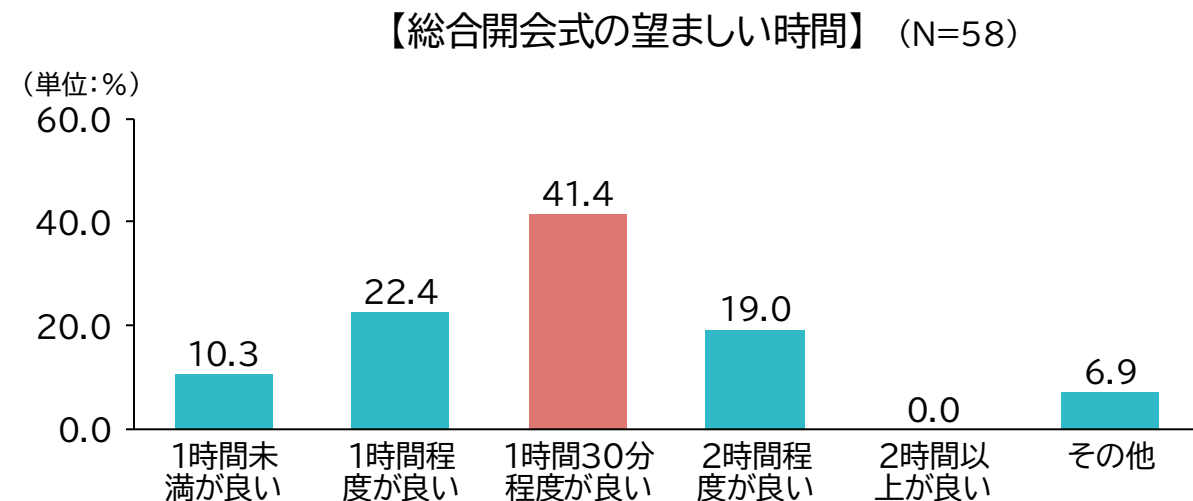
- 種目別の参加者数・負担・会場確保の難易度をスコア化し、A～Cランク分類することもあり得る。
- Cランク(参加困難・運営負荷大)は隔年開催など柔軟な対応とする

就労世代向けの時短競技や個人参加型種目の拡充

- 60代以上の就労増加に合わせて「短時間で成立する種目」を追加する。
- チーム編成困難な地域向けに個人参加が可能な種目を拡大することもあり得る

自治体から見るねんりんピックの課題③総合開会式時間

【式時間】



- 総合開会式時間は1時間半程度が最も望まれており、そこでの選手団入場は一斉行進が最も望まれているものの、代表入場の比率も高く、開催自治体に応じた対応が求められている。
- 高齢参加者の負担や運営上の課題から、その形式や規模の縮小を求める声が多数みられる。

「コンパクト&ハイライト」型プログラムへの再構築

- 挨拶や来賓紹介を最小限に抑え、式典の核となる部分(開会宣言、選手宣誓など)に集中させることが検討できる。
- 高齢者の身体的負担を大幅に軽減し、トイレの心配なども解消し、短時間でメリハリのある構成にすることが望ましい。

協賛企業との共同企画の積極的な推進

- 開会式冒頭で、各都道府県・政令指定都市の代表者(旗手など)が華やかに行進し、大会の象徴としての役割を担う一方、選手団全員が参加する「参加型入場」は、開会式とは別の時間帯や場所で、よりカジュアルな形式で実施することもあり得る。
- 開会式全体の時間短縮に貢献しながら、選手一人ひとりが「参加した」という実感を持てる機会を確保する。

自治体から見るねんりんピックの課題④総合開会式開催場所

【開会式場所への意見】

天候リスクと 体調管理

- 屋外開催の場合、雨天や猛暑・寒波といった天候に左右されやすく、高齢者の熱中症、低体温症、疲労など体調不良のリスクが高い。特に鳥取大会での雨天時の混乱経験が強く印象に残っている自治体が多い。
- 天候急変時の会場変更や対応がスムーズに行われず、参加者や事務局に大きな負担と不満が生じる。

会場規模

- 屋内開催が理想とされつつも、大規模な参加者全員を収容できるアリーナクラスの会場が全ての開催地にあるわけではなく、確保が困難な場合がある。



徹底したリスク管理と快適性向上

- 屋内会場の確保が困難な場合や、イベントの盛大さを重視して屋外開催を選択する場合は、徹底したリスク管理計画を策定し、参加者の快適性を最大限に高める必要がある。
- 例えば、大規模なテントや日よけ・雨よけの設置、荒天時の避難計画と避難場所の明確化、リアルタイムでの気象情報提供体制の構築などが求められる。
- 屋内開催を理想としつつ、やむをえず屋外開催とする場合には、屋外開催のメリット（規模感、開放感）を活かしつつ、デメリット（天候リスク、高齢者負担）を最小化する工夫が必要。一方で、規模を縮小してでも、限られた広さの屋内施設で開催できる方法を模索するという選択肢もある。

開催地選定における会場要件の明確化と技術支援

- 今後のねんりんピック開催地を選定する際に、総合開会式の会場に関する具体的な要件を明確に提示することが求められる。
- 開催自治体に対して、会場設営や運営に関する技術的なアドバイスや専門家派遣などの支援を提供することもあり得る。
- 開催自治体が会場確保に苦勞する現状を改善し、事前に実現可能性の高い計画を立てられるようにすることで、運営の質を均一化し、開催自治体の負担を軽減します。

自治体から見るねんりんピックの課題⑤大会運営

【自治体からの意見】

運営主体

- ・現在は都道府県の持ち回りで実行委員会事務局を中心に運営されているが、担当自治体の負担が大きく、運営方法の見直しや、国による直接実施を希望する声があげられる。
- ・開催事務局を別組織にするなど、運営方法の見直しが必要という意見もある。

連携体制

- ・実行委員会と市町村の連携体制が不明確で、開催地自治体との連携強化や、配布物・連絡事項の整理など、運営面での改善要望が複数寄せられている。
- ・種目別で何度も配布物や連絡事項が送られるため、実行委員会や会場自治体との連携方を改める意見がみられる。



運営主体の再構築

- 現状の「都道府県持ち回り方式」では、毎回の担当県が短期間で大量の業務を引き受けるため、自治体側の負担が過大となっている。
- 国が中心となって大会全体を統括する国直轄方式を選択肢として検討することが負担の軽減としては有効である。
- 運営ノウハウの連続性が保たれ、自治体間の負担格差も縮小できる。

事務局機能のプロ化

- 現在は自治体職員の兼務で運営が行われるケースが多く、担当者の異動や経験不足が課題となる。
- 運営事務局に常設の専任チームを設け、スポーツイベント運営・大会管理に精通した人材を配置することでノウハウの共有が期待できる。
- 専任化により、競技団体との調整や会場設営、参加自治体支援などの業務を属人的な運営から脱却できます。

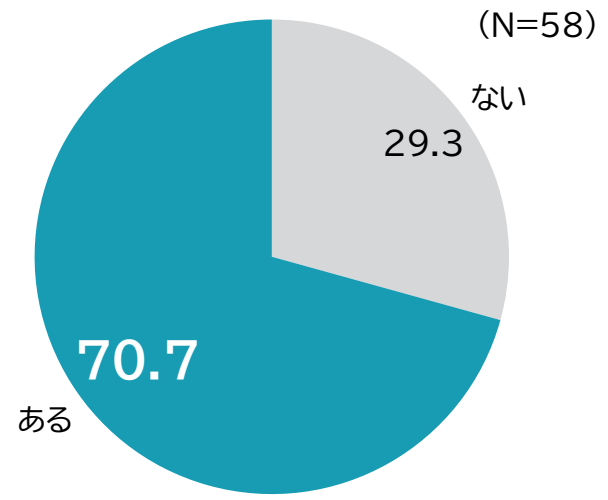
情報提供の早期化・一元化

- 自治体からは「開催要領が遅い」「資料がバラバラに何度も来る」という声が多く寄せられている。
- プログラム類は大会2～3か月前までに確定させる運用へ移行することで、各自治体の準備負担軽減につなげる。
- 専用ポータルサイトに資料を集約し、最新版を常に確認できる環境を整備することで、自治体の情報管理負担を削減できる。

自治体から見るねんりんピックの課題⑥選手募集の困難さ

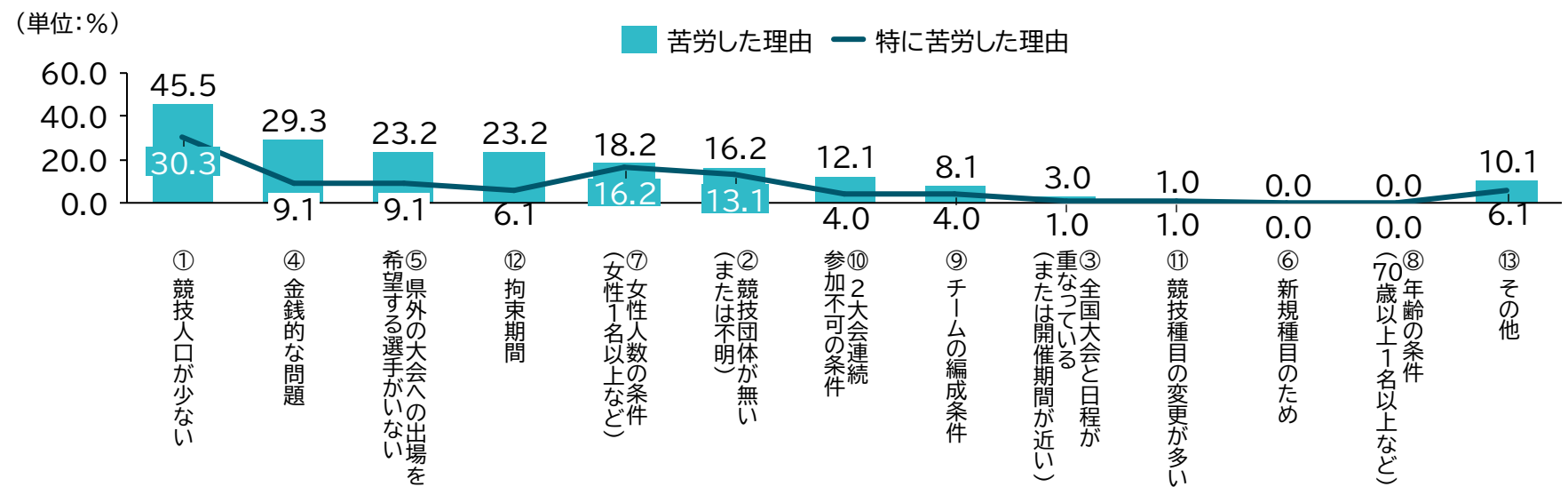
【選手募集の困難】

【選手募集に苦労した経験】



✓ 開催自治体・未開催自治体いずれも、過半数が選手募集に苦労した経験がある。

【選手募集に苦労した理由】(N=58)



✓ 主な理由として「競技人口が少ない」(45.5%)、「金銭的な問題」(29.3%)の他、「女性人数の条件」(特に苦労した理由で2位)があげられる。

・高齢化社会において、特定の競技人口の減少や、就労高齢者の増加に伴う参加条件(拘束期間など)が選手確保の足かせとなっている。

参加条件の柔軟化と多様な競技プログラムの導入

- 就労高齢者の増加に対応し、競技時間を短縮した「時短競技」や、個人でも気軽に参加できる種目を拡充する。
- 女性の参加が難しい競技については、性別条件の緩和や撤廃を検討し、より多くの高齢者が参加しやすい環境を整備する。

ターゲット層に合わせた広報戦略と体験機会の創出

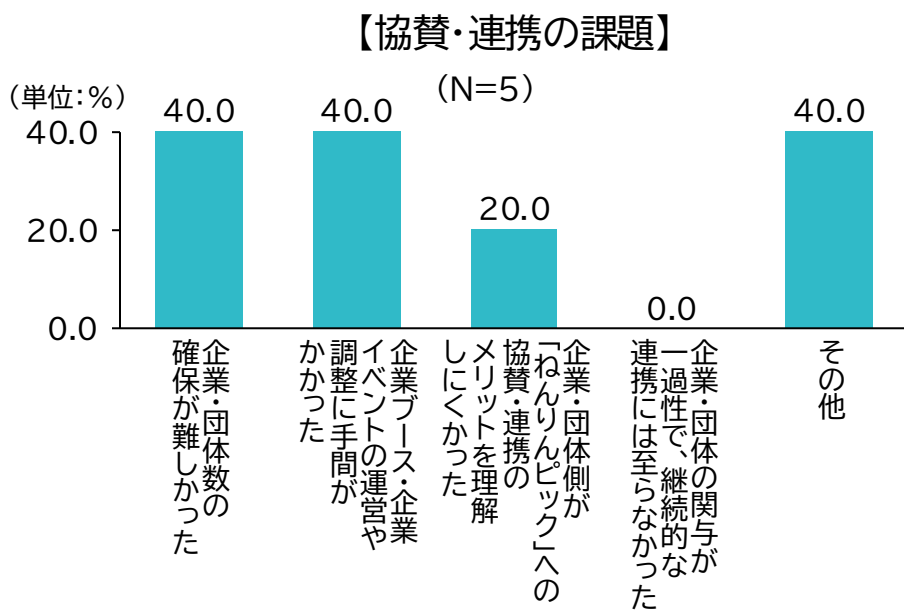
- 競技人口が少ない種目や、これまでねんりんピックに参加経験のない層に対し、SNS、地域メディア、企業内広報などを活用した魅力的な広報を展開する。
- 地域での体験会や初心者向け教室を積極的に開催し、競技への興味喚起と参加へのハードルを下げる。

競技団体との連携強化と募集活動の支援

- 各競技団体と密接に連携し、選手募集の課題を共有する。競技団体が主催する予選会や練習会への支援を強化し、選手育成と募集活動を一体的に進める。

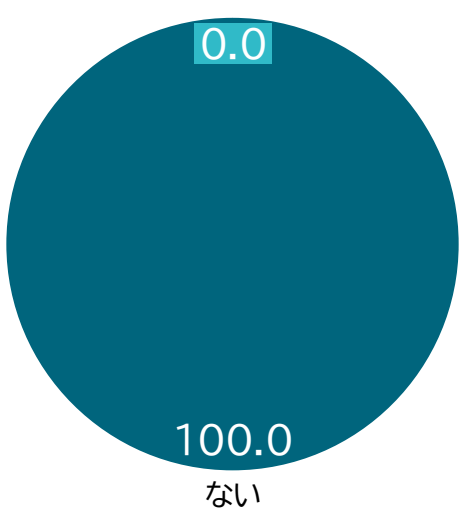
自治体から見るねんりんピックの課題⑦企業・団体との協賛・連携

【連携・協賛の難しさ】



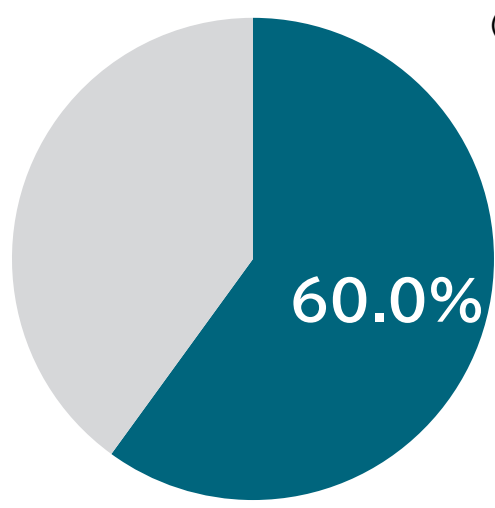
✓ 開催自治体・未開催自治体いずれも、過半数が選手募集に苦労した経験がある。

【企業からの提案経験】 (N=5)



✓ 直近開催自治体の全てが、企業側からの提案を受けた経験がない

【ねんりんピックへの懸念】 (N=15)



✓ 未開催自治体の60.0%が協賛募集活動に対して懸念を抱いている。

・財政的支援が最大の期待であるにもかかわらず、協賛獲得に向けた戦略的なアプローチや、企業へのメリット訴求が十分でない。

協賛プログラムの多様化と企業メリットの明確化

- 協賛企業が求めるリターン(広報、CSR、従業員向けイベント、社会貢献など)を詳細にヒアリングし、それに応じたカスタマイズされた協賛プランを複数用意する。
- 協賛による具体的な効果をデータで示し、企業の投資対効果を明確に訴求する

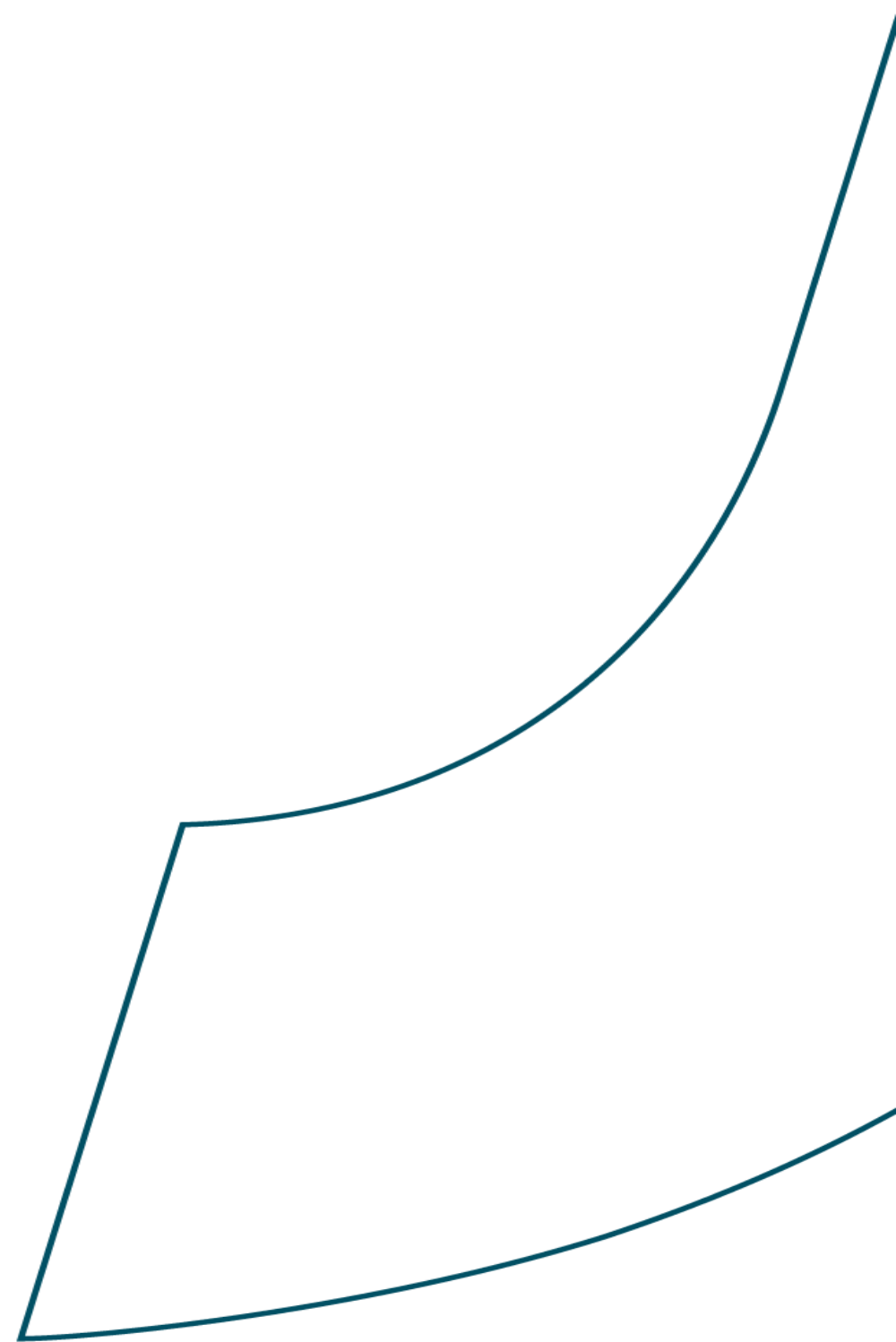
協賛企業との共同企画の積極的な推進

- 単なる資金援助に留まらず、協賛企業の持つ専門知識や技術、リソースを活かした共同企画(例:地域特産品とのコラボ)を提案する。

競技団協賛企業向け説明会の開催

- 協賛を検討している企業や過去の協賛企業を対象に、イベントの意義、参加者層、広報効果、成功事例などを紹介する説明会を定期的を開催する。

2.競技団体向けアンケート



(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

項目	中央競技団体向け調査	地域競技団体向け調査
団体種別	中央競技団体	地方競技団体(愛媛・鳥取)
調査対象団体数	37団体	62団体
回答団体数 (回収率)	16団体(43.2%)	34団体(54.8%)
実施方法	郵送法 + Web回答調査	
実施時期	2025年9月10日～11月19日	

(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

【共通調査項目(Q1～Q9)】

厚生労働省「令和7年度老人保健健康増進等事業」よりアンケートご協力をお願い

(④中央競技団体用)

ねんりんピックに関するアンケート調査

アンケート記入日: 令和7年 月 日

* 囲みなしの番号は調査票での設問番号、囲みありの番号はオンラインでの設問番号です。
例: Q7. Q8 →調査票 7 問目、オンラインでは 8 問目

Q1. Q1 貴団体の名称を教えてください

団体名

Q2. Q2 所属する部署名を教えてください

部署名

Q3. Q3 差し支えなければ、ご担当者様の氏名を教えてください(任意)

担当者名

Q4. Q4 差し支えなければ、ご連絡先を記入してください(任意)

電話番号

E-mail

Q5. Q5～Q6 ねんりんピック(正式名称: 全国健康福祉祭)の対象競技・文化活動となって良かったことについて、当てはまるもの全てに☑をつけてください。

※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ ①シニア世代の競技人口増につながった

☐ ②競技の宣伝・振興につながった

☐ ③出場することが競技者のモチベーションとなる

☐ ④参加者同士の交流につながった

☐ ⑤団体の情報交換・連携の場となった

☐ ⑥団体として地域貢献ができ、地域でのプレゼンスを高められた

☐ ⑦その他()

☐ ⑧分からない

上記のうち、特に良かったことを一つ選び、丸数字の番号をご記入ください

Q6. Q7 ねんりんピック大会で、県及び市町村実行委員会が行う企業との協賛や連携について、よい事例と感じたものを教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。

※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ 商品・サービスの提供(飲料、健康食品、運動用品など)

☐ 企業ブースの出展(健康測定、体験イベントなど)

☐ 企業との共同企画(健康教室、スポーツ体験会など)

☐ その他()

☐ 分からない

Q7. Q8 ねんりんピック開催は、高齢者の健康づくりや社会参加を促進する貴重な機会です。今後、ねんりんピック参加者の健康に関するデータを開催自治体や民間企業等により取得し、貴団体へもフィードバックすることが可能となった場合に、貴団体の取組等に役立つと考えられるデータを教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ 参加者の体力測定データ(歩行速度・握力など)

☐ 参加者の健康データ(血圧・体重・BMI など)

☐ 高齢者の運動習慣に関するデータ

☐ 高齢者の食習慣・栄養状況

☐ 健康寿命と地域特性の関連データ

☐ その他()

☐ 特にない

Q8. Q9 ねんりんピックについて、競技団体・文化団体として期待することや改善点があればご記入ください。

Q9. Q10 追加でインタビュー(対面またはオンライン)をお願いする可能性がございます。その場合、ご対応いただくことは可能でしょうか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。

☐ 対応可能 ☐ 対応は困難

【中央競技団体 調査項目(Q10以降)】

- Q10. **Q11** 貴団体において、ねんりんピック以外で、全国規模の大会を実施していますか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
- ☐ 主催する大会がある ☐ 協力する大会がある ☐ 実施していない
- Q11. **Q12** (Q10 で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体)
令和7年度の開催時期について、該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 4月 ☐ 7月 ☐ 10月 ☐ 1月 ☐ その他
☐ 5月 ☐ 8月 ☐ 11月 ☐ 2月 ()
☐ 6月 ☐ 9月 ☐ 12月 ☐ 3月
- Q12. **Q13~14** (Q10 で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体)
主催している全国規模の大会は毎年実施していますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「()年に1回実施している」「その他」を選んだ場合は、括弧内もあわせて記載してください。
- ☐ 毎年実施している ☐ ()年に1回実施している ☐ その他()

- Q13. **Q15~16** (Q10 で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体)
開催地は持ち回りで実施していますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「持ち回り以外の方法で実施している(で実施)」「その他」を選んだ場合は、括弧内もあわせて記載してください。
- ☐ 都道府県持ち回りで実施している
☐ 地域ブロック持ち回りで実施している
☐ 持ち回り以外の方法で実施している(で実施)
☐ その他()
- Q14. **Q17** (Q10 で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体)
年齢を限定した全国規模の大会を実施していますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 35 歳以上に限定した大会を実施している
☐ 40 歳以上に限定した大会を実施している
☐ 60 歳以上に限定した大会を実施している
☐ 実施していない
☐ その他()
- Q15. **Q18** 令和9年度のねんりんピックについて、通常の開催方法は見送り、代替イベントの開催を検討しています。
令和9年度ねんりんピックにおいて、各スポーツ交流大会を実施しないということになった場合、ねんりんピックにおける各交流大会の代わりに競技団体として独自に、全国規模の大会を実施することを検討したいですか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
- ☐ 前向きに検討したい ☐ 条件次第で検討したい ☐ 検討したくない ☐ 分からない
- Q16. **Q19** (Q15 で「検討したくない」または「分からない」と回答した団体)
どのような支援があれば検討したくなりますか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ コスト面の支援(補助金・助成金等)
☐ 人員面(競技補助員・ボランティア等)の支援
☐ 競技施設の提供支援
☐ 選手・スタッフの移動・輸送、宿泊施設の確保などへの支援
☐ 広報活動の支援
☐ 参加選手の募集・受付業務の支援
☐ その他()
- Q17. **Q20** 所管している競技種目について、シニア世代の競技人口を増やしたいと考えていますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください
- ☐ 考えている ☐ 考えていない

【中央競技団体 調査項目(Q10以降)】

Q18. Q21 (Q17 で「考えている」と回答した団体)

シニア世代の競技人口を増やすために取り組んでいることがあればご記載ください。

Q19. Q22 貴団体において、行政機関または団体等から助成・補助金を受けていますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください

☐ 受けている ☐ 受けていない

Q20. Q23 (Q19 で「受けている」と回答した団体)

具体的な助成事業名・補助金名を教えてください。

Q21. Q24 貴団体において、民間企業との協賛・連携はありますか。該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください

☐ ある ☐ ない

Q22. Q25 (Q21 で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体)

具体的にどのような形の協賛・連携ですか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

☐ 資金の協賛(スポンサー料)

☐ 企業との共同企画(タイアップイベントの企画など)

☐ 企業との共同企画(タイアップ商品の開発など)

☐ 商品・サービスの提供(商品(飲料、健康食品、運動用品などの物品の提供)

☐ 広告協賛(プログラム等への広告掲載)

☐ 資金の助成(助成事業への申請)

☐ 企業ブースの出展・企業イベントの開催(健康測定、体験ブース・ステージイベント等)

☐ その他()

Q23. Q26～32 (Q21 で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体)

協賛・連携事例に関する下記項目について、具体的な内容を教えてください。
なお、「協賛・連携が始まったきっかけ」については、該当する箇所にひとつだけ☑をつけてください。
「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

1	企業名	
	連携開始時期 記載例: 令和●年●月～現在	
	連携したことで得られたメリット	
	協賛・連携が始まったきっかけ	☐ 企業からの打診 ☐ 貴団体(貴団体役員含む)からの提案・はたらきかけ ☐ 分からない ☐ その他()
2	企業名	
	連携開始時期 記載例: 令和●年●月～現在	
	連携したことで得られたメリット	
	協賛・連携が始まったきっかけ	☐ 企業からの打診 ☐ 貴団体(貴団体役員含む)からの提案・はたらきかけ ☐ 分からない ☐ その他()
3	企業名	
	連携開始時期 記載例: 令和●年●月～現在	
	連携したことで得られたメリット	
	協賛・連携が始まったきっかけ	☐ 企業からの打診 ☐ 貴団体(貴団体役員含む)からの提案・はたらきかけ ☐ 分からない ☐ その他()

記載行が不足する場合は追加してください。

【中央競技団体 調査項目(Q10以降)】

Q24. **Q33** (Q19 で行政機関または団体等から助成・補助金を「受けている」または Q21 で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体)

当該助成・協賛・連携は、ねんりんピックにおける大会に関しても受けていますか。該当する箇所
 ひとつだけ☑をつけてください

☐ 受けている ☐ 受けていない ☐ 分からない

Q25. **Q34** (Q24で「受けている」と回答した団体)

ねんりんピックにおける大会に関して、具体的にどのような助成・協賛・連携を受けていますか。該当する箇所すべてに☑をつけてください。

※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。

- ☐ 資金の協賛(スポンサー料)
- ☐ 企業との共同企画(タイアップイベントの企画など)
- ☐ 企業との共同企画(タイアップ商品の開発など)
- ☐ 商品・サービスの提供(商品(飲料、健康食品、運動用品などの物品の提供)
- ☐ 広告協賛(プログラム等への広告掲載)
- ☐ 資金の助成(助成事業への申請)
- ☐ 企業ブースの出展・企業イベントの開催(健康測定、体験ブース・ステージイベント等)
- ☐ その他()

アンケートは以上で終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【地方競技団体(愛媛・鳥取) 調査項目(Q10以降)】

- Q10. **Q11** ねんりんピックの競技主管団体としての業務における、自治体からの支援について、良かったことを教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ コスト面の支援(補助金・助成金等)
 - ☐ 人員面(競技補助員・ボランティア等)の支援
 - ☐ 競技施設の提供・調整支援
 - ☐ 選手・スタッフの移動・輸送、宿泊施設の確保などへの支援
 - ☐ 広報活動の支援
 - ☐ 参加選手の募集・受付業務の支援
 - ☐ その他()
- Q11. **Q12** ねんりんピックの競技主管団体としての業務において、課題や負担となったことがあれば教えてください。該当する箇所すべてに☑をつけてください。
※「その他」に☑をつけた場合は、具体的な内容を括弧内に記載してください。
- ☐ 市町村実施本部(実行委員会)との連携
 - ☐ 中央競技団体との連携
 - ☐ 審判員等の確保・養成
 - ☐ 競技補助員の確保
 - ☐ 運営スタッフ等の業務負担
 - ☐ スタッフの移動・宿泊施設の確保、調整
 - ☐ 種目別開催要領・プログラムの作成
 - ☐ 競技記録の作成
 - ☐ リハーサル大会・予選会などの関連大会の実施
 - ☐ 開催自治体の参加選手数の確保
 - ☐ コスト面の負担
 - ☐ 準備期間が短い
 - ☐ 競技施設の確保、調整
 - ☐ 広報活動
 - ☐ 負傷者等救護時の対応
 - ☐ ねんりんピックの知名度の低さ
 - ☐ シニア世代向け大会の優先度が低い
 - ☐ その他()

ねんりんピックのあり方について、競技主管団体の立場から貴団体の意見を自由にご記載ください。
※本調査研究事業では、今までのねんりんピックの運営方法にこだわらない効率的かつ持続的な運営方法の検討を行っています。それぞれの行事(事業)について、過去競技大会を主管したご経験や、過去大会に足を運んだご経験などから、あり方の課題、改善点、要望したい点について、幅広くご回答願います。

参考:ねんりんピックの目的(全国健康福祉祭開催要綱より)
高齢者を中心とする国民の健康の保持・増進・社会参加、生きがいの高揚等を図り、ふれあいと活力のある長寿社会の形成に寄与する。

- Q12. **Q13~14** 以下の事業番号を記載のうえ、自由にご記載ください。
- ① 開催時期や期間
 - ② 開催種目数
 - ③ 参加者数(大会の規模)
 - ④ 大会運営方法(開催都道府県が設置する実行委員会事務局を中心に運営)
 - ⑤ 総合開会式
 - ⑥ 種目別交流大会
 - ⑦ その他イベント(美術展・地域文化伝承館・音楽文化祭・講演会・ふれあい広場等)
 - ⑧ 宿泊輸送(ホテル・バス・昼食弁当の手配)
 - ⑨ 総合開会式
 - ⑩ 広報(開催自治体オリジナルイベント・県民運動)等
 - ⑪ 協賛イベント・協賛募集・企業連携
 - ⑫ その他()

事業番号	あり方の課題・改善点・要望したい点など(自由記述)

記載行が不足する場合は追加してください。

アンケートは以上で終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

(1) 調査方法

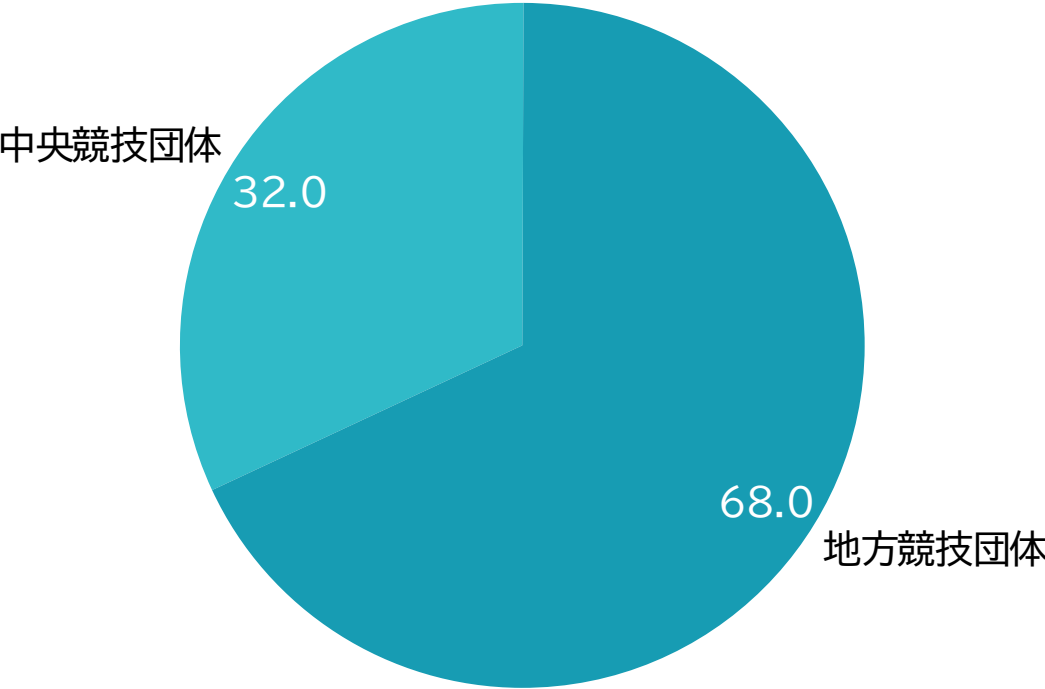
(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

【競技団体種別】(N=50)

(単位:%)



ねんりんピック対象競技・活動認定の利点

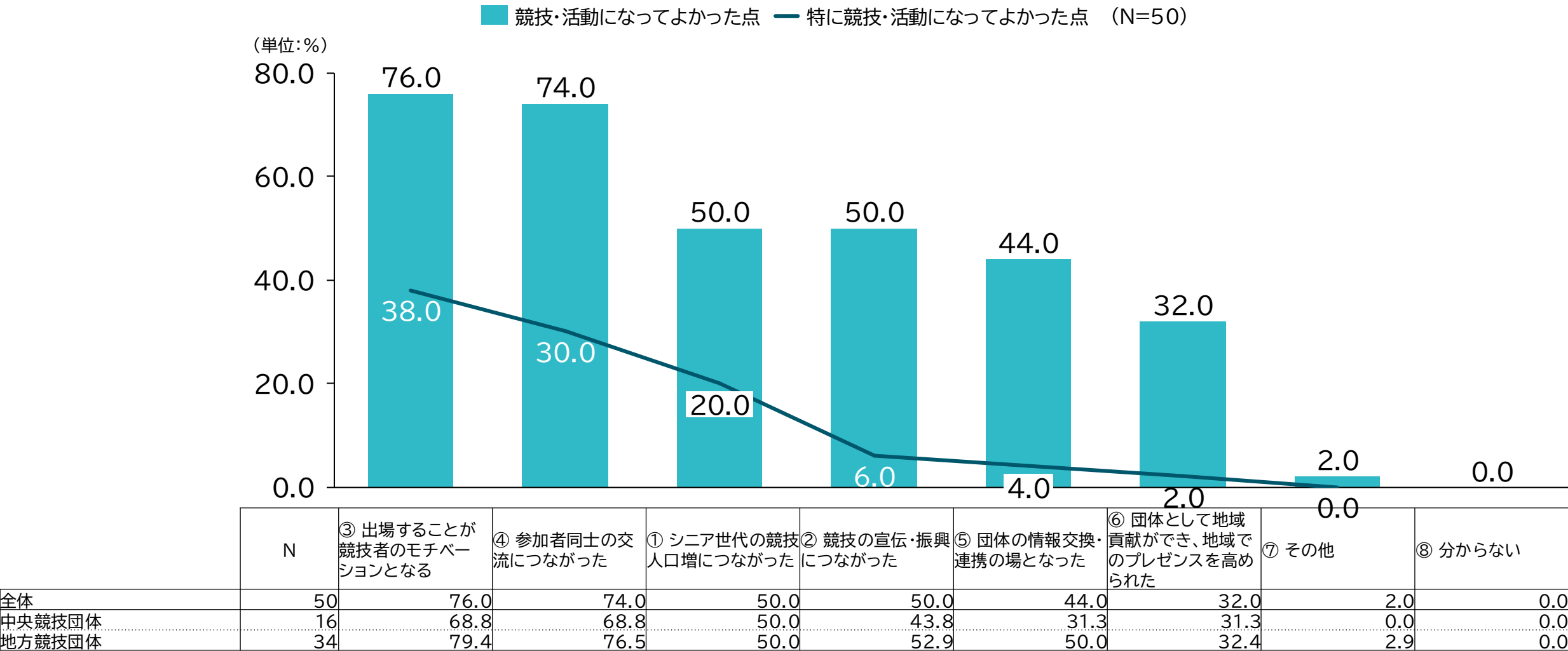
中央競技団体

地方競技団体

- ねんりんピックへの競技・活動として認定されてよかった点は、出場がモチベーションとなることが76.0%で最多。最も良かった点も同様項目である。
- ねんりんピックが参加者の「出場モチベーション向上」を促す最も重要な機会の他、高齢者の競技継続意欲と社会的なつながりを同時に育んでいる。

Q5.ねんりんピック(正式名称:全国健康福祉祭)の対象競技・文化活動となって良かったことについて、当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

Q6. Q5で回答いただいた「ねんりんピックの対象競技・文化活動となって良かったこと」のうち、特に良かったことを1つ選んでください。(SA)



企業との協賛・連携の好事例／ねんりんピックで期待するデータ

中央競技団体

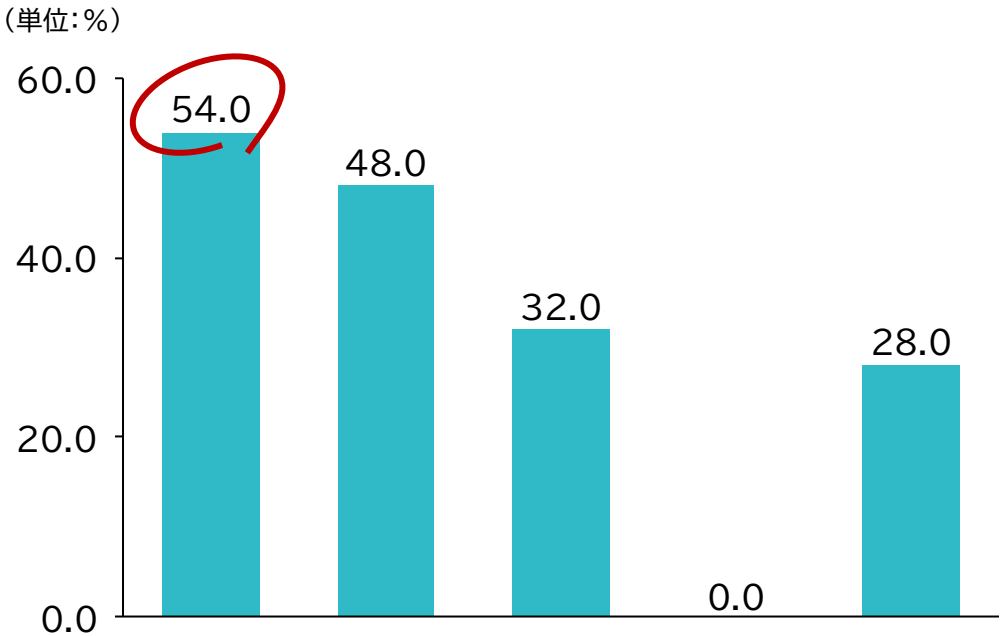
地方競技団体

- 企業との協賛・連携でよい事例と感ずるのは、商品・サービスの提供が54.0%で最多。役立つデータは、「高齢者の運動習慣に関するデータ」が54.0%で最多。
- 運動習慣データは競技振興と高齢者の健康増進という団体のミッション達成に直結する重要な知見と捉えられている。

Q7.ねんりんピック大会で、県及び市町村実行委員会が行う企業との協賛や連携について、よい事例と感じたものを教えてください。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

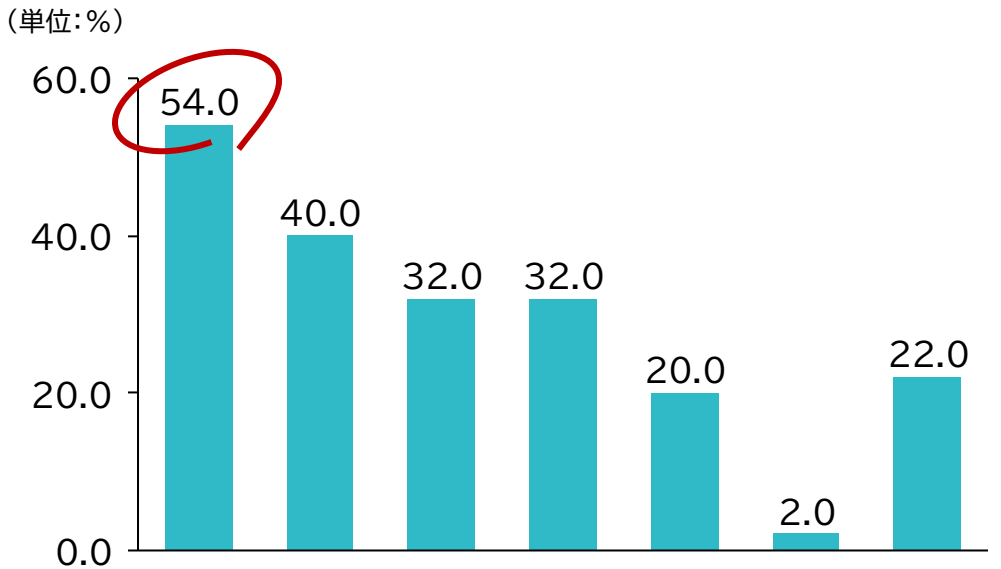
Q8.ねんりんピック開催は、高齢者の健康づくりや社会参加を促進する貴重な機会です。今後、ねんりんピック参加者の健康に関するデータを開催自治体や民間企業等により取得し、貴団体へもフィードバックすることが可能となった場合に、貴団体の取組等に役立つと考えられるデータを教えてください。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

【施策に役立つデータ】 (N=50)



	N	商品・サービスの提供(飲料、健康食品、運動用品など)	企業ブースの出展(健康測定体験イベントなど)	企業との共同企画(健康教室、スポーツ体験会など)	その他	分からない
全体	50	54.0	48.0	32.0	0.0	28.0
中央競技団体	16	37.5	31.3	25.0	0.0	43.8
地方競技団体	34	61.8	55.9	35.3	0.0	20.6

【データ取得活用意向】 (N=50)



	N	高齢者の運動習慣に関するデータ	健康寿命と地域特性の関連データ	参加者の体力測定データ(歩行速度・握力など)	参加者の健康データ(血圧・体重・BMIなど)	高齢者の食習慣・栄養状況	その他	特になし
全体	50	54.0	40.0	32.0	32.0	20.0	2.0	22.0
中央競技団体	16	62.5	43.8	25.0	18.8	6.3	0.0	25.0
地方競技団体	34	50.0	38.2	35.3	38.2	26.5	2.9	20.6

- ・ねんりんピックの開催意義が強調されるものの、一方で参加者の負担軽減と利便性向上が求められている。

Q9.ねんりんピックについて、競技団体・文化団体として期待することや改善点があればご記入ください。(FA)

中央競技団体

- ・ 宿泊先の確保、価格面も含めて難しいとの声があります
- ・ 埼玉県での開催では、バウンドテニス競技ははずされたので、全ての開催時に種目参加できるようにしてほしい。
- ・ コース立哨員等コーススタッフの確保に係る経費支援
- ・ 今後も継続的に続けていただきたいです。
- ・ 交通宿泊費等、選手の経済的負担を減らしたり、また会場は交通の便の良いところで開催した方が良いのではと感じております。
- ・ 今のところ特にございません
- ・ 文化交流種目の健康マージャンを担当していますが、総合開会式を簡素化して、開催市町村での滞在時間を増やして、歴史や自然・食など開催地に赴いた楽しみを増やしてほしい。競技においては地域間交流の有効な機会となっており、マージャン文化の全国的な普及振興に大いに成果を上げていると感じています。
- ・ より多くの参加。
- ・ 参加するすべての方々健康増進につながる場となる事を願います
- ・ 高齢者の励みにつながる大会なので、開催の継続をお願い致します。

地方競技団体

- ・ 高齢者の競技力維持向上のモチベーションにつながる
- ・ ①文化事業の普及、発展 各地域のご当地の良さを知ってもらうこと
- ・ 参加者のモチベーションは非常に高い大会であったと感じました。ねんりんピックがあることで、サッカー競技を続けたり、再び競技を始めたりする人が増えることが期待されます。また、実際に競技をする地域の人々との交流や、特産等を知っていただく機会となっており、その地域を全国にPRする貴重な場所となることが期待されます。
- ・ 競技人口や団体そのものがなくなるなど、競技によってはマンパワー不足の状況がある。競技種目の見直しや、開催方法の見直し(1市町村1競技以上の縛りをなくす等)が必要では？
- ・ 競技開催施設の不足、交通インフラの不備不足などで、スタッフが競技施設まで移動するのに労力とコストを要した。地方開催では仕方のないところも言える。
- ・ 近年、囲碁人口の減少は顕著です。今後、小さな県での開催は、競技運営役員・スタッフなど人材が揃わないのではないかと危惧しています。もし、5年後に同様に小さな県で開催されていたら同競技種目の運営は出来なかったと思われます。ただし、今後も先催県からの選手選考大会の開催は持続可能です。各道府県持ち回り制度なので、40数年は県内で同競技の実施はありません。
- ・ 継続する。交通費補助
- ・ ソフトバレーを今後も続けてもらいたい。
- ・ ねんりんピックは生涯スポーツを行う上で一つの目標となっており、是非継続されたい。
- ・ 出場の機会を増やし、たくさんの方が参加できる大会にすること。出場のを機会を増やし、たくさんの方が参加できる大会にすること。勝敗も大切ですが、広く交流ができるような大会運営を望みます。
- ・ 宿泊場所が非常に遠かった。過去の大会にて朝食が大変お粗末でした。の声が良く聞かれた。
- ・ 高齢者向けの事業ではありますが、選手は「高齢のために引退している人」のほうが多く、登録選手は減る一方です。ねんりんピックは有り難い事業ですが、県大会に集まるための自動車の運転も無理ができない年齢の選手が増え、遠方の地域からの参加は激減しています。「県大会に参加するための足の確保」ができないと、どうにもならない状況です。
- ・ 毎年実施されている競技は、出来るだけ継続実施して頂けると選手のモチベーションが上がる。・競技選手のみならず、持っている資格を生かし社会貢献したい方やつながりを持ちたい方も多い。ねんりんピックを目指すべき健康長寿の目標となるよう継続実施に期待したい。
- ・ 追加種目(地域ごと)については、競技団体との事前の協議をしたうえで決定することが望ましい。
- ・ 現状で構わない
- ・ eスポーツを鳥取大会以降も正式種目とし、幅広いシニアの参加を募っていただきたい。

全国大会の開催有無／令和7年度の全国大会開催時期

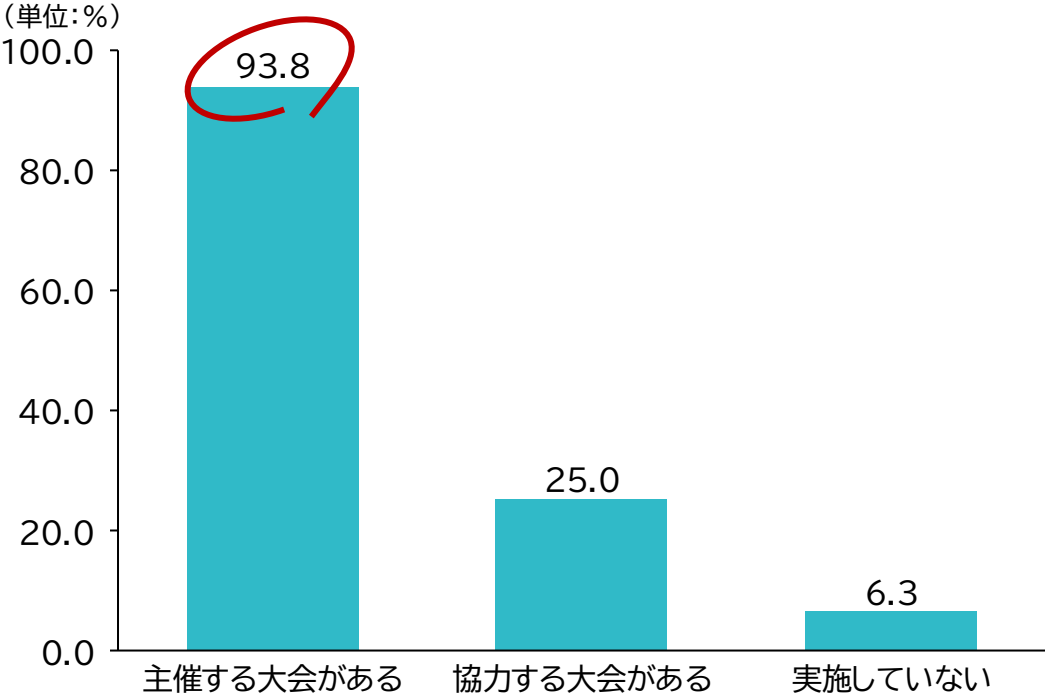
中央競技団体

地方競技団体

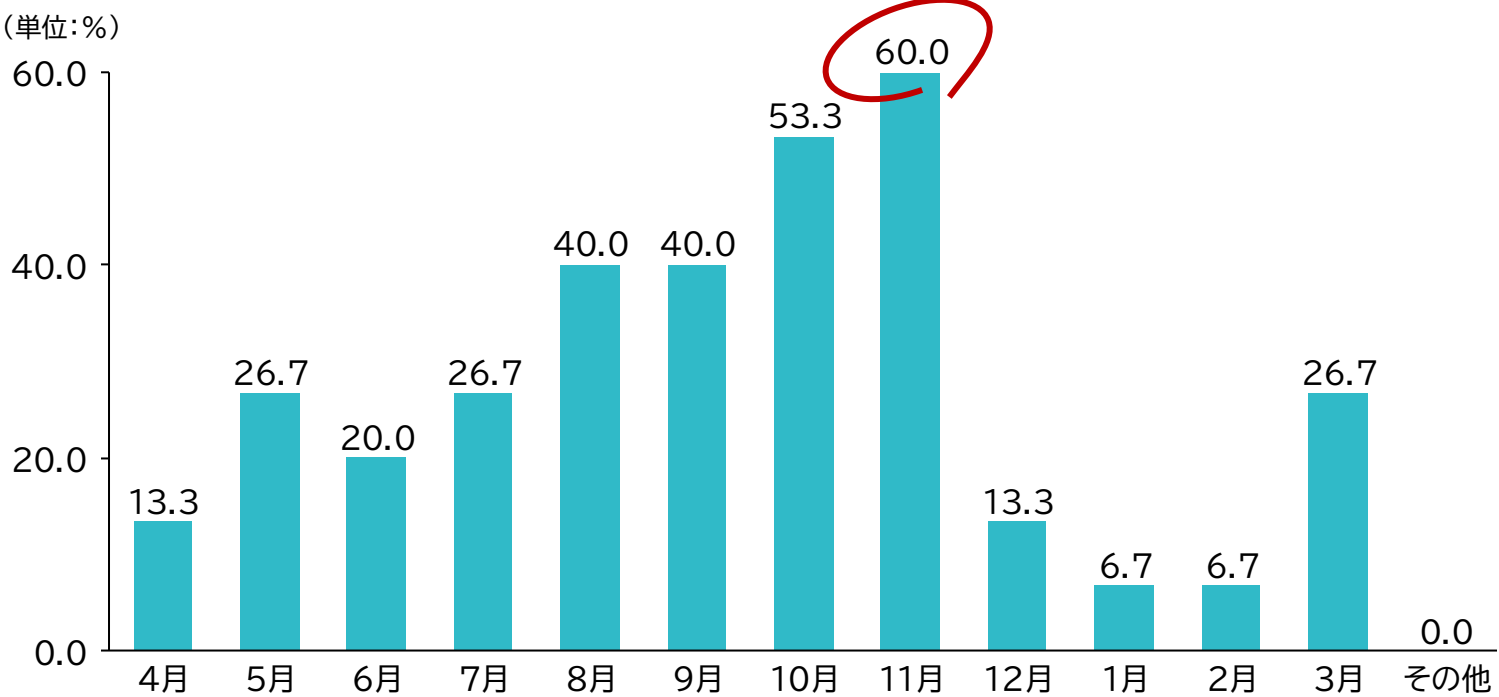
- 全国大会の開催有無については、「主催する大会がある」が93.8%で最多。全国大会の開催時期は「11月」が60.0%で最多。
- ねんりんピック以外にも独自の全国規模の大会を主催しており、活発な競技振興活動を行っていることが分かる。これらの大会は特に秋(10月、11月)に開催が集中する傾向にあり、ねんりんピックの開催時期や他のイベントとの調整において考慮すべき要素となる。

Q11.貴団体において、ねんりんピック以外で、全国規模の大会を実施していますか。当てはまるものすべてにチェックをつけてください。(MA)
Q12Q11で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体におうかがいたします。令和7年度の開催時期について、当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

【全国大会の開催有無】 (N=16)



【令和7年度の全国大会開催時期】 (n=15)

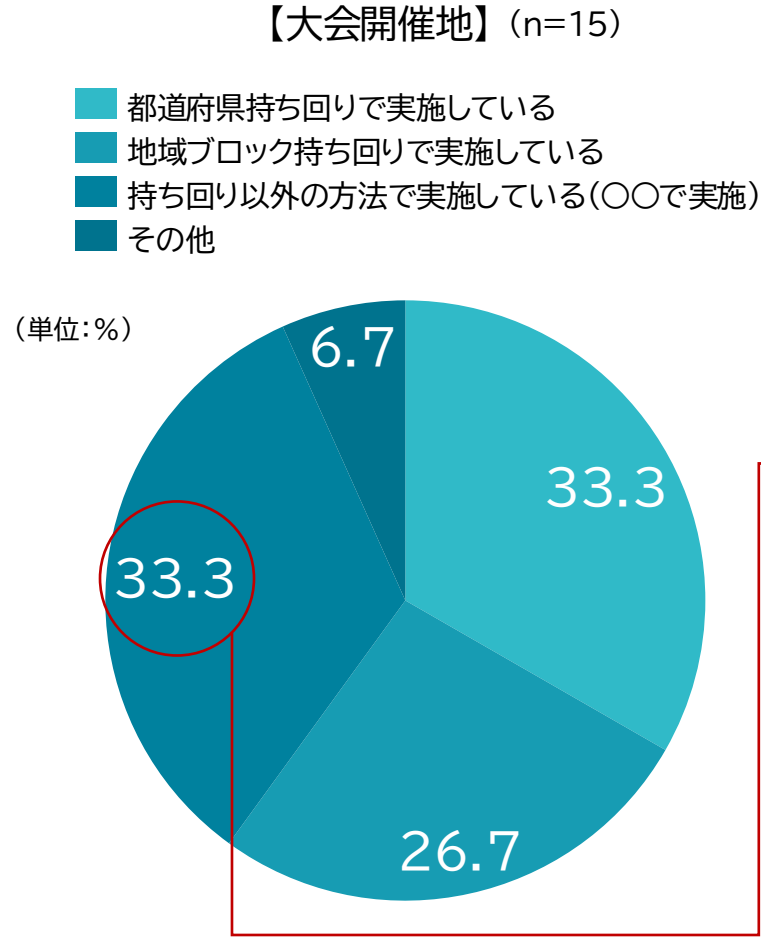
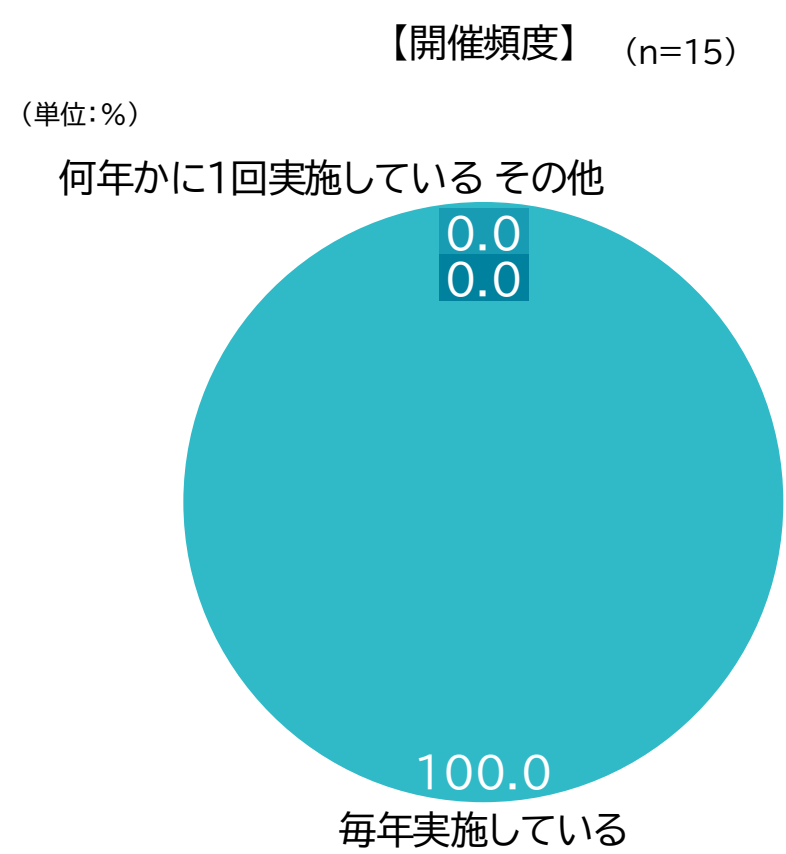


- 開催頻度はいずれの団体も毎年実施していると回答する。大会開催地は都道府県の持ち回り、および持ち回り以外の方法が33.3%で最多。
- 全国規模の大会は毎年継続して開催されており、その運営体制が確立されていることがわかる。開催地の選定方法は、公平性を重視する方式と、特定の地域や団体主導で決定する方式が同数存在しており、各団体が大会の目的や運営効率に応じて多様な戦略を採用している。

Q13. Q11で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体におうかがいたします。主催している全国規模の大会は毎年実施していますか。(SA)

Q15. Q11で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体におうかがいたします。開催地は持ち回りで実施していますか。(SA)

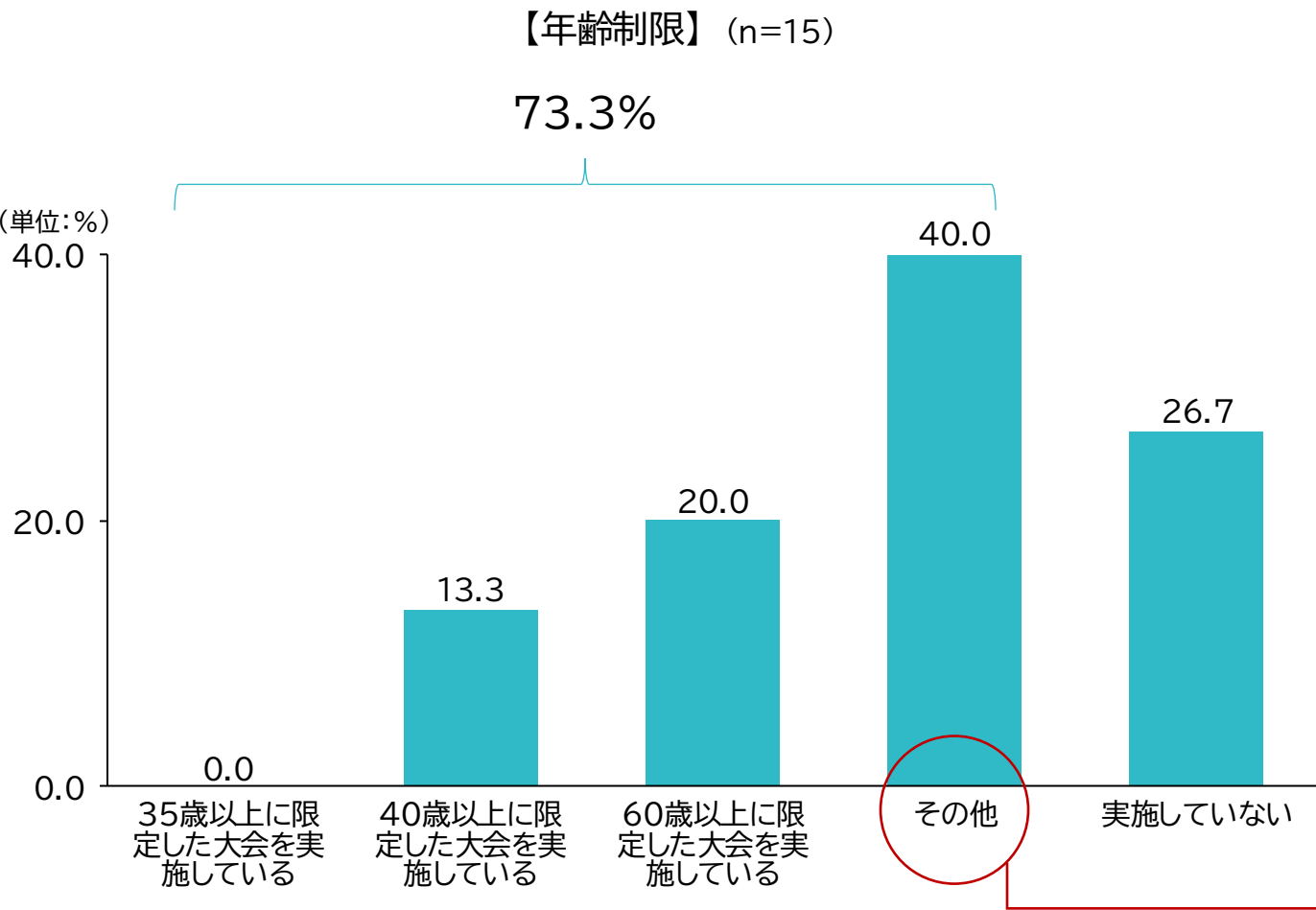
Q16. Q15で「持ち回り以外の方法で実施している(〇〇で実施)」と回答した団体の方におうかがいたします。どのように実施しているか教えてください。(FA)



- 弊社団で開催会場を決めて開催しています
- 東京都で開催
- 主管FAを募集・決定し、実施している。
- 東京で1年おき、間で愛知、大阪、福岡で持ち回り
- 首都圏で開催

- 競技参加の年齢制限は、73.3%の団体で行われている。
- 約7割の団体が何らかの形で年齢制限を設けており、特にシニア世代を対象としたカテゴリ設定が一般的であることがわかる。

Q17. Q11で全国規模の大会について「主催する大会がある」と回答した団体におうかがいたします。年齢を限定した全国規模の大会を実施していますか。当てはまるもの1つを選択してください。(SA)

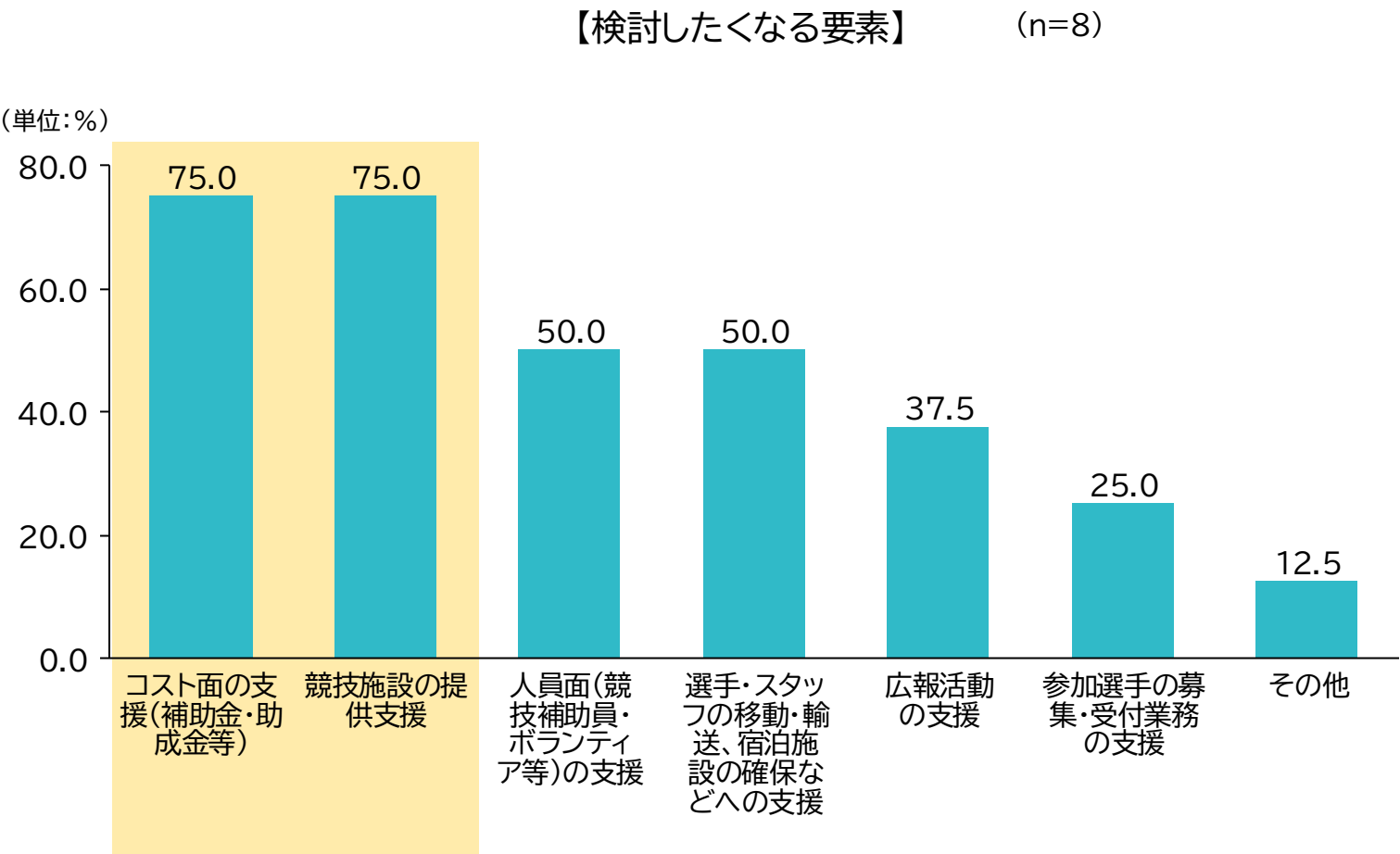
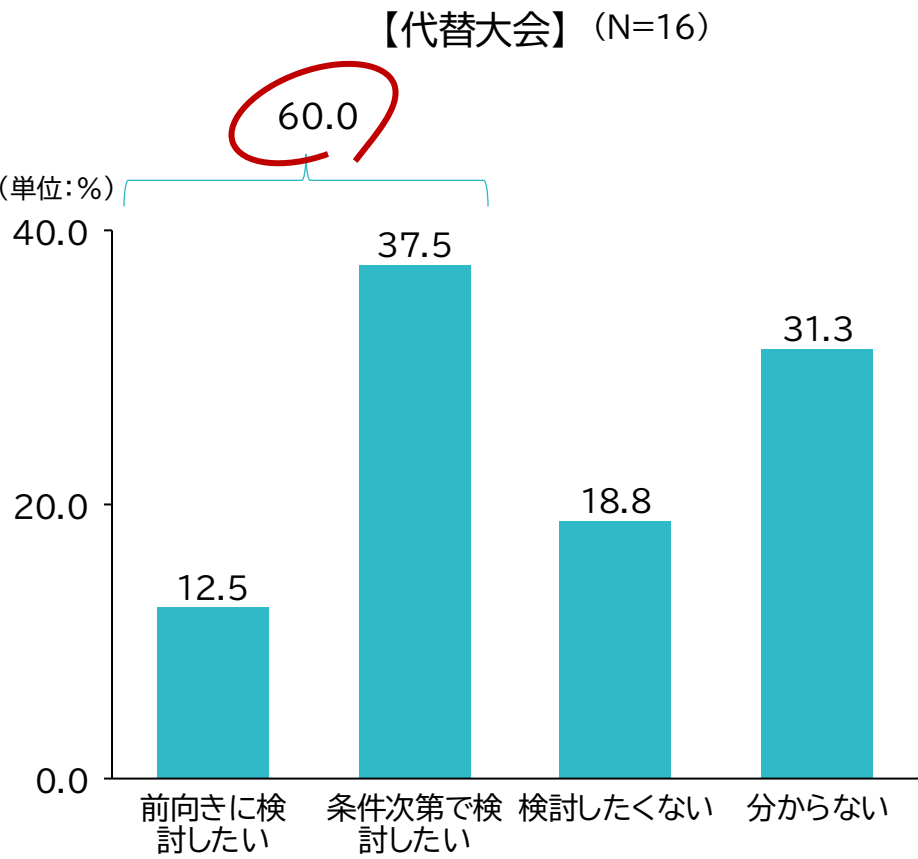


- 年齢カテゴリを含む22登録種別で大会を実施
- 30歳以上に限定した大会を実施している
- 年齢制限を設けていない
- 40歳以上、50歳以上、60歳以上、70歳以上の4カテゴリの大会を実施している
- 65歳以上(男女別)に限定した大会を実施している
- 種目ごとに年齢別になっている

- ねんりんピックの代替大会は、60.0%の団体に検討の余地がある。代替大会を検討したくなる要素は、コストの支援と施設の提供支援が75.0%で最多。
- 多くの競技団体が代替となる全国規模の大会開催に前向きな意向を示している。しかし、その実現には「コスト面の支援」と「競技施設の提供支援」が特に重要視されており、財政的・物理的なサポートが代替大会の実現可能性を大きく左右する。

Q18. 令和9年度のねんりんピックについて、通常の実施方法は見送り、代替イベントの開催を検討しています。令和9年度ねんりんピックにおいて、各スポーツ交流大会を実施しないということになった場合、ねんりんピックにおける各交流大会の代わりに競技団体として独自に、全国規模の大会を実施することを検討したいですか。当てはまるもの1つを選択してください。(SA)

Q19. Q18で「検討したくない」または「分からない」と回答した団体におうかがいたします。どのような支援があれば検討したくなりますか。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)



- ・シニア世代の競技人口増加について、「考えている」は87.5%となる。
- ・シニア世代の競技人口増加に強い意欲を持っており、そのための具体的な取り組みとして、年齢別の競技部門や大会の設置、登録料の減免、指導者の養成、健康面でのメリットを訴求した普及活動など、多角的な施策を展開している。

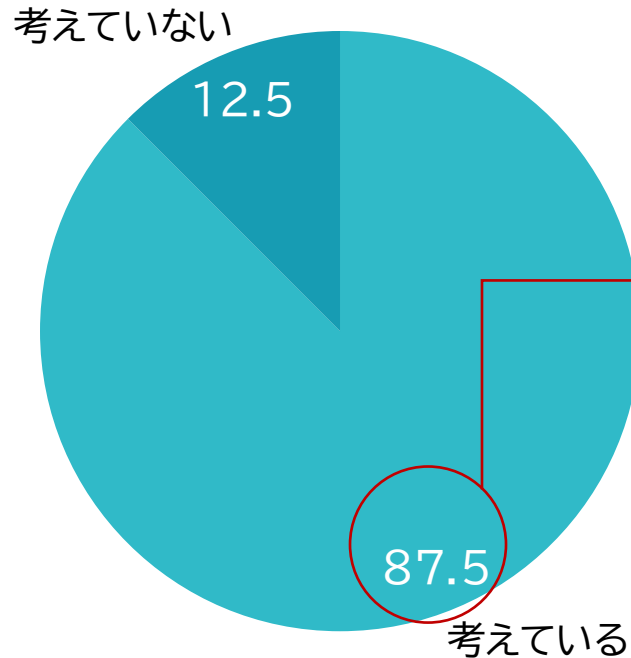
Q20. 所管している競技種目について、シニア世代の競技人口を増やしたいと考えていますか。(SA)

Q21. Q20でシニア世代の競技人口を増やしたいと「考えている」と回答した団体におうかがいたします。

シニア世代の競技人口を増やすために取り組んでいることがあればご記載ください。(FA)

【シニア世代の競技人口増加】 (N=16)

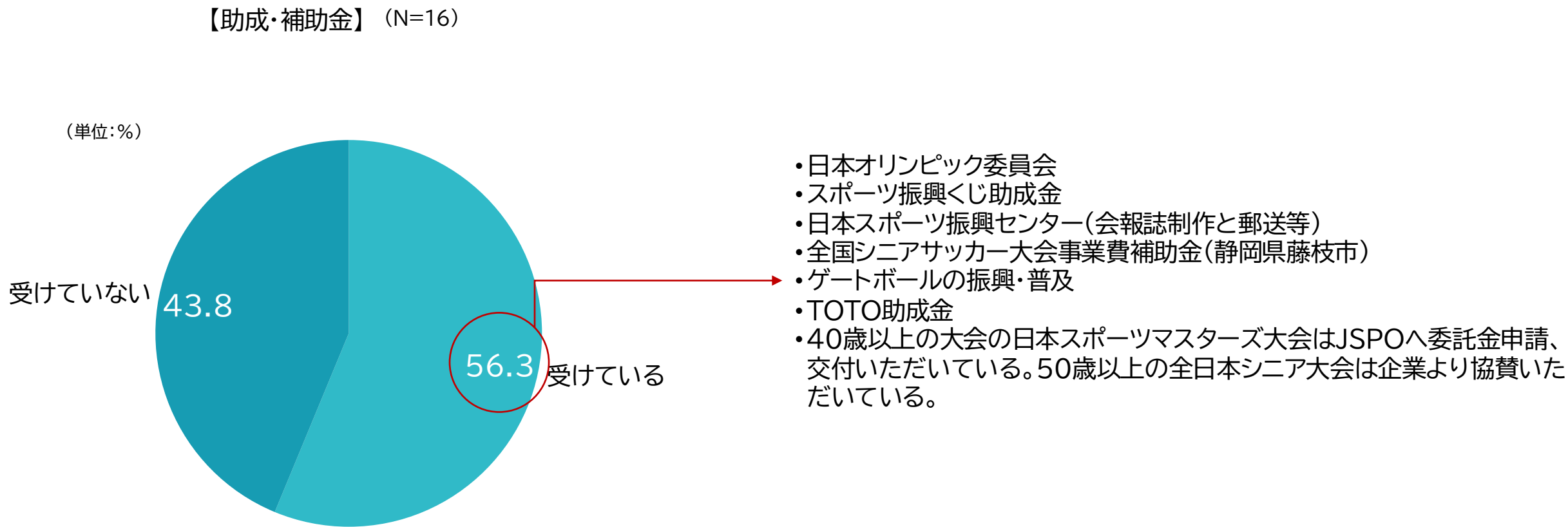
(単位: %)



- ・登録料の減免
- ・サイクリング指導者の養成
- ・実施する大会の数を増やしている
- ・75歳以上の部門や80歳以上の部門と高齢者対象の競技部門を種目に取り入れている
- ・兵庫支部との交流麻雀大会及び健康麻雀主催の競技会への参加等
- ・健康マージャンの有用性を医学的に検証しており、また健康マージャンを楽しむことが高齢者の孤独・孤立に有用であることも評価していただいている。そのことをPR材料にしながら、自治体主催または民間事業としての健康マージャン教室・サークルの開催を推奨しており、必要に応じて支援(教材やノウハウの提供・講師の派遣、自治体との折衝など)を行っている。
- ・競技を再開する方々を増やすための施策を検討しているところ
- ・特になし
- ・ヴィンテージ8's全国バレーボール交流大会の開催、ソフトバレーボールフェスティバルの開催等
- ・年齢別に種目を設定している
- ・本連盟登録者が参加できる40歳以上の全国大会、50歳以上の全国大会を実施している(ただし、40歳以上の大会はJSPOのスポーツマスターズ大会)

- 助成・補助金を受けている団体は56.3%となる。
- 競技団体の活動が公的な支援の対象となる社会的な意義を持つとともに、その運営において外部資金が重要な役割を果たしていることが示唆される。

Q22. 貴団体において、行政機関または団体等から助成・補助金を受けていますか。(SA)
Q23. Q22で行政機関または団体等から助成・補助金を「受けている」と回答した団体におうかがいたします。具体的な助成事業名・補助金名を教えてください。(FA)



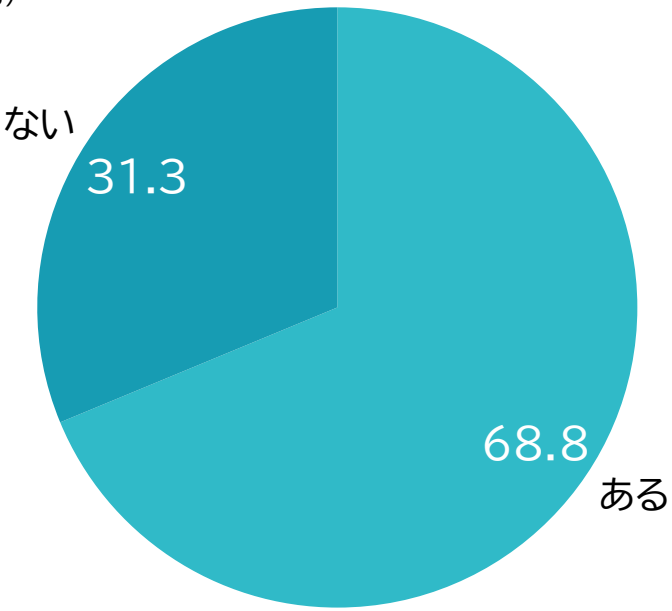
- 企業との協賛・連携については、「ある」が68.8%となる。協賛・連携の内容としては、「広告協賛」が72.7%で最多。
- 半数以上の競技団体が民間企業との協賛・連携を有しており、その主な形態は「広告協賛」や「資金の協賛」といった、団体の広報活動や運営資金に直接貢献する支援である。これは、競技団体が活動の持続性や発展のために、企業からの資金的・広報的サポートを積極的に活用していることが想定される。

Q24. 貴団体において、民間企業との協賛・連携はありますか。(SA)

Q25. Q24で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体におうかがいたします。具体的にどのような形の協賛・連携ですか。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

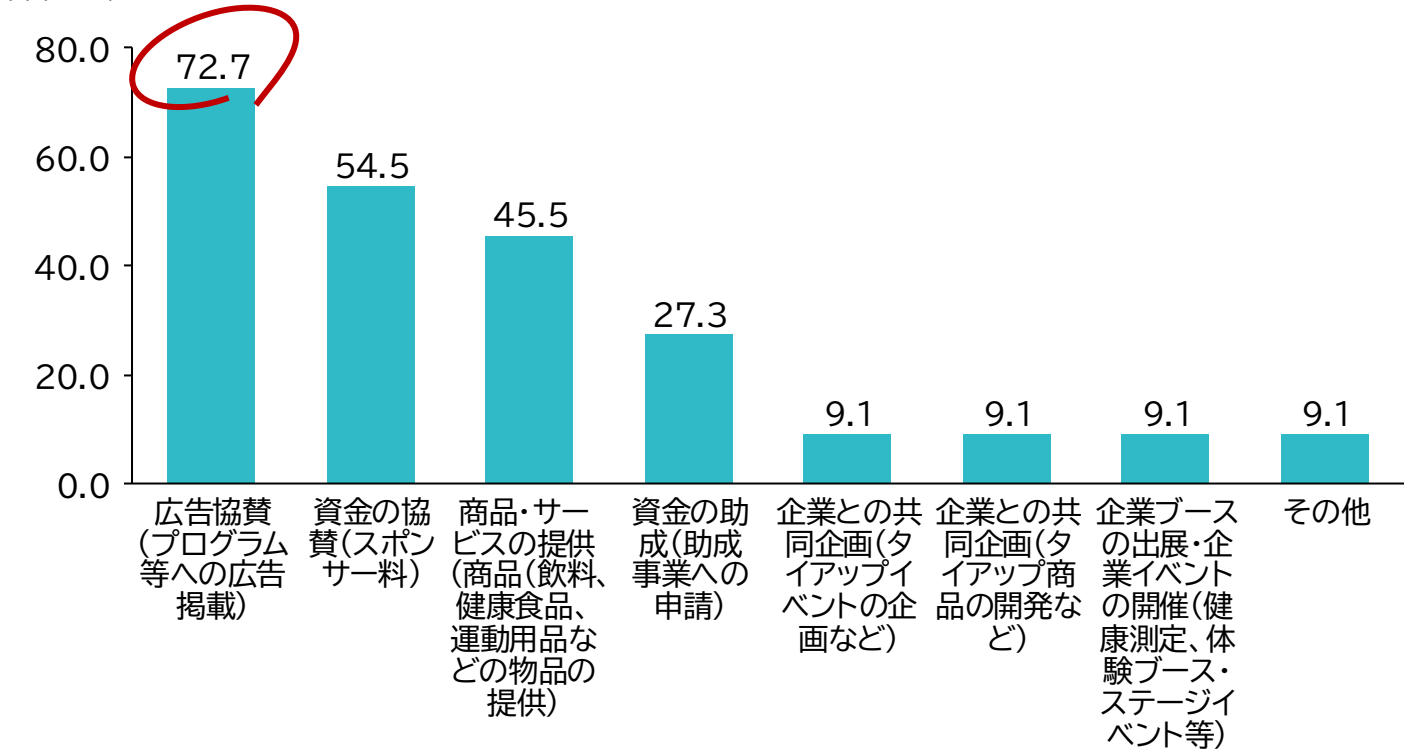
【企業との協賛・連携】 (N=16)

(単位: %)



【協賛・連携の内容】 (n=11)

(単位: %)

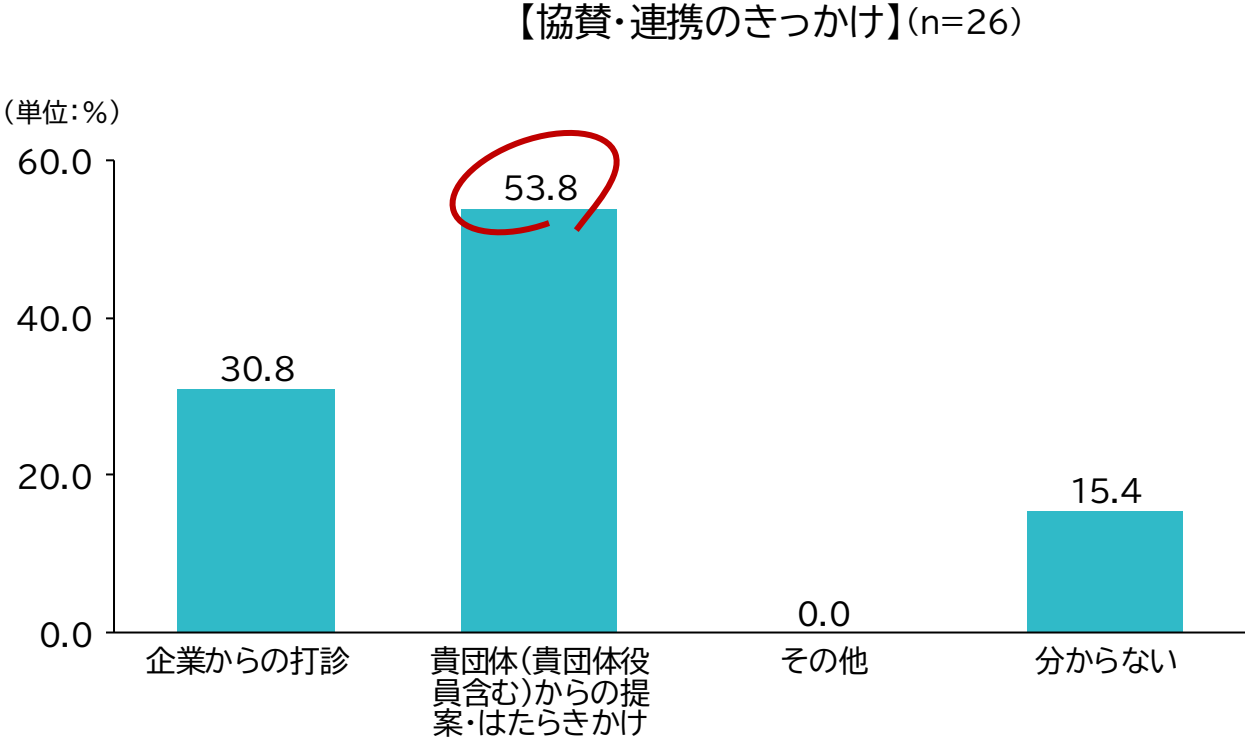
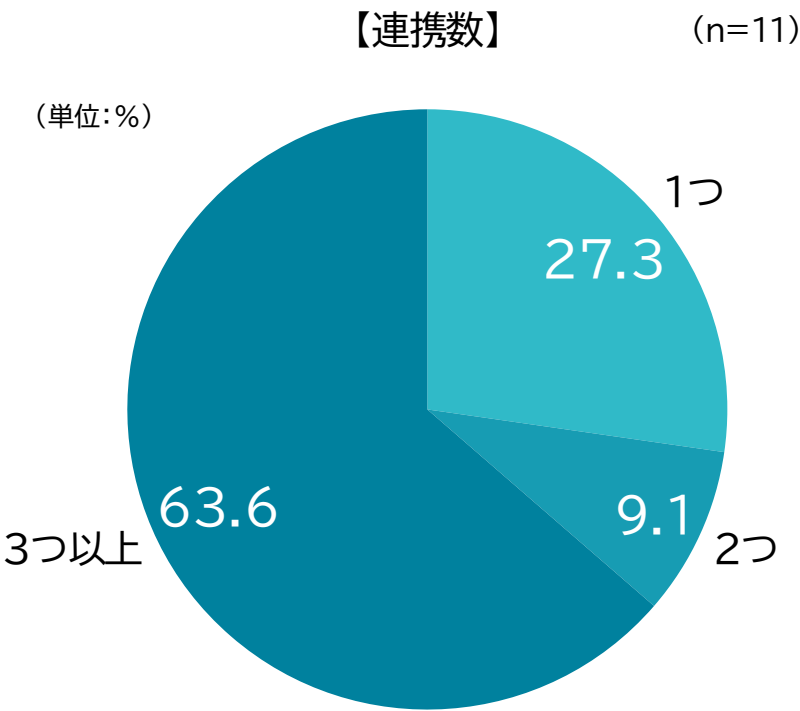


- 企業との連携数は「3つ以上」が63.6%で最多。企業との連携のきっかけは、団体側からの働きかけが53.8%で最多。
- 競技団体の多くが、複数の企業と関係を構築する傾向である。また、これらの連携は企業からの打診を待つだけでなく、競技団体自身が主体的に働きかけることで半数以上が実現している。

Q26. Q24で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体におうかがいたします。該当する事例はいくつありますか。(SA)

Q28,30,32. Q24で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体におうかがいたします。

Q27でご回答いただいた当該協賛・連携が始まったきっかけは何ですか。当てはまるもの1つを選択してください。(SA)



- 企業との連携内容については下表のとおりである。
- メリットとして資金的支援、物品・サービス提供、大会運営・ブランド価値向上など様々な観点があげられる。

Q27,29,31,Q24で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体におうかがいたします。協賛・連携事例に関する下記項目について、具体的な内容を教えてください。(FA)

【連携内容】

企業名	連携開始時期	連携したことで得られたメリット
	令和7年度	事業資金の助成
	昭和57年11月～現在	各都道府県での普及活動の拠点、活動資金の助成など。
	2013年度～	都道府県予選会から参加賞の提供、副賞提供、全国大会の参加賞の提供、副賞提供など
	令和6年5月～	参加賞への商品提供
	平成28年～現在	開催会場のグレードアップ、協賛商品を副賞に提供、会場設営等の経費軽減など
		テーピングサービスの提供やケガ予防の情報提供等
	令和4年～現在	資金の確保、スタッフウェア制作の協力
	令和6年度	事業資金の助成
	昭和63年10月～現在	用具・用品の開発・提供、活動資金の大会協賛
	2018年～	全国大会の参加賞の提供、副賞提供など
	平成25年5月～	収入増
	令和元年～現在	開催会場のグレードアップ、協賛商品を副賞に提供、会場設営等の経費軽減など
	昭和61年～現在	資金の確保、学童年齢層の出場選手が企業ワッペンをつけて参加するステータスある大会に位置付けられている
	令和3年	事業資金の助成
	2023年～	全国大会の参加賞の提供、副賞提供、卓球備品のレンタル無償など
	令和7年10月	参加賞の商品提供
	令和7年～	開催会場のグレードアップ、協賛商品を副賞に提供、会場設営等の経費軽減など
	平成26年～現在	資金の確保、少年・一般選手が企業ワッペンをつけて参加するステータスある大会に位置付けられている

- 企業からの協賛・連携は、「受けていない」が83.3%で最多。協賛・連携の内容としては、商品・サービスの提供、広告協賛、企業ブースの出展があげられる。
- ねんりんピックが持つ高齢者スポーツ振興という社会的意義や、全国規模の大会としての影響力を考慮すると、企業連携の大きな潜在的機会が十分に活用されていない状況である。

Q33. Q22で行政機関または団体等からの助成・補助金を「受けている」またはQ24で民間企業との協賛・連携が「ある」と回答した団体におうかがいたします。

当該助成・協賛・連携は、ねんりんピックにおける大会に関しても受けていますか。当てはまるもの1つを選択してください。(SA)

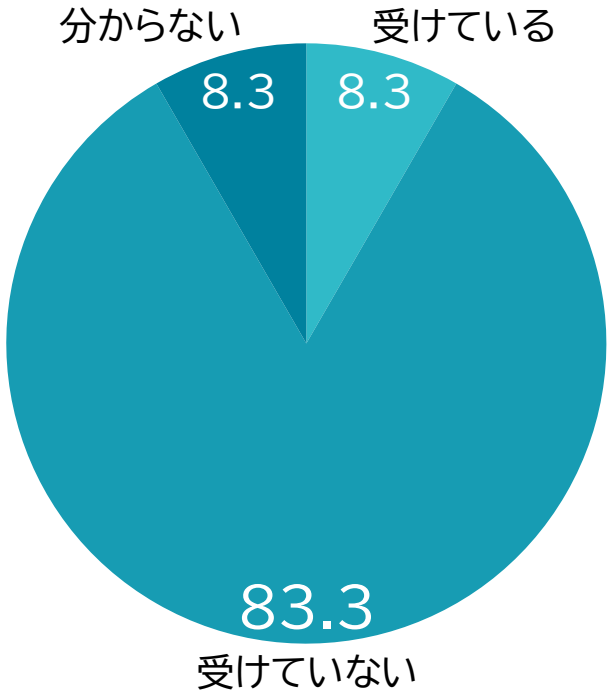
Q34. Q33で行政機関または団体等からの助成・補助金や民間企業との協賛・連携をねんりんピックにおける大会でも「受けている」と回答した団体におうかがいたします。

ねんりんピックにおける大会に関して、具体的にどのような助成・協賛・連携を受けていますか。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

【ねんりんピックでの企業との協賛・連携】

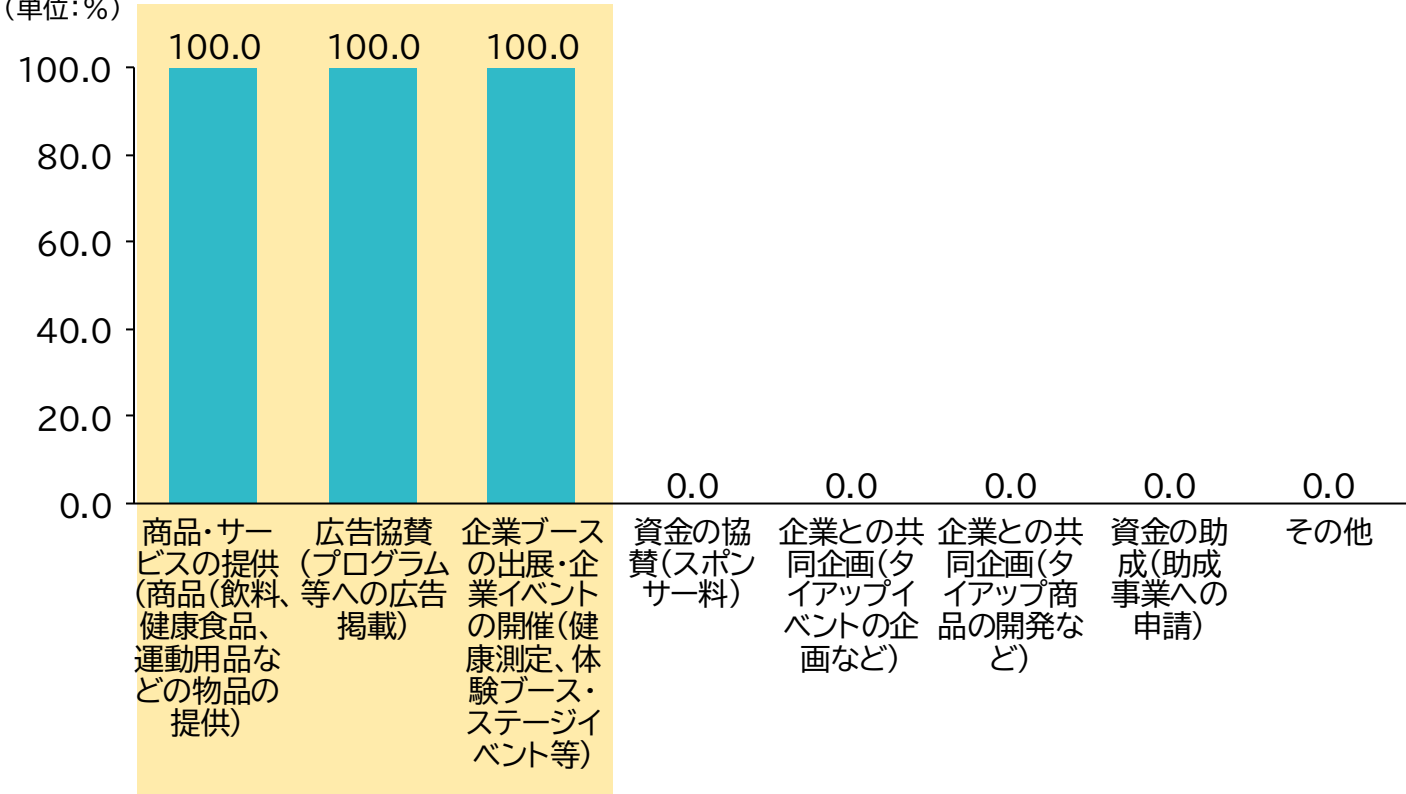
(n=12)

(単位: %)



【ねんりんピックでの協賛・連携の内容】 (n=1)

(単位: %)



自治体支援の良かったこと／ねんりんピックの課題点

中央競技団体

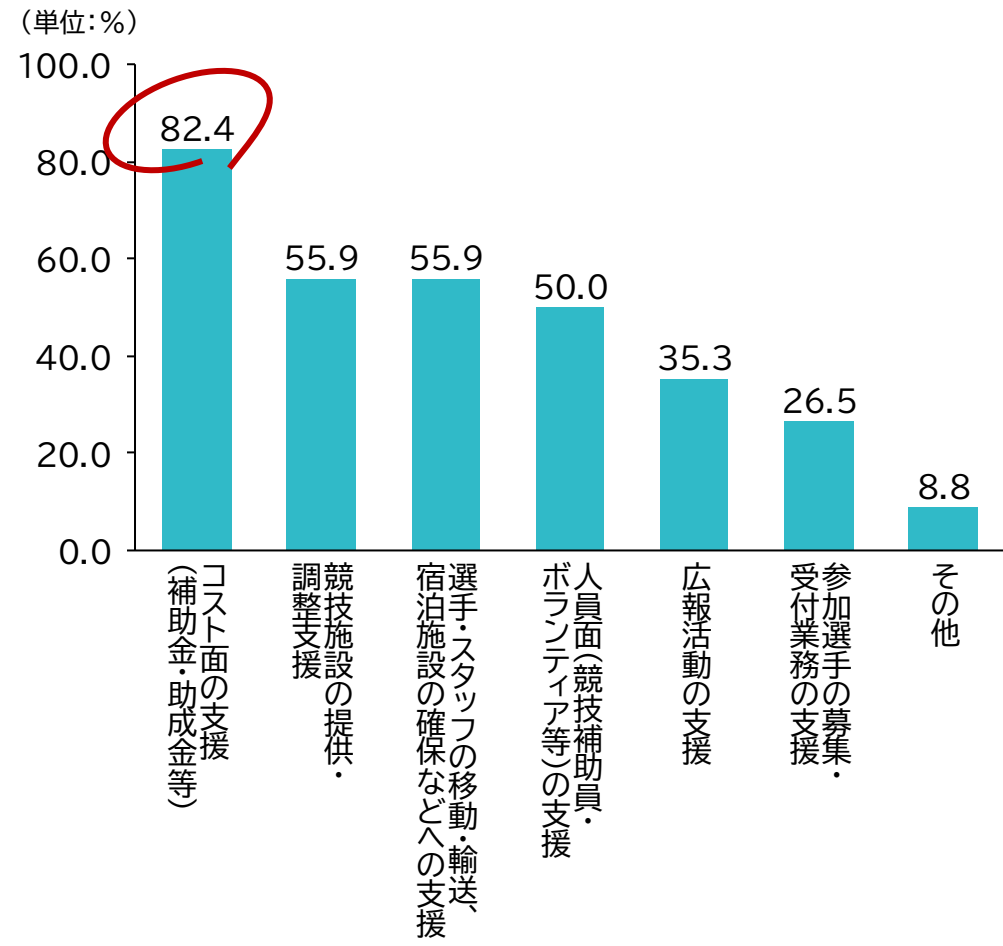
地方競技団体

- 自治体からの支援としてよかったことは、「コスト面の支援」が82.4%で最多。ねんりんピックの課題点としては、「運営スタッフ等の業務負担」が50.0%で最多。
- 競技主管団体として自治体支援が不可欠である一方で、競技団体側の人的リソースや運営体制に大きな負荷がかかっており、より効率的かつ持続可能な運営体制の構築が喫緊の課題である。

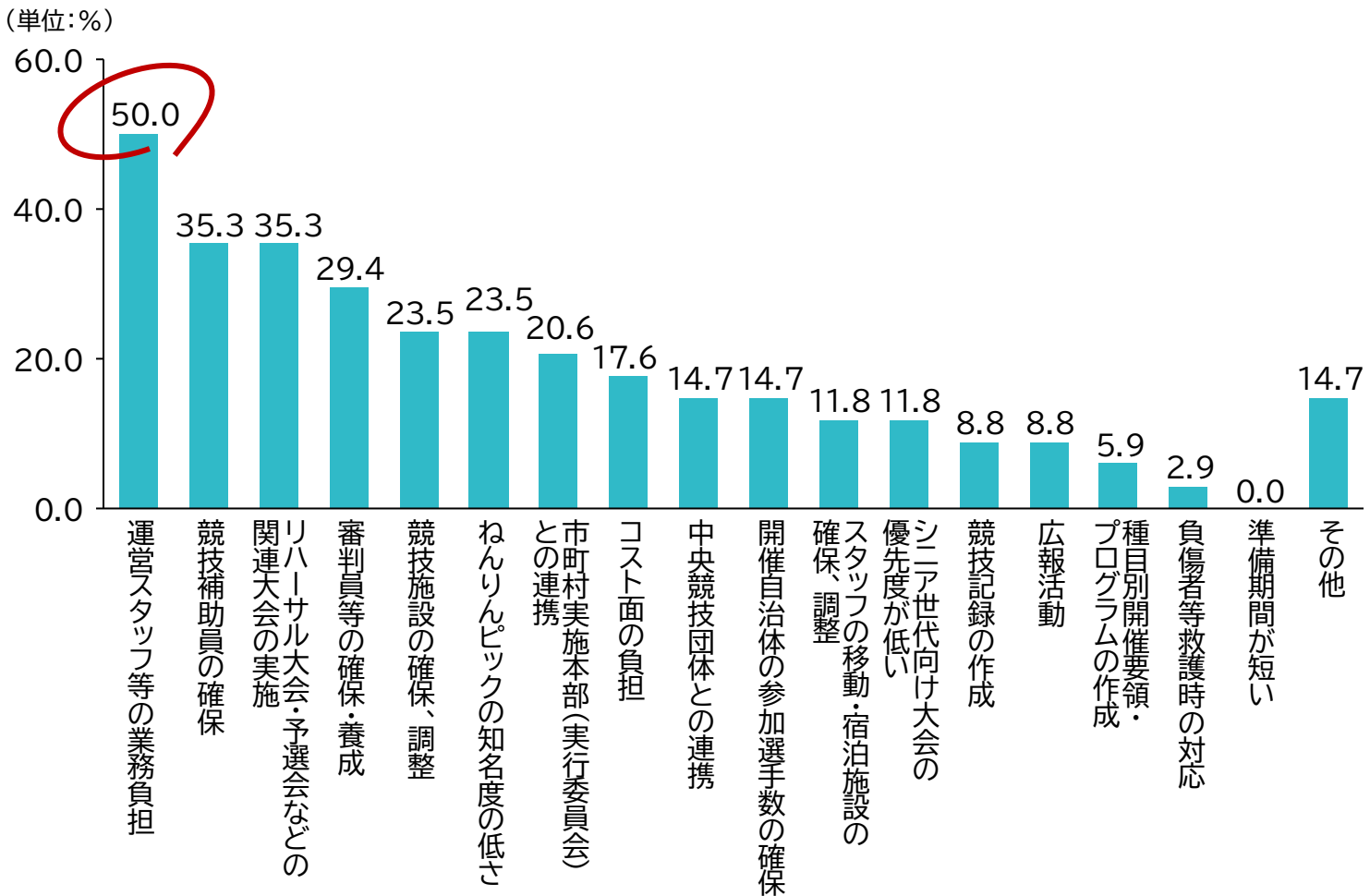
Q11.ねんりんピックの競技主管団体としての業務における、自治体からの支援について、良かったことを教えてください。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

Q12.ねんりんピックの競技主管団体としての業務において、課題や負担となったことがあれば教えてください。当てはまるもの全てにチェックをつけてください。(MA)

【自治体支援の良かったこと】(N=34)



【ねんりんピックの課題点】(N=34)



Q13.行事(事業)について、あり方の課題、改善点、要望したい点等があればご記載ください。(FA)

①開催時期や期間

- 競技役員が高齢のため、集計作業等の業務を自治体の職員にお願いするが、平日開催だと調整が難しいため、休日開催が望ましい。
- もう少し涼しく体調管理のしやすい時期に期待
- いずれも適正だと考えます。
- 今までどおり、各県の季節に応じた実施でよい。
- グラウンド・ゴルフ競技開催地は、交通の利便性のあるところでの開催を希望
- とりまとめ団体との連携

②開催種目数

- 多種目にわたっての開催である良いと感じる。
- いずれも適正だと考えます。
- 現状で良い。

③参加者数(大会の規模)

- 広報活動を通じてさらなる参加者数の拡大が必要と考える。
- いずれも適正だと考えます。
- ゲートボールは各県1チームで良いと思う。政令指定都市枠は要らないと思う。参加チーム数を減らせば、開催地の負担も減ると思う。
- 現状でよい。
- バドミントンは、協賛大会の形で本大会とは別に開催されてきた経緯があり、参加者数(各県、政令市1チーム)の縛りは、従来の参加者から不満があった。この縛りを外すことは困難とは思いますが、競技を追加する場合は、検討してほしい。

④大会運営方法(開催都道府県が設置する実行委員会事務局を中心に運営)

- 県実行委員会から各市町村と連携し実施する現状でよい。
- 選手からの問い合わせ対応について、WEBページにQ&Aを随時追加する仕組みがあると良いと感じた。
- 開催地の行政を含めこれでよい。

Q13.行事(事業)について、あり方の課題、改善点、要望したい点等があればご記載ください。(FA)

⑤総合開会式

- 必要か？
- 競技開催場所が県内様々のため総合開会式は一か所でなくてもよいのでは
- 鳥取県大会の際は、当日の悪天候の影響で、屋外から屋内へと変更となった。その際に、準備から変更におそらく大きな負担がかかったのではないかと思います。天候不良も考慮して、今後は屋内のみにするか規模を縮小してその分、参加者への参加賞や地元還元クーポンなどの発行も行えたらより地域に還元できると感じます。
- 暑い時期開催なら、ドームなどの利用ができる場所がよい
- 盛大な開会式は都道府県の差が激しく、弱小県には負担になる。違う形の開会式を模索して欲しい。
- 総合開会式に参加することによって大会の大きさなどを感じ感動する場面でもあるが、雨天時に会場の変更がある場合、選手・関係者ともに変更が生じるため雨天対応した会場での実施を希望する。

⑥種目別交流大会

- 卓球競技はこれでよい
- 大会まで約3年間、主管団体の「事務局長」を務めた立場で報告します。過去大会へは選手として参加。囲碁富山大会では選手として参加。ボランティアによる観光スポット案内も魅力でした。この大会運営が非常に円滑に進行され、実施した大会での参考となりました。役員として視察へは神奈川大会ひらつかに訪れました。会場が体育館でしたが、受付から対局場までスリッパに履き替え(衛生上の問題との説明)階上へ。「高齢者のため転倒の恐れあり」と指摘したが問題にされず。主管団体の運営にも幾つか問題点が見られ、成績発表で表彰後に間違いがわかりやり直し。同じ轍を踏まない心構えで実施大会まで準備を進めた。開催地自治体は、前の大会開催地との引継ぎなど可能ですが、主管団体は横の繋がりもなく、自治体との協議・検討、内部での打合せなど一から構築して行かねばならず、加えて役員が高齢者のため、役割分担もままならず苦労しました。
- 実施してもらいたい。
- 弓道交流大会の開催要領「10競技方法」(4)に「選手5人のうち1人以上は、女性が常時出場、競技するものとする。」という規定があり、チームに女性1人しか選手登録していなかった場合、その選手が当日体調不良で出場できなければ男性4人ではチームとして出場できないこととなっている。女性の交代選手がいない場合、参加した女性には健康管理の面でプレッシャーがかかるほか、男性4人の失望感は計り知れないものがある。そのため女子選手が大会中に体調不良でやむを得ず欠場した場合でも、男子4人で決勝トーナメントまで出場できるよう改善願いたい。「選手5人」であれば女子が常時出場しなければならないが、選手が4人になれば本来出場する女性が1人欠場していると解釈できるのではないのでしょうか。選手が4人になれば既に1人分のハンディを負っているので不公平は生じないと思う。過去の出場チームを見ると、女性の交代選手がいないチームが実際にあった。もし交代選手を1人だけ参加させようとするれば女性でなければならないことになる。男性の代わりは女性ができるが、女性の代わりは男性ができないからである。

→大会継続への期待感はあるつつも、競技ルールの柔軟性と公平性への要望が求められている。

Q13.行事(事業)について、あり方の課題、改善点、要望したい点等があればご記載ください。(FA)

⑥種目別交流大会

- ・ 剣道競技の場合、女子選手の参加が1割に満たず、参加しにくいものとなっています。女子の部を設けることも考えられるが、会場・役員・日程等で無理が生じます。例えば、団体戦を男子5名+女子2名、合計7名として、試合時間を3分とすれば、現行の日程・会場・役員で対応ができるものと考えます。いずれにしても、女子剣道人口の増加に対応する競技運営が必要と考えます。・ 開催後、アンケート調査をした結果、15府県から女子参加の推進が求められています。アンケート結果は、大会本部、次期・次々期開催地剣道連連に送付しています。
- ・ ゲートボールは審判員を揃えるのも大変なので、参加チーム数を減らすといいと思う。
- ・ 協賛イベントや限定のおみやげの販売などが少なく、準備も少ない為、売れきれ状態になる。地域ならではのものもあり残念に思う。
- ・ ダンススポーツであるが、個人戦は現状8人であるが10人までは課とする。

⑦その他イベント(美術展・地域文化伝承館・音楽文化祭・講演会・ふれあい広場等)

- ・ もう少しシンプルにできないか。経費をかけすぎる。

⑧宿泊輸送(ホテル・バス・昼食弁当の手配)

- ・ 行政が担当していたので内容はよくわからないが、参加者にとっては宿舎を自分たちで手配することがない事から今後もこの方式がよい
- ・ 開催地域の特性・地域性(観光資源など)にもよるが、宿泊施設が遠隔地になる開催地がある。それにより移動時間の確保のため、宿泊所の食事提供前に出発しなくてはならない場合もあったので、そこは改善の余地があるかと思う。ホテルでの食事提供の前倒し対応など。
- ・ 競技開始時間にホテルの朝食が間に合わない。もっと柔軟に、コンビニのおにぎりでも構わないのでホテル側が誠意を見せてくれると納得感が得られやすいかもよ。
- ・ ホテルについては、なるべく会場から近いところを抑えてほしい。
- ・ 選手移送バスが不足 宿泊施設が地方に不足
- ・ 会場となった智頭町は鳥取県の東南端に位置し、囲碁選手の皆さんは、岡山県美作市のホテルに宿泊。ホテルと会場までバス移動。バスガイドも付かず運転手一人で選手の乗り降り、人数確認などに手間取った様子だったと選手から苦情が寄せられました。
- ・ 交通が不便な会場では、会場までの送迎バスとかの充実が重要
- ・ ホテル代について、団体利用で連泊するのであるから、もう少し安い宿泊料金を設定していただきたい。
- ・ 当県大会では宿泊場所が少なかったため、県外の宿泊となったので移動時間が多くかかってしまった。
- ・ 旅行業者の手配関係では、ホテルから競技会場には出来るだけ移動時間は1時間程度までに考えて頂きたい。隣の県をまたぐ場合は、実施県の基準に沿っているのか適切な夕食の配膳が出来ているのか配慮してほしい。具体的には到着時間が遅く、その上夕食の準備が間に合わないような状況は次の日の試合に差し支えるため。

→宿泊・交通手配における参加者の利便性向上や負担軽減、食事提供における柔軟性について意見がある。

Q13.行事(事業)について、あり方の課題、改善点、要望したい点等があればご記載ください。(FA)

⑨総合閉会式

- ・ 必要か？
- ・ 問題なし。
- ・ 総合開会式同様

⑩広報(開催自治体オリジナルイベント・県民運動)等

- ・ 開催地自治体が行っていたためよくわからない。
- ・ 問題なし。
- ・ 知名度を上げるための広報が重要

⑪協賛イベント・協賛募集・企業連携

- ・ 開催地自治体が行っていたためよくわからない。
- ・ 参加者はこれを楽しみにしているので続けて欲しい。見るものも、味わうものもとても良くしてもらっていると言われた。

⑫ その他

- ・ 高齢者が健康維持の楽しくスポーツを行うこと、他県の方々との交流ができることから、この大会は今後も続けていく必要があると感じる。
- ・ 日本サッカー協会主催の同種の大会(JFA全日本O-60サッカー大会)との差別化の是非
- ・ 都道府県持ち回りであり、開催経験がない担当者が多いため、過去の反省事項、開催に使用したソフトなどは共有できるようにしたいと思います。
- ・ 全国から集まる選手と地元の方々の交流の深まりがさらに強くなることを望みます。
- ・ 全国経験のない知名度の低い競技でしたので、行政との連携で普及の足がかりとなりました。引き続き協会として競技の楽しさを広めていく努力をしていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・ 開催地自治体・競技主管団体の負担を少しでも減らしてあげて欲しい。

(1) 調査方法

(2) 調査項目

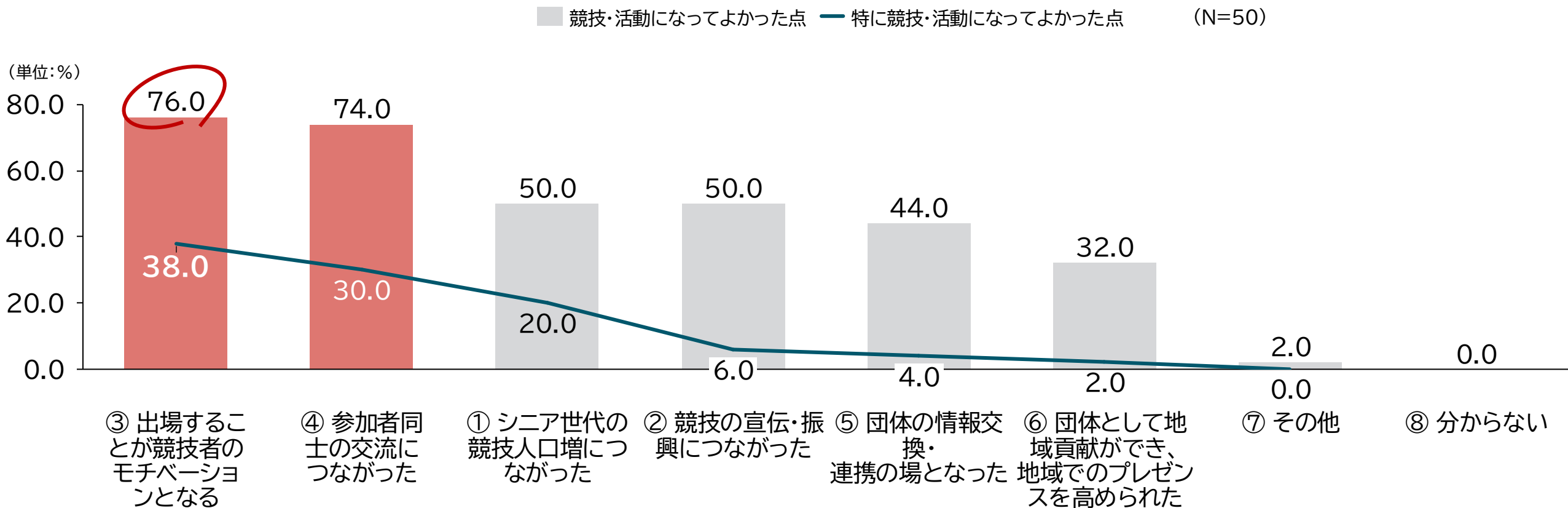
(3) 調査結果

(4) 考察・提言

競技団体から見るねんりんピックの魅力①競技者のモチベーション向上と交流促進

- ねんりんピックは、高齢者の競技意欲を最大限に引き出し、交流の場を創出している。

【再掲：ねんりんピック競技・活動になって良かった点】



ねんりんピックの
果たす役割

- ねんりんピックは参加者の競技継続への強い動機付けとなり、日々の生活に目標を与えていることが想定される。
- 全国からの参加者との出会いを通じ、新たな人間関係を築くきっかけとなっている。
- 共通の趣味を持つ仲間との絆を深め、地域や競技を超えたコミュニティ形成につながる可能性がある。

競技団体から見るねんりんピックの魅力②生涯スポーツとしての価値

- ねんりんピックは、高齢者の生涯にわたるスポーツ活動の「目標」となり、その継続を促進している。

中央競技団体

- 高齢者の励みにつながる大会なので、開催の継続をお願い致します。

地方競技団体

- 高齢者の競技力維持向上のモチベーションにつながる
- 参加者のモチベーションは非常に高い大会であったと感じました。ねんりんピックがあることで、サッカー競技を続けたり、再び競技を始めたりする人が増えることが期待されます。また、実際に競技をする地域の人々との交流や、特産等を知っていただく機会となっており、その地域を全国にPRする貴重な場所となることが期待されます。
- ねんりんピックは生涯スポーツを行う上で一つの目標となっており、是非継続されたい。
- 出場の機会を増やし、たくさんの方が参加できる大会にすること。出場の機会を増やし、たくさんの方が参加できる大会にすること。勝敗も大切ですが、広く交流ができるような大会運営を望みます。
- 毎年実施されている競技は、出来るだけ継続実施して頂けると選手のモチベーションが上がる。・競技選手のみならず、持っている資格を生かし社会貢献したい方やつながりを持ちたい方も多い。ねんりんピックを目指すべき健康長寿の目標となるよう継続実施に期待したい。

- 
- ねんりんピックに出場すること自体が、高齢者の目標となるほか、出場に向けたスポーツへの参加を継続することで健康などを維持することになる生涯スポーツへ誘うきっかけとなる。

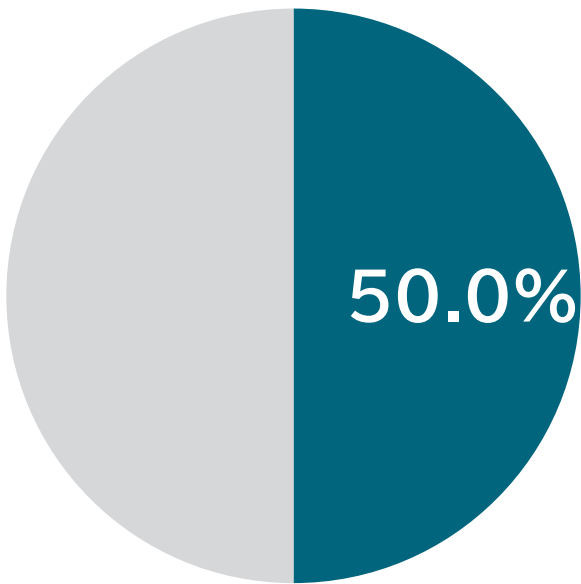
ねんりんピックの 果たす役割

- 定期的な練習と大会への参加意欲が、高齢者の身体活動を促進し、健康維持に寄与する。
- 大会出場を視野に入れた活動が、スポーツを生活の一部として定着させる機会となりうる。
- 年齢を重ねても競技を続けられる環境を提供し、「引退」を考える高齢者にも新たな目標を与える可能性がある。

競技団体から見るねんりんピックの魅力③競技の普及・振興

- ねんりんピックは、シニア世代における競技人口の増加と、競技自体の認知度向上・活性化に貢献している。

【ねんりんピック競技・活動になって良かった点】(再掲)
(N=50)



- 競技団体の50.0%がねんりんピックによって協議の宣伝・深耕につながったと実感

中央競技団体

- 埼玉県での開催では、バウンドテニス競技ははずされたので、全ての開催時に種目参加できるようにしてほしい。
- 文化交流種目の健康マージャンを担当していますが、総合開会式を簡素化して、開催市町村での滞在時間を増やして、歴史や自然・食など開催地に赴いた楽しさを増やしてほしい。競技においては地域間交流の有効な機会となっており、マージャン文化の全国的な普及振興に大いに成果を上げていると感じています。

地方競技団体

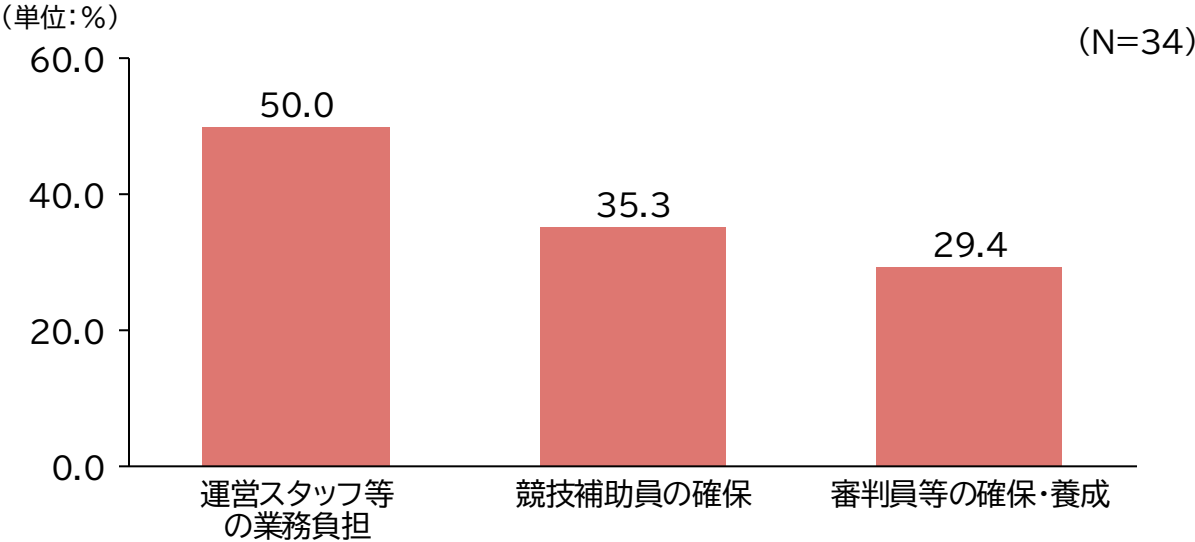
- 参加者のモチベーションは非常に高い大会であったと感じました。ねんりんピックがあることで、サッカー競技を続けたり、再び競技を始めたりする人が増えることが期待されます。また、実際に競技をする地域の人々との交流や、特産等を知っていただく機会となっており、その地域を全国にPRする貴重な場所となることが期待されます。
- 出場の機会を増やし、たくさんの方が参加できる大会にすること。
- eスポーツを鳥取大会以降も正式種目とし、幅広いシニアの参加を募っていただきたい。

ねんりんピックの果たす役割

- 全国的な大会を通じて、競技の魅力を広く発信し、新たな関心層を惹きつけることにつながる。
- シニア世代が気軽に始められる環境や、目標となる大会があることで、競技への参加を促すことになる。
- 高齢の競技者が活躍する姿が、若い世代や未経験者にとってのロールモデルとなり、競技文化の継承に繋がる。

競技団体から見るねんりんピックの課題①運営スタッフの業務負担とノウハウ共有の不足

【ねんりんピックの課題】(一部再掲)



【ねんりんピックのあり方への意見】(一部抜粋)

⑥種目別交流大会

・ 開催地自治体は、前の大会開催地との引継ぎなど可能ですが、主管団体は横の繋がりもなく、自治体との協議・検討、内部での打合せなど一から構築して行かねばならず、加えて役員が高齢者のため、役割分担もままならず苦勞しました。

⑫ その他

・ 都道府県持ち回りであり、開催経験がない担当者が多いため、過去の反省事項、開催に使用したソフトなどは共有できるようにしたいと思います。
・ 開催地自治体・競技主管団体の負担を少しでも減らしてあげて欲しい。

・ 運営スタッフ等の業務負担がねんりんピックの一番の課題と捉えられているほか、自由記述においても役割分担の困難さや、横のつながりがなく一から構築する苦勞が指摘されている

運営マニュアル・ガイドラインの整備と共有プラットフォームの構築

- 過去の大会運営のノウハウ、反省点、成功事例を体系的にまとめたマニュアルを作成し、オンラインプラットフォームなどで次期開催地・主管団体が容易にアクセスできるようにする。
- 担当者の経験不足を補い、準備期間の負担を大幅に軽減する。

ボランティア・地域住民の積極的な巻き込みと育成プログラムの導入

- 地域住民、学生、退職者などを対象としたボランティア募集を強化し、事前研修や役割分担の明確化を行う。
- 特に専門性の高い審判員や競技補助員については、育成プログラムや資格取得支援を強化し、人材プールの拡大を図る。

デジタル技術の活用による業務効率化

- 集計作業、参加者管理、情報発信などにデジタルツールやシステムを導入し、手作業による負担を軽減する。
- 例えば、WEBサイトにQ&A自動応答システムを導入し、問い合わせ対応の効率化を図る。

競技団体から見るねんりんピックの課題②参加者の経済的・物理的負担と開催地の利便性

【ねんりんピックへの意見】(一部抜粋)

中央競技団体

- ・ 宿泊先の確保、価格面も含めて難しいとの声があります
- ・ 交通宿泊費等、選手の経済的負担を減らしたり、また会場は交通の便の良いところで開催した方が良いのではと感じております。

地方競技団体

- ・ 競技開催施設の不足、交通インフラの不備不足などで、スタッフが競技施設まで移動するのに労力とコストを要した。地方開催では仕方のないところも言える。

⑧宿泊輸送(ホテル・バス・昼食弁当の手配)

【ねんりんピックのあり方への意見】(一部抜粋)

- ・ 宿泊施設が遠隔地になる開催地がある。それにより移動時間の確保のため、宿泊所の食事提供前に出発しなくてはならない場合もあったので、そこは改善の余地があるかと思う。
- ・ 競技開始時間にホテルの朝食が間に合わない。もっと柔軟に、コンビニのおにぎりでも構わないのでホテル側が誠意を見せてくれると納得感が得られやすいかもよ。
- ・ ホテルについては、なるべく会場から近いところを抑えてほしい。
- ・ 選手移送バスが不足 宿泊施設が地方に不足
- ・ 会場となった智頭町は鳥取県の東南端に位置し、囲碁選手の皆さんは、岡山県美作市のホテルに宿泊。ホテルと会場までバス移動。バスガイドも付かず運転手一人で選手の乗り降り、人数確認などに手間取った様子だったと選手から苦情が寄せられました。
- ・ 交通が不便な会場では、会場までの送迎バスとかの充実が重要
- ・ ホテル代について、団体利用で連泊するのであるから、もう少し安い宿泊料金を設定していただきたい。
- ・ 当県大会では宿泊場所が少なかったため、県外の宿泊となったので移動時間が多くかかってしまった。

- ・ 競技団体からも、参加選手の経済的負担や身体的負担に対する改善要望が出ている。特に宿泊費の高騰など宿泊費や交通費の負担増加、地方では遠隔地に宿泊地があることが多く、交通や移動の負担があるとされる。

会場選定基準へのアクセス利便性・宿泊施設充実度の追加

- 開催地の選定において、競技会場と宿泊施設間の移動時間、公共交通機関のアクセス、周辺の商業施設(コンビニ等)の充実度を重要な評価項目に加える。
- これにより、参加者の利便性を最優先した開催地選定を促す。

宿泊施設との連携強化による柔軟なサービス提供

- 開催地の宿泊施設に対し、大会期間中の朝食時間の前倒しや、軽食提供オプション、団体割引の適用などを事前に交渉し、参加者のニーズに合わせた柔軟なサービス提供を依頼する。

大都市圏での開催

- 地方ほど宿泊施設が少なくなり、他県や他自治体の宿泊施設を利用しなければならないため、宿泊施設が多い大都市を中心にねんりんピックを開催することも、当該課題を解決する一つの手段となり得る。

競技団体から見るねんりんピックの課題③大会運営の柔軟性不足と種目選定・ルールへの不満

【ねんりんピックへの意見】(一部抜粋)

地方競技団体

- 競技人口や団体そのものがなくなるなど、競技によってはマンパワー不足の状況がある。競技種目の見直しや、開催方法の見直し(1市町村1競技以上の縛りをなくす等)が必要では？
- 今後、小さな県での開催は、競技運営役員・スタッフなど人材が揃わないのではないかと危惧しています。もし、5年後に 県で開催されていたら同競技種目の運営は出来なかったと思われます。ただし、今後も 県からの選手選考大会の開催は持続可能です。

②開催種目数

③参加者数(大会の規模)

⑥種目別交流大会

【ねんりんピックのあり方への意見】(一部抜粋)

- 多種目にわたっての開催である良いと感じる。
- ゲートボールは各県1チームで良いと思う。政令指定都市枠は要らないと思う。参加チーム数を減らせば、開催地の負担も減ると思う。
- バドミントンは、協賛大会の形で本大会とは別に開催されてきた経緯があり、参加者数(各県、政令市1チーム)の縛りは、従来の参加者から不満があった。この縛りを外すことは困難と思うが、競技を追加する場合は、検討してほしい。
- 女性の交代選手がいない場合、参加した女性には健康管理の面でプレッシャーがかかるほか、男性4人の失望感は計り知れないものがある。そのため女子選手が大会中に体調不良でやむを得ず欠場した場合でも、男子4人で決勝トーナメントまで出場できるよう改善願いたい。

- 競技によっては競技人口が少なく選手派遣が難しくなっているものもある。加えて参加条件が加わるため当日まで参加が可能になるかどうかチームとして精神的な負担もあるため、柔軟なルール適用による運営が求められる。



競技種目・開催方法の定期的な見直しと柔軟化

- 競技団体の意見を定期的にヒアリングし、競技人口の変動や高齢者のニーズに合わせて種目の追加・見直しを行うこともあり得る。
- 例えば、eスポーツの正式種目化や、特定の市町村における種目の集約開催など、運営を柔軟に見直す検討を行う。

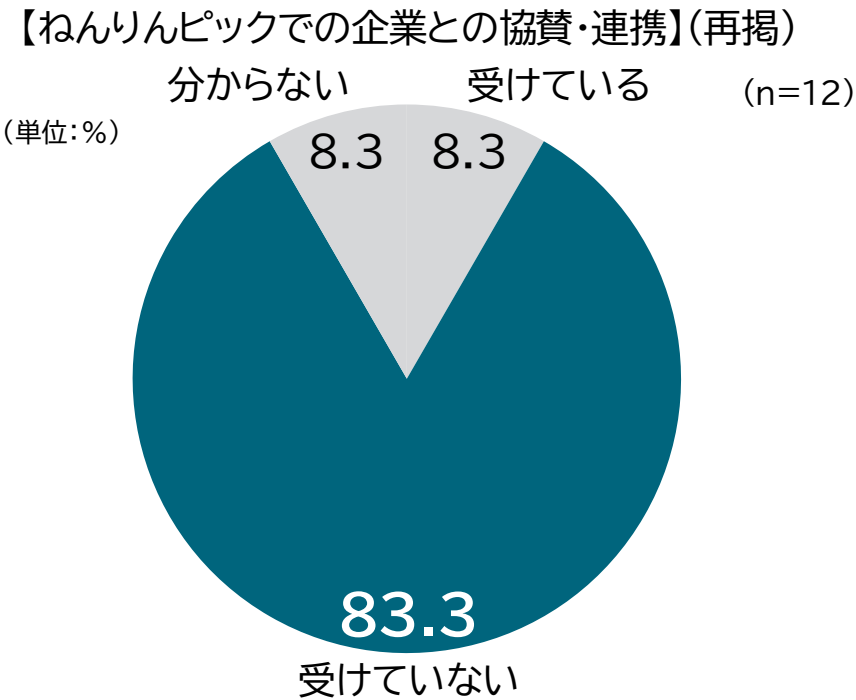
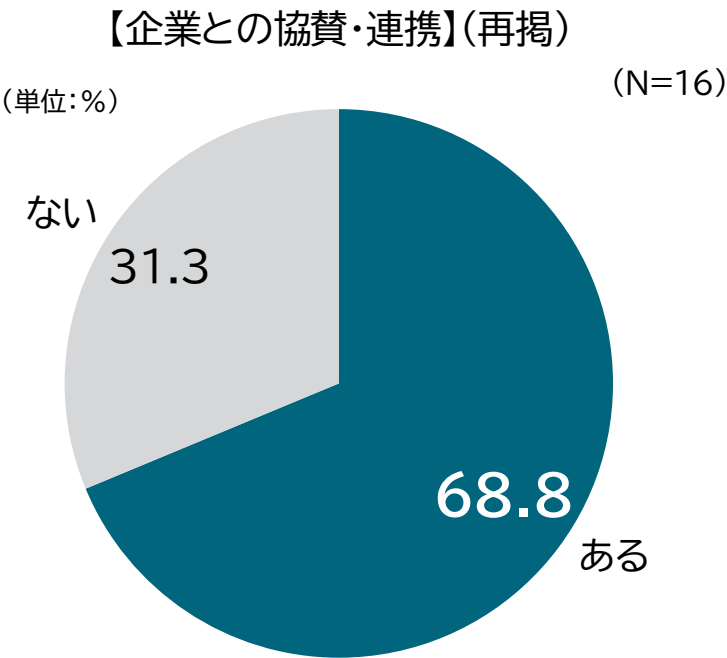
総合開会式の簡素化・分散化の検討とリソースの再配分

- 大規模な総合開会式を簡素化するか、競技会場ごとの分散開催を検討する。
- その分のリソースを参加者への還元(地域クーポン、参加賞の充実など)や、開催地での滞在時間増加(観光・交流イベント)に振り向けることで、参加者の満足度向上を図る。

競技ルール・カテゴリーの多様化と参加促進

- 女性選手の必須条件が厳格化していることによるトラブル回避のため、女性枠の柔軟な運用を検討する。
- 年齢カテゴリーの細分化や、勝敗だけでなく交流を重視した競技形式の導入など、より多くの人が参加しやすいルールを模索する。

競技団体から見るねんりんピックの課題④企業連携の未活用



- 競技団体として半数以上が企業との協賛や連携ができているものの、ねんりんピックに限ると、83.3%が協賛・連携を受けておらず、通常の連携が生かせていない状況が示唆される。

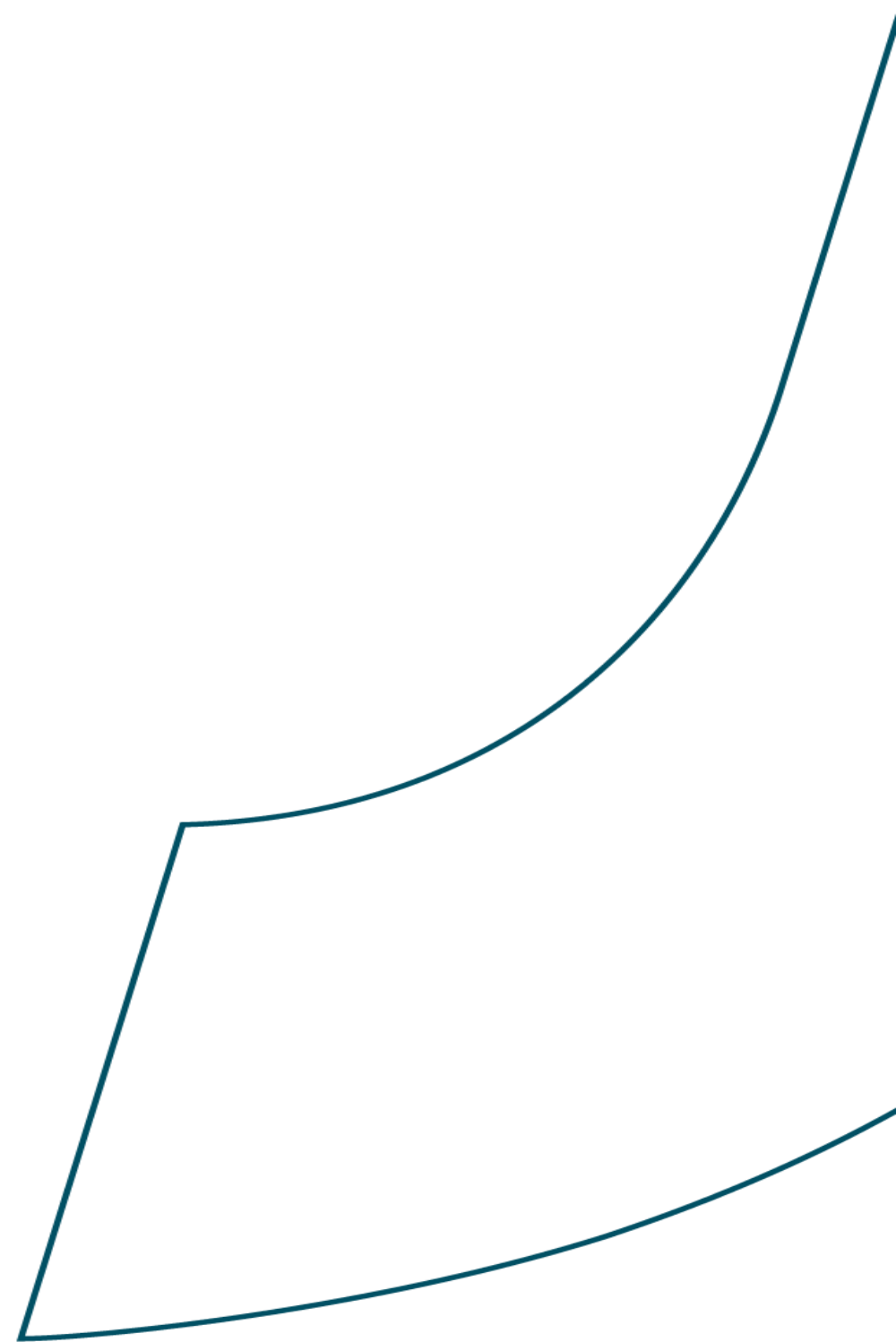
ねんりんピック特有の企業協賛プランの策定と積極的な提案

- 高齢者層へのアプローチ、健康寿命延伸への貢献、地域活性化といったねんりんピックの特性を活かした企業協賛プランを策定する。商品・サービス提供、健康測定ブース、共同イベント企画など、企業にとって魅力的な連携内容をパッケージ化し、ターゲット企業に積極的に提案することもあり得る。

企業連携専門部署の設置または外部委託の検討

- 競技団体単独での企業開拓が難しい場合、ねんりんピック実行委員会内に企業連携を専門とする部署を設置するか、実績のある外部機関(広告代理店、コンサルティング会社など)に協賛獲得業務を委託することを検討する。専門性を持ったアプローチで、企業からの協賛を促進する。

3.一般向けアンケート



(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

項目	一般向け調査
調査対象	全国の50歳以上の一般市民
回収数	800名
実施方法	Web回答調査
実施時期	2025年10月

(1) 調査方法

(2) 調査項目

(3) 調査結果

(4) 考察・提言

2. 調査項目

【共通調査項目】

大項目	中項目	設問案	選択肢
基本情報	居住地情報	お住まいの都道府県を教えてください。 市区町村名を記入してください。	(47都道府県)
	回答者属性	性別を教えてください。	男性 女性 回答たくない
		年齢を教えてください。	50歳～54歳 51歳～59歳 60歳～64歳 65歳～69歳 70歳～74歳 75歳～79歳 80歳～84歳 85歳～89歳 90歳以上
日常の健康課題・運動習慣	仕事	直近1年間に、収入を伴う仕事をどの程度しましたか。	週に5日以上 週に3～4日くらい 週に1～2日くらい 月に2～3日くらい 月に1日くらい 年に数回くらい していない わからない
	運動・文化活動の習慣	直近1年間に、スポーツや文化活動にどの程度参加しましたか。	週に5日以上 週に3～4日くらい 週に1～2日くらい 月に2～3日くらい 月に1日くらい 年に数回くらい していない わからない
	地域活動・ボランティア活動	直近1年間に、地域活動・ボランティア活動にどの程度参加しましたか。	週に5日以上 週に3～4日くらい 週に1～2日くらい 月に2～3日くらい 月に1日くらい 年に数回くらい していない わからない

健康課題	現在、ご自身の健康についてどのように感じていますか。	とても健康である やや健康である どちらともいえない やや健康に不安がある 健康に不安がある
	健康に関する主な悩みを教えてください。	運動不足 体力の衰え 関節や腰の痛み 生活習慣病（高血圧・糖尿病など） 物忘れや認知機能の低下 社会との交流機会が減っている その他（_____）
	今後懸念する健康課題は何ですか。（複数選択可）	体力の衰え 認知機能の低下 フレイル（虚弱化） 移動の困難さ 食生活の変化 その他（_____）
	※そのうち、特に懸念する健康課題を1つ選んでください。	
	全体として、あなたの現在の生活にどのくらい満足していますか？	0 まったく満足していない ～ 10 = 非常に満足している
	あなたはどれくらい孤独を感じていますか？	1 = まったく感じない 2 = ときどき感じる 3 = しばしば感じる 4 = いつも感じる

2. 調査項目

【共通調査項目】

スポーツイベントへの興味・参加意向	興味	あなたはスポーツイベント（観戦・参加を問わず）にどの程度興味がありますか？	非常に興味がある 興味がある あまり興味がない 全く興味がない わからない
ねんりんピックの認知	説明	ねんりんピックについてお聞きます。 ねんりんピック（正式名称：全国健康福祉祭）とは、「活力ある長寿社会の形成」をテーマに、高齢者を中心とする国民の健康づくり、生きがいづくりをすすめる大会です。卓球、テニス、グラウンド・ゴルフ、囲碁、将棋などの各種スポーツ競技や文化種目、美術展、音楽文化祭などの文化イベント・健康福祉機器展など、あらゆる世代の人たちが楽しめる総合的なイベントで、1988年から毎年、各都道府県持ち回りで開催されています。 主 催：厚生労働省・開催都道府県（政令指定都市）・一般財団法人長寿社会開発センター 参加者：選手の参加者年齢は、60歳以上 期 間：毎年10～11月の4日間（土日を含む）。大会初日には、全国からの選手が原則全員参加する「総開会式」が開催される。 内 容：各自治体から選ばれた選手が、開催地都道府県に集まり、各競技ごとに分かれて、スポーツや文化の交流大会を実施。 詳 細： https://nenrin-gifu2025.pref.gifu.lg.jp/ https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/nenrin/gaiyo.html	
	認知度	ねんりんピックを知っていますか。	よく知っている（内容も理解している） 名前は聞いたことがあるが詳しくは知らない 知らない
	イベントへの参加実績	直近5年の中で、スポーツ大会や健康づくりイベントに参加したことはありますか。 （選手としてだけでなく、応援・付き添い・体験での参加や観覧も含む）	ねんりんピックに参加したことがある ねんりんピック以外の全国大会・全国規模のイベントに参加したことがある 都道府県大会・都道府県規模のイベントに参加したことがある 市区町村大会・市区町村規模のイベントに参加したことがある 参加したことはない 覚えていない その他（ ）
		（参加したことがある場合） どんな競技で参加しましたか。	
	関心	あなたが今後 参加してみたい スポーツイベントの種類を教えてください。（複数選択可）	自分が競技に参加するイベント（例：マラソン大会、ウォーキングイベント、球技大会など） 家族や友人と一緒に参加できるイベント 同世代と交流できるイベント 他世代と交流できるイベント 参加特典（ノベルティなど）があるイベント 観戦型イベント（プロ・アマ問わずスポーツ大会の観戦） 健康増進や交流を目的としたイベント（ラジオ体操、健康教室など） ボランティアや運営スタッフとして関わるイベント 特に参加したいとは思わない その他（自由記述）
ねんりんピックの参加意向	参加意向	来年以降、ねんりんピックに参加してみたいと思いますか。 （選手としてだけでなく、応援・付き添いで の参加やねんりんピックで開催されているイ	来年以降すぐに参加してみたい すぐにはないが、いつか参加してみたい いまのところは参加することを考えていない わからない

共通	開催地	ねんりんピックを開催してほしい地域はどこですか。（都道府県・市区町村）	地域（ ） その理由（ ）
	参加障壁	スポーツイベントに参加する上での主な障壁は何ですか？（複数選択可）	開催日時が合わない 参加費用が高い 体力や健康に不安がある 競技力に不安がある 一緒に参加する人がいない 興味が持てるイベントがない 開催場所が遠い 特に障壁はない その他（自由記述）
	魅力あるサポート	どんなサポートがあれば、スポーツイベントにより参加したいと思いますか？また、より参加しやすくなると思いますか？（複数選択可）	交通費や宿泊費の補助がある 参加料が無料・安価 移動距離が少ない オンラインでの開催（式典・講演会など） 競技以外にも、観光や食事を楽しめるプログラムがある 健康チェックや医療サポートが充実している 初心者向けの体験イベントがある 友人や家族と一緒に参加できる 大会後も継続できる運動・交流プログラムがある その他（ ）
	多世代交流・サポートについて	どういった形式、どういった内容のイベントであつたら、スポーツや文化活動を行うイベントにより参加してみたいと思いますか。	
	広報	直近5年の中で、スポーツイベントや高齢者向けのイベントの情報をどこから得ていますか。（複数選択可）	新聞（具体的な新聞の名前： ） 雑誌（具体的な雑誌の名前： ） テレビ（具体的な番組の名前： ） ラジオ（具体的な番組の名前： ） インターネットサイト（具体的なサイトの名前： ） SNS（具体的なチャンネルやインフルエンサーの名前： ） 自治体からの広報誌・チラシ 家族・友人・知人からの口コミ 所属・参加しているスポーツ団体・文化活動団体等からのお知らせ その他（ ）
	データへの関心	スポーツイベントで、健康に関するデータが得られる場合、どのような健康データを知り	体力測定（歩行速度・握力など） 健康測定（血圧・体重・BMI） 運動習慣と健康の関係 栄養状態・食習慣 イベント参加者の健康寿命データ その他（ ）

2. 調査項目

【調査項目(ねんりんピック参加者)】

	参加したことがある方へ	参加回数	1回 2～3回 4回以上
		直近で参加されたねんりんピックの開催地を	(36都道府県)
		大会に参加された目的や理由は何です ※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の目的や理由について回答してください。イベント・講座等への参加や観覧も含まれます。	全国の参加者との交流 地元の人々との交流 充実感や生きがい味わう スポーツをしたいから 文化活動をしたいから 健康の維持増進 技や技術の追求 大会での勝利 開催地の観光 選手の応援 イベントの観覧 その他 ()
		参加された内容は何ですか。(複数選択) ※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の内容すべてにチェックしてください	卓球 テニス ソフトテニス ソフトボール ゲートボール バタンク ゴルフ マラソン 弓道 剣道 水泳 グラウンド・ゴルフ サッカー ソフトバレーボール ウォーキング・ウォークラリー 太極拳 ダンススポーツ バウンドテニス その他 ()

		文化系	囲碁 将棋 俳句・川柳・短歌 健康マージャン 美術展(日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真) 合唱・音楽演奏(音楽文化祭) 講演会 その他 ()
		健康・体験系	健康チェック(血圧・体力測定) 健康講座・栄養指導 郷土料理の提供・試食・料理体験等 観光ツアー・歴史探索 その他 ()
		その他	応援(観覧)・付き添い その他 ()
		滞在日数 ※複数回参加されたことがある方は、直近	日帰り 1泊2日 2泊3日 3泊以上
		滞在中の消費額(宿泊・食事・移動費) ※複数回参加されたことがある方は、直近(自宅から会場までの往復は含みませ	1万円未満 1～3万円 3～5万円 5万円以上
		同伴者の有無	なし(1人参加) あり(同伴者の関係:)
		(同伴者ありで参加したことがある方へ)	参加した(どんなプログラムですか?) 見学・応援のみ まったく関わらなかった

2. 調査項目

【調査項目(ねんりんピックに参加したことはないが、参加してみたいと回答した方)】

	「参加してみたい」と回答した方へ	そのように回答した理由について教えてください。(複数選択可)	特定のスポーツ・文化活動に取り組んでおり、その競技で参加してみたいから 特定のスポーツ・文化活動はしていないが、ねんりんピックをきっかけに取り組んでみたいから 全国の参加者と交流してみたいから 地元の人々と交流してみたいから 充実感や生きがいを味わいたいから イベントやお祭りに参加することが好きだから 健康の維持増進のため 周辺観光のため その他 ()
		ねんりんピックで参加してみたい競技・プログラムを教えてください。(複数選択可) スポーツ系	卓球 テニス ソフトテニス ソフトボール ゲートボール ベタンク ゴルフ マラソン 弓道 剣道 水泳 グラウンド・ゴルフ サッカー ソフトバレーボール ウォーキング・ウォークラリー 太極拳 ダンススポーツ バウンドテニス その他 ()
		文化系	囲碁 将棋 俳句・川柳・短歌 健康マージャン
			美術展 (日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真) 合唱・音楽演奏 (音楽文化祭) 講演会 その他 ()

		健康・体験系	参加型体操イベント 参加型盆踊りイベント eスポーツ体験イベント ニュースポーツ体験イベント プロスポーツ選手の講演会・トークショー 著名文化人の講演会・トークショー 簡単な体力測定・健康チェック・長生きチェック体験 健康講座・栄養指導 健康づくり・食生活の展示ブース 料理体験 (郷土料理・発酵食品) 美術展覧会 郷土芸能の展示・ステージイベント・体験コーナー 音楽ステージイベント 健康福祉機器展示コーナー 地元特産品販売ブース 地元グルメ販売ブース 観光ツアー・歴史探索 スタンブラー 抽選会 その他 ()
--	--	--------	--

2. 調査項目

【調査項目(ねんりんピックに参加したことはなく、今のところ参加することを考えていないと回答した方)】

	「いまのところは参加することを考えていない」と回答した方へ	そのように回答した理由について教えてください	参加したい種目がないから 興味のある種目があるかわからないから 健康に不安があるから 参加方法が分からないから 参加費や交通費等の費用が負担だから 仕事の都合（連続して仕事を休むことができない） 家庭の都合（連続して家を空けることができない） 1人で参加したくないから（一緒に参加するひとがいれば参加したい） スポーツ・文化活動に興味がないから 目立ちたくない、人前に立ちたくないから その他（_____）
	わからない」と回答した方へ	そのように回答した理由について教えてください	自分が好きなスポーツ・文化活動があるかわからないから イベントの規模など具体的なイメージがわいていないから 面白そうだと思うが、億劫にも感じるから 参加方法が分からないから 自分の体力や健康で参加できるかわからないから 一緒に参加しにくい人があるか、友人や家族と参加できるかによらずから 開催地によるから その他（_____）
	「いまのところは参加することを考えていない」「わからない」と回答した方へ	参加する・参加しないに関わらず、興味がある競技・プログラムを教えてください。（複数選択可）※「観覧したい」「応援したい」競技スポーツ系	卓球 テニス ソフトテニス ソフトボール ゲートボール バタンク ゴルフ マラソン 弓道 剣道 水泳 グラウンド・ゴルフ サッカー ソフトバレーボール ウォーキング・ウォークラリー 太極拳 ダンススポーツ バウンドテニス その他（_____）

		文化系	囲碁 将棋 俳句・川柳・短歌 健康マージャン 美術展（日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真） 合唱・音楽演奏（音楽文化祭） 講演会 その他（_____）
		健康・体験系	参加型体操イベント 参加型盆踊りイベント eスポーツ体験イベント ニュースポーツ体験イベント プロスポーツ選手の講演会・トークショー 著名文化人の講演会・トークショー 簡単な体力測定・健康チェック・食生活チェック体験ブース 健康講座・栄養指導 健康づくり・食生活の展示ブース 料理体験（郷土料理・発酵食品） 美術展覧会 郷土芸能の展示・ステージイベント・体験コーナー 音楽ステージイベント 健康福祉機器展示コーナー 地元特産品販売ブース 地元グルメ販売ブース 観光ツアー・歴史探索 スタンプラリー 抽選会 その他（_____）

(1) 調査方法

(2) 調査項目

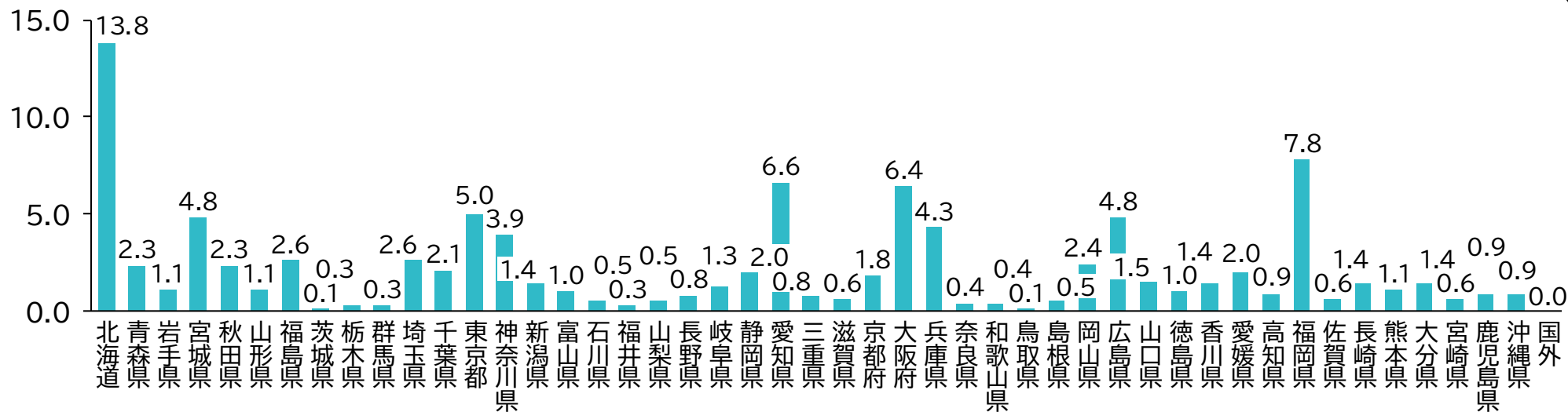
(3) 調査結果

(4) 考察・提言

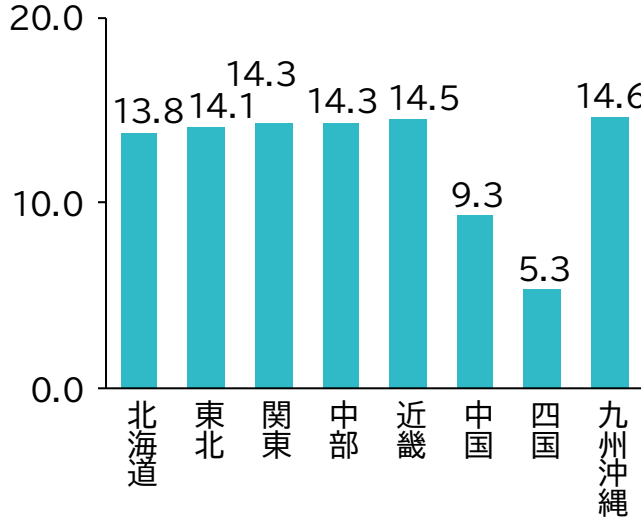
基礎情報①

【居住地】(N=800)

(単位:%)



(単位:%)



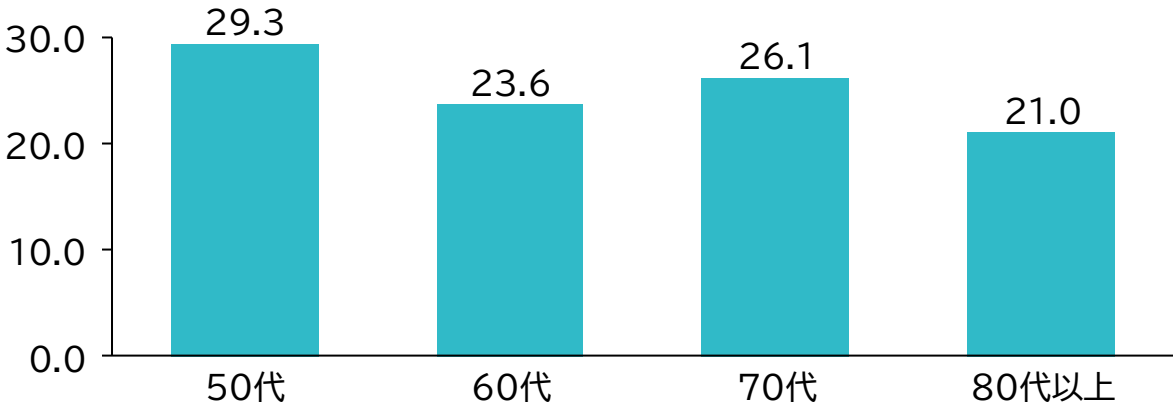
【性別】(N=800)

(単位:%)



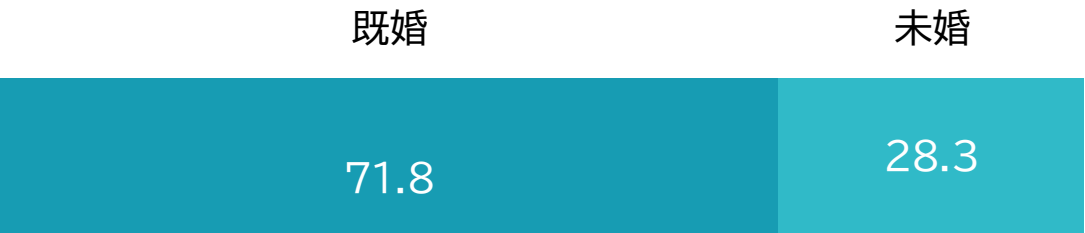
【年齢】(N=800)

(単位:%)



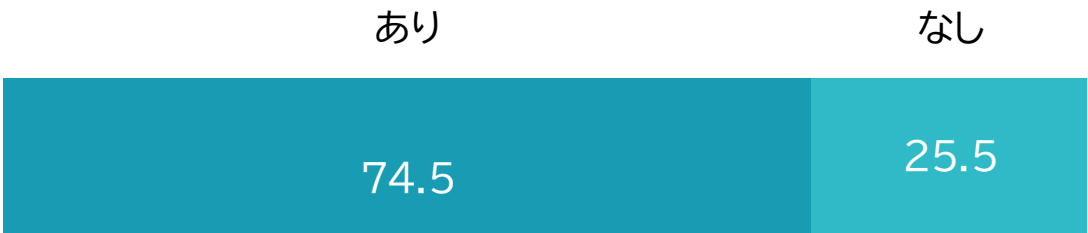
【未既婚】(N=800)

(単位:%)



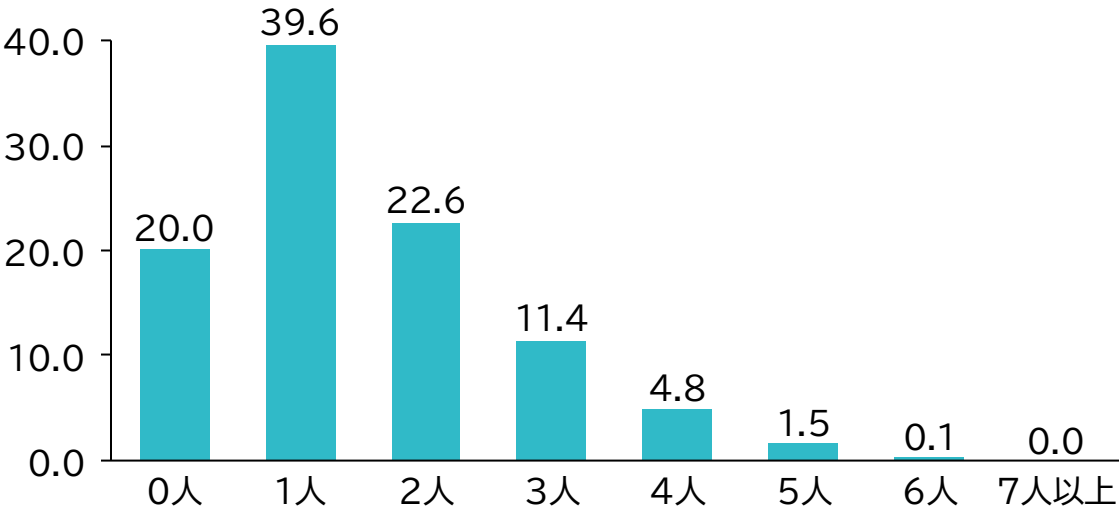
【子供の有無】(N=800)

(単位:%)



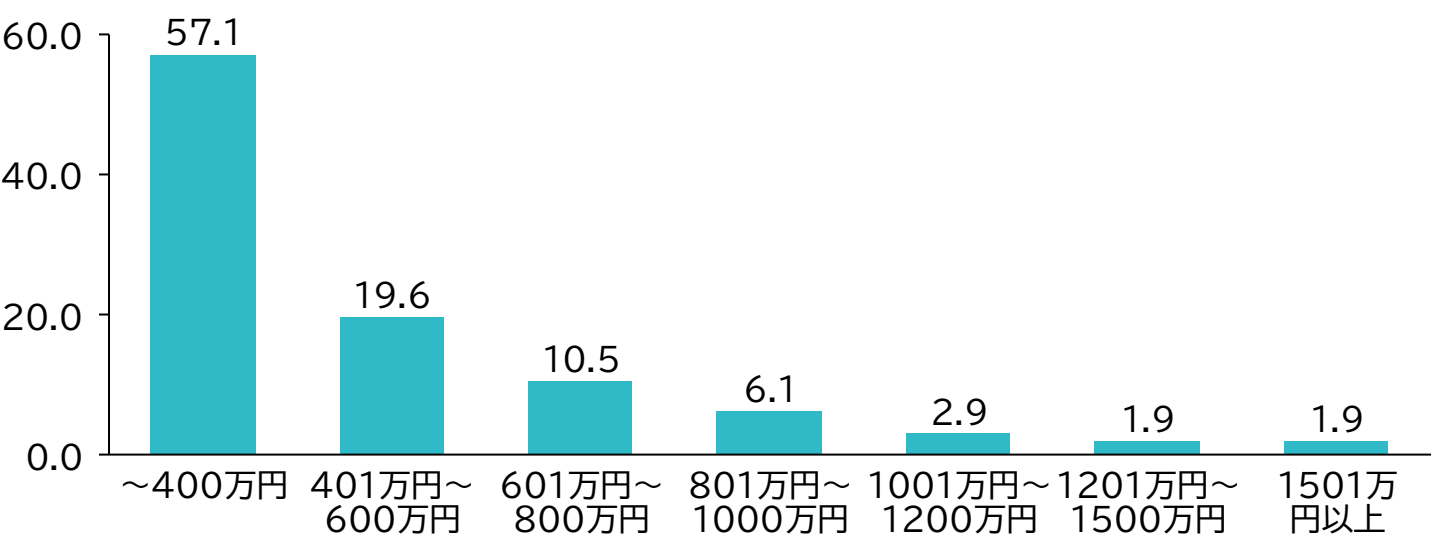
【同居家族】(N=800)

(単位:%)



【世帯年収】(N=800)

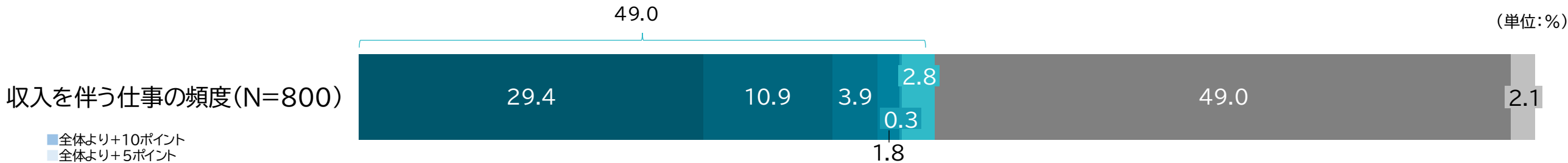
(単位:%)



仕事の参加の頻度

- 収入を伴う仕事の頻度は49.0%が年間1回以上の就業をしている。
- 70代および80代では70%以上が収入を伴う仕事をしていない状況である。

Q1.直近1年間に、収入を伴う仕事をどの程度しましたか。(SA)



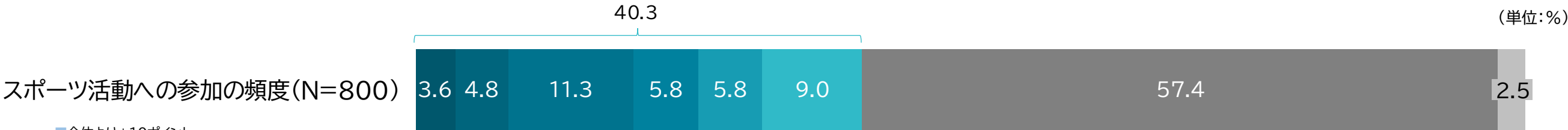
1.8

		N	週に5日以上	週に3～4日くらい	週に1～2日くらい	月に2～3日くらい	月に1日くらい	年に数回くらい	していない	わからない・覚えていない
全体		800	29.4	10.9	3.9	1.8	0.3	2.8	49.0	2.1
年代	50代	234	61.1	15.0	2.6	0.0	0.0	1.7	16.7	3.0
	60代	189	38.1	14.3	4.8	1.1	0.0	3.2	36.0	2.6
	70代	209	7.2	7.2	6.2	4.3	0.5	1.4	72.2	1.0
	80代以上	168	3.0	6.0	1.8	1.8	0.6	5.4	79.8	1.8
	北海道	110	25.5	10.9	5.5	0.9	0.0	5.5	50.9	0.9
居住地	東北	113	25.7	9.7	2.7	1.8	0.0	4.4	54.9	0.9
	関東	114	21.9	11.4	7.0	5.3	0.0	2.6	46.5	5.3
	中部	114	36.0	10.5	2.6	1.8	0.0	2.6	43.9	2.6
	近畿	116	31.0	16.4	5.2	0.9	0.0	0.0	44.0	2.6
	中国四国	116	36.2	10.3	0.9	0.0	0.9	3.4	47.4	0.9
	九州・沖縄	117	29.1	6.8	3.4	1.7	0.9	0.9	55.6	1.7
	収入あり	391	60.1	22.3	7.9	3.6	0.5	5.6	0.0	0.0
収入	収入なし	392	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	スポーツ・文化活動あり	321	29.0	11.5	4.7	1.9	0.3	3.4	47.0	2.2
活動①	スポーツ・文化活動なし	459	29.6	9.6	3.3	1.7	0.2	2.4	51.4	1.7
	地域・ボランティア活動あり	242	28.1	12.4	4.5	2.5	0.0	4.1	47.5	0.8
活動②	地域・ボランティア活動なし	546	29.9	9.9	3.5	1.5	0.4	2.2	50.4	2.4
	健康(計)	403	29.5	11.9	4.7	1.7	0.0	3.2	47.1	1.7
健康意識	健康に不安(計)	226	24.8	8.4	4.4	2.2	0.4	2.7	54.0	3.1

スポーツ・文化活動への参加の頻度

- ・スポーツ・文化活動への参加の頻度は40.3%となる。
- ・スポーツ・文化活動をしていない人は、地域・ボランティア活動もしておらず、健康に不安を抱く方が全体と比較し多い。

Q2.直近1年間に、スポーツや文化活動にどの程度参加しましたか。(SA)

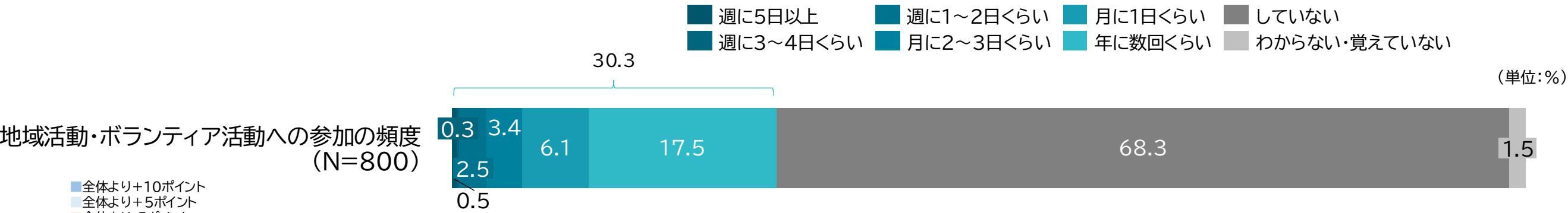


		N	参加の頻度								わからない・覚えていない
			週に5日以上	週に3～4日くらい	週に1～2日くらい	月に2～3日くらい	月に1日くらい	年に数回くらい	していない		
全体		800	3.6	4.8	11.3	5.8	5.8	9.0	57.4	2.5	
年代	50代	234	3.4	2.1	7.7	3.8	6.0	9.8	62.0	5.1	
	60代	189	2.6	5.3	9.5	5.8	6.9	10.6	58.2	1.1	
	70代	209	3.3	7.2	15.8	6.7	5.3	4.8	56.0	1.0	
	80代以上	168	5.4	4.8	12.5	7.1	4.8	11.3	51.8	2.4	
	北海道	110	5.5	5.5	10.0	4.5	10.0	10.9	52.7	0.9	
居住地	東北	113	3.5	4.4	10.6	7.1	4.4	11.5	54.9	3.5	
	関東	114	3.5	3.5	15.8	7.0	3.5	7.9	55.3	3.5	
	中部	114	3.5	3.5	9.6	5.3	9.6	7.0	58.8	2.6	
	近畿	116	4.3	5.2	12.1	6.0	5.2	12.9	52.6	1.7	
	中国四国	116	3.4	6.0	7.8	6.0	5.2	6.9	63.8	0.9	
	九州・沖縄	117	1.7	5.1	12.8	4.3	2.6	6.0	63.2	4.3	
	収入あり	391	4.1	3.8	12.8	4.9	6.4	9.7	55.0	3.3	
収入	収入なし	392	3.1	5.6	9.4	6.9	5.4	8.2	60.2	1.3	
	スポーツ・文化活動あり	321	9.0	11.8	28.0	14.3	14.3	22.4	0.0	0.0	
活動①	スポーツ・文化活動なし	459	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	地域・ボランティア活動あり	242	6.2	9.1	16.1	9.5	11.2	17.8	29.3	0.8	
活動②	地域・ボランティア活動なし	546	2.4	2.9	9.2	4.2	3.3	5.3	70.9	1.8	
	健康(計)	403	5.2	6.7	13.9	5.2	6.2	10.7	49.6	2.5	
健康意識	健康に不安(計)	226	1.8	2.2	5.8	6.6	4.9	7.5	69.9	1.3	

地域活動・ボランティアへの参加の頻度

- ・ 地域活動・ボランティアへの参加の頻度は30.3%となる。
- ・ 年代が上がるほど、地域活動・ボランティアに参加していない比率が減少する。

Q3.直近1年間に、地域活動・ボランティア活動にどの程度参加しましたか。(SA)



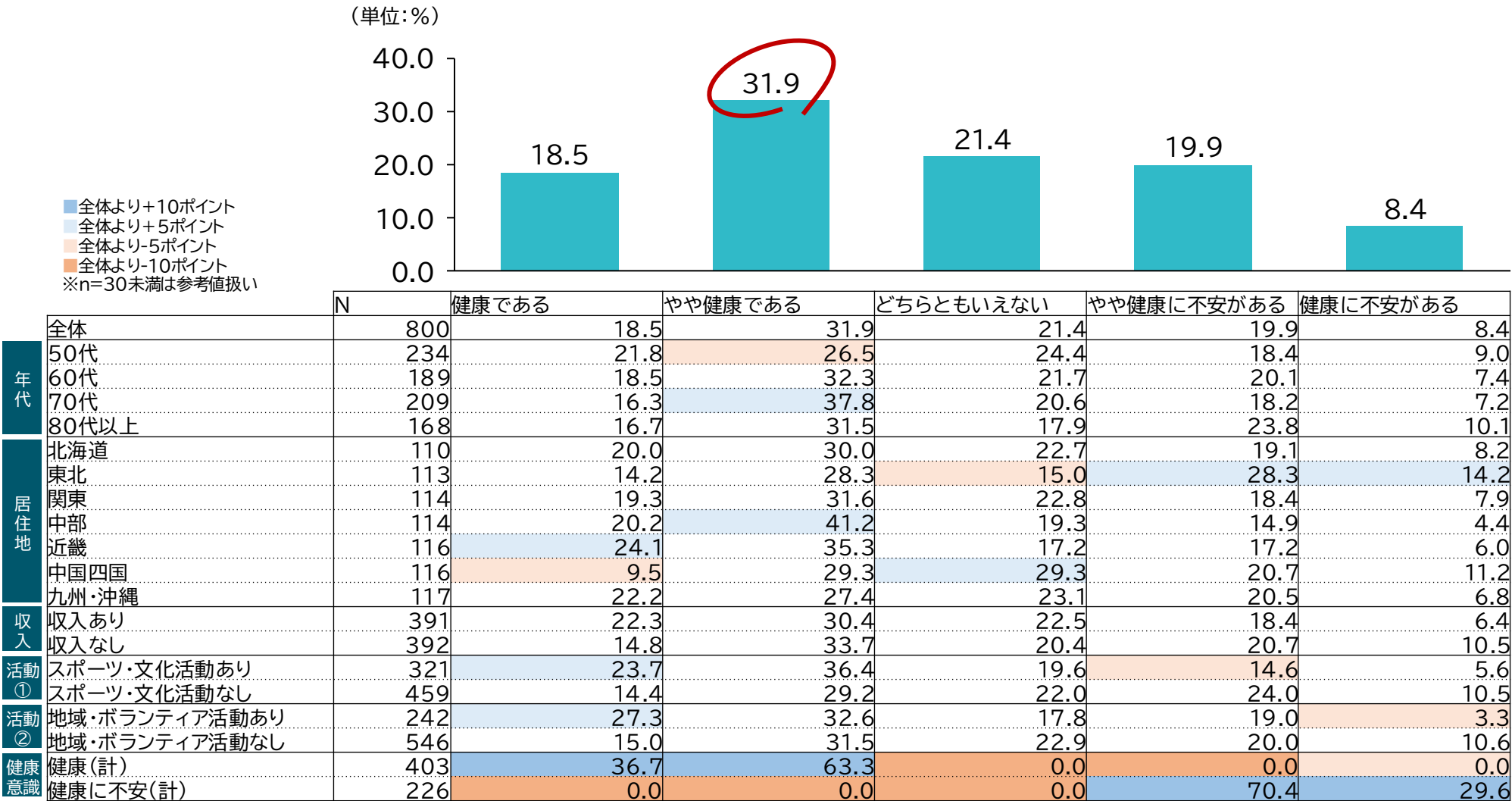
	N	週に5日以上	週に3~4日くらい	週に1~2日くらい	月に2~3日くらい	月に1日くらい	年に数回くらい	していない	わからない・覚えていない
全体	800	0.5	0.3	2.5	3.4	6.1	17.5	68.3	1.5
年代									
50代	234	0.0	0.0	1.7	0.9	3.0	17.9	73.9	2.6
60代	189	0.5	0.0	1.1	1.6	6.3	16.9	72.0	1.6
70代	209	0.5	0.5	4.8	6.7	7.7	13.9	65.6	0.5
80代以上	168	1.2	0.6	2.4	4.8	8.3	22.0	59.5	1.2
居住地									
北海道	110	0.0	0.0	0.9	2.7	4.5	18.2	71.8	1.8
東北	113	0.0	0.0	0.0	1.8	9.7	18.6	66.4	3.5
関東	114	0.0	0.0	5.3	2.6	6.1	7.9	76.3	1.8
中部	114	0.9	0.0	1.8	2.6	5.3	24.6	64.9	0.0
近畿	116	2.6	0.0	3.4	4.3	6.0	19.8	62.9	0.9
中国四国	116	0.0	0.0	2.6	6.9	6.9	19.8	62.1	1.7
九州・沖縄	117	0.0	1.7	3.4	2.6	4.3	13.7	73.5	0.9
収入									
収入あり	391	0.0	0.3	2.6	3.1	6.4	19.7	66.0	2.0
収入なし	392	1.0	0.3	2.6	3.8	5.9	15.8	70.2	0.5
活動①									
スポーツ・文化活動あり	321	0.9	0.3	5.0	6.9	10.3	29.3	46.4	0.9
スポーツ・文化活動なし	459	0.2	0.2	0.9	1.1	3.5	9.6	84.3	0.2
活動②									
地域・ボランティア活動あり	242	1.7	0.8	8.3	11.2	20.2	57.9	0.0	0.0
地域・ボランティア活動なし	546	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
健康意識									
健康(計)	403	1.0	0.2	3.0	4.2	7.2	20.3	63.0	1.0
健康に不安(計)	226	0.0	0.4	2.2	2.2	5.8	13.3	73.9	2.2

健康の認識

- 自身の健康は「やや健康である」が31.9%で最多。
- 東北居住の方は、全体と比較し健康に不安を抱えている比率が高い。

Q4.現在、ご自身の健康についてどのように感じていますか。(SA)

【健康の認識】 (N=800)

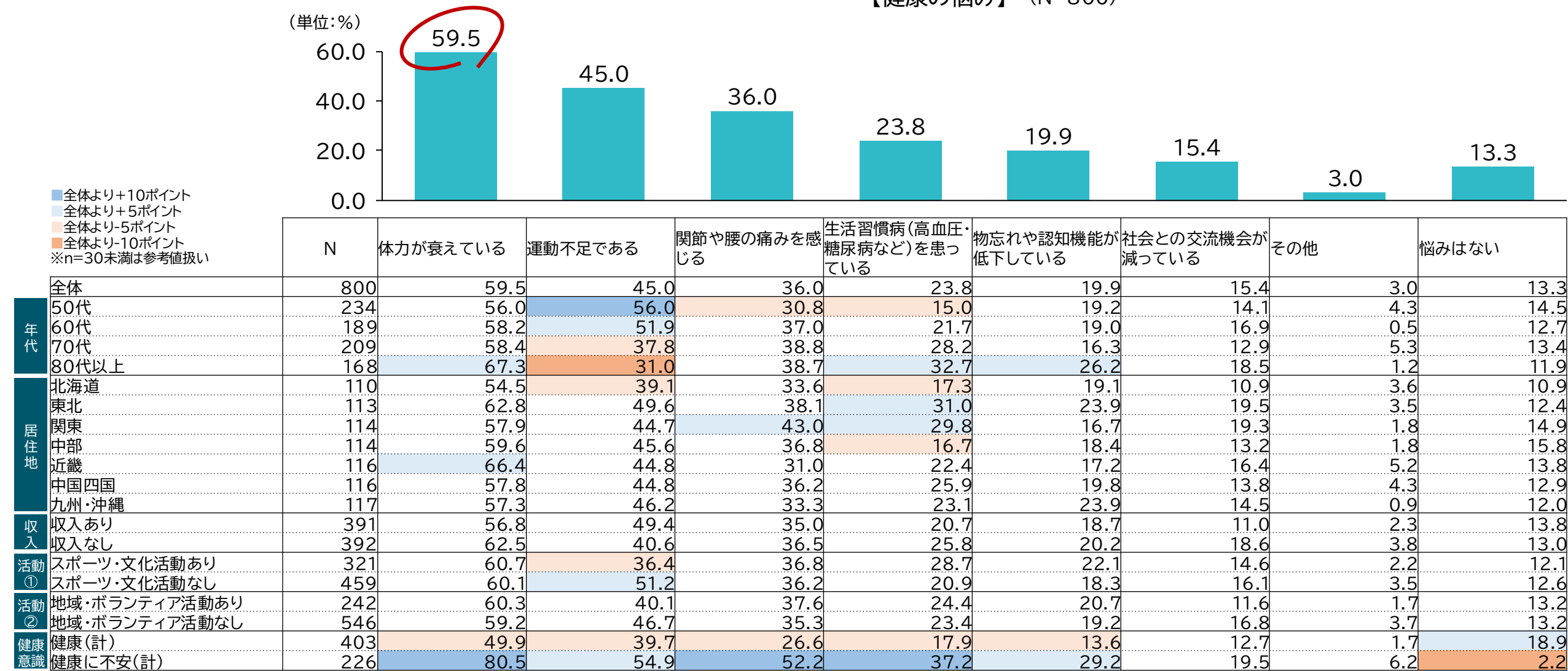


健康の悩み

- 健康の悩みでは「体力が衰えている」が59.5%で最多。
- 「運動不足」については、年代が若いほど悩みと感じている。

Q5.健康に関する主な悩みを教えてください。(いくつでも)。(MA)

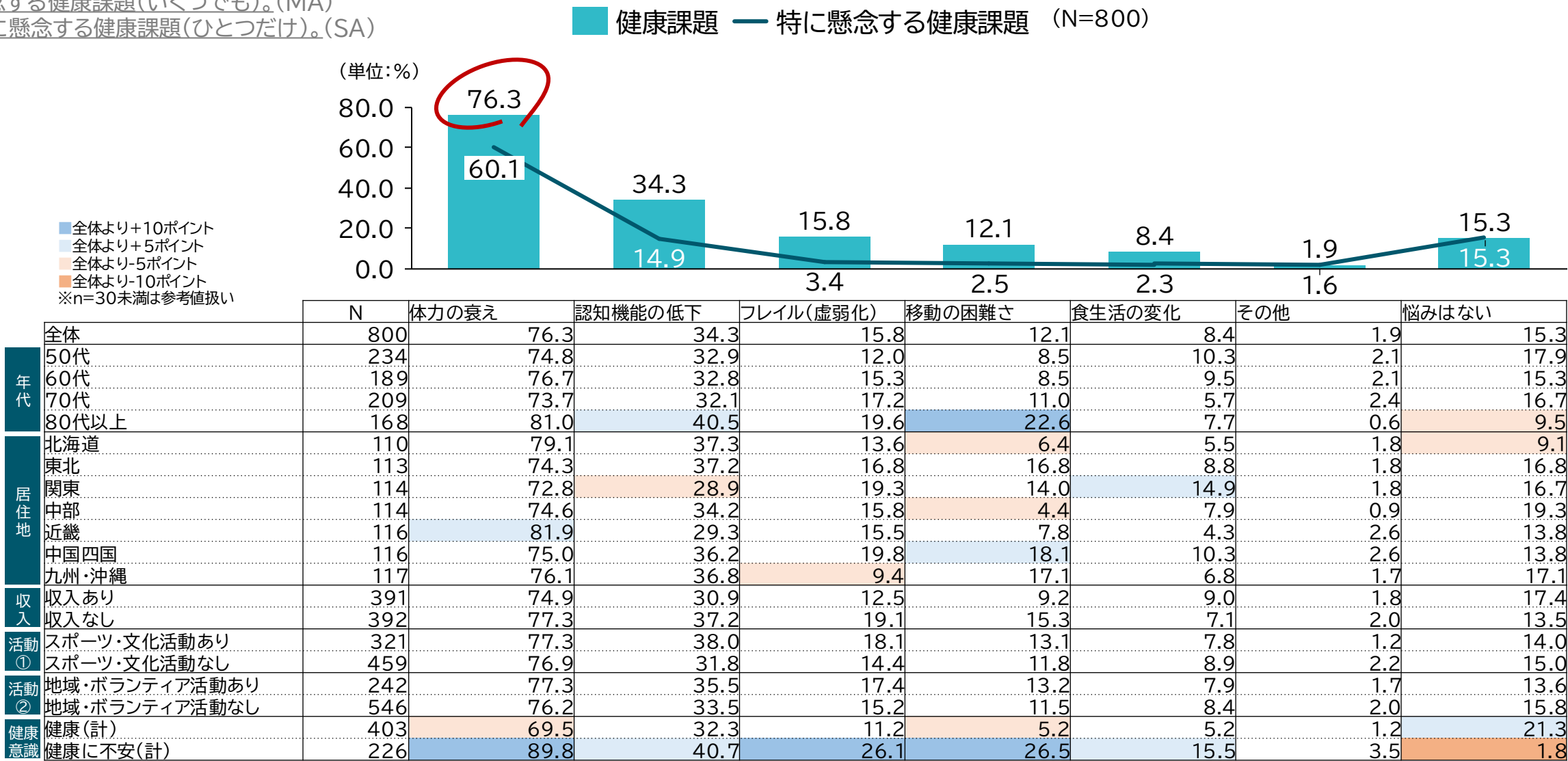
【健康の悩み】 (N=800)



健康の課題

- 健康課題として最もあげられるのは「体力の衰え」が76.3%で最多。最も懸念する健康課題も複数回答と同様であり、半数以上が「体力の衰え」を挙げる。
- 80代以上では認知機能の低下や移動の困難さに課題を感じている人が、全体と比較しても多い。

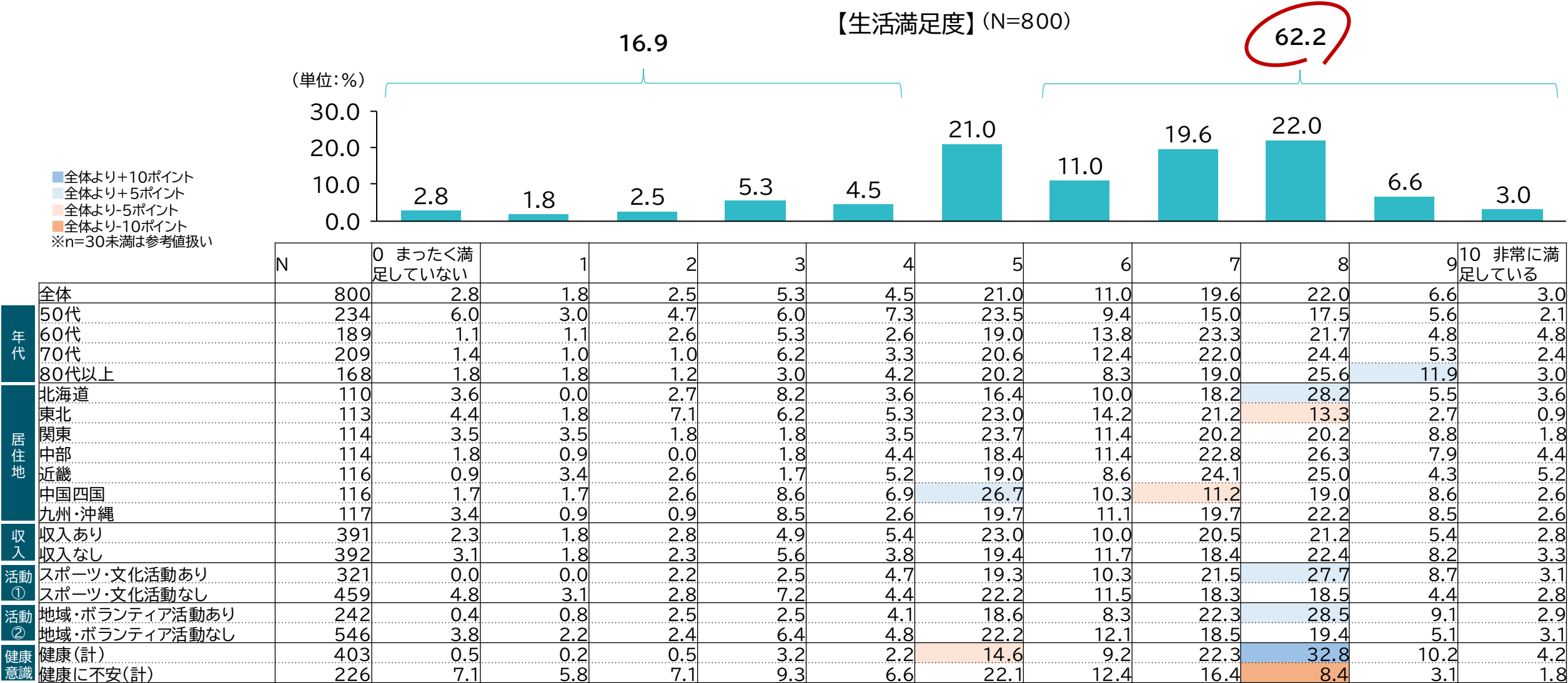
Q6-1.懸念する健康課題(いくつでも)。(MA)
Q6-2.特に懸念する健康課題(ひとつだけ)。(SA)



生活満足度

- 生活満足度は、総じて満足している人が62.2%となる。
- 健康と感じている人は、「8」の評価をしている人が多く、全体と比較しても満足感が高い。

Q7.全体として、あなたの現在の生活にどのくらい満足していますか？。(SA)

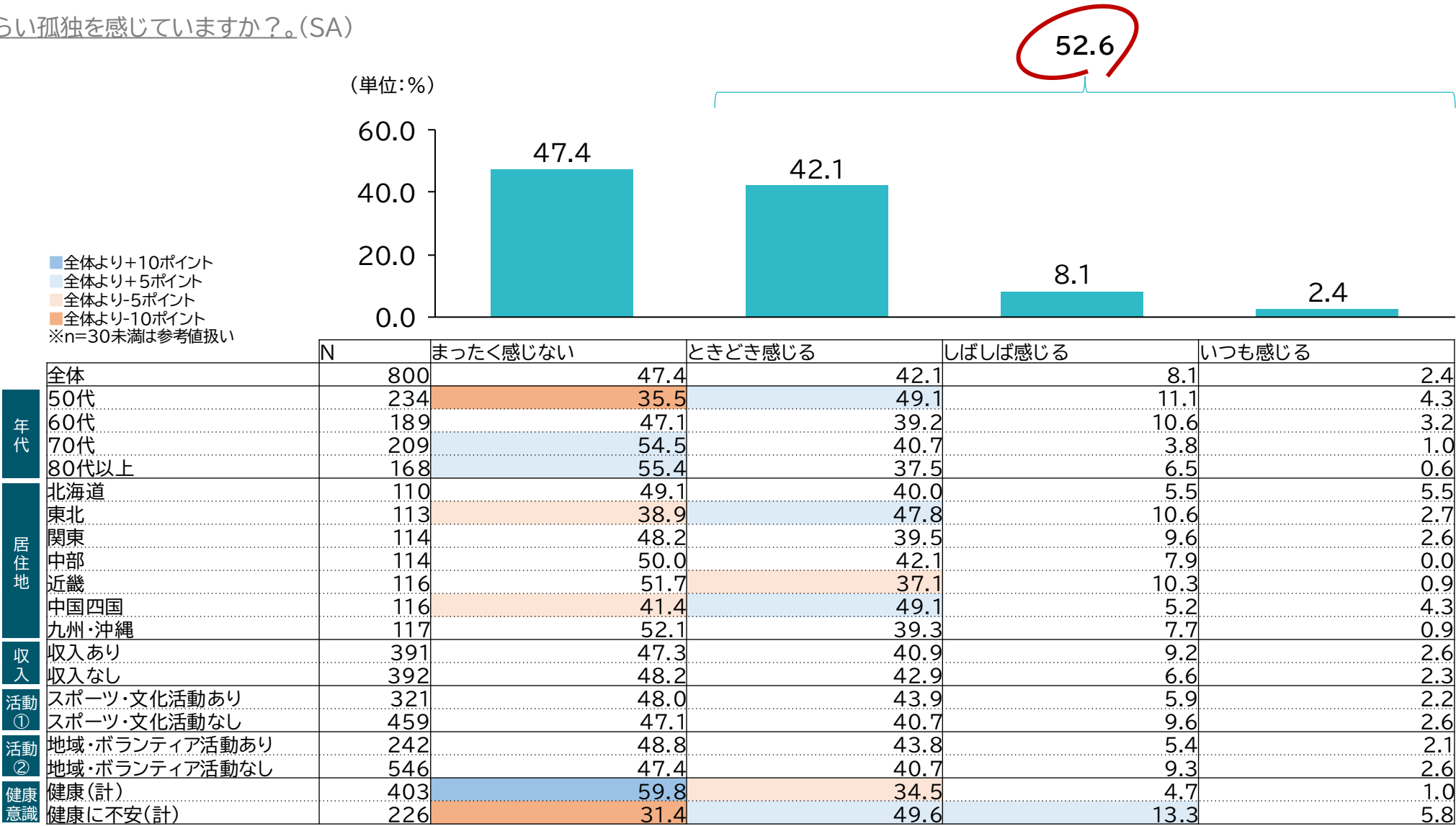


孤独感

- 孤独の意識については、52.6%が孤独感を抱いている。
- 健康と感じている方は、孤独感を感じていないとする比率が59.8%となり、全体と比較しても高い。

【孤独の意識】(N=800)

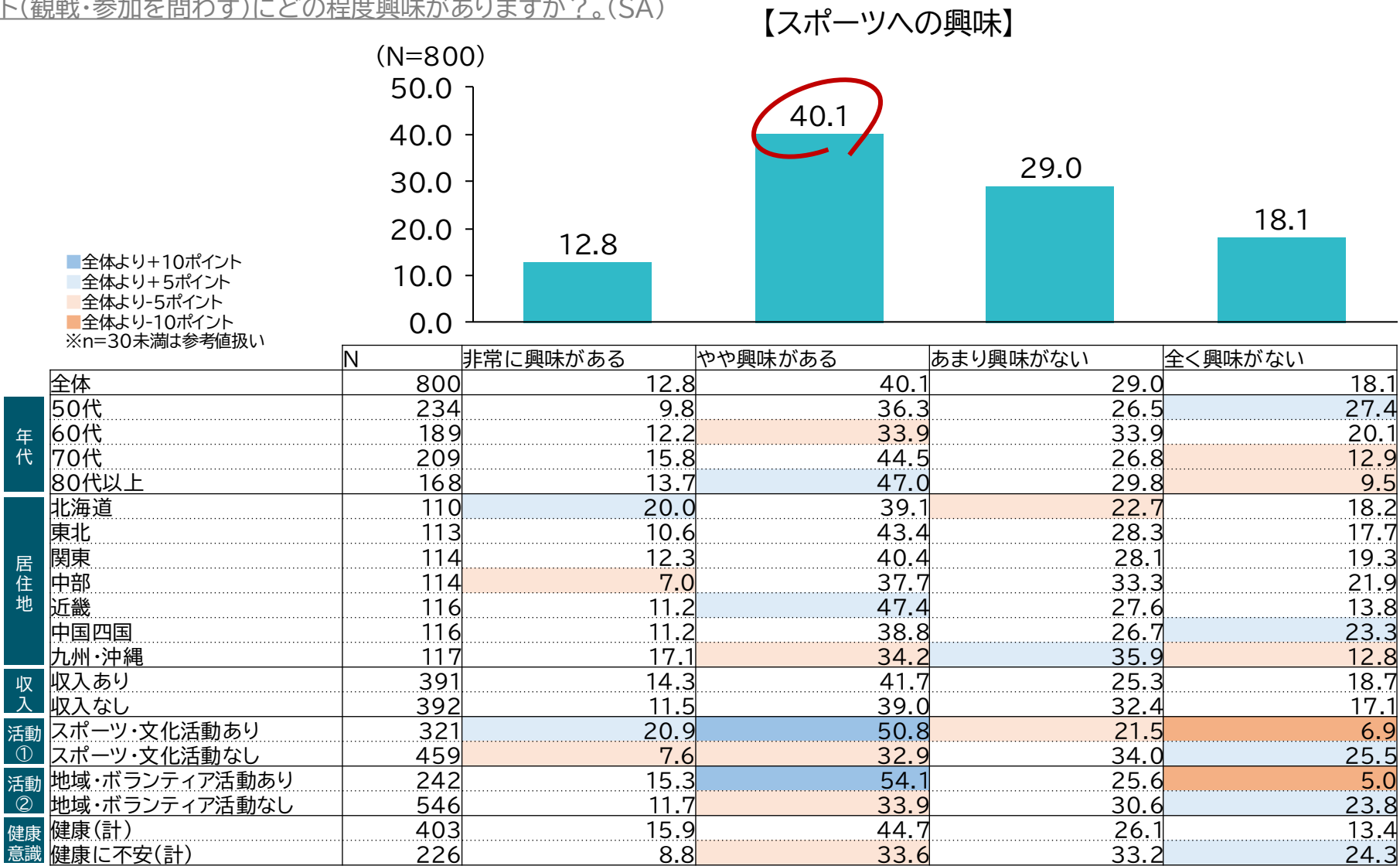
Q8.あなたはどれくらい孤独を感じていますか？。(SA)



スポーツへの興味

- ・スポーツへの興味は「やや興味がある」が40.1%で最多。
- ・年代が若い世代ほど、「全く興味がない」とする比率が高い傾向となる。

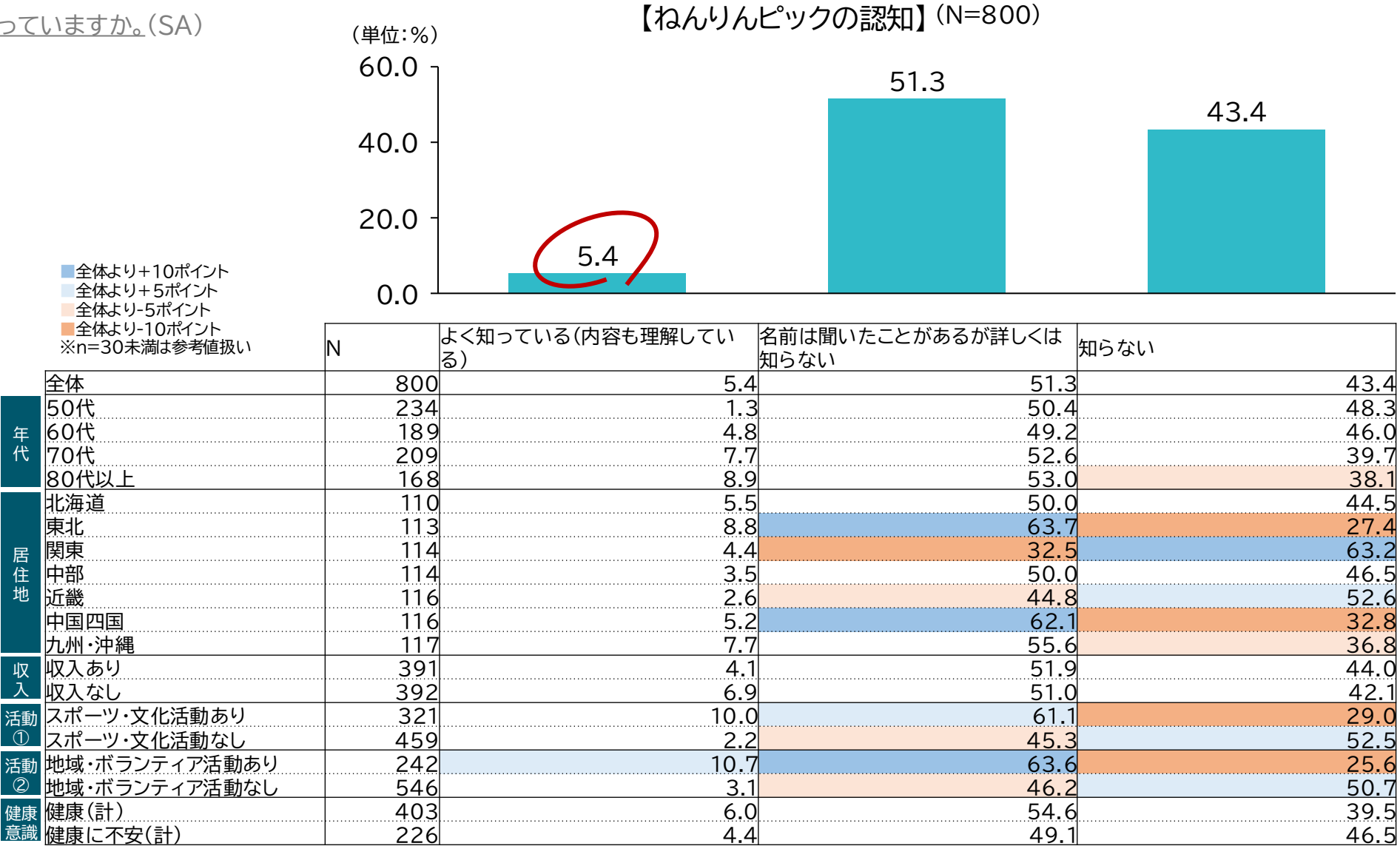
Q9.あなたはスポーツイベント(観戦・参加を問わず)にどの程度興味がありますか？。(SA)



ねんりんピック認知

- ねんりんピックの認知は熟知している人が5.4%で10%を下回る。
- 世代別にみると、50代でねんりんピックを「知らない」比率は48.3%、80代以上でも38.1%となり、シニアにおいても認知が浸透していない。

Q10.ねんりんピックを知っていますか。(SA)

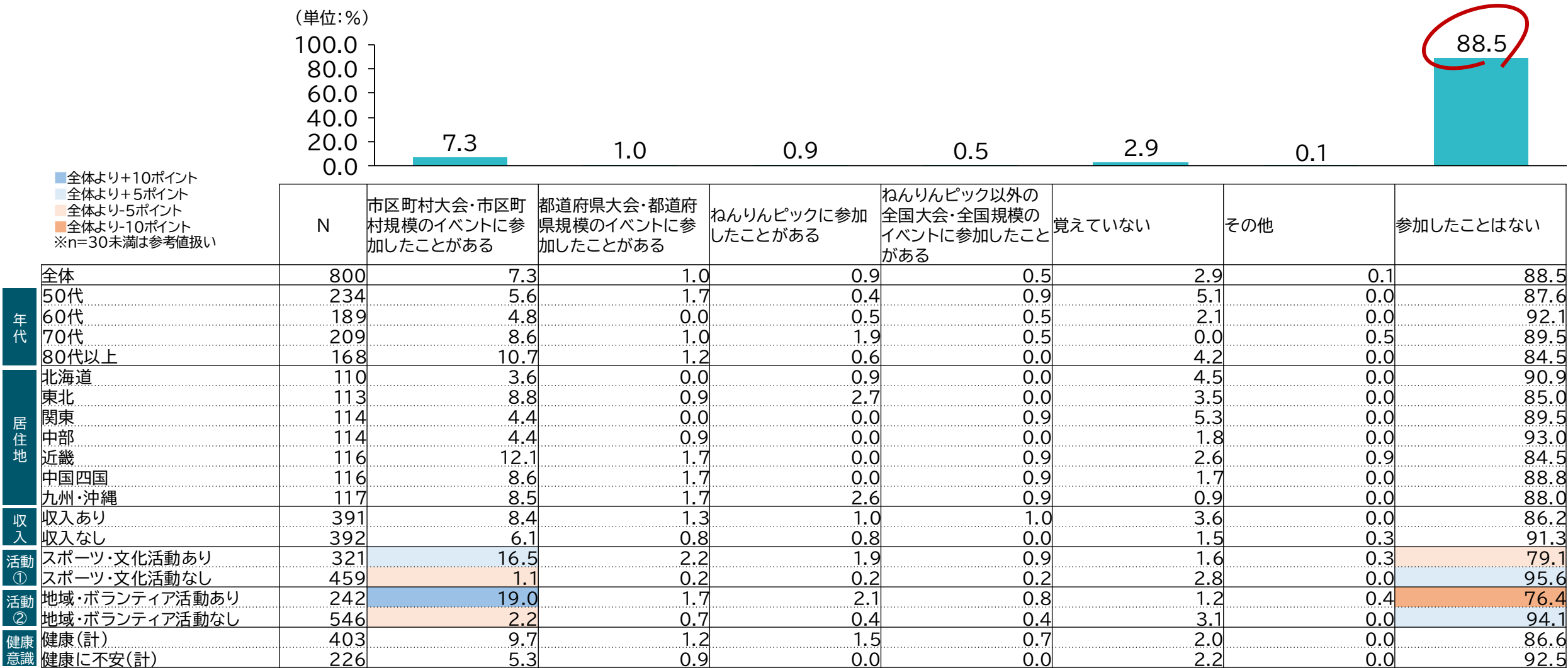


スポーツ大会参加経験

- 直近5年におけるスポーツへの参加経験としては88.5%が「参加したことはない」となる。
- 地域・ボランティア活動がある人は市区町村レベルのイベントに参加したことがある比率が全体よりも10ポイント以上高く、イベントの補助やボランティアとして参加しているものと想定される。

Q11.直近5年の中で、スポーツ大会や健康づくりイベントに参加したことはありますか。(選手としてだけでなく、応援・付き添い・体験での参加や観覧も含む)(いくつでも)。(MA)

【スポーツ大会参加経験】(N=800)

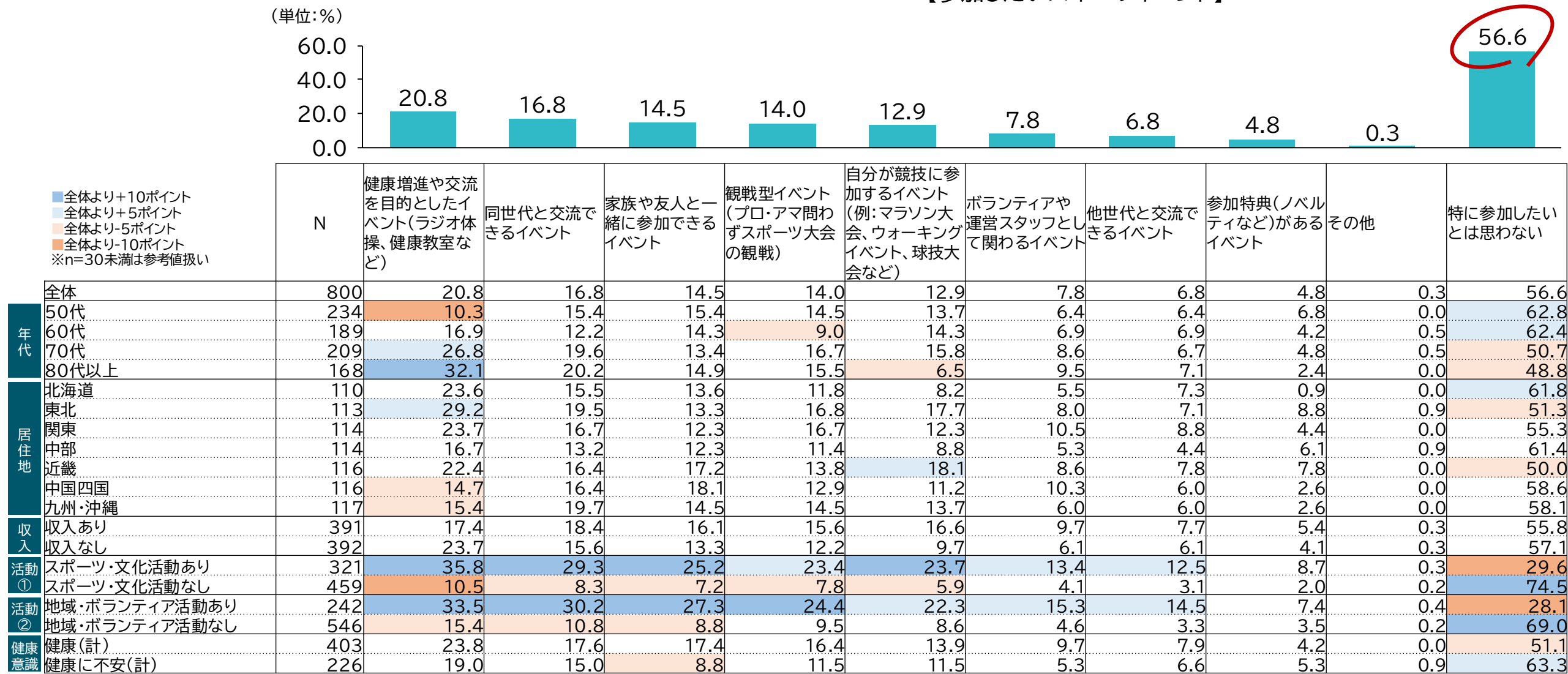


参加したいスポーツイベント

- 参加したいスポーツとしては健康増進や交流を目的としたものが高いものの、一番は「参加したいとは思わない」が56.6%となる。
- 健康増進や交流を目的としたイベントは、年代が高くなるほど参加したい比率が高くなる。

Q13.あなたが今後参加してみたいスポーツイベントの種類を教えてください。(いくつでも)。(MA)

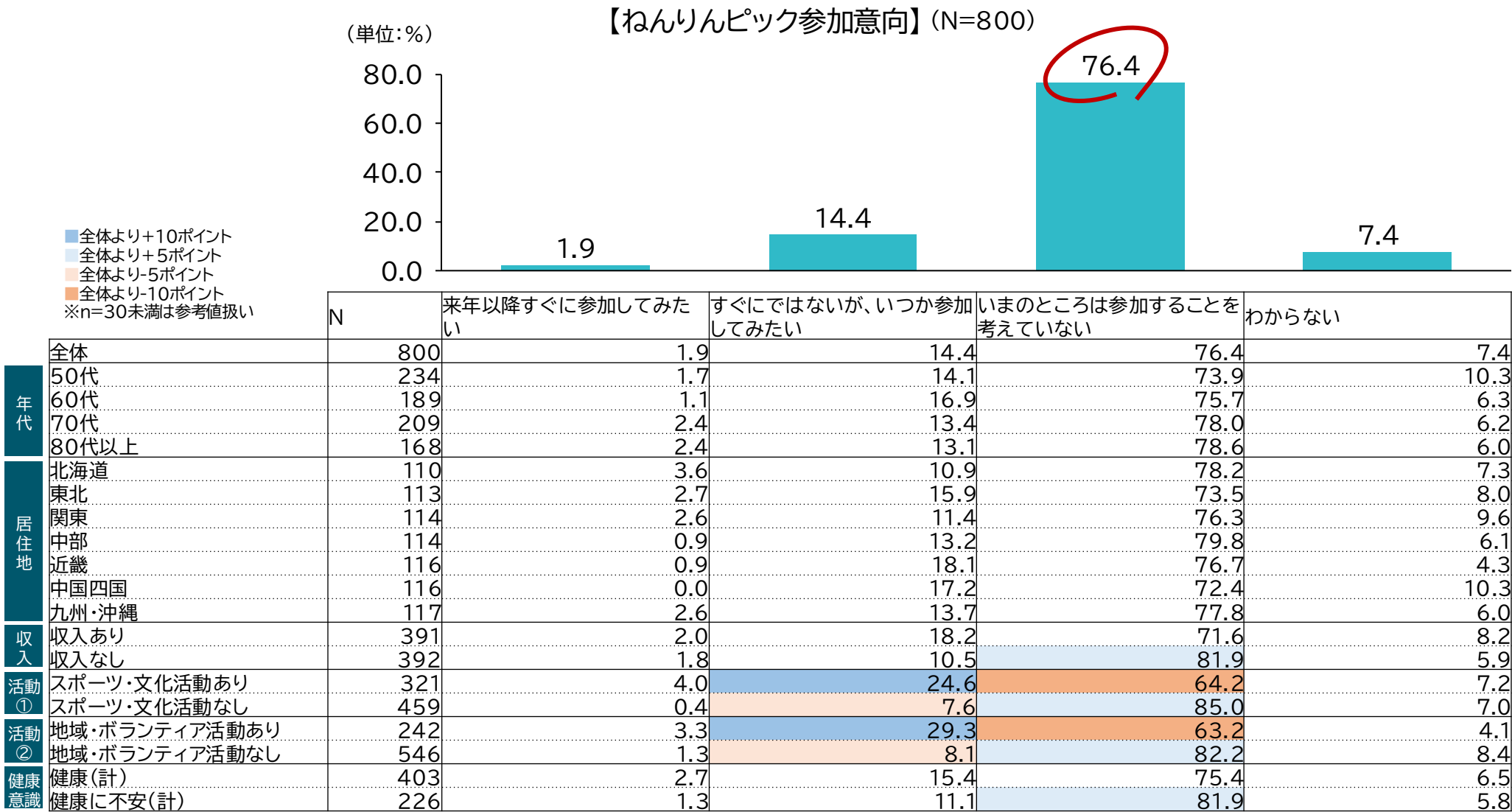
【参加したいスポーツイベント】(N=800)



ねんりんピックの参加意向

- ねんりんピックの参加意向としては、応援や付き添いを含めても「今のところは考えていない」が76.4%で最多。
- スポーツ・文化活動がある層や地域・ボランティア活動がある層は、今後のねんりんピック参加意向が20%を超える。

Q14. 来年以降、ねんりんピックに参加してみたいと思いますか。(選手としてだけでなく、応援・付き添いでの参加やねんりんピックで開催されているイベント・講座等への参加や観覧も含む)。(SA)

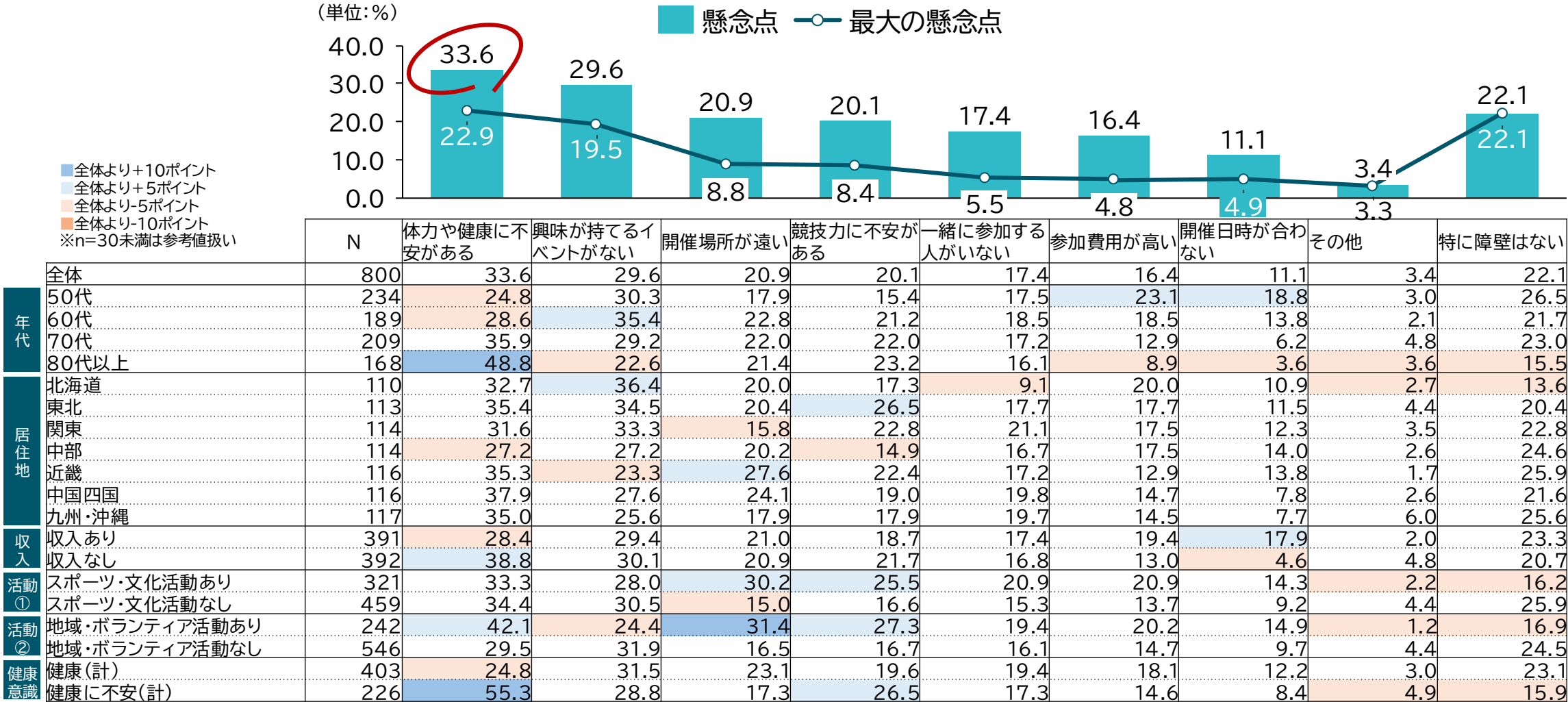


スポーツイベント参加の懸念点

- ・スポーツイベント参加の懸念点としては、「体力や健康に不安がある」が複数回答でも単一回答でも最多。
- ・体力や健康の不安は80代以上で全体から10ポイント以上高い。また開催場所が遠いについては地域・ボランティア活動がある層で全体から10ポイント以上高い。

Q16-1.スポーツイベントに参加する上での主な障壁は何ですか？※その中でも最も障壁に感じることを1つ選んでください。1.参加する上での障壁に感じるもの(いくつでも)。(MA)
Q16-2.スポーツイベントに参加する上での主な障壁は何ですか？※その中でも最も障壁に感じることを1つ選んでください。2.その中で最も障壁に感じるもの(ひとつだけ)。(SA)

【スポーツイベント参加の懸念点】(N=800)

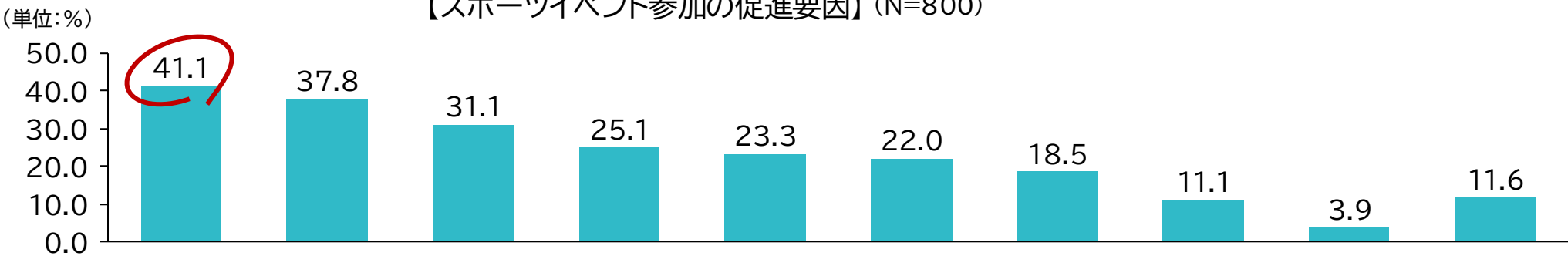


スポーツイベント参加の促進要因

- ・スポーツイベント参加の促進要因としては、参加費が安い・無料であることが41.1%で最多。
- ・スポーツ・文化活動を行っている層では、いずれの項目も全体数値を上回る。

Q17.どんなサポートがあれば、スポーツイベントにより参加したいと思いますか？また、より参加しやすくなると思いますか？(いくつでも)。(MA)

【スポーツイベント参加の促進要因】(N=800)



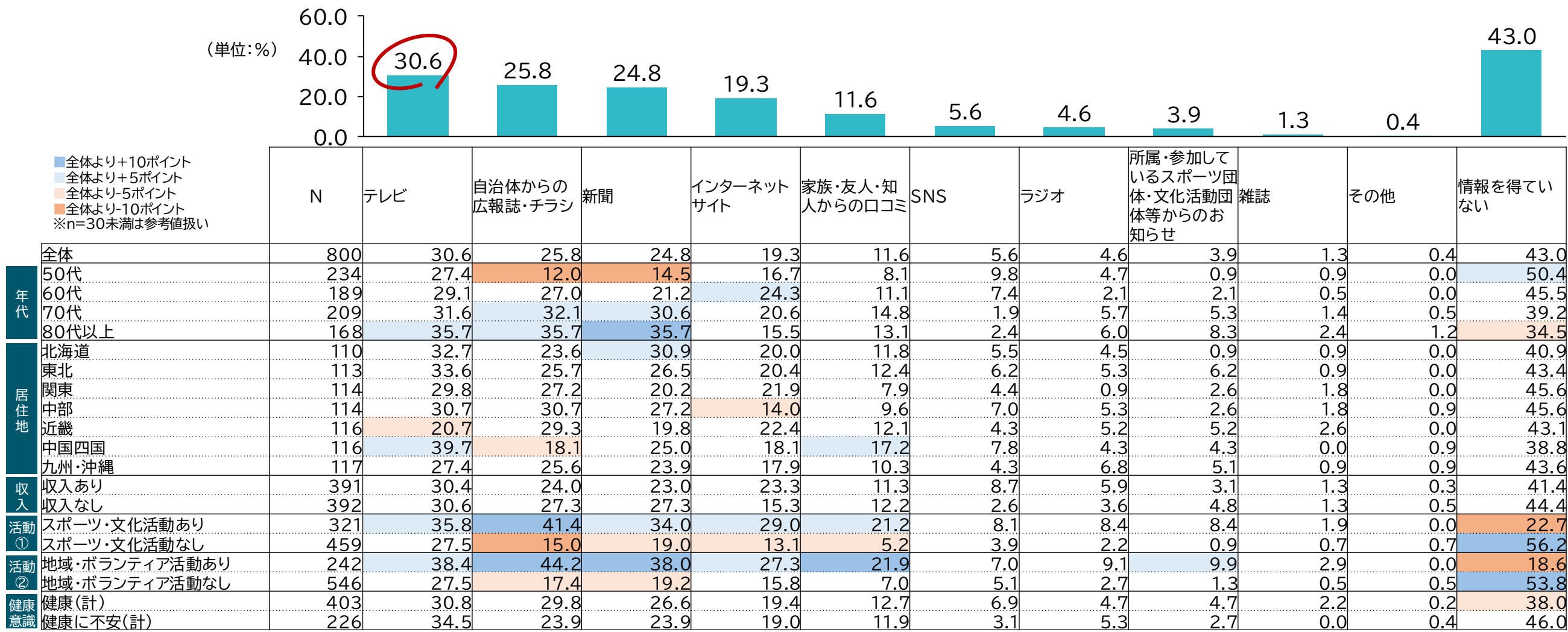
		N	参加料が無料・安い	移動距離が少ない	初心者向けの体験イベントがある	健康チェックや医療サポートが充実している	友人や家族と一緒に参加できる	競技以外にも、観光や食事を楽しめるプログラムがある	交通費や宿泊費の補助がある	大会後も継続できる運動・交流プログラムがある	オンラインでの開催(式典・講演会など)	その他
全体		800	41.1	37.8	31.1	25.1	23.3	22.0	18.5	11.1	3.9	11.6
年代	50代	234	46.6	33.8	31.6	20.5	24.4	20.5	24.4	9.0	2.6	9.0
	60代	189	43.4	36.5	30.2	23.3	21.2	22.8	23.3	9.5	4.2	11.6
	70代	209	38.3	38.8	31.1	27.8	21.5	26.3	14.4	13.9	4.8	12.4
	80代以上	168	34.5	43.5	31.5	30.4	26.2	17.9	10.1	12.5	4.2	14.3
	北海道	110	39.1	33.6	30.9	23.6	18.2	21.8	17.3	11.8	3.6	10.0
居住地	東北	113	45.1	42.5	31.9	25.7	22.1	30.1	17.7	11.5	3.5	13.3
	関東	114	34.2	38.6	25.4	22.8	22.8	20.2	14.9	15.8	7.0	15.8
	中部	114	48.2	34.2	27.2	28.1	24.6	17.5	21.9	7.0	2.6	14.0
	近畿	116	38.8	36.2	36.2	26.7	19.0	20.7	22.4	10.3	4.3	6.9
	中国四国	116	45.7	37.9	31.0	20.7	25.9	21.6	17.2	11.2	4.3	11.2
収入	九州・沖縄	117	36.8	41.0	35.0	28.2	29.9	22.2	17.9	10.3	1.7	10.3
	収入あり	391	43.7	37.1	31.2	21.2	23.8	23.3	21.5	11.5	3.3	9.7
	収入なし	392	38.0	38.8	30.4	29.1	23.0	20.7	15.6	10.7	4.3	13.5
活動①	スポーツ・文化活動あり	321	46.4	46.1	38.3	31.8	28.0	31.5	19.9	17.4	4.0	3.1
	スポーツ・文化活動なし	459	37.9	32.7	26.8	21.1	20.3	15.9	17.6	6.5	3.7	17.2
活動②	地域・ボランティア活動あり	242	46.3	45.0	38.8	28.1	31.0	28.5	19.0	19.4	4.1	5.4
	地域・ボランティア活動なし	546	38.8	34.8	27.7	23.8	19.8	19.2	17.9	7.5	3.7	14.3
健康意識	健康(計)	403	41.4	39.2	33.0	23.8	26.3	23.8	20.3	12.2	1.2	8.4
	健康に不安(計)	226	41.6	35.4	33.2	31.0	17.7	25.2	14.6	10.6	8.0	15.9

スポーツイベントの情報源

- ・スポーツイベントの情報源は「テレビ」が30.6%で高いものの、「情報を得ていない」方が43.0%となる。
- ・50代では自治体の広報誌・チラシや新聞など紙媒体の利用が、全体から10ポイント以上低い。

Q19-1.直近5年の中で、スポーツイベントや高齢者向けのイベントの情報をどこから得ていますか。(いくつでも)。(MA)

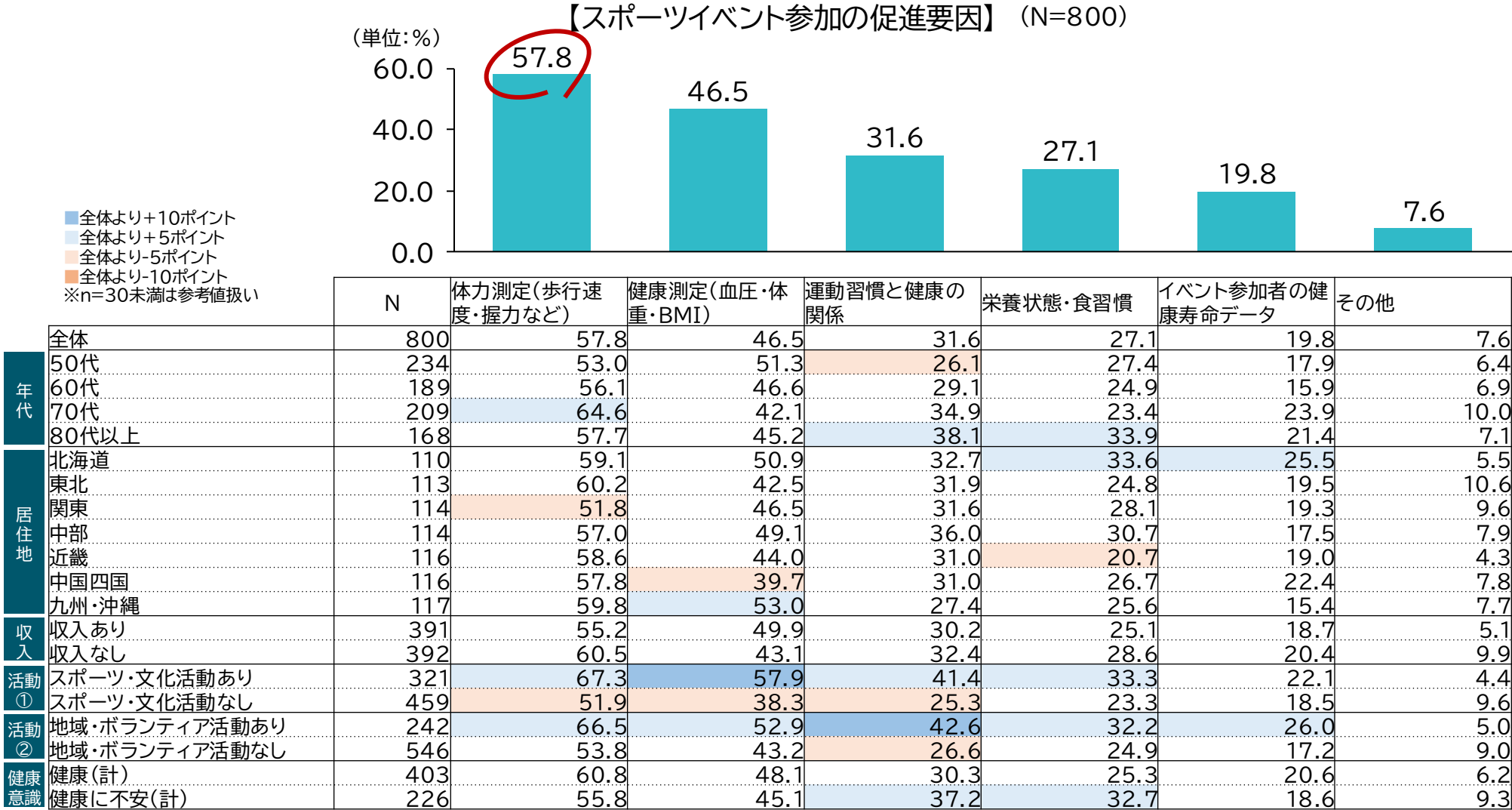
【スポーツイベントの情報源】(N=800)



欲しい健康データ

- ・スポーツイベントに参加してほしいデータとしては「体力測定」の結果について57.8%が知りたいとされる。
- ・スポーツ・文化活動を行っている層では「健康測定」、地域・ボランティア活動を行っている層では「運動習慣と健康の関係」に関して、全体から10ポイント以上上回る。

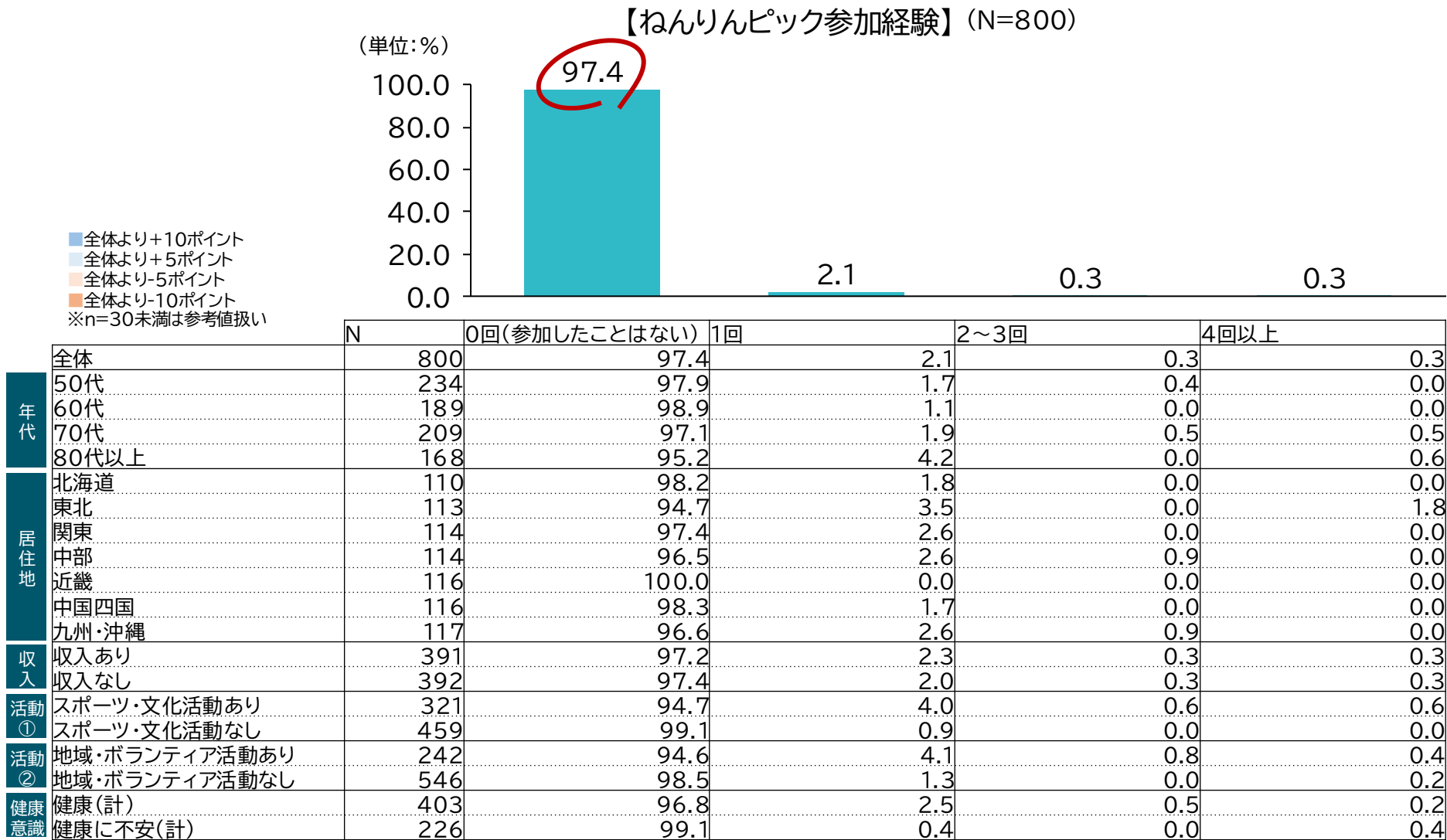
Q20.スポーツイベントで、健康に関するデータが得られる場合、どのような健康データを知りたいですか。(いくつでも)。(MA)



ねんりんピックの参加経験

- ねんりんピック参加経験は97.4%が参加経験がない。
- セグメントごとに見ても、全体傾向と大きく離れている結果は見られない。

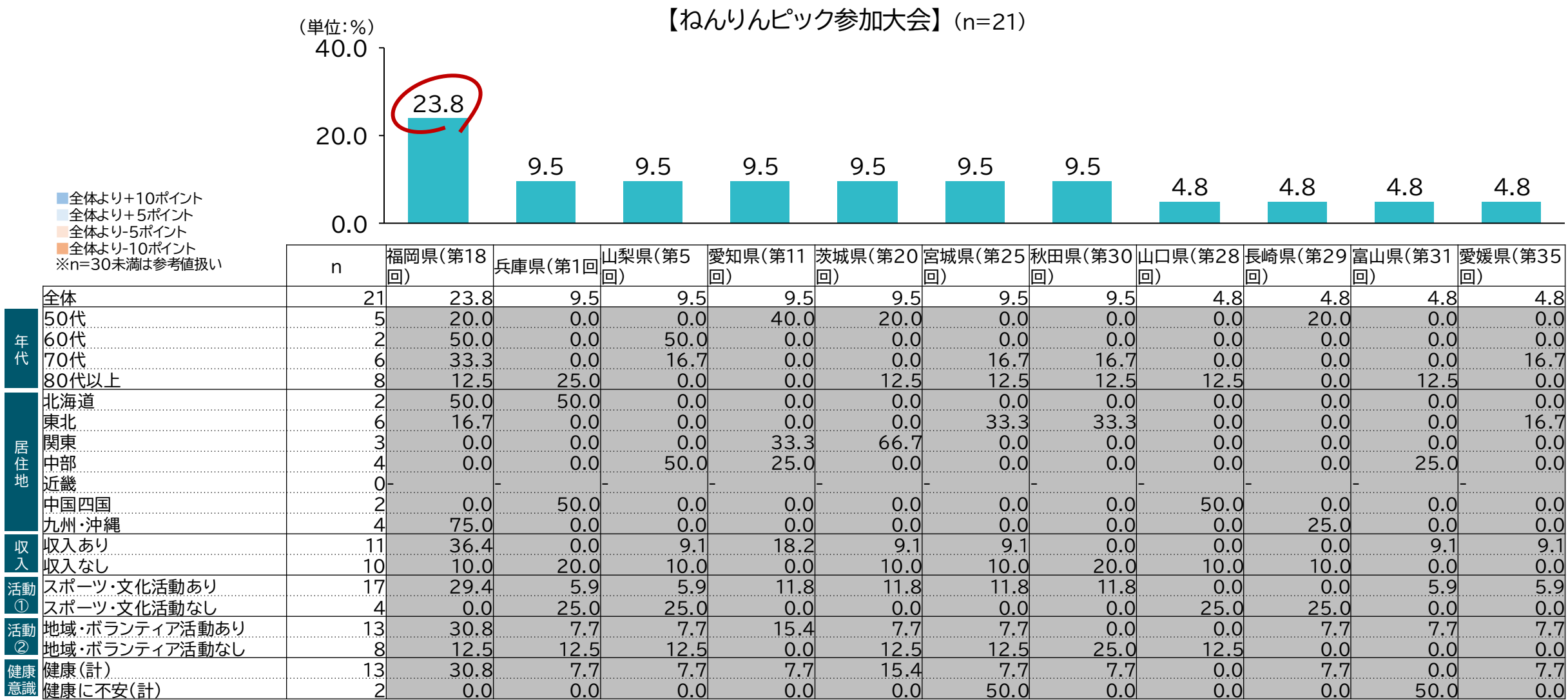
Q21.ねんりんピックの参加回数を教えてください。(SA)



参加大会

- ねんりんピックに参加された方において、本調査では福岡県の参加比率が最多である。

Q22.直近で参加されたねんりんピックの開催地を教えてください。(SA)

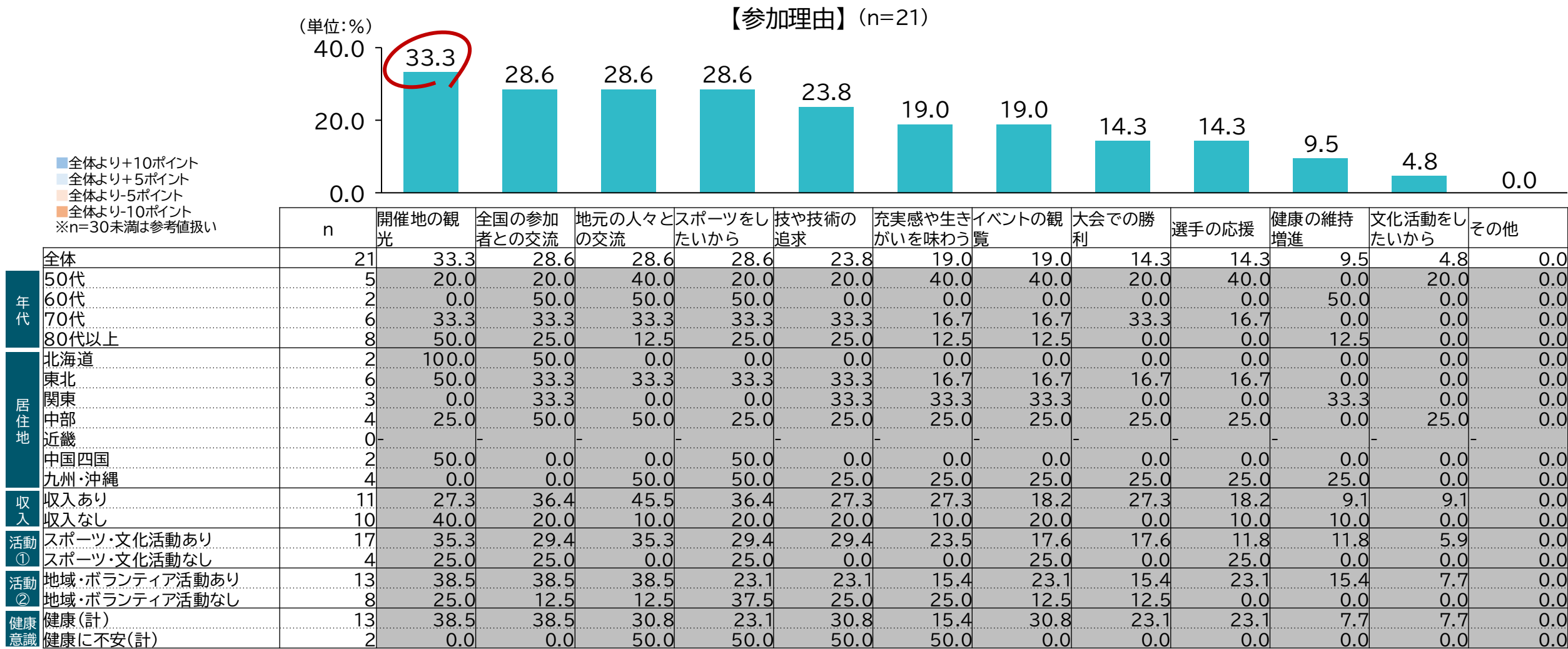


※参加者がいなかった大会は省略

ねんりんピック参加理由

- ねんりんピックの参加理由としては「開催地の観光」が33.3%で最多。

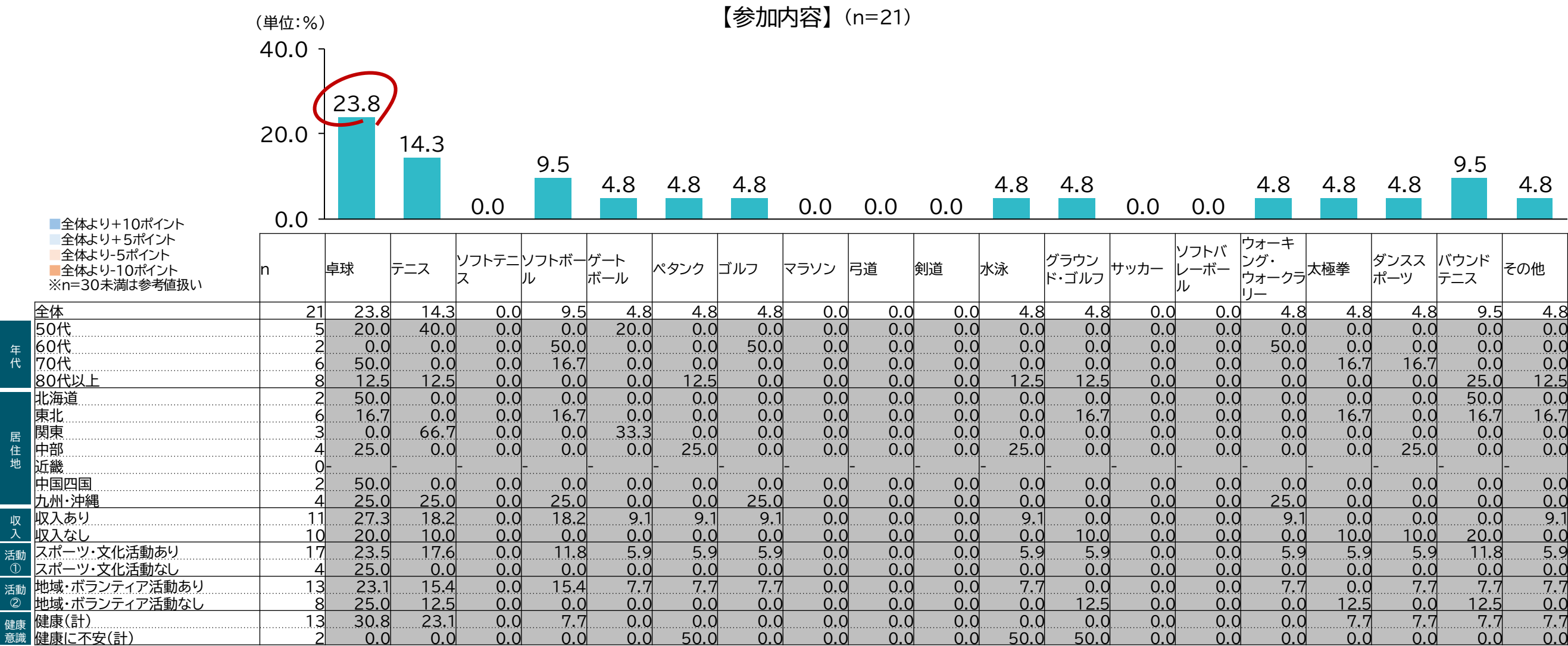
Q23.大会に参加された目的や理由は何ですか？(いくつでも)※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の目的や理由について回答してください。
イベント・講座等への参加や観覧も含みます。(MA)



ねんりんピック参加内容①スポーツ系

- ねんりんピックの参加内容としては、スポーツ系で卓球が23.8%で最多。
- その他健康・体験系で健康チェックや応援がなされている。

Q24.参加された内容は何ですか。(いくつでも)※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の内容すべてにチェックしてください。(MA)

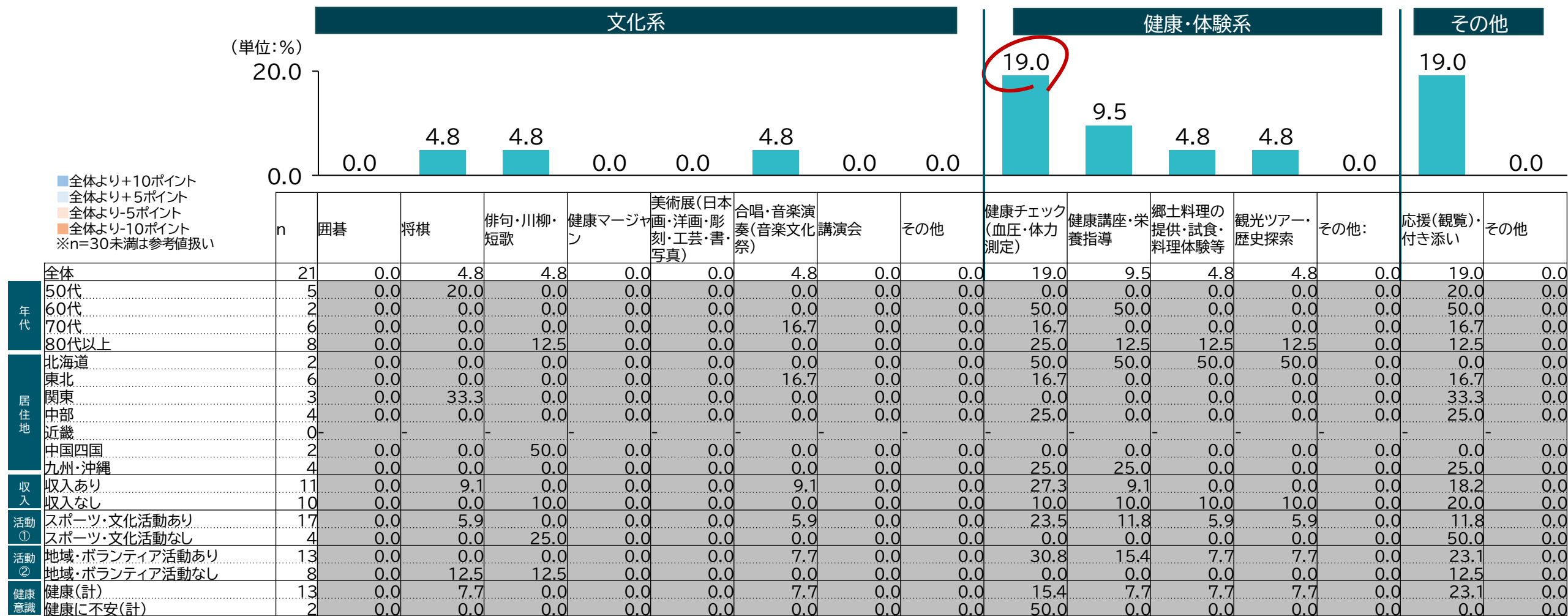


ねんりんピック参加内容②文化系、健康・体験系、その他

- ねんりんピックの参加内容としては、スポーツ系以外で「健康チェック」が19.0%で最多。

Q24.参加された内容は何ですか。(いくつでも)※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の内容すべてにチェックしてください。(MA)

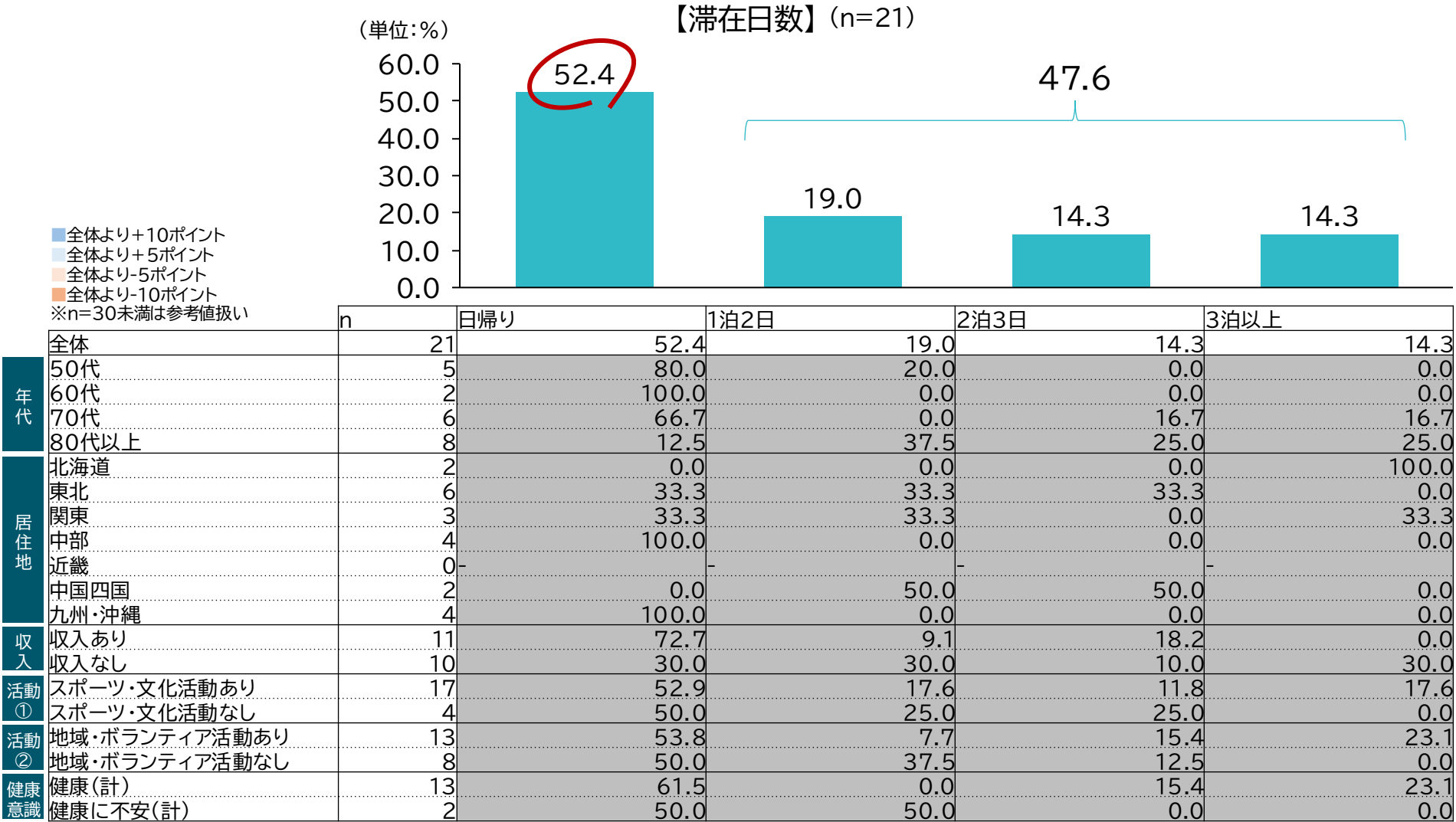
【参加内容】(n=21)



滞在期間

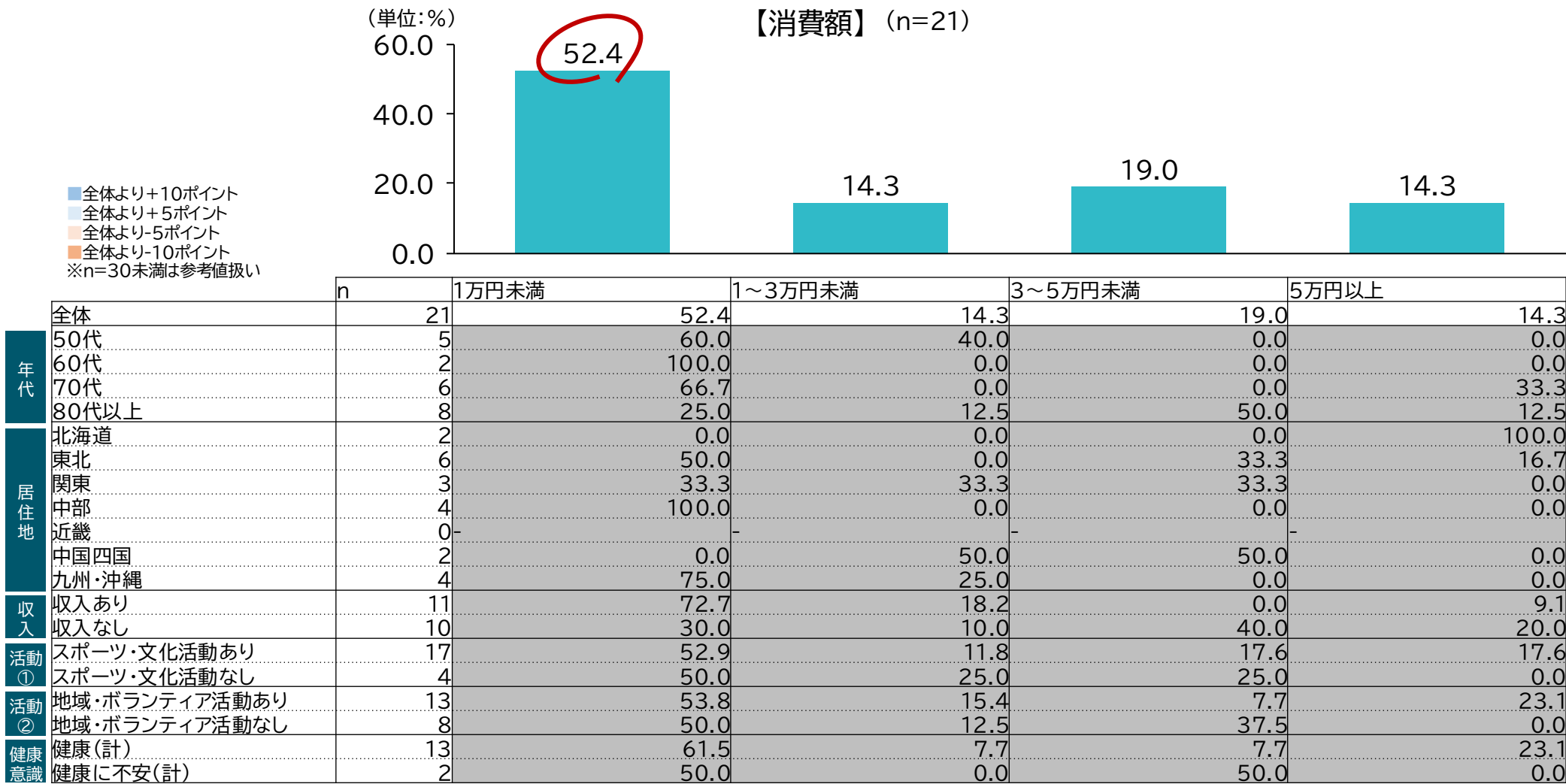
- 滞在日数は「日帰り」が52.4%で最多。

Q25.ねんりんピックに参加された際の滞在日数を教えてください。※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の滞在日数を教えてください。(SA)



- 消費額は「1万円未満」が52.4%で最多。

Q26.ねんりんピックに参加された際の滞在期間中の消費額を教えてください。※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際の消費額を教えてください
(自宅から会場までの往復は含みません)。(SA)



同伴者の有無

- 同伴者は61.9%が一人での参加となる。

Q27-1.ねんりんピックに参加された際の滞在期間中の同伴者の有無について教えてください。※複数回参加されたことがある方は、直近で参加された際のことを教えてください。(SA)



【同伴者の関係性】

- 息子夫婦
- 友人 他
- 友人
- 母
- スポーツ仲間
- チームメンバー
- 卓球の仲間
- 知人

同伴者の参加有無

- 同伴者がいる人において、同伴者のイベント参加状況については、87.5%が同じく参加している。

Q27-2.同伴者がいた方へお伺いします。同伴者もイベントに参加しましたか。(SA)

【同伴者の参加有無】 (n=8)

(単位: %)

参加した

87.5

見学・応援のみ

まったく関わらなかった

0.0

12.5

■ 全体より+10ポイント
■ 全体より+5ポイント
■ 全体より-5ポイント
■ 全体より-10ポイント
※n=30未満は参考値扱い

	n	参加した	見学・応援のみ	まったく関わらなかった
全体	8	87.5	12.5	0.0
年代				
50代	1	100.0	0.0	0.0
60代	0	-	-	-
70代	4	75.0	25.0	0.0
80代以上	3	100.0	0.0	0.0
居住地				
北海道	1	100.0	0.0	0.0
東北	3	100.0	0.0	0.0
関東	1	100.0	0.0	0.0
中部	2	50.0	50.0	0.0
近畿	0	-	-	-
中国四国	0	-	-	-
九州・沖縄	1	100.0	0.0	0.0
収入				
収入あり	4	100.0	0.0	0.0
収入なし	4	75.0	25.0	0.0
活動①				
スポーツ・文化活動あり	8	87.5	12.5	0.0
スポーツ・文化活動なし	0	-	-	-
活動②				
地域・ボランティア活動あり	6	83.3	16.7	0.0
地域・ボランティア活動なし	2	100.0	0.0	0.0
健康意識				
健康(計)	8	87.5	12.5	0.0
健康に不安(計)	0	-	-	-

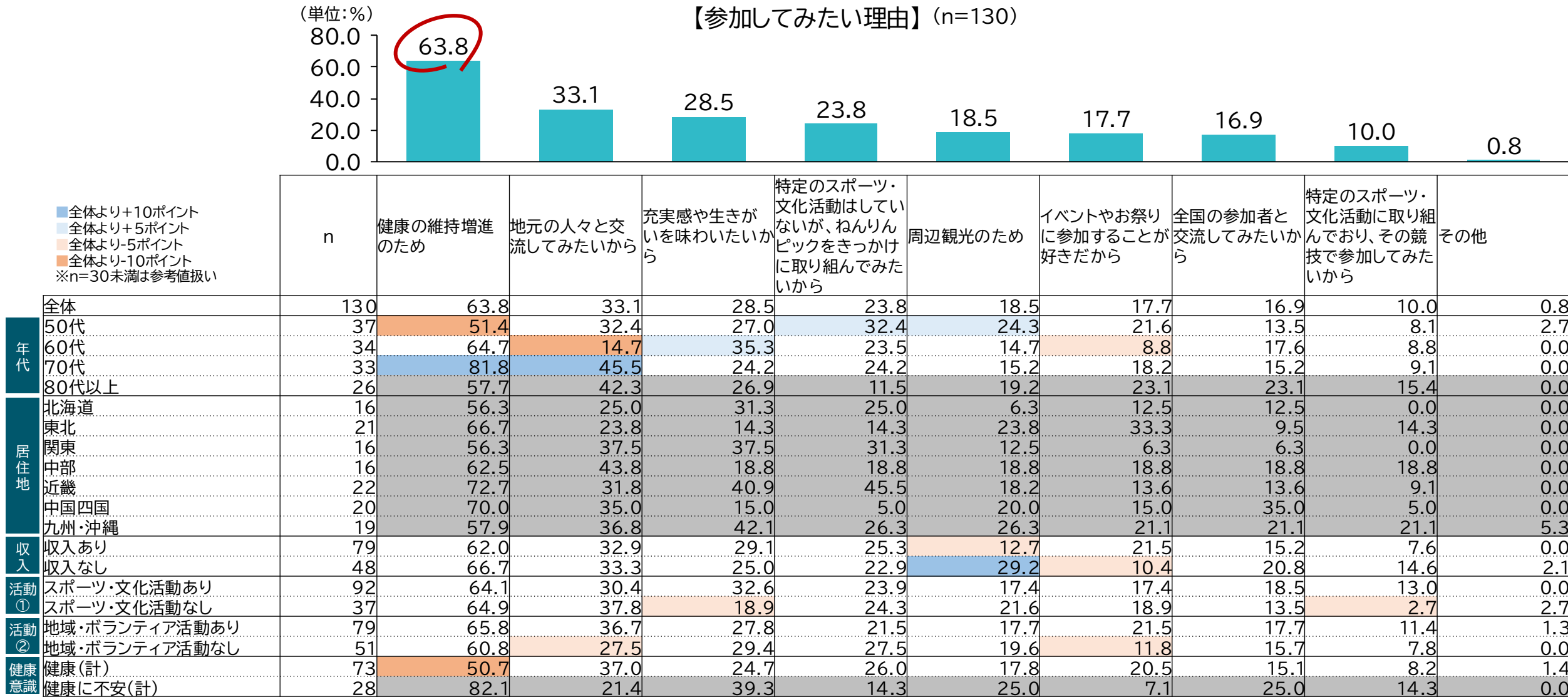
【同伴者の参加する競技】

- マラソン大会
- テニスの団体戦
- 卓球
- クイズラリー
- ソフトボール
- 卓球の試合

参加してみたい理由

- 参加したい理由としては「健康維持」が63.8%で最多。
- 現在収入がない層については、「周辺観光」が全体よりも10ポイント以上高く、ねんりんピック参加理由で最も高かった「観光」という点でも一致している。

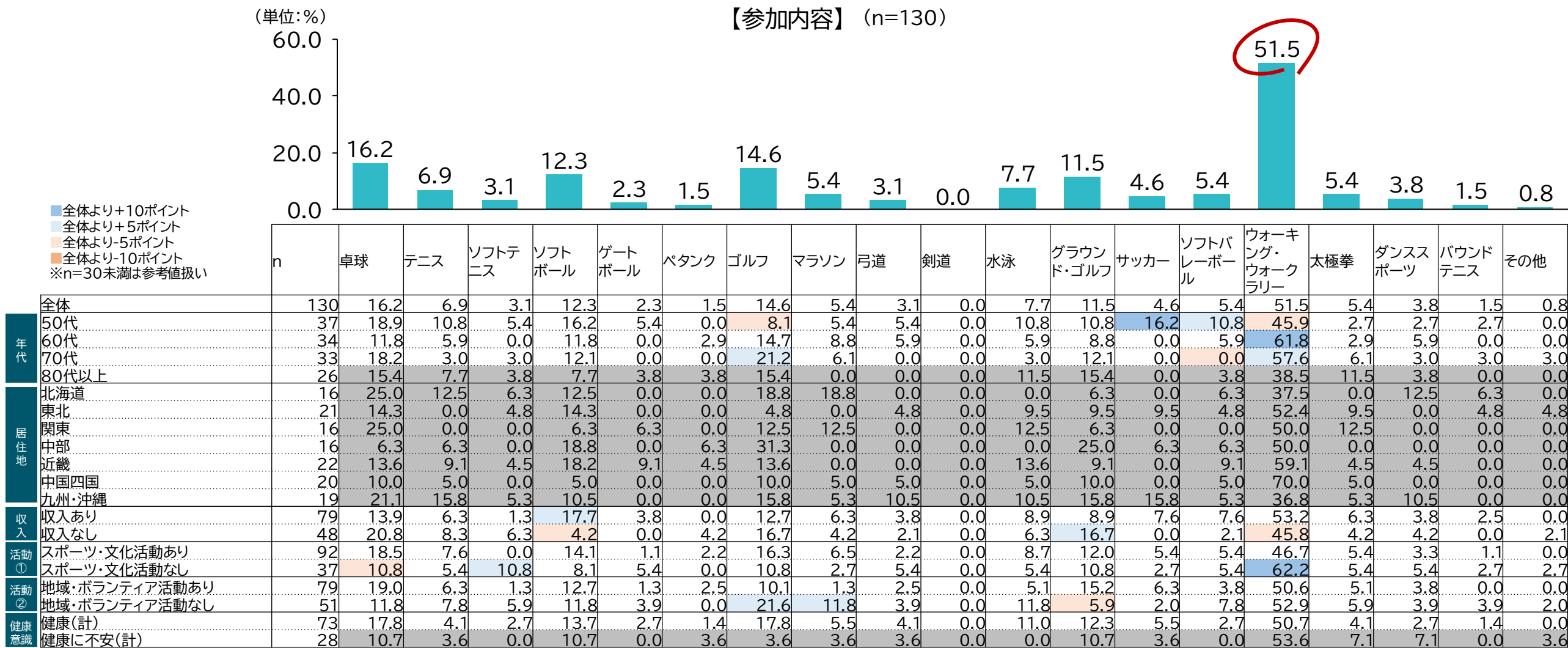
Q28.先程、ねんりんピックへ参加してみたいと回答した方へお伺いします。そのように回答した理由について教えてください。(いくつでも)。(MA)



参加してみたいねんりんピック内容①スポーツ系

- 参加してみたいねんりんピックの内容としては、「ウォーキング・ウォークラリー」が52.5%で最多。
- スポーツ系のその他意見として「低登山」があげられる。

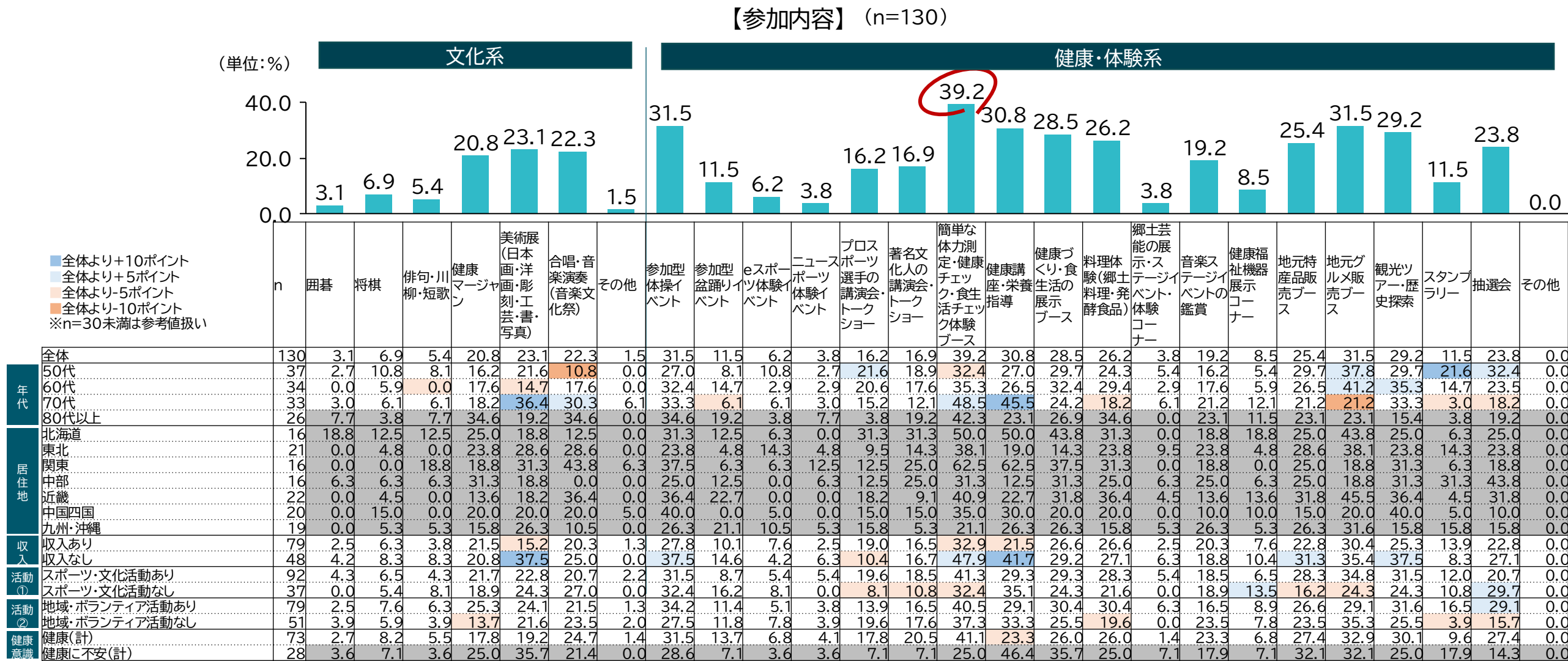
Q29.ねんりんピックで参加してみたい競技・プログラムを教えてください。(いくつでも)。(MA)



参加してみたいねんりんピック内容②文化系、健康・体験系

- 参加してみたいねんりんピックの内容として、スポーツ系以外では「簡単な体力測定・健康チェック・食生活チェック体験ブース」が39.2%で多い。
- 文化系のその他の意見としては「英会話」があげられる。

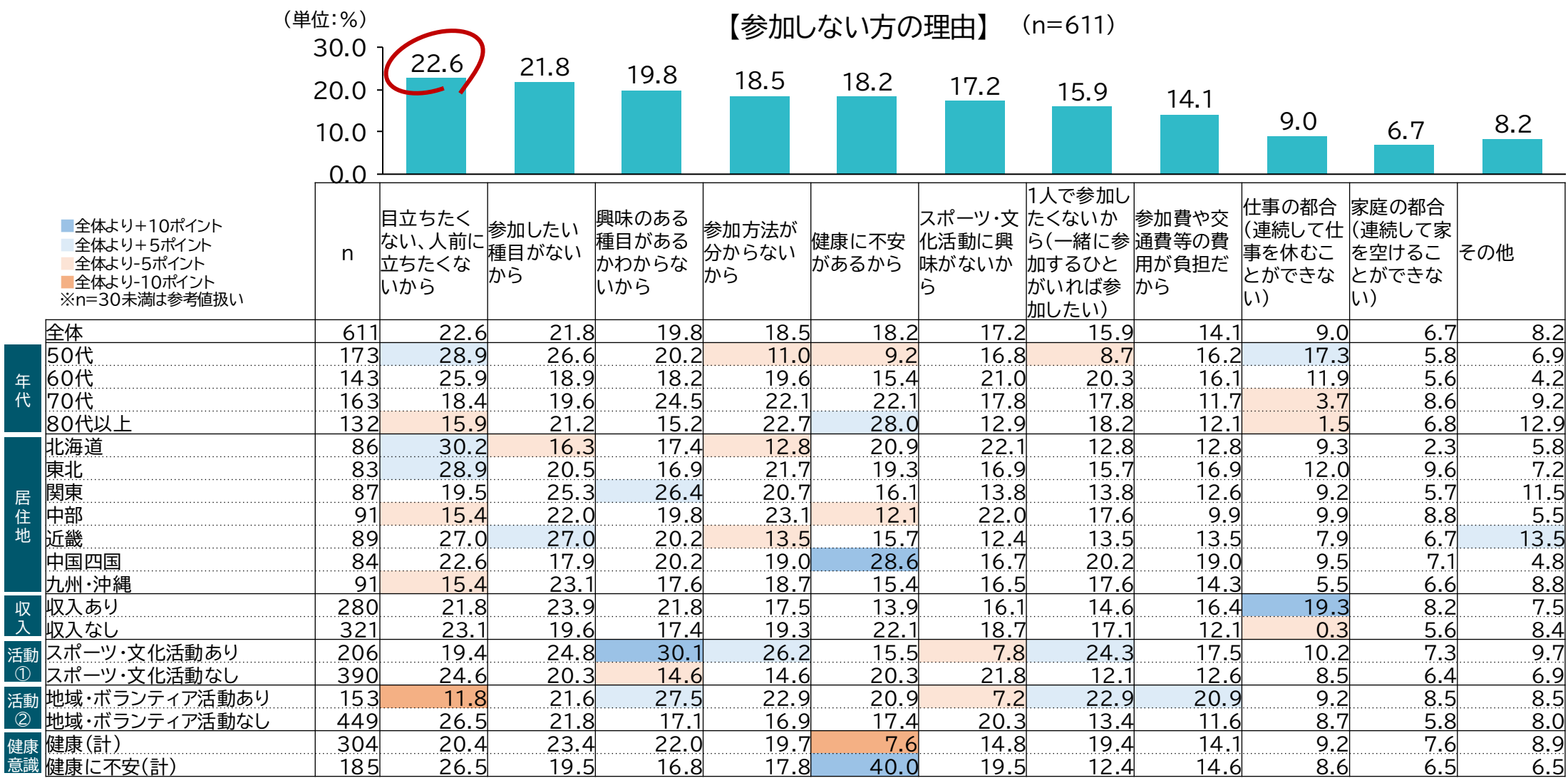
Q29.ねんりんピックで参加してみたい競技・プログラムを教えてください。(いくつでも)。(MA)



参加しない方の理由

- 参加を考えていない人は「目立ちたくない、人前に立ちたくないから」が22.6%で最多。
- その他理由は、ねんりんピック自体を知らないことに起因した理由が多い。

Q30.先程、ねんりんピックにいまのところは参加することを考えていないと回答した方へお伺いします。そのように回答した理由について教えてください。(いくつでも)。(MA)



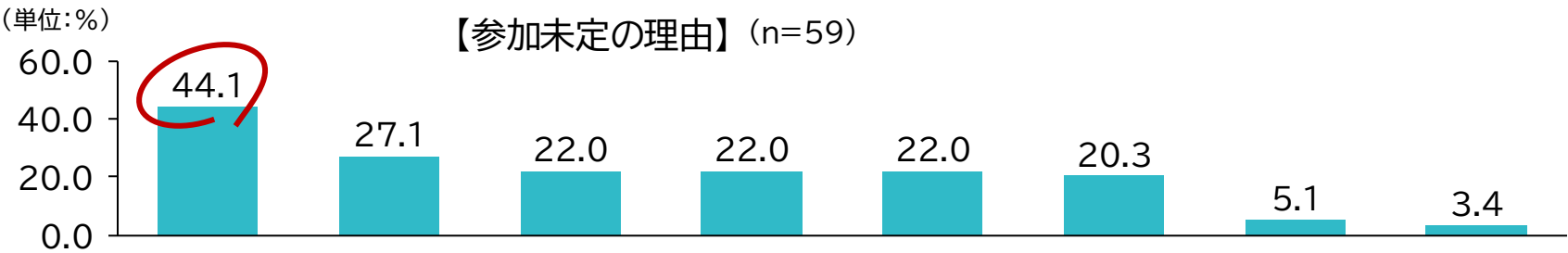
【その他内容】

- 知らないから
- 運動すると不整脈が生じる
- 面倒くさい
- 介護をしている
- いつ何処で開催されるか知らないし、どんな種目があるか知らない
- 腰も曲がっており、運動は困難。
- 自分の体力が無さすぎるから
- まだそういう年齢に達していないから
- このようなイベントに興味を持っていないので
- 身体に障害があるので
- 特異なスポーツ競技がないから
- 選抜に合格しない
- 興味がない
- 具体的にわからないから
- 他にやりたい優先事項が有るから
- 人混みに行きたくない
- 今、はっきりした情報がないから
- 身体が痛いから
- 参加意欲がわからない
- 勝つ自身がない
- 私には必要がない
- 運動は嫌い
- 種目のスポーツをしてない為
- 遠方で体力に自信がない

参加未定の理由

- 参加未定の方は「開催地によるから」が44.1%で最多。

Q31.先程、ねんりんピックへ参加するかはわからないと回答した方へお伺いします。そのように回答した理由について教えてください。(いくつでも)。(MA)



【その他内容】

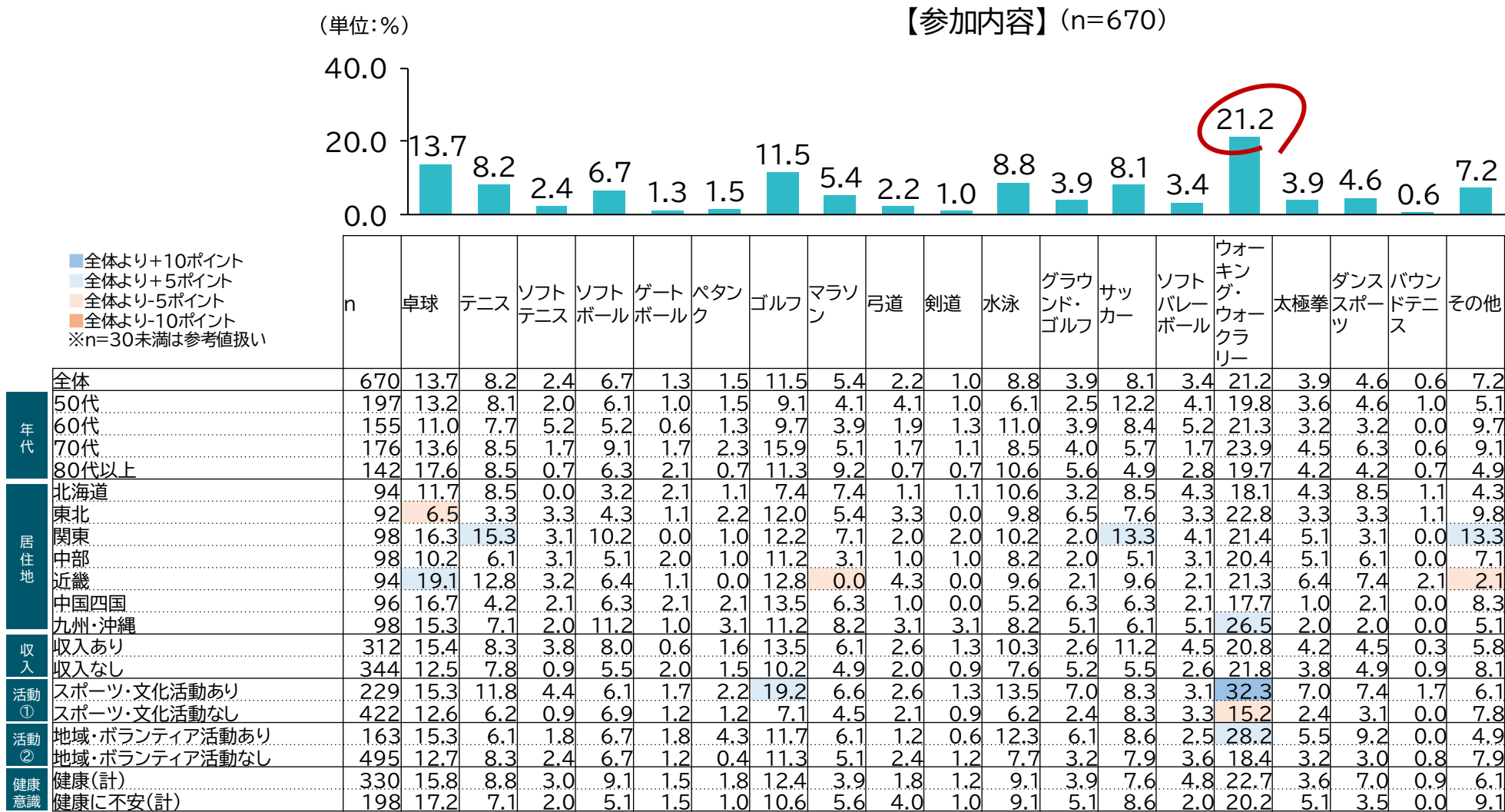
- 自分の体調と都合が合うか

		n	開催地によるから	自分の好きなスポーツ・文化活動があるのかわからないから	イベントの規模など具体的なイメージがわいていないから	面白そうだと思うが、億劫にも感じるから	参加方法が分からないから	自分の体力や健康で参加できるかわからないから	一緒に参加してくれる人がいるか、知人や家族と参加できるかわからないから	その他
全体		59	44.1	27.1	22.0	22.0	22.0	20.3	5.1	3.4
年代	50代	24	50.0	25.0	8.3	16.7	16.7	8.3	4.2	8.3
	60代	12	33.3	33.3	66.7	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
	70代	13	23.1	38.5	15.4	38.5	15.4	38.5	15.4	0.0
	80代以上	10	70.0	10.0	10.0	0.0	50.0	30.0	0.0	0.0
	北海道	8	37.5	12.5	0.0	12.5	37.5	25.0	0.0	0.0
居住地	東北	9	33.3	33.3	33.3	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0
	関東	11	36.4	18.2	18.2	36.4	9.1	18.2	9.1	9.1
	中部	7	57.1	42.9	42.9	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0
	近畿	5	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	中国四国	12	50.0	25.0	16.7	33.3	41.7	25.0	16.7	8.3
収入	九州・沖縄	7	71.4	14.3	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
	収入あり	32	43.8	28.1	21.9	28.1	15.6	12.5	6.3	6.3
	収入なし	23	47.8	30.4	26.1	13.0	26.1	34.8	4.3	0.0
	活動①	23	30.4	52.2	39.1	30.4	30.4	30.4	13.0	4.3
	活動②	32	53.1	12.5	12.5	18.8	15.6	15.6	0.0	0.0
健康意識	健康(計)	10	60.0	60.0	50.0	20.0	40.0	30.0	0.0	0.0
	健康に不安(計)	46	41.3	21.7	17.4	23.9	17.4	19.6	6.5	2.2
	健康(計)	26	38.5	23.1	19.2	26.9	30.8	11.5	3.8	0.0
	健康に不安(計)	13	30.8	46.2	38.5	23.1	23.1	38.5	7.7	7.7

興味のあるプログラム①スポーツ系

- 興味のあるプログラムの中で、スポーツ系で最も高いものは「ウォーキング・ウォークラリー」で21.2%。

Q32.参加する・参加しないに関わらず、興味がある競技・プログラムを教えてください。(いくつでも)※「観覧したい」「応援したい」競技・プログラムも含めて回答してください。(MA)



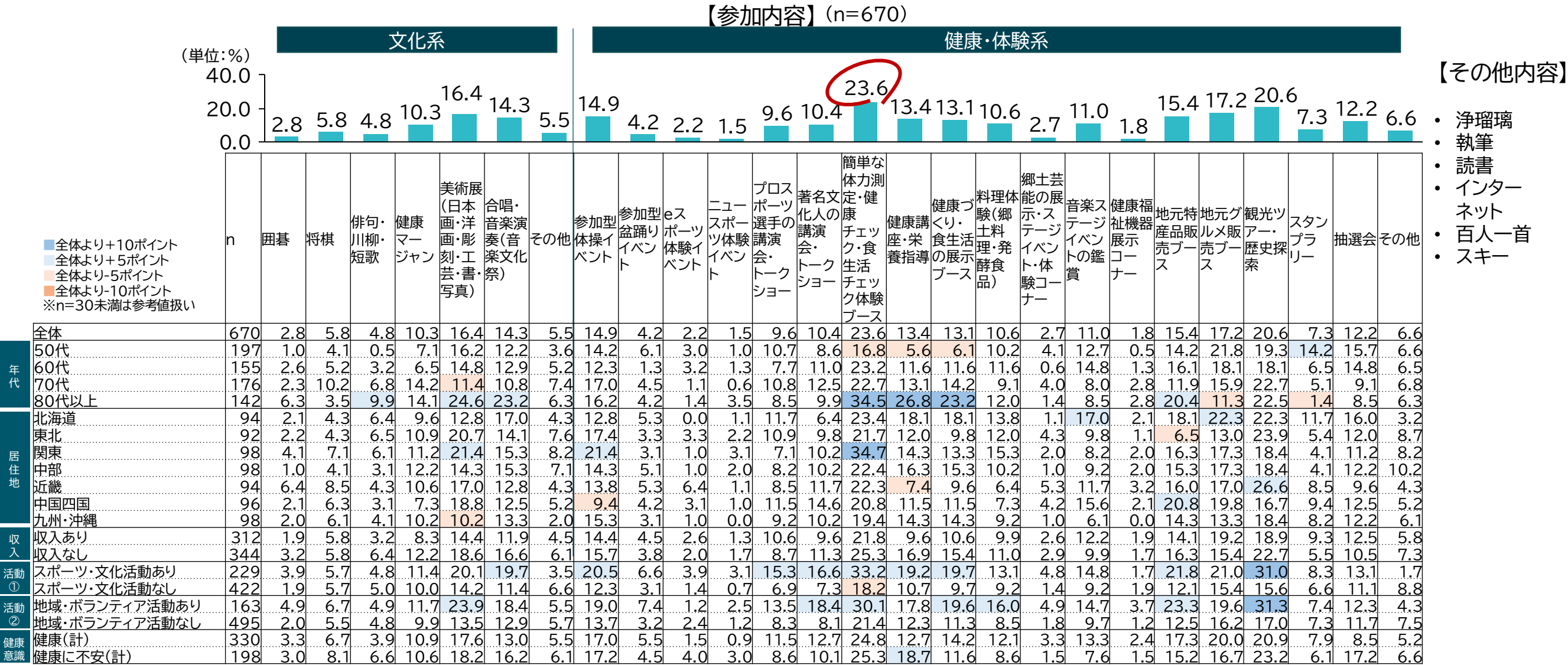
【その他内容】

- ラグビー
- バドミントン
- ヨット競技
- ヨガ
- 野球
- フィギュアスケート
- 飛び込み
- 野球
- バイクレース
- 釣り
- セーリング
- 自転車
- ピラティス
- 相撲
- 格闘技
- スキー

興味のあるプログラム②文化系、健康・体験系

- 興味のあるプログラムとして、健康・体験系の「簡単な体力測定・健康チェック・食生活チェック体験ブース」が23.6%で最多。
- 80代以上の方において、健康やそのチェックに関することについて、全体よりも10ポイント以上高い。

Q32.参加する・参加しないに関わらず、興味がある競技・プログラムを教えてください。(いくつでも)※「観覧したい」「応援したい」競技・プログラムも含めて回答してください。(MA)



(1) 調査方法

(2) 調査項目

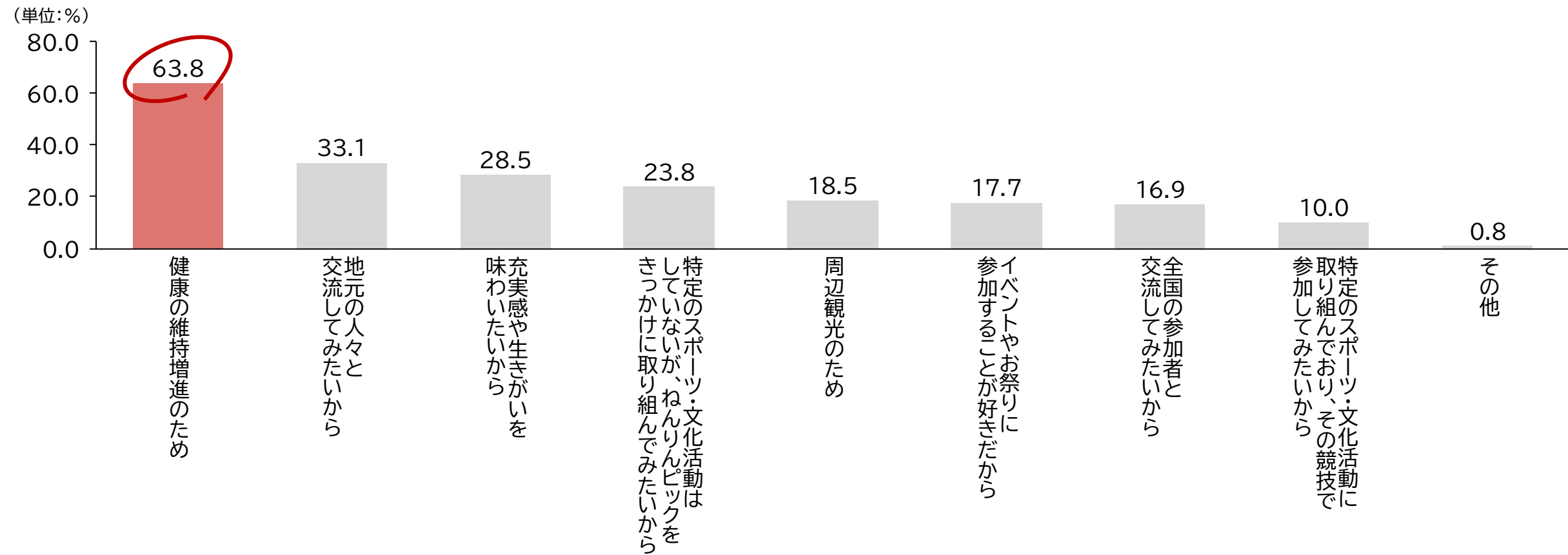
(3) 調査結果

(4) 考察・提言

一般人から見るねんりんピックの魅力①健康維持・増進の機会

- ねんりんピックは、シニア世代の「健康維持・増進」を強力に後押しする、実践的な機会を提供している。

【再掲：ねんりんピックに参加してみたい理由】 (n=130)



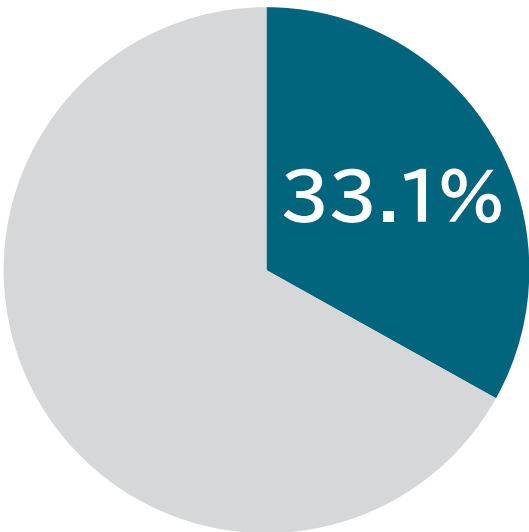
ねんりんピックの
果たす役割

- 日常的な運動習慣のきっかけや目標となり、身体活動の促進や健康の維持などを促す。
- 健康チェックや健康講座を通じで、自身の健康状態への関心を高め、予防意識を醸成する。
- 適度な運動と健康的な生活習慣の定着を促し、生活習慣病などの予防に貢献している。

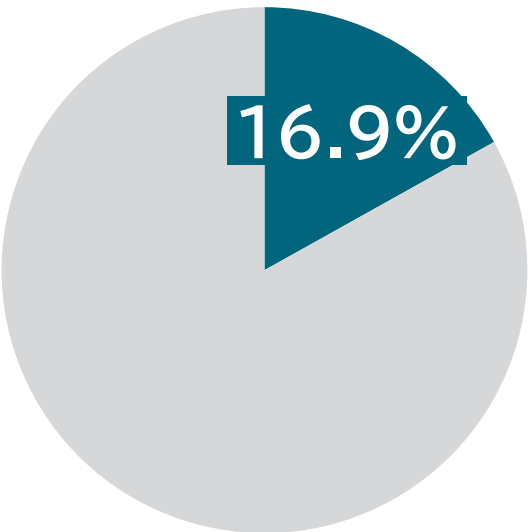
一般人から見るねんりんピックの魅力②社会参加と交流の促進

- ねんりんピックは、地域や全国の仲間との「交流」を深め、シニア世代の「社会参加」を促す貴重な場となっている。

【再掲：ねんりんピックに参加してみたい理由】(n=130)

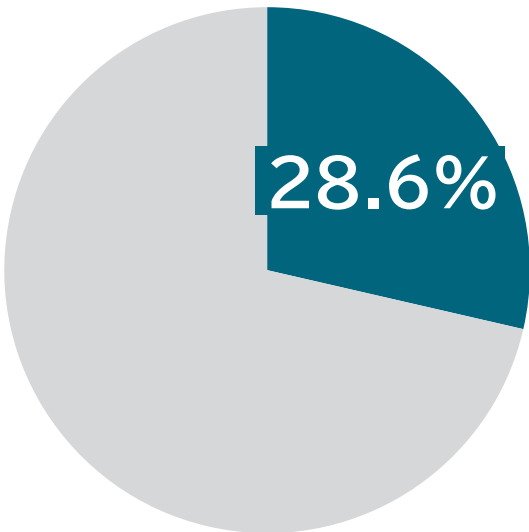


• ねんりんピックに興味のある人のうち、33.1%が地元の人々と交流してみたいと回答

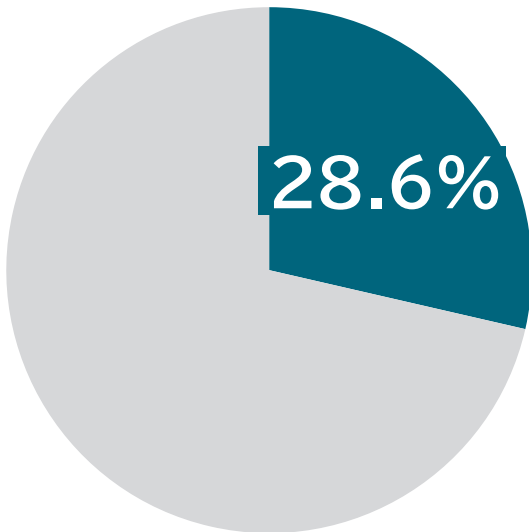


• ねんりんピックに興味のある人のうち、16.9%が全国の参加者と交流したいと回答

【再掲：ねんりんピック参加理由】(n=21)



• ねんりんピック参加者のうち、28.6%が地元の人々との交流を目的に参加したと回答



• ねんりんピック参加者うち、28.6%が全国の参加者と交流するために参加したと回答

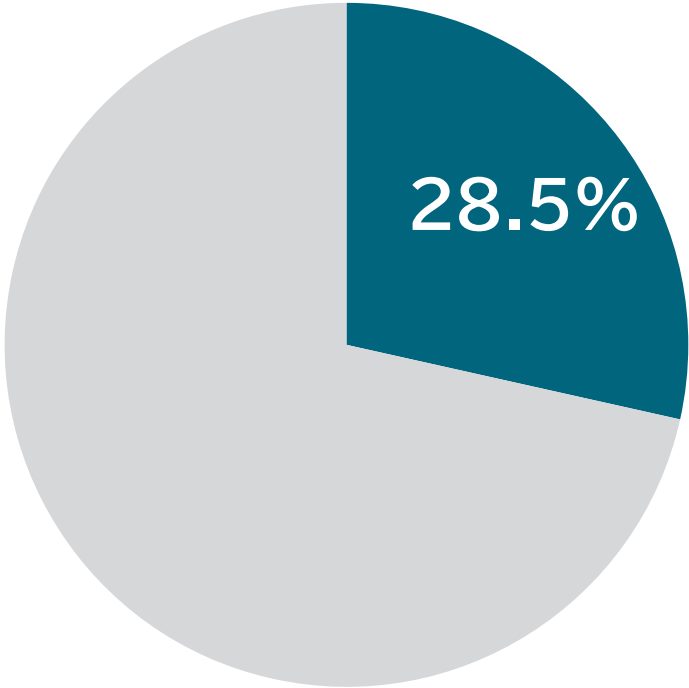
ねんりんピックの果たす役割

- イベント参加を通じて社会との接点を創出し、高齢者の孤独感の解消に寄与している。
- 共通の趣味や関心を持つ人々との出会いを提供し、新たな友人関係やコミュニティ形成を支援することに役立つ。
- 地元住民との交流機会を創出し、地域への愛着や一体感を育むことにつながる。

一般人から見るねんりんピックの魅力③生きがいと自己実現の提供

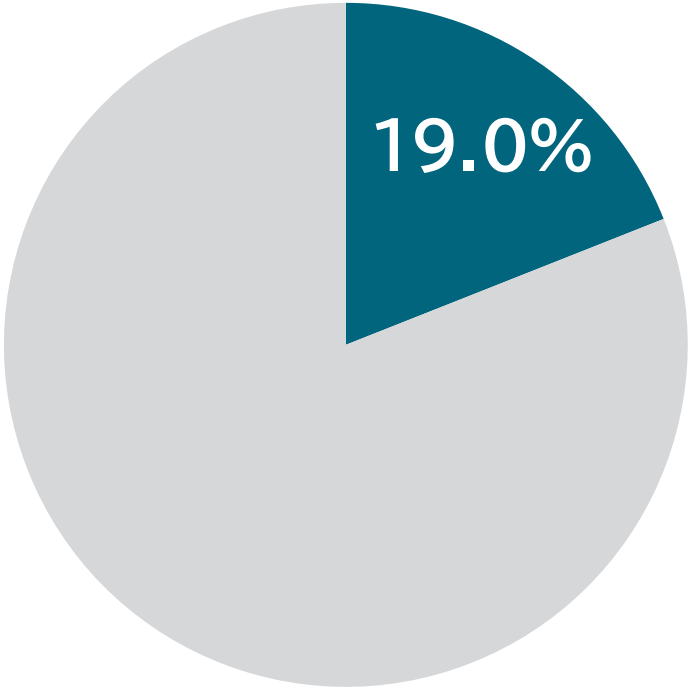
- ねんりんピックは、シニア世代が「充実感や生きがい」を感じ、自己実現を図るための場となっている。

【再掲：ねんりんピックに参加してみたい理由】 (n=130)



- ねんりんピックに興味のある人のうち、28.5%が充実感と生きがいを味わいたいために、ねんりんピックに参加してみたいと回答

【再掲：ねんりんピック参加理由】 (n=21)



- ねんりんピック参加者うち、19.0%が充実感や生きがいを味わう場としてねんりんピックがあると回答

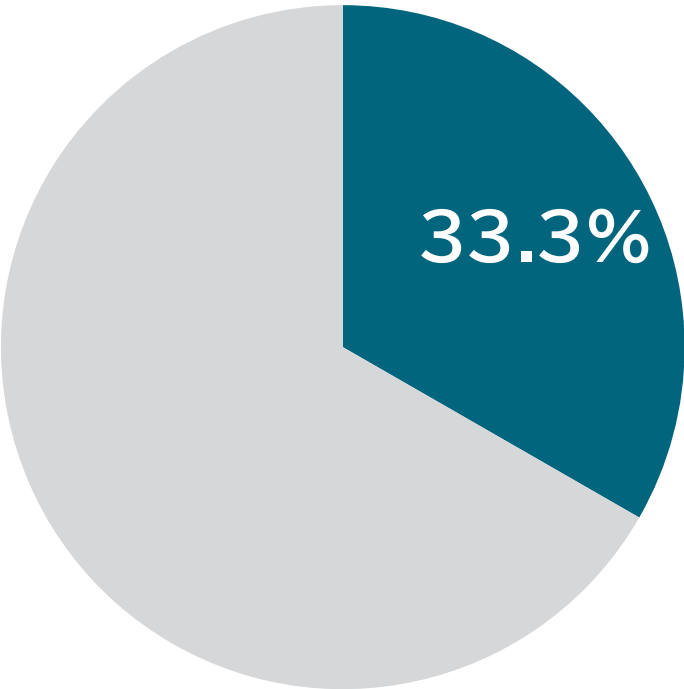
ねんりんピックの
果たす役割

- スポーツや文化活動への参加を通じて、目標を設定し、達成する喜びを提供している。
- スポーツや文化活動への参加や交流を通じて、自身の価値を再認識し、自己肯定感を高める可能性がある。
- 趣味や特技を活かす場、あるいは新たな挑戦の場として、精神的な満足感と豊かな生活を支援することにつながる。

一般人から見るねんりんピックの魅力④地域経済と観光の振興

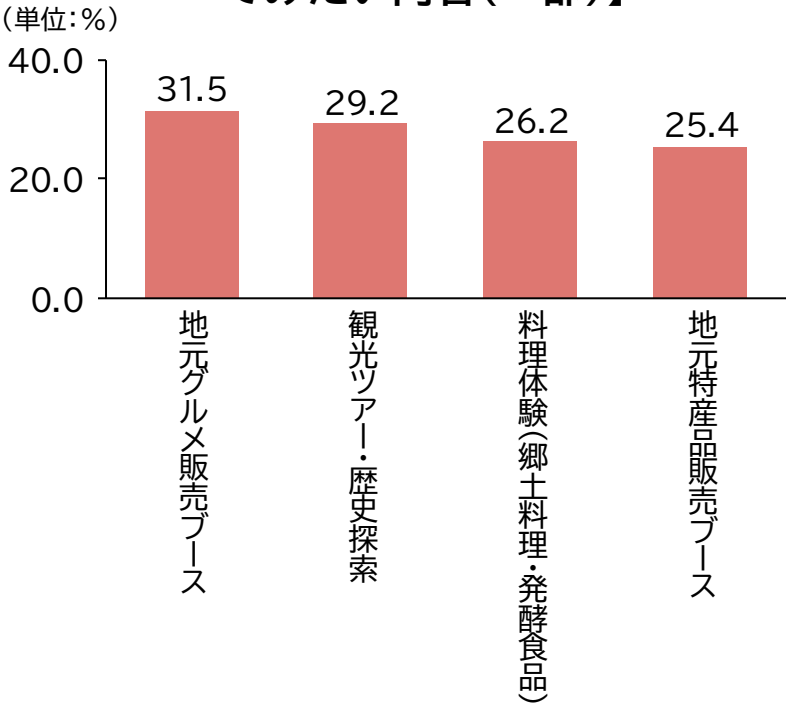
- ねんりんピックは、開催地の「観光」を促進し、地域経済に活力を与える重要な役割を果たす。

【再掲：ねんりんピック参加理由】 (n=21)



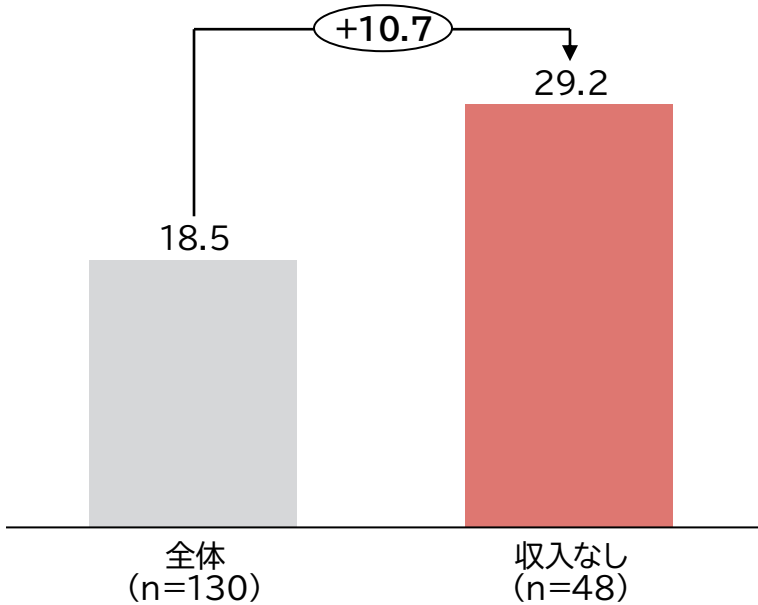
- ねんりんピック参加者うち、33.3%が周辺観光も目的としてねんりんピックに参加したと回答

【再掲：ねんりんピックで参加してみたい内容(一部)】



- ねんりんピック関心者において、開催地で体験できる観光体験について、30%前後の方が体験したいと回答

【再掲：ねんりんピックに参加してみたい理由(周辺観光)】



- ねんりんピック関心者の中でも直近の収入がない高齢者において、周辺観光がねんりんピック参加のモチベーションとなる

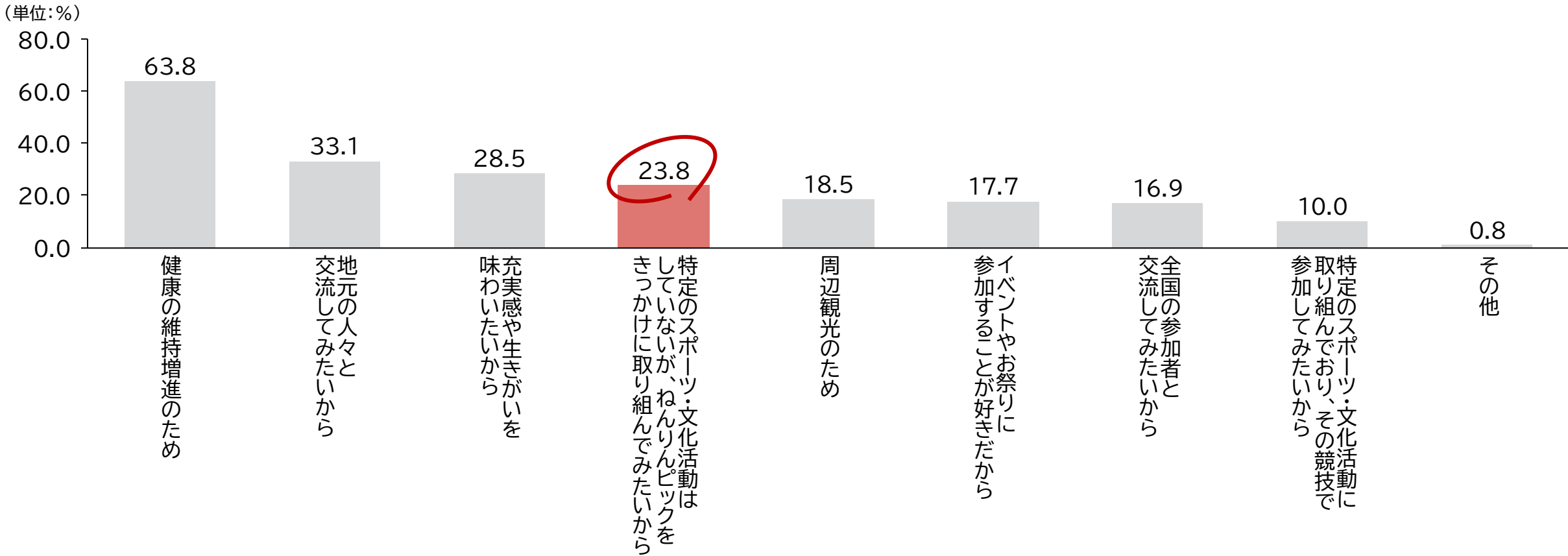
ねんりんピックの
果たす役割

- 参加者や同伴者による宿泊、飲食、買い物など、開催地での消費活動を喚起する可能性が高い。
- 運営コストはあるものの開催地の歴史、文化、食などの魅力を全国に発信し、地域の認知度とイメージアップに資する。
- イベントをきっかけに開催地を訪れた人々が、リピーターとなったり、新たな観光客を呼び込む可能性がある。

一般人から見るねんりんピックの魅力⑤新たな挑戦のきっかけ

- ねんりんピックは、これまで活動していなかったシニア世代に、新たなスポーツや文化活動をはじめ「きっかけ」を提供することにつながる。

【再掲：ねんりんピックに参加してみたい理由】 (n=130)



ねんりんピックの
果たす役割

- 新しい趣味や活動への一歩を踏み出すための具体的な目標や機会を提供する。
- 多彩な競技や文化プログラムを通じて、シニア世代の多様なニーズに応え、活動の選択肢を広げる。

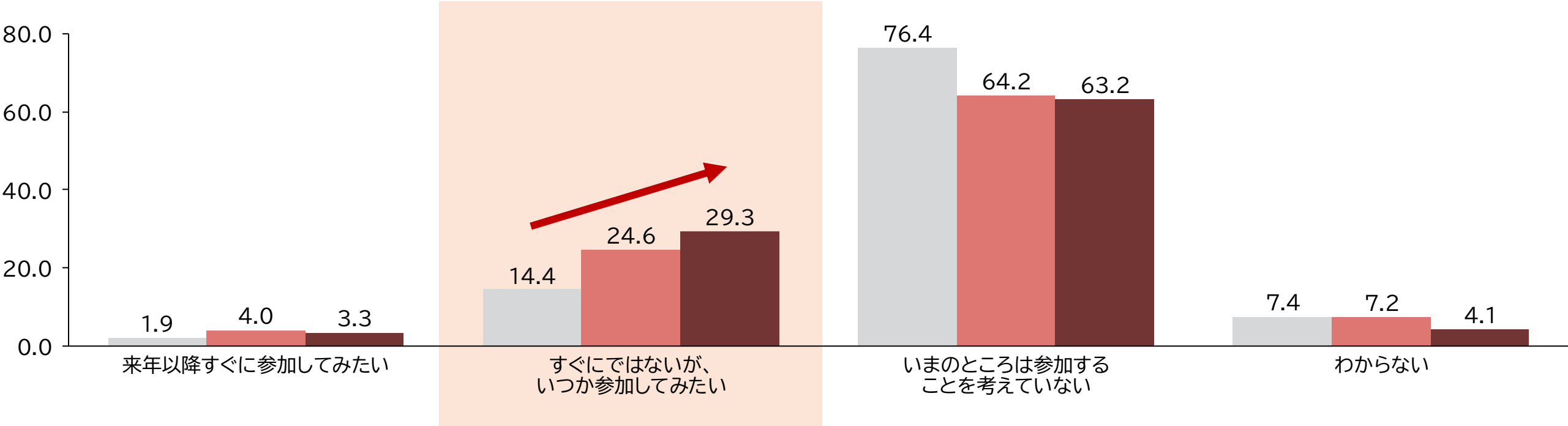
一般人から見るねんりんピックの魅力⑥活動的なシニア層からの高い期待

- ねんりんピックは、既に「スポーツ・文化活動」や「地域・ボランティア活動」に積極的に参加しているシニア層から、特に高い関心と参加意欲を集めている。

【再掲：ねんりんピックに参加してみたい理由】 (n=130)

(単位：%)

全体(N=800) スポーツ・文化活動あり(n=321) 地域・ボランティア活動あり(n=242)

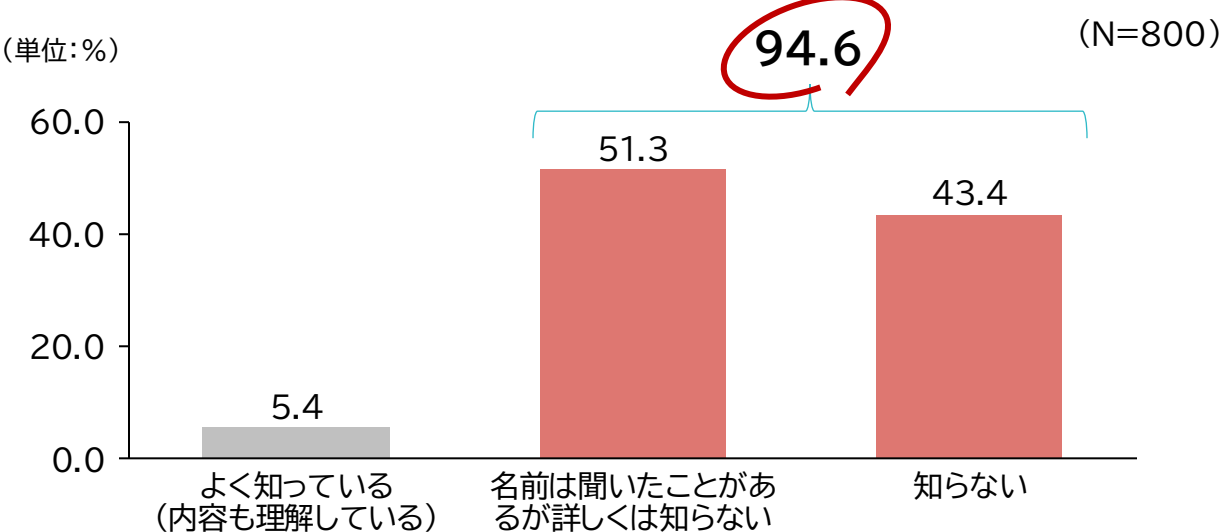


ねんりんピックの
果たす役割

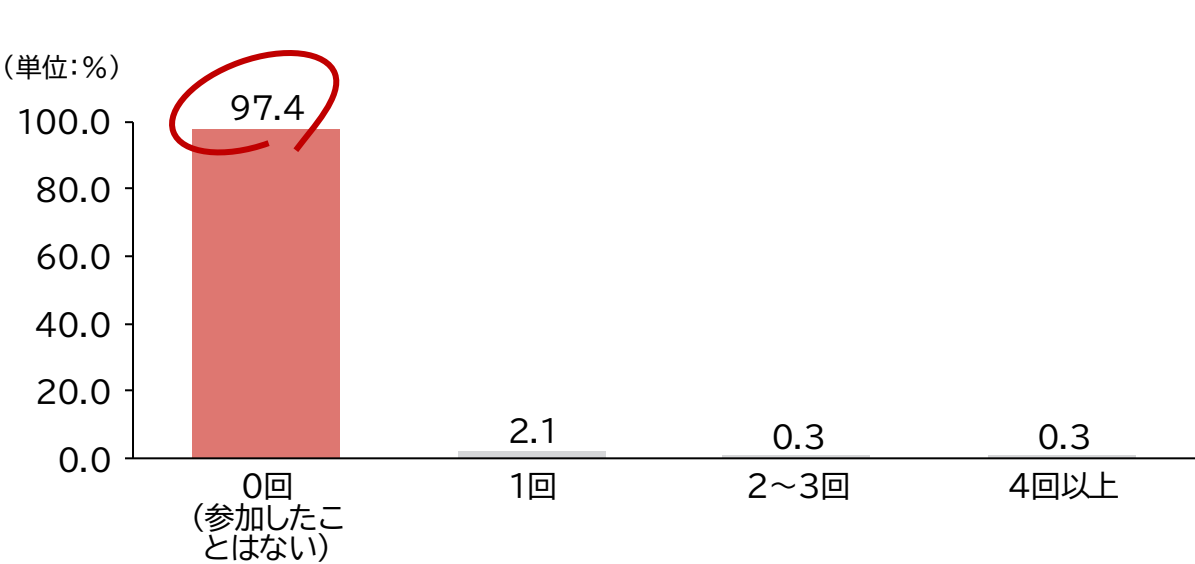
- 既存の活動を継続し、さらに発展させるための目標や交流の場となっている。
- 活動的なシニア層がイベントを牽引し、他の参加者への良い影響を与える機会となる。
- 経験豊富な参加者の存在は、競技や文化プログラムのレベル向上に貢献し、イベント全体の魅力を高める。

一般人から見るねんりんピックの課題①圧倒的な認知度の低さ

【ねんりんピックの認知】



【ねんりんピックの参加経験】 (N=800)



- 十分な認知率や参加率は全体の約5%となっており、圧倒的に認知度が低い。
- 年代による差もほとんど見られず、シニアになったから認知されるようなイベントでもない。

多角的な広報戦略の展開

- ターゲット媒体の選定として、テレビ、新聞、自治体広報誌・チラシに加え、シニア層が利用するSNS (Facebookなど)、などを活用する。
- 「ねんりんピック」の名称やロゴ、イベント内容を、より魅力的で分かりやすい表現に見直し、親しみやすいイメージを醸成する

地域連携の強化

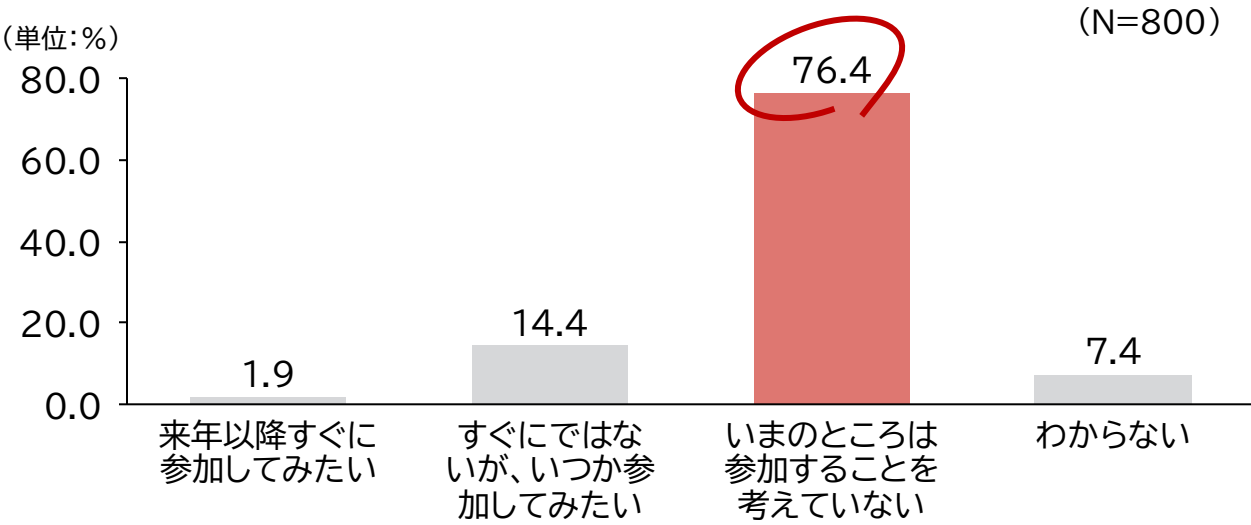
- 地域包括支援センター、公民館、老人クラブ、スポーツクラブなど、シニア層が日常的に接する機関との連携を強化し、情報提供を依頼する。
- 観光に関心のある方が多いため、地域イベントでのブース出展することで地道な認知向上を図る。

「知らない」層へのアプローチ

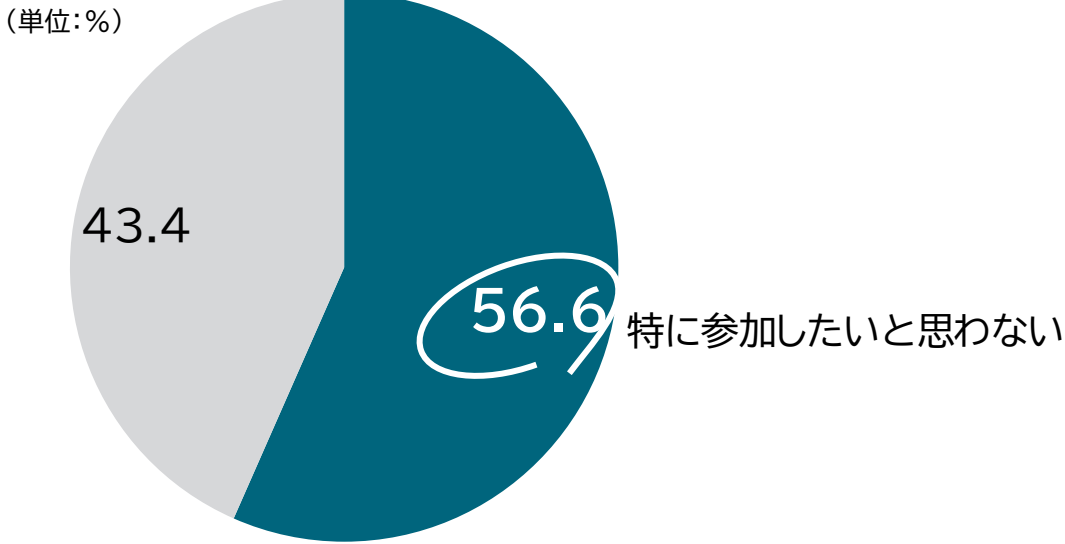
- 「ねんりんピックとは何か」を簡潔に伝える啓発キャンペーンを実施する。
- 令和9年度のイベントを含め、「まずは知ってもらう」ための体験型イベントやミニ講座を開催する。

一般人から見るねんりんピックの課題②低い参加意向

【ねんりんピックの参加意向】



【スポーツイベントの参加経験】(N=800)



- ・ 来年以降のねんりんピック参加意向については、4分の3以上が「いまのところは参加することを考えていない」と低い参加意向となっている。
- ・ ねんりんピックに限らず、スポーツイベントについて半数以上が参加意向がなく、関心自体が低い傾向がみられる。

参加へのハードルを下げる

- 「スポーツ・文化活動はしていないが、きっかけに取り組みたい」層を取り込むために、初心者向けのプログラムなどを拡充する。
- 短時間・少人数で参加できるミニイベントやワークショップを地域で開催し、参加意向を高める。

参加メリットの具体化

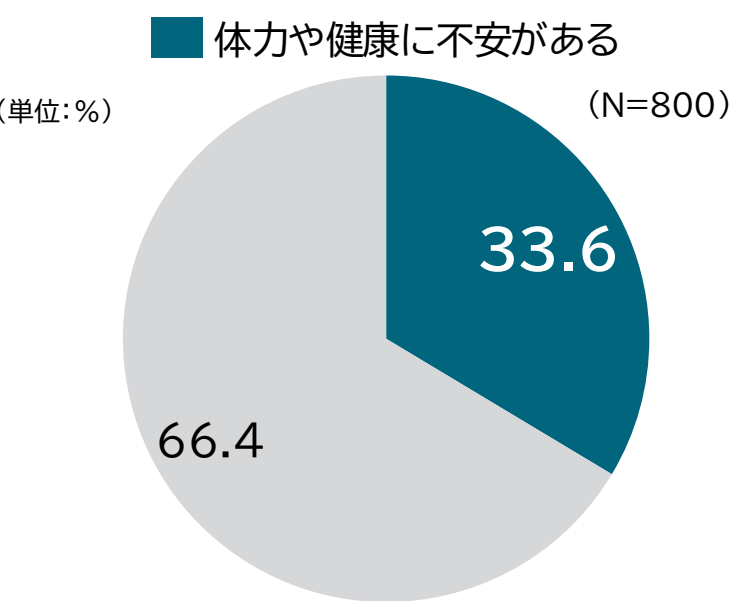
- 健康維持、交流、生きがい、観光など、参加で得られる具体的なメリットを分かりやすく提示し、参加意欲を喚起する。

継続的な関与の促進

- 大会後も継続できる運動・交流プログラムの紹介や、地域での活動への誘導を行う。
- プラットフォームなどで過去の大会の様子などが確認でき、参加したいと思うような動画等を配信する。

一般人から見るねんりんピックの課題③参加への多様な障壁

【スポーツイベント参加の懸念点】

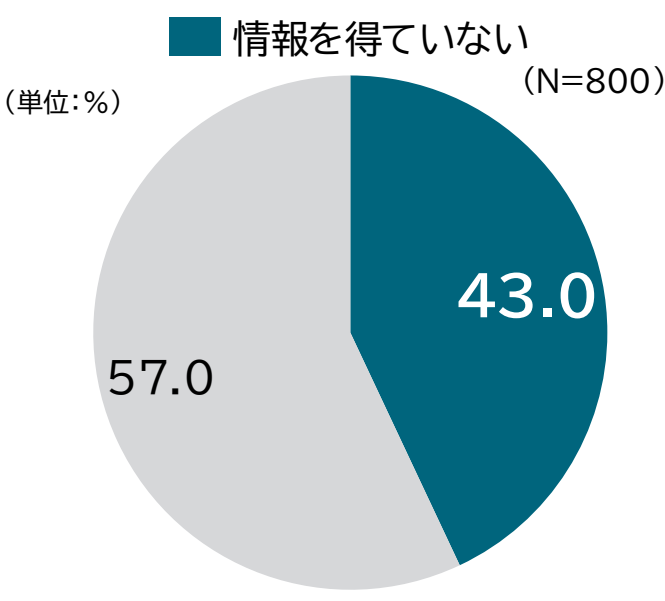


・スポーツイベント参加の最大の障壁は「体力や健康に不安がある」点があげられる。身体的なハードルが高い。

個別ニーズに対応したプログラム設計

- 医療・健康サポートの充実(健康チェック、医療スタッフ配置)、初心者向け、体力に自信がない人向けのプログラムを増やす。
- 競技性の低いレクリエーション要素の強いプログラム、チーム参加を推奨するプログラム、観覧・応援など多様な関わり方を提示する。

【スポーツイベントの情報源】

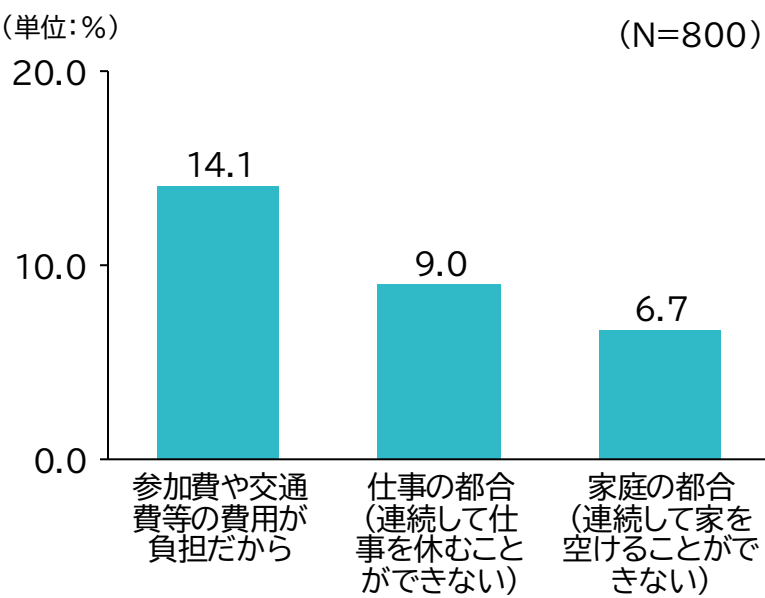


・スポーツイベントの情報について、「得ていない」という方が43.0%で最多という、情報不足という課題がある。

情報アクセスの改善

- 公式サイト、SNS、広報誌や競技施設など、シニア層が日常的に利用する場所での情報提供を強化。
- 参加方法、プログラム内容などが簡単に確認できるポータルサイトなどを運用する。

【不参加理由(一部抜粋)】



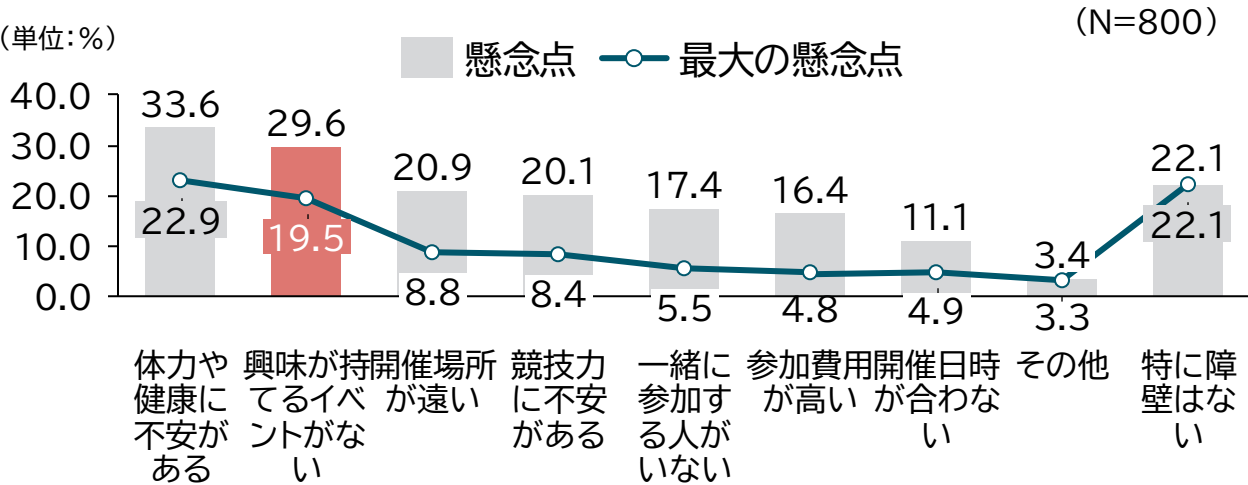
・交通費の負担や会社・家庭都合での不参加など、環境や費用の課題がうかがえる。

参加環境の整備

- アクセスの良い会場選定、シャトルバス運行、バリアフリー対応を行う。
- 一人参加者向けの交流会などサポート体制を整える。

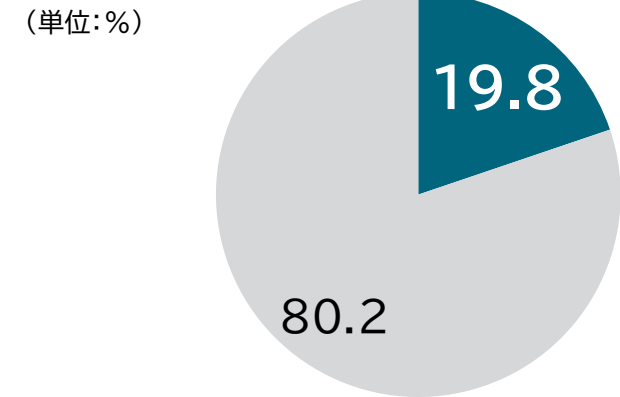
一般人から見るねんりんピックの課題④プログラム内容とニーズの不一致

【スポーツイベント参加の懸念点】



【不参加理由】 (n=611)

■ 興味のある種目があるかどうか分からない



- イベント参加時においても、「興味を持てないイベントがない」という理由が懸念点の上位となっており、実際に不参加理由としても「興味のある種目があるかどうか分からない」が上位となる。一部の参加意向者の「興味・関心」と必ずしも合致しておらず、プログラム内容のさらなる多様化とニーズへの適合が求められる。

ニーズに基づいたプログラム開発

- シニア層が実際に何を求めているのか、具体的な競技や文化活動、体験プログラムについて詳細なニーズ調査を行う。
- eスポーツ、ニュースポーツ、健康ツーリズムなど、現代のシニア層の多様な関心や社会のトレンドを取り入れたプログラムを検討。

プログラムの多様化と柔軟性

- 競技志向のプログラムだけでなく、レクリエーション要素の強いもの、体験型のもの、観覧・応援に特化したものなど、多様なレベルと関わり方を提供。
- 開催地の特色を活かした郷土芸能、伝統工芸体験、地域住民との交流イベントなどを充実させる。

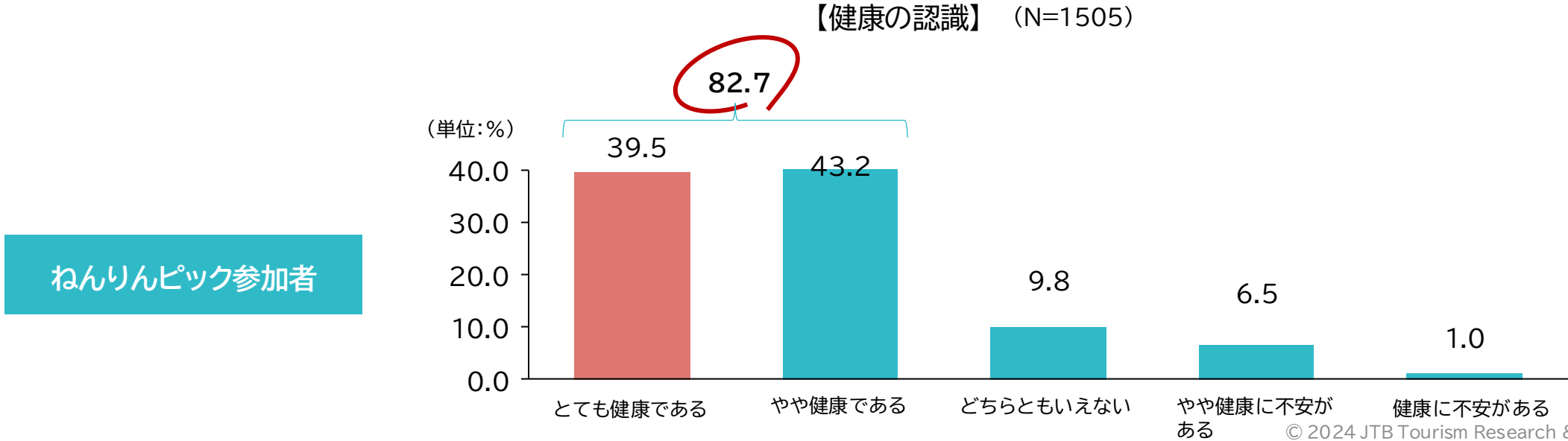
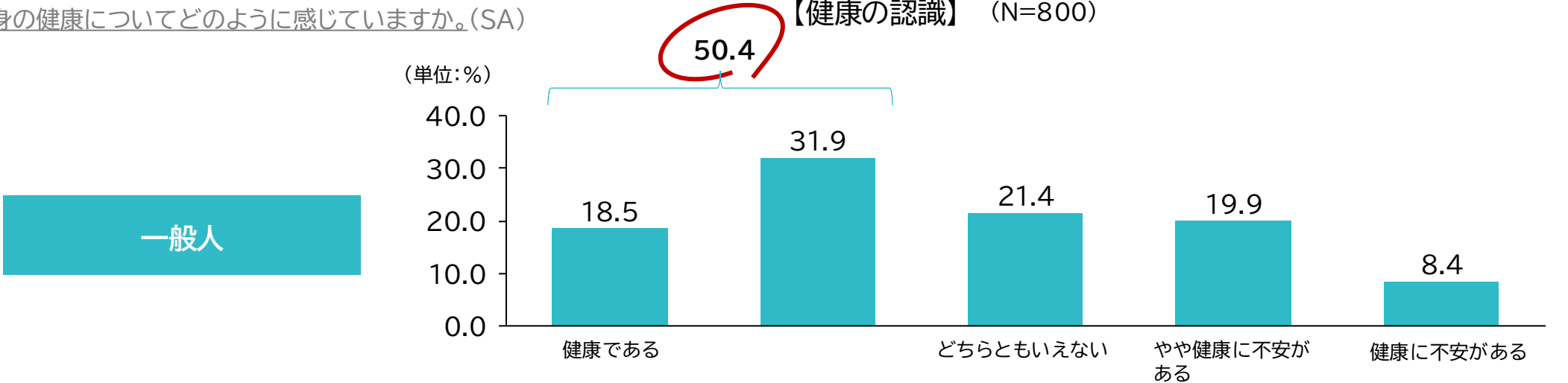
プログラム情報の分かりやすい提示

- プログラム内容を詳細に、かつ魅力的に紹介する情報発信を強化し、「興味のある種目があるかどうか分からない」という課題を解消する。

健康の認識(一般人／ねんりんピック参加者) ※ぎふ大会参加者アンケートとの比較①

- 一般人は、約半数しか「健康である」と感じていないのに対し、ねんりんピック参加者は約8割が「健康である」と感じている。
- ねんりんピックへの参加と健康改善には相関関係がある。

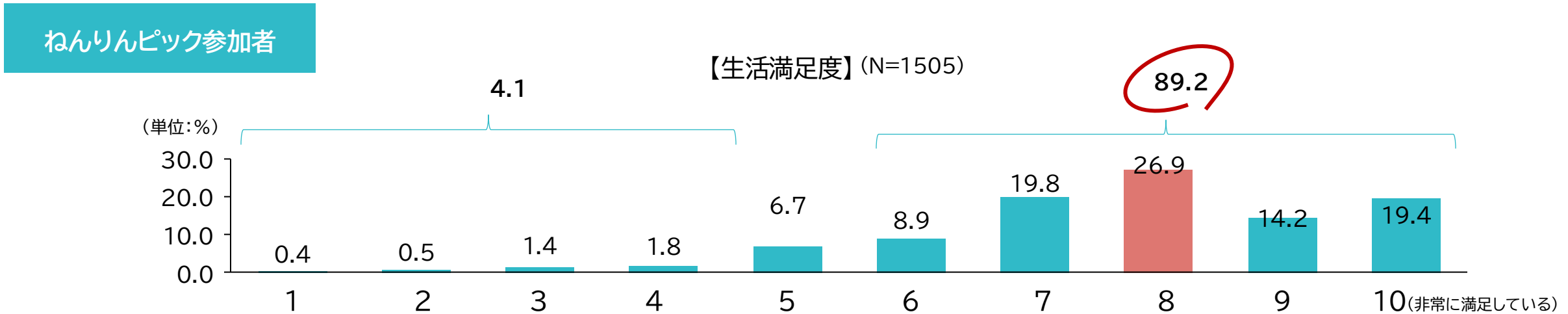
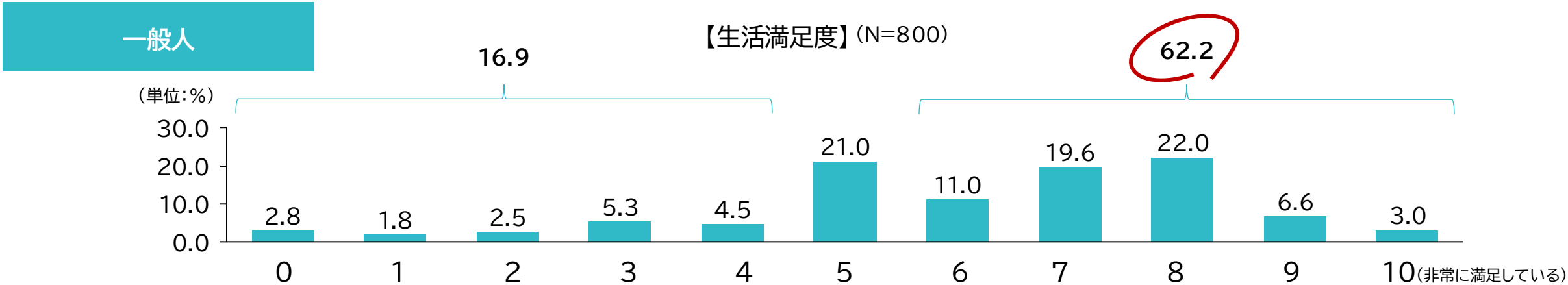
Q4.現在、ご自身の健康についてどのように感じていますか。(SA)



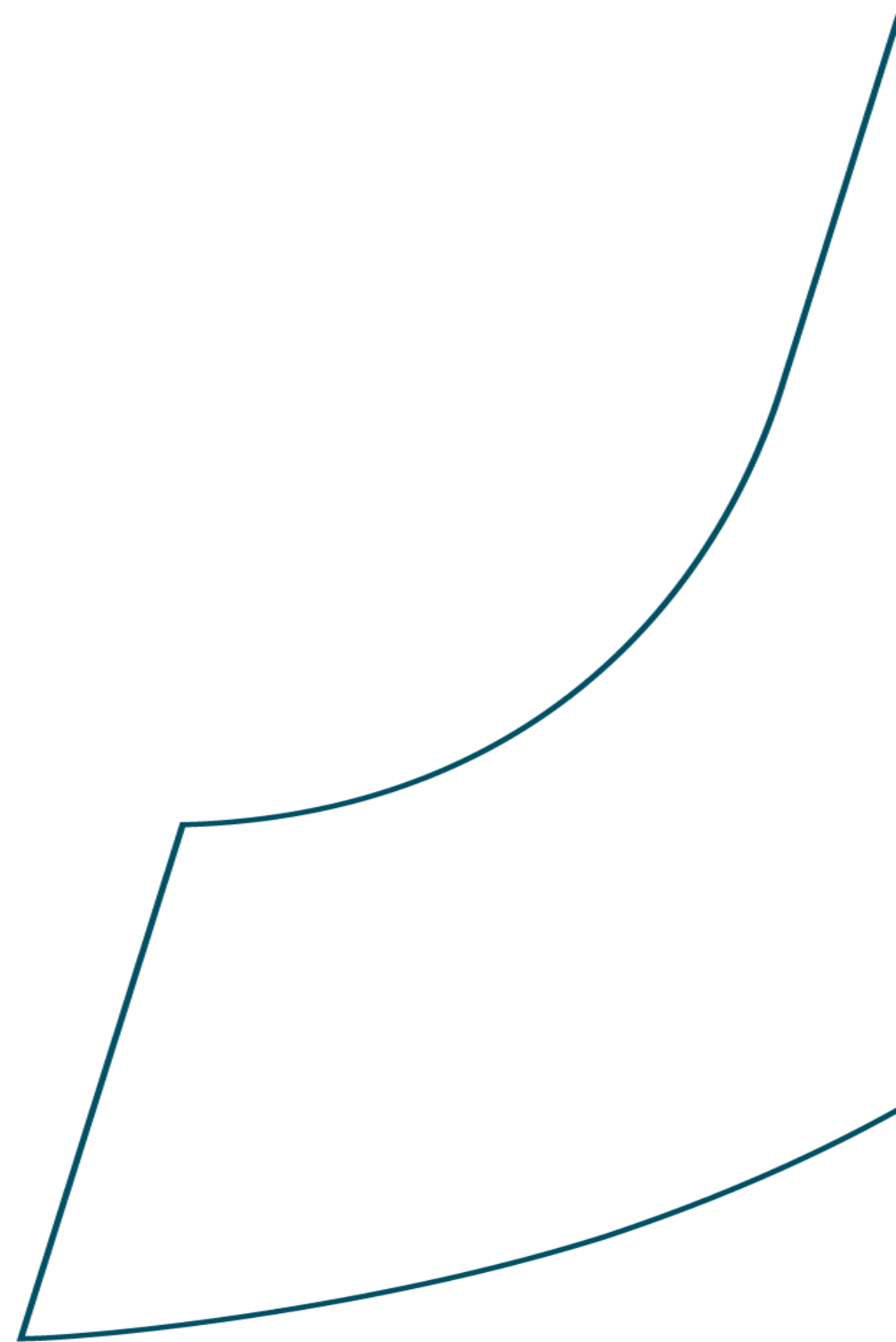
生活満足度(一般人／ねんりんピック参加者) ※ぎふ大会参加者アンケートとの比較②

- 生活満足度について、「一般向けアンケート」と「ねんりんピック岐阜大会参加者アンケート」の結果を比較すると、生活に満足度を感じている割合は、ねんりんピック参加者のほうが顕著に多い。
- ねんりんピックへの参加と、生活満足度の向上には相関関係がある。

Q7.全体として、あなたの現在の生活にどのくらい満足していますか？。(SA)



4.実地調査結果



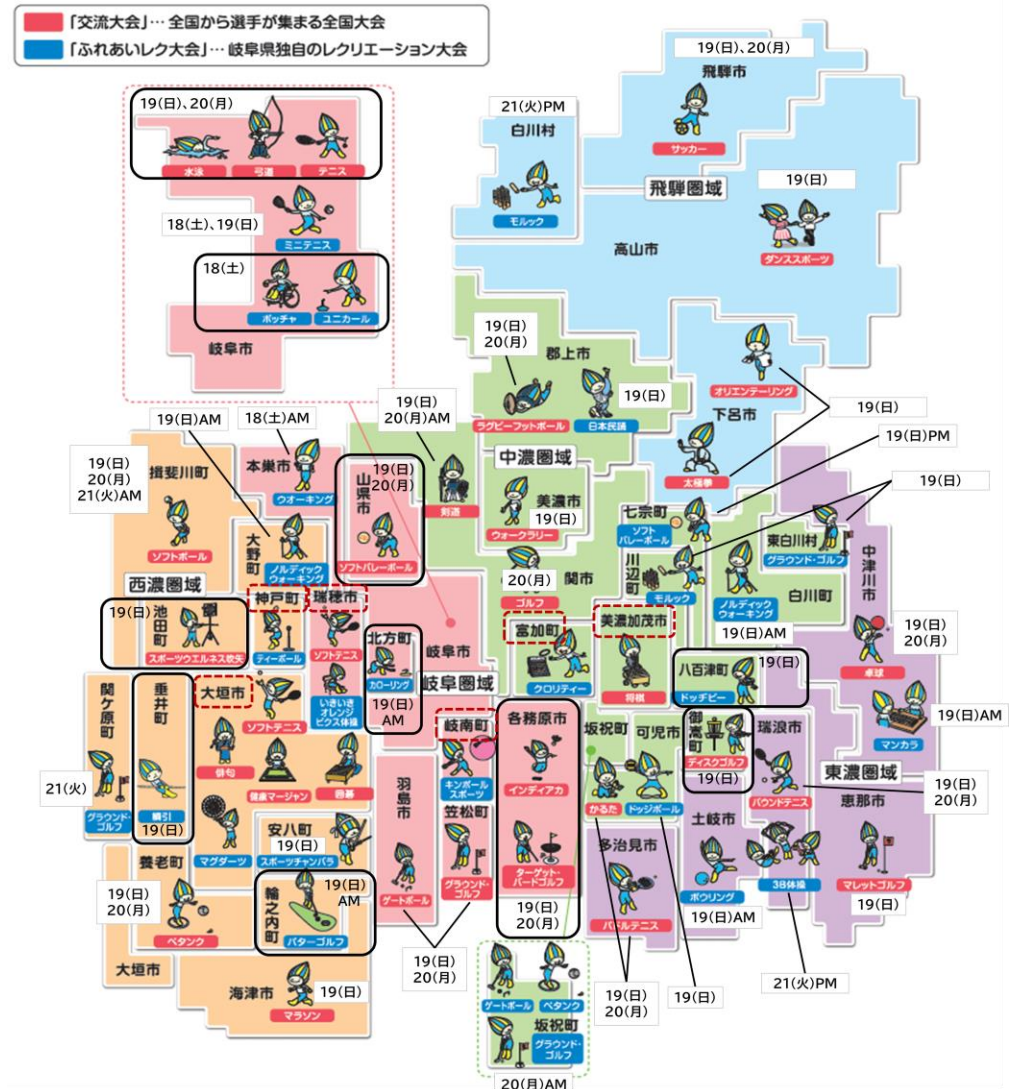
実地調査(ねんりんピック)報告書

- 概要

大会概要

名称	第37回全国健康福祉祭ぎふ大会
愛称	ねんりんピック岐阜2025
会期	2025年 10月18日(土)-10月21日(火)
テーマ	清流に 輝け ひろがれ 長寿の輪
基本方針	世界でも類を見ないスピードで少子高齢化が進んでいる我が国においては、健康寿命を延ばすとともに、高齢者はもちろん、全ての人々が、生涯健康で活躍できる社会づくりが求められています。 第37回全国健康福祉祭ぎふ大会は、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできた「清流の国ぎふ」に住む県民の温かさと熱意、そして「オール岐阜」による心のこもったおもてなしで全国の皆さんをお迎えし、3つの目標を掲げて開催します。

会場地マップ



• 大会概要

シンボルマーク



協賛企業・団体

【特別協賛】

株式会社トーカイ

【資金協賛】

株式会社大垣共立銀行
西濃運輸株式会社・公益財団法人田口福寿会
岐阜県JAグループ
イビデン株式会社
岐阜車体工業株式会社
サンメッセ株式会社

株式会社十六フィナンシャルグループ
岐阜電力株式会社
岐阜県信用金庫協会
太平洋工業株式会社
アピ株式会社
株式会社バローホールディングス

【物品協賛】

株式会社城山
株式会社白川園本舗

奥長良川名水株式会社
浅野燃糸株式会社

【広告協賛】

ミズノ株式会社

岐阜乗合自動車株式会社

実地調査(ねんりんピック)報告書

- 現地の様子①

10/18(土) 総合開会式



10/18(土) ふれあい広場(企業イベント等)



10/18(土) 合同開始式



実地調査(ねんりんピック)報告書

- 現地の様子②

10/19(日) モーニングプロジェクト



10/19(日) eスポーツ



10/19(日) ラグビー



実地調査(ねんりんピック)報告書

- 現地の様子③

10/19(日) ウォークラリー



10/19(日) 水泳



10/19(日) サッカー



実地調査(ねんりんピック)報告書

- 現地の様子④

10/20(月) グラウンド・ゴルフ



10/20(月) 卓球



10/20(月) ゲートボール



実地調査(ねんりんピック)報告書

- 現地の様子⑤

10/20(月) ゴルフ



10/20(月) バウンドテニス



10/21(火) 総合閉会式



日時:10月18日(土)10:00-12:00
場所:岐阜メモリアルセンター 長良川競技場



良かった点	● 前半部分(式典・交流アトラクション前半の約40分間)が終了後、選手団がスタンドへ移動し昼食休憩をとる流れになっており、選手の身体的負担が考慮されていた。 ● スタッフも多く配置され、動線もスムーズであった。 ● 招待席はほぼ満席であった。
課題点	● 屋外開催のため、急な雨の対策が必要。多くの選手等が参加・移動するため、タイムスケジュールには余裕を持たせる必要がある。 ● タイムスケジュールは、選手の移動や、起立にかかる時間など余裕をみておくべき。また、式典が長時間になるほど選手の負担になるため、工夫が必要である。
今後の提案	● 荒天時に備えて、屋内開催を積極的に検討するべき。荒天時対応に備える費用や人的負担も軽減できる。 ● より一般来場者を増やすための広報戦略を推進し、参加者だけでなく全員が楽しめる仕掛けを作るべきではないか。

協賛企業ブース



協賛イベントブース



地域文化伝承館



良かった点	● イベントブースは総合開会式会場と隣接しており、バス等の待機時間を利用して多くの方が来場していた。 ● 各箇所とも測定、体験、ゲーム等が幅広く準備され、楽しめる内容となっている。 ● 物販は売り切れになるほど人気があり、特にTシャツやタオル等の記念グッズは好評である。
課題点	● イベント会場は芝生だったが、雨天の影響でスリップする方がいたため、対策、配慮が必要である。 ● 後催県のPRブースはあったが、参加者にとっては大会中でもありあまり関心を惹くには至っていなかった。
今後の提案	● より多様な協賛企業を獲得することで、体験やサンプリング、物販の幅を広げることが可能となる。 ● 翌年以降の開催地の更なるPRをし興味関心を高める必要がある。ブース出展、POP等があったが、地域文化伝承館の一角や主要競技会場にもPRブースを設ける等の工夫が必要ではないか。

水泳



卓球(会場外の様子)



ラグビー



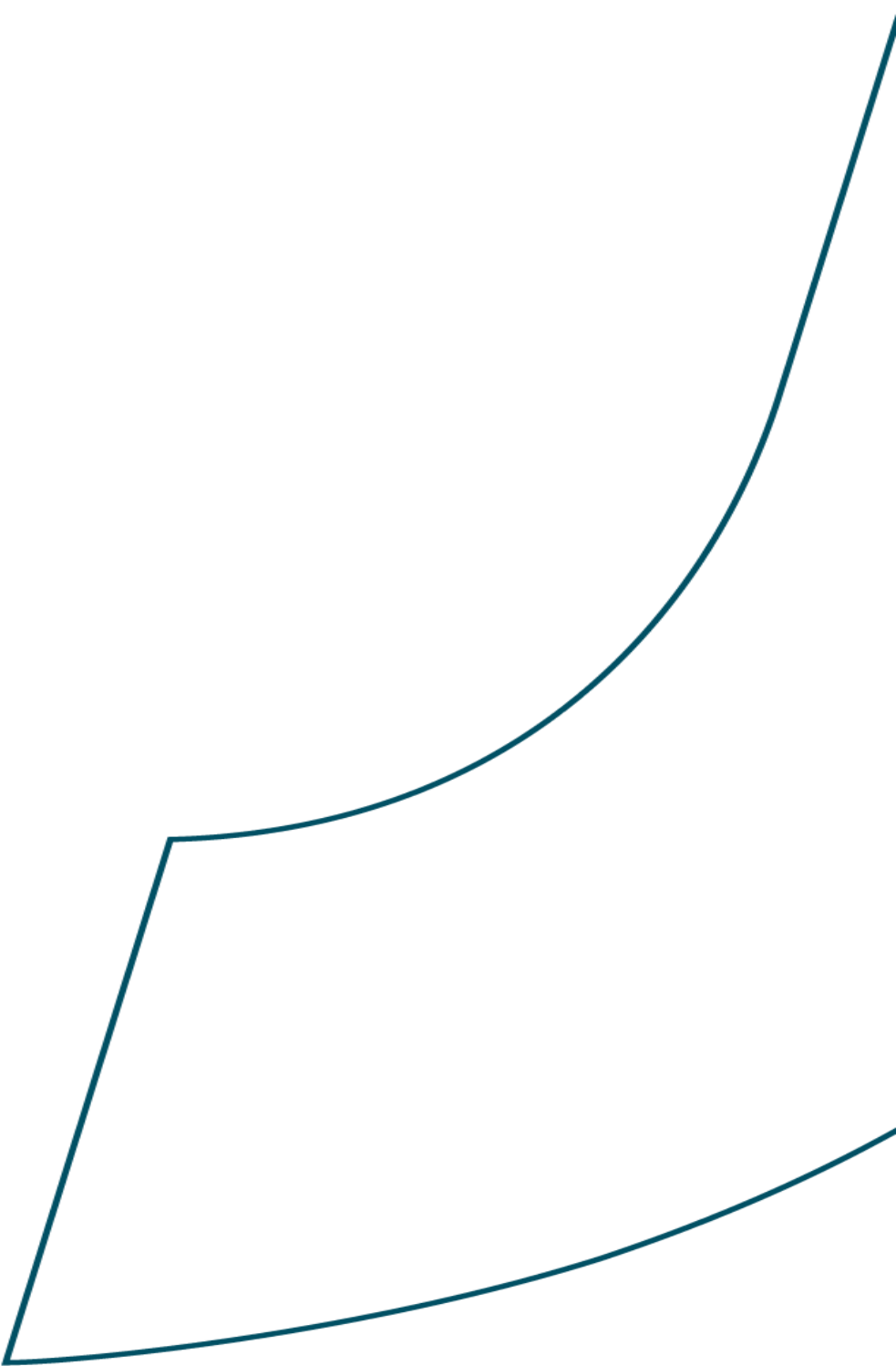
良かった点	● 各競技共にタイムスケジュール通りに正確に進行していた。 ● 場内アナウンスを地元中学生が担当するなど、地域一体となった取り組みが見られた。 ● 高齢者に配慮し、多くの休憩スペースが設けられていた。
課題点	● 応援者や一般来場者の来場がほとんど見られず、参加者の晴れ舞台の盛り上げを最大化できていない。 ● 会場周辺ブースは単に商品が並べられているケースが多く見受けられ、地域特性を出すことができておらず、物販や地域のPRに繋がっていない。
今後の提案	● 地元中高生等の応援団やブラスバンド、チアリーダー等の参加を募り、各チームに割り当てて応援することで、雰囲気醸成、多世代交流、来場者増加等に繋がるのではないかと。 ● 会場周辺ブースでの誘導、コミュニケーションがほぼなく集客に結びついていなかったため、より体験コンテンツや装飾を工夫するなど地域のための誘客意識を持つべきではないかと。

日時:10月21日(火)13:25-14:30
場所:ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール



良かった点	● 記録映像とともに応援大使らがコメントを加えることで、より実感を伴って大会を振り返ることができる機会となっていた。 ● 地元保育園児や児童合唱団の出演など、多様な県民参加の工夫がされていた。
課題点	● 終了予定時間の大幅な遅延(30分程度)があった。 ● 会場の観客席が約360席と少なく、関係者のみで埋まっている状況だったため、一般観覧者席が不足していた。
今後の提案	● 参加資格を地域住民や協賛企業候補等まで拡大し、より次年度以降のねんりんピックにも興味関心を示してもらう総合閉会式とするべきではないか。

5.ヒアリング調査結果



• ①



2025年9月16日(火)9:00~10:00



事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所



ヒアリング分析(概要)

対象企業は、健康寿命延伸を核とした包括的なヘルスケア事業を展開しており、単なる商品提供を超えた社会価値創造に強い意欲を示していると考えられる。

同社の事業アプローチは、高齢者を受益者ではなく主体的な活動者として位置づけている点が特徴的であり、これは老健事業の理念と高い親和性を持つのではないかと推察される。

ノルディックウォーキング協会との連携実績や足測定ブース出展など、既に高齢者向けイベントへの参画経験を有しており、地域密着型の健康増進活動に対する実践的なノウハウを蓄積していると推察される。

特に、参加者が主体的に指導者資格を取得し、地域活動の拡大に取り組む一連の流れは、持続可能な健康増進モデルとして注目すべきであると考えられる。



今後の連携案

■ 短期的な連携案

- ねんりんピック会場での健康測定・相談ブースの設置により、参加者の健康状態の見える化と個別アドバイスの提供が実現できる可能性がある
- サプリメント利用者を対象としたウォーキングイベントの拡大開催により、ねんりんピック参加者の裾野拡大に寄与できる可能性がある
- 健康寿命延伸に関する教育・啓発セミナーの開催により、参加者の健康リテラシー向上が期待できる可能性がある

・ ①

ヒアリング内容

1. 企業の事業内容と社会貢献への関心

- 高齢者向けの事業やサービスに取り組まれている場合、具体的な内容や狙いをお聞かせください。
- ◎ 対象企業は、主に高齢者向けの健康関連事業・サービスを展開している。具体的には、健康寿命の延伸を目的としたサプリメントや健康食品の開発・販売、また、運動習慣を促進するイベント協賛などを実施している。狙いは、単なる商品提供のみならず、健康づくりや生きがいづくりを支援することで高齢者のQOL(生活の質)向上を目指す点にある。
- ねんりんピックの理念(高齢者の健康増進・交流促進等)に対して、どのような共感や関心をお持ちでしょうか？
- ◎ ねんりんピックの理念である「高齢者の健康増進・交流促進」に対しては強い共感を持っている。理由として、企業の事業目的と合致するほか、単なる受益者として高齢者を捉えるのではなく、主体的な活動者・支え手としての役割も重視しているためである。高齢者が社会参画の機会を得ること自体が、健康維持や生きがいにつながるとの認識がある。
- 社会貢献(CSRやCSVなど)活動の重点分野について教えてください。
- ◎ CSR(企業の社会的責任)・CSV(共通価値の創造)活動の重点分野としては、健康寿命延伸、地域との連携、運動習慣の普及、社会的孤立防止などが挙げられる。また、単発的な支援だけでなく、継続的な取り組みや地域社会への波及効果を重視している。

• ①

||||| ヒアリング内容

2. イベント・地域連携の経験と意欲

■ 地域イベントや官民連携事業への協力実績について教えてください。

◎ 地域イベントや官民連携事業への協力実績としては、ノルディックウォーキング協会と連携した全国イベントへの協賛・参加例がある。具体的には、サプリメント利用者を対象にしたウォーキングイベントの開催、足の測定・運動指導ブースの出展などを行っている。自治体との直接連携は現状では大規模な実績は少ないが、今後は積極的に機会を増やしていく方針である。

■ ねんりんピックのような高齢者関連イベントへの参加経験について教えてください。

◎ ねんりんピックのような高齢者関連イベントへの参加経験としては、今年度の岐阜大会で足の測定ブースを別部署が出展すると聞いている。

■ 地域貢献や高齢者とのかかわりに対する貴社の方針や意欲についてお聞かせください。

◎ 地域貢献や高齢者とのかかわりに対する方針・意欲は高い。理由として、健康づくりや社会参画を促すことが企業の理念・事業目的と一致しているためである。また、単なる商品提供に留まらず、参加者が主体的に活動できる仕組みづくりや、地域での継続的な取り組みへの発展を重視している。

・ ①

ヒアリング内容

3. ねんりんピックとの具体的な連携可能性とアイデア

- 高齢者の健康づくりや交流促進に関する独自のノウハウやサービスを活かした連携アイデアがあればご提案ください。
- ◎ 独自ノウハウ・サービスの活用としては、ノルディックウォーキング連携イベントの拡大、健康寿命延伸に関する教育・啓発活動、参加者へのフィードバック(測定データの提供、健康アドバイス)などが提案可能である。また、参加者が指導者資格を取得し、主体的に地域活動を広げていく仕組みづくりも検討したい。
- 連携にあたり、貴社として実現したいことや希望する取り組みがあればお聞かせください。
- ◎ 単発イベントに留まらず、各自治体での継続的な健康づくり活動への波及、参加者同士の交流・連続性のある取り組みの構築が挙げられる。企業として投資価値を高めるにはイベントの単発性を超えた社会的インパクト・持続性が必要と考える。

4. ねんりんピックとの連携への期待・条件

- 協賛・連携に対する社内調整や予算確保の条件は？
- ◎ 社内調整・予算確保の条件としては、企業メリット(広報効果、事業展開可能性、社会貢献度)が明確であること、連携内容が単発ではなく継続的な取り組みに発展できる可能性があることが必要である。

・ ①

ヒアリング内容

5. 連携に向けた体制と今後のステップ

- ねんりんピックとの連携を検討するにあたり、社内の担当部署や体制について教えてください。
- ◎ 社内の担当部署・体制としては、健康事業部門、広報部門、イベント企画部門などが連携を担当する。
必要に応じて、運動指導者資格を持つスタッフや研究部門(グローバルイノベーションセンター等)も関与する体制を構築する。

ヒアリング所感

1. 単発イベントに留まらず、継続性・波及性を重視すべき
 - ねんりんピックが単発のイベントで終わるのではなく、各自治体や地域で継続的な健康づくり活動や交流につながる仕組みを作るべきではないか。
 - 参加者がイベントをきっかけに自分の地域で新しい活動を始めたり、指導者として活躍するなど、継続性のある取り組みへの発展が重要ではないか。
2. 参加者・関係人口の拡大と継続性の設計
 - ねんりんピックの認知度がまだ低いこと、参加枠が限られることが課題であり、更に多くの人に関われる仕組みづくりが必要である。
 - イベント参加者がその後も地域の活動に参加しやすいような連携モデル(「関係人口」の拡大)を意識すべきではないか。

• ①



ヒアリング所感

3. 企業参画のメリットを明確化すべき

- 単発の広報・協賛だけでは企業側の投資価値が見えにくいため、企業が社会貢献や事業展開に繋がられるような設計が必要ではないか。
- 例えば、各自治体での連続的なイベント展開や、企業サービス・ノウハウの地域還元ができるような仕組みを作るべきではないか。

4. 参加者が「受益者」から「主体的な活動者」へ転換できる場づくり

- 高齢者がイベントの受益者として参加するだけでなく、指導者や企画側として主体的に関われる機会を増やすべきではないか。
- 対象企業の事例では、参加者が指導者資格を取得し、地域活動を広げるケースもあるため、そうした主体的な参画を促す計画が望ましい。

5. データ収集・効果測定 of 仕組みづくり

- ねんりんピックを通じて得られる健康データや活動成果を蓄積・活用し、研究機関や学会と連携したエビデンスプラットフォームとしての価値を高めるべきではないか。
- これにより、イベントの社会的インパクトや参加者の健康増進効果を定量的に示しやすくなる。

6. 協賛・連携枠の柔軟性

- 一社独占ではなく、目的や内容に応じて複数企業が協力できる柔軟な枠組みも検討すべきである。

・ ②



2025年9月16日(火)15:00~16:20



事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所



ヒアリング分析(概要)

対象企業は、全国65自治体での介護予防事業受託実績を有し、地域密着型の健康増進サービスにおいて豊富な実践経験を蓄積している。

同社の強みは、介護予防運動指導員の養成事業や「お達者検診」の簡易版測定事業など、専門性の高いサービス提供体制にあると考えられる。

港区での介護予防総合センター指定管理や約400施設への運動指導員派遣など、地域包括ケアシステムの実践者としての立場から、ねんりんピックに対して「日々の積み重ねの集大成」という継続性重視の視点を提示された点は非常に重要である。

一方で、商圈の限定性(半径500m-1km)という制約から、全国大会型イベントへの直接的な参画には課題があると推察される。



今後の連携案

■ 短期的な連携案

- ・ フレイルチェックや体力測定ブースの設置により、参加者の機能評価と運動指導の提供が実現できる可能性がある
- ・ 介護予防運動指導員による専門的な運動指導セミナーの開催により、参加者の運動スキル向上が期待できると考える
- ・ 地域コミュニティリーダーの育成プログラムにより、イベント後の自主活動継続支援を実施できる可能性がある

・ ②

||||| ヒアリング内容

1. 企業の事業内容と社会貢献への関心

- 高齢者向けの事業やサービスに取り組まれている場合、具体的な内容や狙いをお聞かせください。
- ◎ 主にクラブビジネス、特にスポーツクラブの運営を主幹産業としている。健康サポート部では介護予防事業を担当しており、具体的には介護予防運動指導員の養成事業や、健康長寿医療センターと連携した「お達者検診(老化の健康診断)」の簡易版測定事業などを実施している。これらの事業を通じて、高齢者が運動習慣を身につけ、健康寿命を延ばすことを目指している。
- ねんりんピックの理念(高齢者の健康増進・交流促進等)に対して、どのような共感や関心をお持ちでしょうか？
- ◎ ねんりんピックの理念である高齢者の健康増進や交流促進については、非常に共感している。特に「日々の積み重ねの集大成としてのイベント」という考え方に関心があり、単なる一時的な祭典ではなく、地域に根ざした継続的な健康づくりと交流の場としての意義を重視している。
- 社会貢献(CSRやCSVなど)活動の重点分野について教えてください。
- ◎ 社会貢献活動(CSR/CSV)の重点分野としては、介護予防・健康維持、地域コミュニティづくり、専門人材の育成(介護予防運動指導員養成)などが挙げられる。高齢者の自立支援や居場所・出番づくりを通じて、地域包括ケアの推進にも寄与している。

・ ②

ヒアリング内容

2. イベント・地域連携の経験と意欲

- 地域イベントや官民連携事業への協力実績について教えてください。
- ◎ 全国65程度の自治体で介護予防事業を受託している。内容は短期の介護予防教室や測定会、民間老人ホームへの運動指導員派遣(週1回、約400施設)など多岐にわたる。港区では介護予防総合センターの指定管理運営や、区内の老人福祉センター(いきいきプラザ)の運営も担当している。地域イベントとしては、港区や川崎市などで「介護予防フェア」等の発表会企画・運営協力実績がある。また、自治体の入札・プロポーザルにより、総合型介護予防教室や認知症予防教室、体力測定会なども実施している。
- ねんりんピックのような高齢者関連イベントへの参加経験について教えてください。
- ◎ ねんりんピックのような高齢者関連イベントへの参加経験は限定的だが、スポーツクラブ会員の中には高齢者の世界記録保持者もいるなど、個人レベルでは貢献している。今後は、地域の中でボトムアップ型の健康活動や、無関心層へのアプローチにより、イベント参加者層の拡大を目指したい。
- 地域貢献や高齢者とのかかわりに対する貴社の方針や意欲についてお聞かせください。
- ◎ 方針としては、スポーツだけでなく、フィットネス・ウェルネス・フレイル予防など幅広い健康づくりを重視している。地域連携や高齢者の居場所・出番づくりを積極的に支援し、継続的なコミュニティ形成に意欲的である。

・ ②

ヒアリング内容

3. ねんりんピックとの具体的な連携可能性とアイデア

- 高齢者の健康づくりや交流促進に関する独自のノウハウやサービスを活かした連携アイデアがあればご提案ください。

◎ 高齢者の健康づくりや交流促進に関しては、フレイルチェックや認知機能・体力測定などのノウハウを活かし、運動習慣の定着を後押しできる。また、地域コミュニティのリーダー・サポーター・コネクター育成の仕組みを活用し、イベント後も自主活動が継続する仕組みづくりを提案したい。

- 連携にあたり、貴社として実現したいことや希望する取り組みがあればお聞かせください。

◎ 連携にあたり実現したいことは、無関心層や運動習慣のない高齢者へのアプローチ、地域の居場所・出番づくり、介護予防リテラシー向上などである。単なる競技イベントではなく、地域の健康づくりの裾野拡大と持続的な社会貢献を目指したい。

4. ねんりんピックとの連携への期待・条件

- 連携に際して懸念される点や、事前に確認しておきたい条件・課題があればご教示ください。

◎ 商圏が半径500m～1kmと限定的であり、全国大会型イベントでは参加者の動員・継続的な関与が難しい点が挙げられる。また、スタッフ派遣・測定会実施には人員・費用・機材等の条件整理が必要である。費用については、イベント規模や人員数に応じて協議が必要である。

- 協賛・連携に対する社内調整や予算確保の条件は？

◎ 社内調整・予算確保については、クラブビジネス部門と介護予防事業部門が分かれており、連携の際は経営企画室等との協議・承認が必要となる。特に広報予算は限定的であり、事業の社会的意義や自治体との連携メリットが明確な場合に予算化できる可能性がある。

・ ②

||||| ヒアリング内容

5. 連携に向けた体制と今後のステップ

- ねんりんピックとの連携を検討するにあたり、社内の担当部署や体制について教えてください。
- ◎ ねんりんピックとの連携検討にあたり、社内担当部署は健康サポート部(介護予防事業担当)および経営企画室(社会貢献・IR担当)が中心となる。現場対応は介護予防運動指導員等の専門スタッフが担う。
- 今後、具体的な連携に向けてどのようなステップや調整が必要とお考えですか？
- ◎ イベントの具体的な規模・日程・会場条件、期待される参加者層、事業費用負担の詳細、広報・データ活用の範囲などがある。また、地域コミュニティとの継続的な連携や、オンライン参加型の仕組み導入についても検討を希望する。

・ ②



ヒアリング所感

1. まだメジャーではないスポーツ団体の決勝戦をねんりんピックで開催する
 - 全国組織になっているまだメジャーではないスポーツ団体を巻き込み、ねんりんピックを各競技の決勝戦・集大成の場として活用してはどうか。
 - 地域ごとの予選大会を経て、ねんりんピックで全国大会の決勝を行うことで、参加者や団体のモチベーション向上、イベントの多様性拡大に繋げるべきではないか。
2. オンライン参加型イベントの充実
 - eスポーツ等を活用し、会場に来られない遠方の高齢者もオンラインでイベントに参加できる仕組みがあるといいのではないか。
 - オンラインによる健康教室や交流の場を設け、参加者層の拡大と継続的な健康づくりを目指すべきではないか。
3. 参画の検討に際して
 - 高齢労働者が増える社会において、健康経営の一環として、健康診断だけでなくお達者健診も実施し、ねんりんピックと連動した健康づくりを推進できればよい。
 - 商圏が狭いスポーツクラブ自体がねんりんピックの事業と直接つながることは難しいが、多様な高齢者層・無関心層へのアプローチ、オンライン活用、地域コミュニティづくり、健康リテラシー向上など、ねんりんピックの新たな価値創出に向け、対象企業のリソースも活用できることは考えられる。

・ ③



2025年9月29日(月)13:00~14:00



事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所



ヒアリング分析(概要)

対象企業は、全国約100支社・3万7千人の職員ネットワークを活用した地域密着型の社会貢献活動において、他社にはない実践力を有していると考えられる。

同社の特徴的な取り組みである健康麻雀大会は、2024年度約200回開催予定という規模から、高齢者の健康増進と社会参加促進に対する本格的なコミットメントが得られるのではないかと。

「一過性で終わらない」「持続的な地域貢献」「win-winの関係」を重視しており、老健事業の理念と高次元で合致しており、単なる協賛企業を超えた戦略的パートナーとして連携できる素地が整っていると考えられる。

自治体との包括連携協定実績や地方紙などへの情報発信力は、ねんりんピックの認知度向上と地域展開において重要な資産になるのではないかと。



今後の連携案

■ 短期的な連携案

- ・ 各支社で開催する健康麻雀大会に「ねんりんピック応援」の冠を付与し、地域レベルでの認知度向上と参加者裾野拡大が実現できるのではないかと
- ・ 厚労省・ねんりんピックロゴの活用による公式連携の可視化により、イベントや社会的価値の向上が期待できると考える
- ・ 企業対抗戦や多世代参加枠の導入により、従来の高齢者中心から多様な参加者層への拡大の可能性があると考える

・ ③

ヒアリング内容

1. 企業の事業内容と社会貢献への関心

- ◎ 対象企業は、全国に約100の支社、3万7千人の職員ネットワークを持つ大手生命保険会社である。
- ◎ 事業活動の中で「健康寿命の延伸」「地域課題の解決」「人口減少対策」「地域活性化」に強い関心を持ち、自治体との包括連携協定や地域リレーション推進部を設置するなど、社会貢献活動を本気で推進している。
- ◎ 健康麻雀大会など、地域住民の健康づくり・交流を目的としたイベントを全国各地で開催しており、2024年度は約200回の大会を予定している。
- ◎ 「一過性で終わらない」「持続的な地域貢献」「win-winの関係」を重視する企業姿勢である。

2. イベント・地域連携の経験と意欲

- ◎ 対象企業は、各支社で健康麻雀大会を主催し、地域住民の健康・交流を促進している。
- ◎ 自治体や民間団体(健康麻雀協会など)とも連携し、現場レベルで地域イベントを積極的に展開。
- ◎ 地方紙・共同通信・記者クラブ等への情報発信も重視し、広報力・PR力も高い。
- ◎ 自治体との包括連携協定やパートナーシップ契約の実績があり、地域ごとの特色や課題に合わせた柔軟な連携体制を持つ。
- ◎ 今後も「地元愛」「地域活性化」「健康づくり」の観点から、ねんりんピックをフックにした地域連携・イベント展開に強い意欲がある。

・ ③

ヒアリング内容

3. ねんりんピックとの具体的な連携可能性とアイデア

(1)健康麻雀大会との連携

- ・ 各支社で開催する健康麻雀大会に「ねんりんピック応援」「厚労省後援」などの冠を付けて露出・PR (今年のねんりんピック岐阜大会も役員が来訪予定)
- ・ 地域大会をねんりんピックの一環として位置づけ、全国大会への参加資格や啓発活動と連動

(2)広報・PR活動

- ・ プレスリリースの発信、地方紙・共同通信などを通じた情報拡散
- ・ 厚生労働省やねんりんピックのロゴ・冠の活用による認知度向上

(3)多様な参加枠・交流モデル

- ・ 個人戦だけでなく団体戦(自治体代表、企業チーム、オープン枠など)の導入
- ・ 企業対抗戦や職場単位での参加を促すことで、若手～高齢者の交流、多世代参加を実現

(4)他種目・推し活との連携

- ・ Jリーグや地元スポーツチームとの応援活動(推し活)を高齢者施設等と連携して、展開する
- ・ スポーツ観戦や応援を通じた高齢者の元気づくり・交流の場を創出

・ ③

ヒアリング内容

4. ねんりんピックとの連携への期待・条件

(1) win-winの関係・企業価値向上

- ・ 単発の全国大会だけでなく、各地域での継続的な活動・大会への冠付け・啓発活動を希望
- ・ 厚労省・ねんりんピックの名義利用やロゴ使用など、広報面での公式な連携を期待
- ・ 企業活動のPR・ブランド価値向上、地域貢献・CSRの実効性を重視
- ・ 企業側のメリット(PR、ブランド、社会貢献)と主催側のメリット(認知度、参加者拡大、地域活性化)の両立

(2) 柔軟な連携スキーム

- ・ 包括連携協定、パートナーシップ契約など、目的や内容に応じた柔軟な契約形態を希望
- ・ 具体的な活動内容・役割分担を明確にし、実効性のある連携を志向

(3) 参加資格・大会枠の工夫

- ・ 高齢者中心だが多世代交流・企業参加枠なども検討可能
- ・ 個人戦・団体戦・企業対抗戦など、多様な参加モデルへの期待

5. 連携に向けた体制と今後のステップ

(1) 社内体制・意思決定

- ・ 社内でトップ判断を仰ぎつつ、地域リレーション推進部を中心に具体化
- ・ 支社・本部・地域担当との連携体制を活用

(2) モデルケースの検証・拡張

- ・ 健康麻雀大会を中心に、ねんりんピックの冠付け・啓発活動・PRを実施
- ・ モデルケースの成果を他企業・団体にも展開できるよう検証・報告
- ・ 包括連携協定、パートナーシップ契約、ロゴ・冠利用など、実効性ある連携方法を具体化

- ③



ヒアリング所感

対象企業は全国規模のネットワークと、地域密着型のイベント運営、自治体・団体との連携経験、そして「健康寿命の延伸」「地域課題の解決」など社会的意義の高い活動の本気で推進している企業であることが明確になった。

また、一過性の取り組みではなく、持続的・広域的な地域貢献を重視している点、PR力・発信力が高い点も大きな強みである。

ねんりんピックの課題である「認知度向上」「多様な主体の参画」「レガシー活用」「地域での持続的な活動推進」に対して、対象企業の資源やノウハウは非常に有効に活用できると考える。

・ ④



2025年10月6日(月)14:00~15:00



事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所



ヒアリング分析(概要)

対象企業は、インターハイや環境省連携イベントなど大規模スポーツ・社会貢献事業の主催・共催実績を通じて、官民連携イベントの企画・運営・広報に関する包括的なノウハウを蓄積している。同社の強みは、報道機能と事業機能の両輪による多角的なイベント等の支援体制にあると考えられ、単なる広告掲載を超えた総合的なメディアソリューションの提供が可能であると考えられる。

協賛企業獲得業務の受託実績や、全国版・地域版・デジタル媒体を活用した多層的な情報発信力は、ねんりんピックの認知度向上と企業参画促進において重要な役割を果たすのではないかと。特に、「社会的意義(高齢社会・地域活性化)」を重視する企業理念は、老健事業の価値訴求と親和性が高いと考えられる。



今後の連携案

■ 短期的な連携案

- ・ 全国版・地域版での大会記事掲載と特集号発行により、ねんりんピックの社会的認知度の大幅向上が実現できるのではないかと
- ・ 協賛企業募集業務の委託により、企業参画の専門的な促進と効率的な資金調達が可能になると考えられる
- ・ オンラインを活用したデジタル記事・広告展開により、若年層を含む幅広い読者層へ訴求できる可能性がある

・ ④

ヒアリング内容

1. 企業の事業内容と社会貢献への関心

- ◎ 対象企業は、スポーツや文化イベントの主催・共催、報道、協賛者の獲得業務などを幅広く展開している。
- ◎ インターハイや環境省との連携イベント、医療作文コンクールなど、社会的意義のある事業にも積極的。
- ◎ 社会貢献については「高齢社会」「地域活性化」「健康づくり」などの切り口で、イベントを通じた社会的価値の発信に関心が強い。
- ◎ 収益面も重要だが、単なる協賛金獲得だけでなく、企業活動と社会的意義を両立させる事業モデルを志向している。

2. イベント・地域連携の経験と意欲

- ◎ 主催・共催の経験が多く、インターハイでは全国高体連と共催し、協賛企業の獲得業務も受託。
- ◎ 環境省と連携したトレイルイベントでは、協賛金を活用した記事・紙面展開やスポンサー企業の広告掲載など、官民連携の実績を保有。
- ◎ 地域版・全国版での報道、特集号の発行、開催地への配布など多様なメディア展開も可能。
- ◎ 高齢者向けイベント自体の経験は少ないが、医療作文コンクールなど高齢者参加型事業も手掛けている。
- ◎ 今後も「社会貢献」「地域活性化」「健康づくり」などの観点で、イベント連携への意欲を示している。

• ④

🗣️ ヒアリング内容

3. ねんりんピックとの具体的な連携可能性とアイデア

(1) 報道・PRによる認知度向上

- 全国版・地域版での大会記事掲載(編集記者による通常記事や、広告企画記事)
- 特集号や別刷り(開催地での折込(10万部)や、参加者配布など) による周知
- オンライン(デジタル記事+広告)も活用可能

(2) 協賛企業の獲得支援

- 協賛企業募集業務の受託(インターハイ型モデル)
- 協賛企業の広告を紙面・特集号に掲載
- 企業の広告費用を制作費に充当し、報道面を拡張

(3) 企画・事業連携

- 高齢者の生きがい・健康づくり・地域活性化等、社会貢献性の高い取り組みの取材・記事化
- 企業の健康・生きがい関連事業とのタイアップ(PR記事、対談企画、地域活動紹介など)
- イベントのレガシー活用(大会後も継続的な地域活動・企業活動との連携)

4. ねんりんピックとの連携への期待・条件

- 対象企業としては「社会的意義(高齢社会・地域活性化)」が明確な事業には積極的に関与したい
- 協賛企業募集業務受託の場合、協賛金の一定割合(例:1割程度)を手数料として受領するモデルを希望
- 報道・PRに関しては、編集記事は記者の判断が入るため、100%掲載保証は難しいが、講演・名義協力などで調整可能
- 広告企画記事の場合は、広告主の要望に応じた紙面展開が可能(特集記事+広告掲載、金額に応じて面数や掲載範囲調整)
- 契約書や申請文書など、業務の深度に応じて必要な手続きは柔軟に対応
- 企業側・主催側双方にメリットがあるスキームを重視

④

🗣️ ヒアリング内容

5. 連携に向けた体制と今後のステップ

- ◎ 社内では「事業局」「ビジネス局(広告営業)」など、案件内容に応じて関係部署が窓口となる
まずは事業局が検討・調整し、その後、具体的な案件に応じて広告局・編集局等も協力
- ◎ 厚生労働省(ねんりんピック)より具体的な連携案・希望内容を提示し、それを基に社側で社内調整
必要に応じて担当部署を選定し進行
- ◎ 企業協賛募集モデルや広告企画記事モデルなど、複数のスキームを検討し、主催側・企業側双方のメリットをパッケージ化
- ◎ 今後も厚生労働省側で企業周りを進めつつ、対象企業とも随時意見交換・具体案の擦り合わせを行う
- ◎ 連携の実現に向けては、厚生労働省、対象企業の双方でアイデアを持ち寄り、柔軟に協力体制を構築する方針

💬 ヒアリング所感

対象企業は、スポーツや文化イベントの主催・共催、協賛企業の獲得、報道・PR活動などで豊富な経験とノウハウを有しており、社会貢献や地域活性化への関心も高いことが分かった。

また、紙面・デジタル・特集号・地域版など、多様なメディア展開が可能であり、企業協賛の募集やPR活動についても柔軟な体制を持っていることが分かった。

これらのことから、

- ・ 認知度向上
- ・ 企業協賛の拡大、
- ・ 地域・高齢者活動の継続的なPR
- ・ イベントの社会的価値の最大化

などにおいて、ねんりんピックの課題解決と発展に大きく貢献できる可能性があると考えられる。

⑤

2025年11月7日(金)16:00~17:00





事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所

ヒアリング分析(概要)

対象企業は、保険事業の枠を超えて、シニア層を中心とした健康増進や地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでいる。自治体や地域団体との連携を通じて、健康づくりや交流促進を重視し、高齢者を主体的な活動者として位置づけている点が特徴であり、全国各地の支店を拠点として地域包括連携協定の締結や健康イベントの共同開催、スポーツ振興事業への支援など、多様な社会課題への対応型事業を展開している。ねんりんピックの理念にも強く共感し、企業活動を通じて「地域・世代を超えた元気づくり」や「持続可能な地域社会」への貢献を目指している。

今後の連携案

■ ねんりんピック会場での健康測定・相談ブース設置

・ 参加者の健康状態をその場で測定し、個別アドバイスや健康管理サポートを提供

・ 健康データを蓄積し、地域ごとの健康課題分析や改善提案に活用

■ 自治体・地域団体との連携による健康イベントの共同開催

・ 地域住民向けウォーキング大会や健康セミナーを、自治体・地域団体と共同で企画・運営。

・ イベント後も継続的な健康づくり活動(例:ウォーキングクラブ設立、健康ポイント制度導

■ 有名シニアスポーツ選手の起用による認知拡大・参加促進

・ シニア層に人気のあるスポーツ選手をアンバサダーとして起用し、イベントPRや健康づくりの啓発活動を展開。

■ OB・OGの参画による地域活動の活性化

・ 企業OB・OGが地域イベントの運営や健康づくり活動の指導者として参画し、地域コミュニティの活性化を図る。

160

・ ⑤

ヒアリング内容

1. 企業の事業内容と社会貢献への関心

- ◎ 生命保険商品の提供だけでなく、シニア向け新規事業、ライフサポート事業、子育て応援プロジェクト等、多様な社会課題対応型事業も展開している。
- ◎ 社会貢献面では、地域包括連携協定、市町村との健康関連協力、スポーツ振興事業(主に卓球など)への支援など、地域住民の健康づくりや交流促進へ強い関心を持ち、企業活動を通じて「地域・世代を超えた元気づくり」や「持続可能な地域社会」への貢献を志向している。

2. イベント・地域連携の経験と意欲

- ◎ 対象企業は、ねんりんピックの協賛実績がある他、地域スポーツ大会・健康推進イベント・自治体との公的事業にも関わっている。
- ◎ 各地で自治体との連携による健康施策(健康ポイント、啓発活動など)、支社スタッフによる地域振興やボランティアへの保険提供も行う。
- ◎ 本部主導のプロモーションや支社・営業部隊による地域活性化が可能であり、現場レベルでは自治体・学校との協力体制も柔軟に構築できる。
- ◎ 今後も地域・自治体との連携を重視しており、ねんりんピックの趣旨に共感した上で積極的に関与する意欲がある。

3. ねんりんピックとの具体的な連携可能性とアイデア

- ◎ ねんりんピックへの出展(ブース出展など)やボランティア保険提供のほか、スポーツ教室・健康増進活動などの支援
- ◎ 支社・営業部隊による地域告知・ビラ配布・事前告知活動の活用
- ◎ (告知活動は、販促より地域貢献や大会周知活動として)
- ◎ 地域の健康イベントや自治体施策とのコラボレーション(相互PR、健康教室、健康ポイント施策等との連動)
- ◎ 大企業のOB、OGの参画も可能ではないか。
- ◎ 認知拡大のために、有名なシニアスポーツ選手を起用するなどが考えられる。

・ ⑤

ヒアリング内容

4. ねんりんピックとの連携への期待・条件

- ◎ 基本的に、支社においては保険の商品購入につなげていきたいと考えている。支社スタッフの現場負担と業績効果のバランスが難しい。
- ※ 支社は契約額や件数で評価されるため、それに繋がるメリットがないと動けない(動かない)。
- ◎ 社会的貢献やブランド向上に結びつくことを重視するには、本社の別の部署が担当となる。本部主導でプロモーション効果・社会貢献を実感できる仕組みづくりが重要。
- ◎ 事業部横断の連携(スポーツ振興部、ヘルスケア事業部など)や自治体との関係深化の必要性。

5. 連携に向けた体制と今後のステップ

- ◎ 支社・営業部の現場体制と本部(プロモーション部・社会貢献事業部など)との役割整理が必要。
- ◎ 埼玉県との連携は包括協定等で先行実績あり、具体的な大会協力内容については今後自治体と協議。
- ◎ ねんりんピック側からも具体的な提案内容・協力要請を提示すれば、対象企業側は社内該当部署で検討・調整が可能。
- ◎ 実際の連携に向けて、年間計画(事前告知、協賛、運営協力、プロモーション)の設計と現場・本部の連携強化。

ヒアリング所感

- 対象企業は単なる広告協賛や協賛金集めにとどまらず、イベントの価値や社会的意義を最大限に引き出す仕組み作りに前向きである。
- 多様なメディア展開や柔軟な体制を持ち、企業協賛の募集やPR活動も対応可能である。
- 今後、対象企業側へ具体的な協力要請・提案内容を整理し、双方の意向や課題を踏まえた協議を進めることが重要である。
- 企業・自治体・地域住民が一体となった持続可能な連携モデルの構築に向けて、引き続き情報共有・意見交換を重ねていく必要がある。

⑥農林水産省(食料安全保障室)

2025年11月13日(木)14:00~15:00





事務局 ※厚生労働省
JTB総合研究所

ヒアリング分析(概要)

対象団体は、地域イベントや自治体・企業とのコラボレーションを通じて、食文化の普及や健康づくり、社会参加の機会創出に積極的に取り組んでいる。

既存事業について、地産地消や国産食材の普及、PRイベントを全国各地で継続的に展開しており、全国に8,000社の推進パートナーが存在。ねんりんピックとも連携が可能なスキームである。PRイベントは、毎年ターゲットを変えて実施、認知向上を目指している。

今後の連携案



厚生労働省主催
「ねんりんピック」

①健康・食育フェス

- 会場内で地産地消・国産食材を活用した健康食フェスや食育ワークショップを実施
- 地元生産者や飲食店と連携し、参加者に地域食材の魅力を体験

②健康づくりと食文化の融合プログラム

- スポーツイベント(ウォーキング大会、卓球大会など)と連動し、健康的な食事・栄養指導をセットで提供

③多世代交流型の食育・健康イベント

- 高齢者を中心に誰でも参加できる食育体験・料理教室を開催し、世代間交流を促進
- 地域の伝統食や健康食をテーマにした講演会・パネルディスカッション実施

163

・ ⑥

||||| ヒアリング内容

1. 地域イベントにはどのように関わっていますか。

- ◎ 対象団体は、地域イベントを自治体や教育委員会、水産庁等と連携して開催している(例:さかな文化祭)。これらのイベントでは、地域住民が地元の食文化に触れながら、「食」や「農」についての理解を深める機会を提供している。
- ◎ イベントの企画段階から運営まで幅広く関与し、地域の特色や課題に合わせたプログラムを、毎年趣向を変えて展開している。

2. 既存イベントの具体的な活動内容を教えてください。

- ◎ 地産地消や国産食材の普及を目的とした食育イベントを全国規模で展開している。8,000社以上の協力企業(推進パートナー)と連携し、地域の生産者や飲食店と協力して、参加者が地元食材の魅力を体験できる取り組みを進めている。
- ◎ 食を通じて農業や地域の活性化を促進することに力を入れている。

3. 高齢者向けの健康づくりや社会参加促進にはどのような取り組みがありますか？

- ◎ 過去に、既存イベントで高齢者にフォーカスしたことはないが、郷土料理は地産地消と親和性がある。また、国産や地産地消のイメージは健康ともつながると考えている。

・ ⑥

||||| ヒアリング内容

4. イベント後のフォローや継続的な活動支援は行っていますか？

- ◎ イベント終了後も自治体や地域団体と連携し、食育や健康づくり活動の継続を支援し、単発で終わらせず、地域コミュニティが自主的に活動できるよう情報提供やノウハウ共有、フォローアップ体制を整備している。
- ◎ 推進パートナー登録を条件として、出店や活動の輪を広げている。
- ◎ 事業の進行は委託事業者と農林水産省が相談しながら柔軟に対応している。

5. 地域ごとの課題にはどのように対応していますか？

- ◎ イベント規模や内容は地域の状況に合わせて様々な調整をし、運営体制や協力方法も見直す。
- ◎ 予算状況に応じて委託方法を変更し、地方イベントは地域事業者への再委託もしている。
- ◎ 計画は状況に応じて全国規模や限定開催など柔軟に決定している。

6. 多世代交流やコミュニティづくりについて教えてください。

- ◎ 既存イベントはターゲットを絞らず全世代が対象となっており、親子連れや高齢者も参加可能である。
- ◎ 郷土料理や地産地消をテーマに、世代を問わず地域の繋がりを意識したイベントを展開している。

・ ⑥



ヒアリング所感

- 地域イベントの規模や内容に応じて、自治体・企業・団体との協力体制を柔軟に構築する必要性を強く認識
- 地域の伝統食や国産食材を活用したPR活動は、集客力があり参加者の満足度や地域経済への波及効果が高い
- 既存イベントの理念を活かし、食文化・健康づくり・社会参加を一体的に推進するモデルの構築に前向き
- イベント後の自主活動継続支援や、多世代交流の場づくりにも力を入れている
- 地域コミュニティの持続的な発展を目指し、自治体のコスト負担や運営体制の課題にも配慮
- 参加者層の拡大や新たな連携方法の模索を続けている
- 食と健康を軸にした具体的な連携策をさらに深め、地域社会全体の活性化に貢献したいという強い意欲が感じられる

- ⑦株式会社ユニクロ



2025年11月19日(水)10:00~10:50







事務局 ※厚生労働省



ヒアリング分析(概要)

対象企業は、全世代に長く使える商品を提供し、高齢者層にも支持されている。
ねんりんピックとの連携を模索するにあたっては、単なる単発の協賛に留まらず、企業価値や地域貢献に繋がる持続的な
タイアップであることが求められる。例えば、従来からのブランド力や全国800店舗のネットワークを活かした、対象企業の
既存の取組みを、ねんりんピックにも応用して実施すること等が考えられる。
中長期的な見通しを双方向で共有したうえで、何かおもしろいアイデアが生まれて、新しい取組ができるとよい。



今後の連携案



厚生労働省主催
「ねんりんピック」

×

①公式イベント化

- ねんりんピックの公式イベ
ントとしてスポGOMIを
取り入れ、アクティブシ
ニア層の健康促進と地域交
流を図る

②自治体との連携

- 地域自治体と連携し、スポ
GOMI活動の普及や啓発
を対象企業のネットワーク
を活用して推進する

③広報活動としての連携

大会優秀者には対象企業
から表彰や特典を贈呈し、
持続可能な社会貢献活動
として広くPRする

167

・ ⑦

ヒアリング内容

1. 対象企業の商品展開の特徴を教えてください。

◎対象企業は、流行に左右されず全世代が長く使える商品を提供している。ユーザーのターゲティングは実はしていない。高齢者にも愛用されており、生活に寄り添ったデザインと品質が評価されている。

2. ねんりんピックとの連携で期待する効果を教えてください。

◎ねんりんピックを通じて伝えたいメッセージと、対象企業のブランドメッセージがつながるとよい。連携のやり方次第ではある。

3. 具体的な連携案をどのようにお考えになりますか？

◎単なるユニフォーム提供や、単発のファッションショーなどでは、次につながらない。中長期的な視点で、いつまで何をしていくのかということを双方向ですりあわせることが必要。

◎店舗やイベントでスポゴミ大会を実施している。既存の枠組みとして取り組んでいる内容をねんりんピックに活用できるとスムーズである。特に、ゴミ拾いは、年代問わず実施でき、地域特性も出しやすい。また、1回で終わらずイベント後の継続可能性もある取り組みである。

◎他にも、スペシャルオリンピックとの連携、ダウンリサイクルでのシルバー人材センターとの連携など、過去の連携例を参考に、社内でもどのような連携方法があるか考えてみたい。

◎対象企業のアンバサダーは、スポーツをやっている人がほとんどであるため、連携してスポーツの楽しさを伝えるということもできるだろう。

・ ⑦

ヒアリング内容

4. 今後のねんりんピックについてどのようにお考えでしょうか(課題等)?

- ◎リブランディングということであれば、アンバサダーを起用する方法は、発信・拡散力になる。
- ◎令和9年度スピンオフイベントの規模感が気になるところ。

ヒアリング所感

- 対象企業の展開する商品は高齢者層にも支持されており、全世代を対象としている。
- ねんりんピックとの連携で、企業価値や地域貢献のPRがさらに期待できるのではないかな。
- スポGOMIとの連携は、健康促進と地域交流の両面で有効であると考えられる。
- 単なるユニフォーム提供や物品協賛ではなく、地域の健康づくりや社会参加を促進するための情報発信等についても協働できる可能性があるのではないかな。
- 高齢者が「おしゃれ」を楽しみ、外出や人との交流の機会が増えることで、健康寿命の延伸や社会的孤立の防止にも役立つのではないかな。
- 企業のCSR活動や地域貢献活動として、ねんりんピックとの連携は今後さらに発展の余地がある。

⑧



2026年1月13日(火)13:00~14:00





事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所



ヒアリング分析(概要)

対象企業は、シニア向けプラットフォームを運営しており、オンラインでのユーザーへの情報提供や企業と個人のマッチングを主な事業としている。過去にはねんりんピックへの出展経験もあるが、コストと効果のバランス、組織変更、チームメンバーの減少などにより、R7岐阜大会以降は参加が難しい状況にある。自治体との連携も行っているが、デジタルデバйд解消や健康増進教室など、自治体がメリットを感じられるイベントを重視している。

ねんりんピックの課題として、認知度の低さや、現地参加に限定される点が挙げられており、オンラインでの参加形態や、認知度向上後の具体的な出口戦略の必要性を認識している。



今後の連携案

■ 交流促進

・ ねんりんピック参加者間の交流を促進するため、オンラインプラットフォームを活用した交流イベントやコミュニティ形成。

■ 認知度向上

・ 試合のオンライン配信や、カメラマン・レポーターの派遣によるアプリでの情報発信を通じて、ねんりんピックの認知度向上を図ることが可能。

自治体と連携したイベントの企画

自治体がメリットを感じられるような、デジタルデバйд解消や健康増進教室と連携したイベントなどの企画・実施。

■ プロモーション

・ プラットフォームを活用し、ねんりんピックのプロモーションを企業タイアップ形式で実施。

170

・ ⑧

ヒアリング内容

1. ねんりんピックへの関わり
◎ 神奈川大会以降関わり、愛媛大会・鳥取大会では出展経験あり。
2. シニア向け事業展開の重点
◎ アプリ内広告やプラットフォーム運営がメインである。ユーザー主体でのコミュニティ形成を重視し、サービス内での他サービス連携(ポイントなど)や企業と個人との連携も推進している。オフラインイベントは独自でも開催しているが、アプリの認知度向上にはコスト対効果が低いと認識している。
3. 岐阜大会への不参画理由
◎ 宿泊費の高騰、開催場所への交通手配の困難さ、組織変更、チームメンバー減少による、利益確保の不透明さが要因。
4. 高齢者向け活動の方向性
◎ シニア層向けに、ウェビナーを通じた企業紹介、コラムなど有益な情報提供をオンラインで展開し、オフラインイベントでは既存ユーザー向けが中心である。企業とのマッチングをKPIとしている。
5. 自治体との連携
◎ 内容により連携を断る場合もあるが、民生委員活動やシニア層向け研修活動、デジタルデバйд解消、健康増進教室などを中心に多岐にわたり連携している。
6. 企業からみたねんりんピックの課題
◎ ねんりんピックの課題として、自治体への利益還元不足、コストの高さ、認知度の低さ、関心を持たせる難しさがある。オンラインでの参加形態や、認知度向上後の具体的な出口戦略があれば、協力の余地がある。

・ ⑧

ヒアリング内容

7. ねんりんピックに参加した印象

- ◎ 参加者が限定的で、観戦者も少ない印象があり、選手でなくても誰でも参加できる形にすべきである。参加者以外も楽しめる仕組みがあればイベントの意義が高まる。

8. 高齢者向けのアクション

- ◎ 全て自主イベントとして開催しており、スマホ教室のウェビナー配信、警察庁と連携した詐欺防止活動などを月5回以上実施し、今後も拡大予定である。ユーザーは無料で参加可能で、ポイントと情報を組み合わせて提供している。企業タイアップをメインとし、ユーザー不足は課題ではない。

9. 今後に向けて

- ◎ ねんりんピックの認知度向上後のライフスタイルや開催地の豊かさに繋がる出口戦略が必要である。フェーズを分けて、シニア中心から全世代への拡大も検討するべきである。

ヒアリング所感

- 対象企業は、保有プラットフォームをを通じてシニア層へのアプローチに強みを持つ。ねんりんピックへの過去の参画経験から、イベントの課題を具体的に認識しており、特にオンラインでの展開や認知度向上後の出口戦略に課題意識を持っている。
- オンラインプラットフォームや企業タイアップのノウハウは、ねんりんピックの新たな参加者層の獲得や情報発信において有効な手段となり得る。ただし、協力には企業としてのコストと効果のバランスを重視しており、具体的な連携案が事業戦略と合致するかどうかの擦り合わせが重要となる。

⑨



2026年1月19日(月)14:00~15:00





事務局 ※厚生労働省

JTB総合研究所



ヒアリング分析(概要)

対象団体は、eスポーツをゲームではなくスポーツとして社会に根付かせることを目指し、普及活動を展開している。全国に都道府県支部を設け(未設置都道府県もあり)、国民スポーツ大会の文化プログラムとして全国都道府県対抗eスポーツ選手権を主催するなど、公的なスポーツイベントへの参画実績も豊富に保有している。

社会貢献活動にも積極的で、特に地方においては高齢者福祉、障害者支援、地方創生といった社会課題解決の文脈でeスポーツを活用するアプローチを重視している。大学との共同で高齢者eスポーツ導入ガイドを作成するなど、高齢者へのeスポーツ普及にも力を入れており、ねんりんピックとの連携には非常に前向きな姿勢を示している。



今後の連携案



厚生労働省主催
「ねんりんピック」

①運営ノウハウ提供と企画協力

● 厚生労働省や自治体を選定したイベント運営会社に対し、対象団体がeスポーツ競技運営のノウハウ提供や企画協力を行う。

②高齢者向けゲームタイトルの選定

● 高齢者向けイベントで実績があり、参加者・観客ともに盛り上がる太鼓の達人、ぷよぷよ、グランツーリスモなどを有力候補として検討。

③有名eスポーツプレイヤーの招聘

● 過去の大会優勝者や有名eスポーツプレイヤーを招き、トークセッションやエキシビジョンマッチ、参加者との交流の場を設けることで、イベントの魅力を高め、メディアや若者へ訴求する。

④都道府県代表や市町村代表としての位置づけ

● ねんりんピックをeスポーツの全国大会と位置づけ、参加者のモチベーションを最大化する。

173

・ ⑨

ヒアリング内容

1. 企業の事業内容と社会貢献

- ◎ 2018年設立のeスポーツ国内競技統括団体であり、eスポーツをスポーツとして社会に根付かせることを目指し普及活動を展開している。全国に38の都道府県支部を設立し、国民スポーツ大会の文化プログラムとして全国都道府県対抗eスポーツ選手権を主催している。
- ◎ 日本スポーツ協会や日本オリンピック委員会へも加盟している。
- ◎ 社会貢献面では、首都圏以外の地方で高齢者福祉、障害者支援、地方創生の文脈での活用を重視している。
- ◎ 千葉大学と共同で高齢者eスポーツ導入ガイドを作成・配布し、人材育成でも連携している。

2. eスポーツイベントの実施形態について

- ◎ 「メーカー主催」「自治体主催(運営は民間企業に委託)」「コミュニティ大会」の3形態に分類できる。地方自治体では、特に群馬県が、eスポーツ担当課を設置するなど、力を入れている。
- ◎ 対象団体は、受託事業者を決めるコンペの審査委員として入ることもある。
- ◎ 使用するゲームタイトルについては、事前にゲームメーカーからの許諾が必要。

3. イベント・地域連携の経験と意欲

- ◎ 「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」や「東京eスポーツフェスタ」など大規模イベントの実績が豊富である。「東京eスポーツフェスタ」では、パネルディスカッションを主催した。
- ◎ ねんりんピックに以前から注目しており、鳥取大会のeスポーツ交流大会にも出向いた。選手のレベルが高いと感じていた。
- ◎ eスポーツに対する社会的な理解、特に高齢者福祉での有用性の理解が深まることを期待している。

・ ⑨

ヒアリング内容

4. R9ねんりんピックスピンオフイベント等への具体的な連携可能性とアイデア

- ◎ 対象団体が直接イベント運営を受託するのではなく、イベント運営受託会社へのノウハウ提供や企画協力が現実的である。
- ◎ 高齢者向けのeスポーツ種目には「太鼓の達人」、「ぷよぷよ」、「グランツーリスモ(高齢の男性に人気)」が有力。
- ◎ 過去のねんりんピック大会での優勝者や有名eスポーツプレイヤーを招いた交流イベントや、オンライン配信とパブリックビューイングによる広報の提案あり。

5. 連携に向けた体制と今後に向けて

- ◎ 企業協賛には少なくとも1年前からの準備期間が必要である。動き出しは早い方がよい。
- ◎ ゲームメーカーやeスポーツに関心が高い一般企業へのアプローチが重要。協賛事例としては、賞金に対して協賛に入ってもらった例や、物品協賛の例がある。協賛のつきやすさはイベント内容によるため、戦略的な企画が求められる。

ヒアリング所感

- 対象団体は、eスポーツの社会的な価値、特に高齢者福祉での活用に強い関心と実績を持つ。
- ねんりんピックとの連携には極めて前向きであり、eスポーツ導入は多世代交流の促進、新たな参加者層の開拓、大会の認知度向上に大きな可能性を秘めている。
- 身体的な制約を受けにくいeスポーツは、これまでスポーツイベントに参加しづらかった層にも門戸を開き、各地域での“都道府県代表”という目標は高齢者の生きがい創出にも繋がる可能性がある。
- オンライン配信との親和性も高く、ねんりんピックの魅力を全国、若年層へと発信する上で効果的な手段となる。
- 早期の計画策定、運営体制の構築、企業協賛を募るための戦略的な企画を進めるべきである。

⑩

2026年1月22日(木)13:30~14:30





事務局 厚生労働省

JTB総合研究所

ヒアリング分析(概要)

対象企業は、長期ビジョンを掲げ、全国に290拠点以上のスポーツクラブを展開している。単なるフィットネスジム運営に留まらず、自治体や地域団体と連携し、地域住民の健康増進や社会参加の促進に積極的に取り組んでいる。特に、高齢者層の健康づくりや生きがい創出に注力しており、認知症の方へのテニス指導や、ドローン、コーヒー教室など、多様なコンテンツを通じて高齢者の社会参加を促す活動を展開している。

ねんりんピックに対しては、その理念に共感し、地域課題解決や住民の巻き込み、参加者のレガシー形成に貢献できる可能性を認識している。

今後の連携案



厚生労働省主催
「ねんりんピック」

×

①冠競技大会と地域連携イベントの共同開催

- 対象企業のノウハウでねんりんピック冠競技を創設し、自治体と連携により健康増進、多世代交流イベントを共同実施。

②ねんりんピック参加者の健康データ活用とレガシー形成

- 参加者の健康データを分析し、介護予防費削減などアウトカムを可視化。ねんりんピックが地域課題解決に貢献するレガシーを構築。

③店舗・人材を通じた地域住民の巻き込みとコミュニティ形成

- 対象企業の店舗や人材で、ねんりんピックを目標とした地域住民コミュニティを支援し、社会参加と生きがい創出を促進。

176

• ⑩

ヒアリング内容

1. 地域活動・地域貢献

- ◎ 世田谷区との包括連携で認知症の方へのテニス(オレンジテニス)を提供している実績がある。会員の半数が高齢者のクラブもある。

2. 自治体×民間企業の連携事例

- ◎ 対象企業における事例として、鳥取県伯耆町と連携して実施した、社会福祉協議会運営フィットネスクラブ(みぞぐちテラソ)の立ち上げ事例や、鳥取県境港市でのeスポーツ運営事例がある。
- ◎ 民間企業としては、行政の事業と協働することで周知がしやすい。さらに、企業としての収益増加や認知度向上に繋がれば連携しやすい。

3. ねんりんピックの競技種目およびeスポーツについて

- ◎ 対象企業の事業内でeスポーツを導入している事例がある。品川区でのUD(ユニバーサルデザイン)スポーツとしての導入事例や、鳥取県みぞぐちテラソでの太鼓の達人常設事例など。eスポーツは、応援隊として子どもなど若年世代を巻き込むこともできる強みがある。
- ◎ ねんりんピックで実施する競技種目を統一することで、全国対抗戦が可能になるというレガシーが考えられる。

4. ねんりんピック開催自治体にとってのメリットについて

- ◎ 高齢者だけでなく、子どもや若者を巻き込むことで、教育、防犯、防災など多様な行政施策への波及効果へつながる。
- ◎ 単なる経済波及効果だけでなく、様々な行政施策への反映など、自治体向けのメリット設計や説明があると、よいのではないか。

5. 対象企業における介護予防事業の事例

- ◎ 広島県福山市でのドローン教室(参加者9割以上が男性)、サッカー教室(FCと連携)、コーヒー教室(地元カフェと連携)の事例がある。これらは社会参加を促すためのきっかけであり、最終的な出口を自治体と共に検討している。

• ⑩

ヒアリング内容

6. 健康経営と防災プログラム

- ◎ 従業員の健康維持のための目標設定としてねんりんピック参加を意識させることも重要なのではないか。
- ◎ 30自治体と防災協定を結び、エコノミークラス症候群予防や避難するための体力づくりを促進している事例がある。危険場所の街歩きなら参加するという地域住民も居るため、地域課題に対して複合的に課題解決していくことが重要。

7. 対象企業の事業展開

- ◎ 320程度の自治体と関わりがあり、介護予防や子どもの事業など性別や年代を問わず健康に寄り添っている。高齢者は地域の宝であり、ハッピーになってもらうことが大事、という理念で事業を運営している。
- ◎ イベント後に、自主グループができたりという事例もあり、自走化した地域展開へとつながっている。

8. ねんりんピックとの連携案

- ◎ 対象企業の拠点と連携し、ねんりんピックを目標に据えた、地域住民を巻き込んだコミュニティづくりや、開催自治体のレガシー活用が考えられるが、連携に際し、取組の出口を考えることが重要。

9. イベントでのブース出展の実績

- ◎ 物販ではなく体験型コンテンツ(血管年齢測定、エクササイズ体験など)を提供し、防災イベントにも出展している。
- ◎ イベント参加者がクラブへ入会することを想定し、招待券や割引券を配布している。
- ◎ R9スピンオフイベントとの連携に際しては、ねんりんピックの入口・出口という着眼点で整理できるとよい。

• ⑩

ヒアリング内容

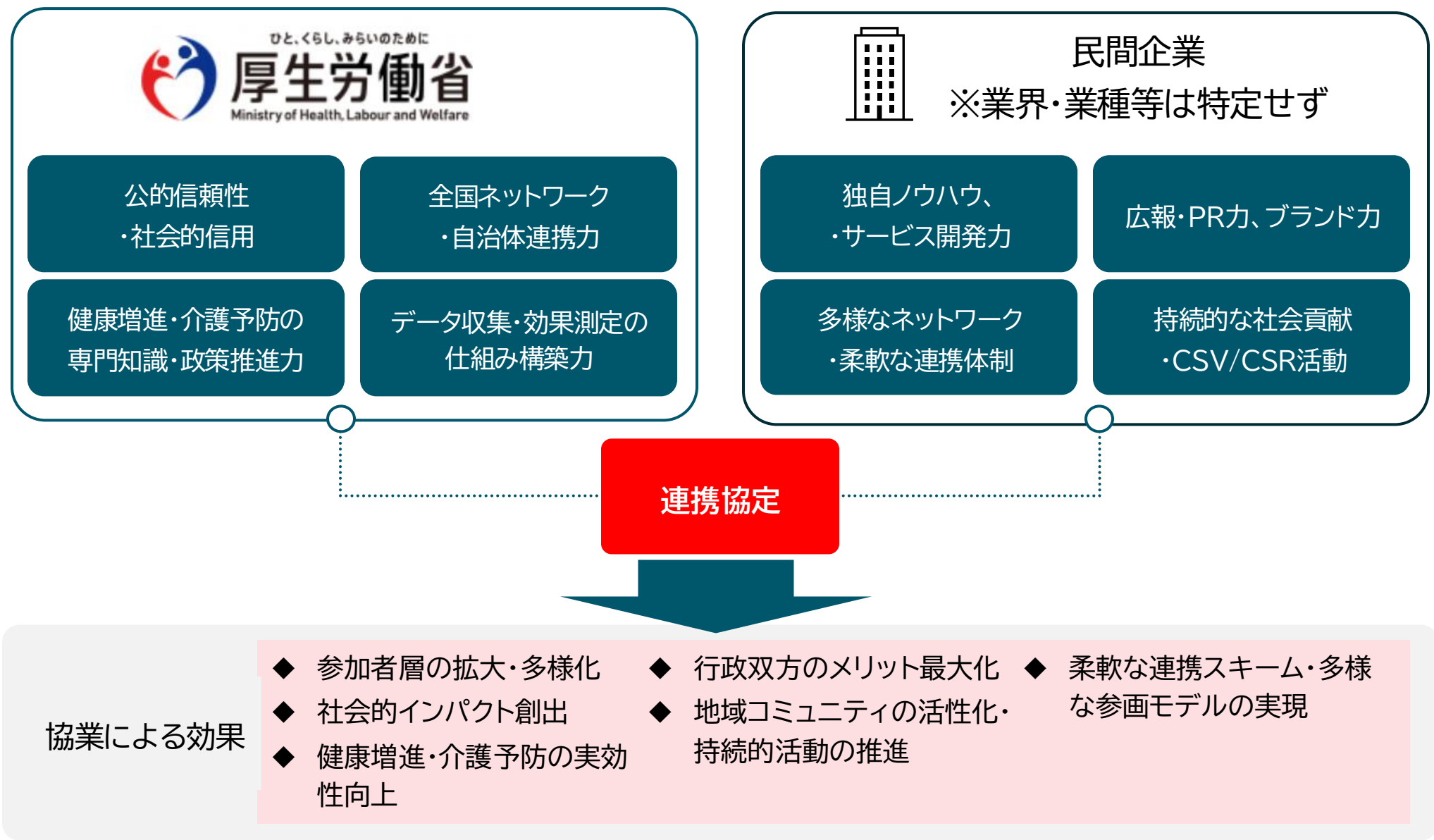
10. 事業展開と今後の連携

- ◎ 「人生100年時代を豊かにする健康のソリューションカンパニー」として、共創をキーワードに地域資源の融合とハブ役を担うことを目指している。
- ◎ 参加者が、義務感ではなく、楽しみながら活動し、生きがいを持てるような姿が課題解決につながると考えている。

ヒアリング所感

- 対象企業は、スポーツクラブ運営や、自治体との連携事業で培ったノウハウと全国ネットワークを活かし、地域住民の健康増進と社会参加を支援する事業に積極的に取り組んでいる。
- 高齢者層に対するアプローチのノウハウは多岐にわたり、単なる運動指導に留まらず、ドローンやコーヒー教室といったユニークなコンテンツを通じて、高齢者の社会参加のきっかけと出口を創出している。
- ねんりんピックに対しては、その理念に深く共感し、単発の協賛ではなく、地域課題解決や多世代交流、参加者のレガシー形成といった中長期的な視点での連携の可能性がある。自治体との連携実績や、地域に根差した店舗展開は、ねんりんピックの認知度向上、参加者層の拡大、そして開催自治体における持続的なレガシー創出に大きく貢献し得る。
- 今後の連携においては、対象企業が重視する共創の精神に基づき、開催自治体などが具体的な協力要請や提案内容を整理し、双方の事業戦略と合致するようなwin-winの関係を構築することが重要である。

- ねんりんピックにおける民間企業との連携モデル



6. 有識者会議議事録

令和7年度老人保健健康増進等事業 第1回有識者検討会（議事録）

日時：2025年8月4日（月）10:00～12:00

場所：厚生労働省5階専用16会議室+Teams

参加者：（資料2）第1回 有識者検討会 参加者名簿参照

1. 開会・挨拶

○事務局挨拶（片岡章・株式会社 JT B 総合研究所）

- ・配布資料の確認（議事次第、資料2～4、参考資料4点）
- ・本事業の事務局を務める JT B 総合研究所より進行

○厚生労働省挨拶（清水修課長補佐）

- ・ねんりんピックは昭和63年から実施しているが、近年は開催経費上昇が課題
- ・効率的・効果的な高齢者健康づくりイベントのあり方の検討が必要
- ・ざっくばらんなアイデア出しを期待する

2. 検討委員紹介・挨拶

○藤原佳典座長（東京都健康長寿医療センター研究所）

- ・公衆衛生専門、高齢者の社会参加・社会貢献に関する研究を行っている
- ・都内全市区町村の介護予防・フレイル予防の支援や研修を行政と連携して実施

○押見大地委員（東海大学体育学部）

- ・スポーツイベントの社会的効果や、地域活性化との関連を研究
- ・ねんりんピック未見学、今年度は見学したい
- ・スポーツ文脈の人たちにも伝わるあり方が検討できることを期待する

○手塚光洋委員（全国老人クラブ連合会）

- ・市役所経験も活かした実務的視点で参画したい

○古田桂一委員（ロトマイム株式会社）

- ・沖縄で観光マーケティング会社（Webマーケティング）を経営
- ・空手ツーリズム専門旅行会社経営し、スポーツツーリズムに関わってきた
- ・沖縄も運動不足による健康寿命の課題がある

- ・民間事業者の視点から貢献したい

3. 事業方向性説明（清水課長補佐）

○ねんりんピックの現状

- ・昭和63年から毎年開催し、延べ約60万人参加の大規模イベントである
- ・令和9年度は開催自治体の手が上がらず、厚労省主催で代替イベントを実施予定

○価値・効果

- ・健康づくり・社会参加など公益的な目的を持ったイベント
- ・行政機関主催の信頼性
- ・参加者延べ約60万人の大会規模
- ・多彩な大会内容（スポーツ・文化活動）
- ・100億円を超える経済波及効果

○課題

- ・開催自治体負担増大（12-13億円の支出）、人的負担大
- ・一般認知度は低い
- ・成果評価、レガシー活用不足（地域づくりや健康づくりへの継続的效果検証の不足）

○検討の方向性

- ・高齢者健康づくり、健康寿命延伸の充実策 → ねんりんピックの価値の向上（令和9年度にモデル事業として部分的に実施）
 - ① ターゲット：日常的にスポーツ等に取り組んでいない方
 - ② アプローチ：「やりたいこと」「楽しいこと」を重視
 - ③ 大会前後の取組との連動による日常的活動機会創出

・効率的・効果的開催方法

- ① 開催期間・時期・規模等の見直し
- ② 宿泊輸送費改善
- ③ 民間企業の参画推進

○具体的検討事項

- ① 広報・PR強化：ブランディング、マスメディア協力
- ② 民間企業参画：企業主体イベント、協賛拡大
- ③ 地域活動活性化：活動団体×民間企業連携

4. 委員意見交換

○藤原座長ご意見

- ・ターゲットとなる高齢者に対する年齢層別アプローチ（前期高齢：メタボ対策・社会参加移行、後期高齢：フレイル対策）と、ライフコースに沿って段階的に移行することをどうプログラムに反映するか
- ・就労高齢者への配慮・仕事との両立の可能性など、高齢者のライフスタイルのイメージを持って取り組みを実施する必要がある
- ・民間企業連携：CSR（Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任））→ CSV（Creating Shared Value（共通価値の創造））・SDGs・ESGへの発展、win-winの関わりが重要
- ・先々のことを見据えて企業からアイデアを出してもらうなど、企業のセンスに期待したい
- ・今後の企業との取り組みについてどう作っていくのか（個別またはワーキンググループ等）についても要検討

○手塚委員ご意見

- ・自治体負担軽減として、企業協賛のほかに、種目の縮小を含めた選定をしてはどうか
- ・なじみのないスポーツ種目もあり、全種目に選手を派遣できない
- ・参加費用（バス代・宿泊費）も高騰し、選手派遣側としても今後縮小の可能性がある

○押見委員ご意見

- ・ターゲット・競技レベルについて、誰のための大会で競技レベルはどこを目指すのか → どこを目指す大会なのかを確認したい
- ・ターゲットに応じて、多世代交流で誰を巻き込むのか、その方法も変わってくる
- ・協賛企業との積極的連携は望ましく、健康産業展に大会として参加するのも良い
- ・企業は高齢化社会に向けたサービスには積極的なため、ねんりんピックも実証実験の場にもなるだろう
- ・大会規模について、現状はフルスペック感があり種目ごとに参加人数等の精査が必要
- ・開催都市を固定化することによるインフラ活用によるコスト削減は、オリンピックでも議論されていることである
- ・令和9年をトライアルの大会とすれば、非常に良いチャンスになる
- ・ワールドマスタースゲームズ（2027年開催）はヒントにできるのでは（年齢層や、協賛募集など）

○古田委員ご意見

- ・60 万人規模の集客力は、地域の事業者にとって新規ユーザー獲得のチャンスになる
- ・Web マーケティングの活用方法として、60 歳代インターネット利用率は 9 割を超えている。認知率を上げるための Web マーケティングは効果があるだろう
- ・広報コンテンツ（HP・動画）の蓄積がされていない。プラットフォームのような専用 HP を整えると変わってくるだろう

5. オブザーバー意見

○金原様（長寿社会開発センター）

- ・網羅的な HP が存在しない状況である。全体としてどう進めていくかという戦略は必要になるだろう
- ・個別では、開会式の運営が非常に大変だと聞いている

○小松様（埼玉県）

- ・検討したことの実施主体は誰か、厚労省主導か開催自治体主導かで自治体の受け止め方が変わってくる
- ・自治体の人的負担・財政的負担は非常に大きい状況。さらに開催自治体が新しく何かをやるといことは困難であるため、地方自治体の負担についての検討をしていただきたい
- ・ねんりんピックを福祉系の部署がやっていることにより、スポーツ振興や地域づくりにつなげにくい。国でも省庁間の連携など、検討の内容に入れてほしい

○清水課長補佐（厚生労働省）

- ・今後も開催自治体で主体となって大会を実施することは基本的な枠組みとしてお願いしたい
- ・本検討事業のなかで、どう開催自治体の負担を減らし Win-Win の仕組みができるのかということや、新たな効率的な方法など、国の立場でできることを含めて検討していきたい

○薄葉様（スポーツ庁）

- ・自治体向けの運動スポーツ習慣化促進事業においては、部局を横断した実行委員会形式での実施を求めているところ（単年度から 3 年間の事業にスキームを変更）
- ・横の連携を図っていただくことを願っている

○黒田様（東京都）

- ・令和 10 年の東京大会では、これまでの規模の大会をベースにしながらも、何か発信できるようなものがないかを検討し、東京ならではの大会にデザインしようとしているところ

6. 調査計画説明（臼井香苗・株式会社 JTB 総合研究所）

○調査目的

- ・現状課題明確化
- ・持続可能な開催方法を検討
- ・参加者・地域・企業が積極的に関与できる仕組みの構築

○調査概要

① アンケート調査

- ・都道府県・政令指定都市（67 自治体）：開催期待・改善点・レガシー
- ・競技・文化団体（104 団体）：運営課題・改善期待
- ・一般市民（50 歳以上 500 名）：健康観・運動習慣・参加意向

② ヒアリング調査

- ・民間企業：協賛意向・win-win 関係構築
- ・メディア関係：効果的情報発信方法
- ・先進取組団体：成功要因・展開可能性

③ 現地調査

- ・ねんりんピック岐阜大会での運営・参加者・地域連携状況観察

7. 調査計画への委員意見

○藤原座長

- ・自治体調査：回答の担当部署要検討、アンケート項目の事前検証が必要
- ・競技団体調査：ねんりんピック以外の全国大会への関わり方を質問
- ・一般市民調査：把握したい情報に応じて年齢層を要検討、ねんりんピックに限定せず、大会認知度以外の興味関心の把握
- ・企業インタビュー：社会課題解決型の企業を選定

○手塚委員

- ・老人クラブでは地域文化伝承館というイベントを実施しているが、大会期間中に、同じ会場で企業がサンプル配布やアンケートをしていた。食品関係は、そのように参加している企業もあるので良い
- ・地域・社会貢献の事業を実施しているので話しが聞けると良い

○押見委員

- ・重み付け質問：複数回答で上位 3 つ選択等の工夫（特に選択肢が多い設問について）
- ・地域イベントへの参加状況について追加：ねんりんピックとの関係性を把握
- ・ウェルビーイング・孤独感について追加：運動効果の定量的把握

○古田委員

- ・深掘りヒアリングの重要性：オンラインのアンケート調査による限界を補完する必要がある
- ・過去開催自治体へのヒアリング：生の声が聞けるとよい

8. 今後のスケジュール

- 第 2 回：10 月 28 日（火）11:00-13:00 各調査中間報告・改善案検討
- 第 3 回：12 月中旬（予定） 最終報告・具体的施策検討
- 第 4 回：2 月中旬（予定） 報告書方向性確認・政策提言取りまとめ

9. 主要論点・課題

- ・ターゲット層の明確化：既存参加者または新規参加者、年齢層別アプローチ
- ・大会規模・開催方法：現行維持または縮小・効率化
- ・民間企業連携：win-win 関係構築、CSV への発展
- ・自治体負担軽減：国・自治体役割分担明確化
- ・部局横断連携：福祉・スポーツ・地域づくり部局協力体制
- ・継続性・レガシー活用：大会後の地域活動継続仕組み
- ・認知度向上：Web マーケティング、動画活用、情報蓄積プラットフォーム

以上

令和7年度老人保健健康増進等事業 第2回有識者検討会(議事録)

日時:2025年10月28日(火)11:00~13:00

場所:厚生労働省12階共用9会議室+Teams

参加者:(資料2)第2回 有識者検討会 参加者名簿参照

1. 開会・挨拶

- 事務局挨拶(片岡章・株式会社 JTB 総合研究所)
 - ・ 配布資料の確認(議事次第、資料2~6、参考資料3点)

- 厚生労働省挨拶(清水修・厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐)
 - ・ ねんりんピック岐阜2025は関係者の方々のご尽力もあり無事に終了した。
 - ・ 視察をされた方々をはじめ、今後に繋がる感想やご意見をいただきたい。

2. ねんりんピック岐阜2025大会 実地調査報告

- 大会概要
 - ・ 第37回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2025)は、岐阜県全域を会場とし、自然や伝統文化を活かした運営が特徴。
 - ・ 大会の基本方針は、「世界でも類を見ないスピードで少子高齢化が進む日本において、すべての人々が生涯健康で活躍できる社会づくりを目指す」。
 - ・ 「清流に 輝け 広がれ 長寿の輪」をテーマに、全国から高齢者を中心とした参加者を迎え、地域住民やボランティアも多数参画。
- 総合開会式
 - ・ 開会式は岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催され、約1万人の選手・招待者が参加し、盛大な雰囲気であった。
 - ・ 途中、昼食時間が設けられるなど高齢者に配慮した構成であった。
 - ・ 屋外開催のため天候リスクが課題となり、荒天時の対応やタイムスケジュールの工夫が必要である。
- 競技・イベント運営
 - ・ 岐阜県内各地で水泳、卓球、ラグビー、eスポーツ、ウォークラリーなど多様な競技が実施された。

- ・ 地元中高生のアナウンスや応援団、広い休憩スペースの設置など、高齢者への配慮や多世代交流が見られた。
- ・ 一方で、一般来場者や地域住民などの応援が少ない点、物販や地域PRの方法に検討するべき点があると感じられた。

- 協賛企業・物販
 - ・ 協賛は地元企業を中心に複数が参画。
 - ・ 物販ではTシャツやタオルなどが人気であり、マスコットキャラクターやデザイン性の高いグッズが売上に大きく影響する。
 - ・ 今後は全国規模の企業協賛や、より魅力的なグッズ開発が求められる。

- 総合開会式
 - ・ 地元児童合唱団や保育園児の演出など、多世代参加型で温かみのある内容であった。
 - ・ 会場キャパシティによる参加者の制限や大幅な時間超過が課題である。

- 課題と提案
 - ・ 認知度向上のための広報戦略強化(特にウェブ・SNS・YouTube活用)が必要である。
 - ・ 企業協賛の多様化・全国展開をするべきである。
 - ・ 参加者のモチベーション維持のために、種目の固定化を検討するべきである。
 - ・ 運営ノウハウの継承・パッケージ化を進め、次回開催県への更なるスムーズな引継ぎができる体制を整えるべきである。
 - ・ 参加者の宿泊・交通費負担を考慮し、軽減案を検討するべきである。

※各委員からのご意見等

- 藤原座長
 - ・ セレモニーは盛大である一方で、広報の弱さを感じられ、発信力強化が一番の課題である。
 - ・ イベントの規模をふまえると、企業展示コーナーに出店する企業自体の数が少ない。
 - ・ 企業協賛は地元企業中心だが、全国展開企業の本社からの協賛の可能性を模索するべき。
 - ・ 地域文化伝承館はクオリティが高く、高齢者の活力が見られ、スポーツだけでなく文化祭部分のアピールも重要であると感じた。
 - ・ 中高生の活躍も要所要所に見られた。中高生・大学生のお披露目の場として活用できるのでは。多世代交流では、若者から応援してもらうのみならず、高齢者がいかにそれに対して感謝を表現できるのかというのも今後重要になる。
 - ・ デザイン性の高いお土産やロゴ制作など、ねんりんピック自体を浸透させるためのブランディング強化をするべきである。

- 古田委員
 - ・ 大会の素晴らしさ(開会式の規模、地域性、高校生との融合、競技の熱気)と社会的な意義の高さを感じることができた。
 - ・ 最大の課題は認知度の低さであり、マーケティング・広報の改善が必要である。
 - ・ ウェブでの情報発信改善(YouTube活用、自治体の情報発信しやすい仕組みづくり)が必要である。
 - ・ スポンサーやメディア取材が少ない。「ねんりんピックのスター」を作るような「人にフォーカス」した活動が有効ではないか(合同開会式で表彰された95歳スイマーの例)。

- 押見委員
 - ・ 大会の本格性(国スポレベル)やボランティアの対応に良い意味で驚いた。
 - ・ 参加者の高い消費意欲は地域へのかなりの経済効果があり、スポーツだけでなくツーリズム・カルチャーのトータルパッケージとしての価値がある。
 - ・ 協賛企業獲得のため、国スポのリブランディング事例(JAPAN GAMES)を参考に、トップカテゴリーのスポンサー枠(通年・複数年契約)設定などを検討してはどうか。
 - ・ 「ねんりんピック」のネーミングが参加者・スポンサーにとって魅力的かどうか、再検討する機会でもあるのではないかと。
 - ・ ねんりんピックの参加者はアクティブな高齢者のロールモデルである。

- 手塚委員
 - ・ 総合開会式の入場行進廃止により、選手の負担が軽減されており良かった。
 - ・ 屋外開催は、雨天時の課題があり、屋内開催(大阪・神奈川大会の例)を検討するべき。
 - ・ 地域文化伝承館は、各地の老人クラブの活動紹介など、スポーツ以外に盛り上がるイベントである。
 - ・ 各競技会場の地元のおもてなしコーナー(汁物の提供・物販)は好評であった。

3. アンケート調査中間報告(臼井香苗・株式会社 JTB 総合研究所)

- 調査対象・方法
 - ・ 開催・未開催自治体、競技団体(中央・地方)、一般市民(50歳以上800名)を対象にアンケートを実施。
 - ・ ウェブ調査や郵送調査を組み合わせ、幅広い意見を収集。

- 自治体アンケート
 - ・ 開催時期は現状維持またはやや遅め(10月下旬~11月)が望ましい。
 - ・ 運営負担の軽減や連携強化を求める声が多い。

- ・ 開会式・閉会式は任意参加や屋内開催を希望する意見が増加している。
- ・ 宿泊・輸送面では料金高騰やアクセスの課題が顕著に表れた。

○ 競技団体アンケート

- ・ 参加メリットは「モチベーション向上」「交流」が最多であった。
- ・ 経済的負担の軽減や、全国大会の代替としての活用を希望している。
- ・ 企業協賛や広告連携は現状としてまだ十分に進んでいない。

○ 一般市民アンケート

- ・ 健康意識は高いが、体力低下や孤独感が課題である。
- ・ スポーツイベントへの参加経験は少なく、認知度も限定的である。
- ・ 参加促進には「価格の低さ」「近距離開催」「初心者歓迎」「医療サポート」が有効である。
- ・ 情報源はテレビや自治体広報誌が中心だが、情報未取得層も多い。

○ 総論

- ・ 高齢者の社会参加・健康増進の意義は大きい。
- ・ 運営負担や経済的負担、認知度の低さが大きな課題である。
- ・ 今後はデータ分析を更に進め、年齢・競技別の傾向把握や、参加者アンケートを活用していく。

※各委員からのご意見等

○ 手塚委員

- ・ 宿泊費・交通費の経費高騰が選手負担となり、参加しにくい状況がある傾向にある。

○ 押見委員

- ・ （開催自治体同士の）ノウハウが移転されないことが課題であり、自治体の負担感増につながっている。
- ・ いかにパッケージ化して、次の自治体に移転していくシステムを作っていくか。広報面では、ホームページの統一プラットフォームを構築し、うまく次の開催自治体に移転するなど。知識とノウハウをスムーズに移転できると、負担感減少が期待できるだろう。

○ 古田委員

- ・ 宿泊の不満が全体の満足度を大きく下げることがある。
- ・ 大会参加者のモチベーションが非常に高いため、種目が毎大会変わることが気になる点である。

○ 藤原座長

- ・ 企業協賛は単なる広告費でなく、地域包括ケア推進における官民連携のプラットフォーム構築のため、企業集めの良い機会と捉えるべき。
- ・ 企業が開発したい商品・サービスを参加者に体験してもらい、全国の参加者から意見を聞く「リビングラボ」的な参画方法も検討するべきである。

4. ヒアリング調査中間報告（片岡章・株式会社 JTB 総合研究所）

○ ヒアリング対象

- ・ ヒアリング企業案として民間企業 10 社、メディア企業 4 社、先進的取組企業 4 社を候補として挙げた。
- ・ 既に民間企業 2 社、メディア、先進的取組企業へヒアリングを実施した。^{e)}

○ 主な提案内容

- ・ ねんりんピックの概要、価値、課題について。
- ・ 企業協賛は単年度ではなく、継続的・戦略的なタイアップに向けた検討。
- ・ 健康寿命延伸や地域連携、健康麻雀大会など、企業独自の取り組みとの連携。
- ・ 認知度向上や広報強化において、メディアとの連携やデジタル広告の活用。
- ・ アクティブシニア層への直接アプローチやマーケティング機会としての活用。
- ・ 公式パートナー制度や冠スポンサー、体験型ブースの導入など多様な連携スキームの検討。

※ヒアリング企業の要点

○ ①

- ・ 健康寿命延伸、地域連携重視。健康づくり・地域社会への波及効果を提案できれば継続的協賛の可能性はある。

○ ②

- ・ 介護予防事業受託実績があり、専門的サービス提供が可能である。
- ・ 地域密着型企業のため全国大会型イベントへの直接参加は課題があるものの、地域での継続的な健康づくり・交流の場には関心がある。

○ ③

- ・ 地域密着型社会貢献活動（健康麻雀大会など）を展開し、ねんりんピックとの親和性が高い。
- ・ 冠付与、公式連携可視化、企業対抗戦・他世代参加枠導入、自治体連携・広報力活用による認知度向上・多様な主体参画に貢献が可能であり非常に意欲的である。

○ ④

- ・ 大規模イベント主催・共催ノウハウが豊富である。
- ・ 大会の事前・事後記事掲載、特集号発行、協賛企業獲得業務委託（デジタル広告等）などの連携ができる可能性がある。ただし、資金面が課題となる
- ・ 高齢社会・地域活性化を重要視しており、広報課題解決のパートナーとして最適である。

※企業ヒアリングを踏まえた新たな開催方式の検討案

（清水修・厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐）

○ コラボ開催・新たな開催方式の提案

- ・ 企業の取り組み PR に活用できるコラボ方法を検討。
- ・ 競技ごとの冠スポンサー制（例：〇〇プレゼンツ麻雀大会、ノルディックウォーキング大会）を検討。
- ・ 厚生労働省の後援・大臣賞・ねんりんピック名称使用による地方イベントの推奨・推進の提案。
- ・ 競技団体主催イベントをねんりんピック内で実施する形も検討。

※各委員からのご意見等

○ 手塚委員

- ・ 地方大会（都道府県版ねんりんピック）での選手選考方法の整理に活用できる可能性があるのではないか。

○ 押見委員

- ・ アクティブシニアのデータ取得は、企業にとって大きな価値がある（1 万人のアクティブシニアのデータは貴重）。
- ・ 健康系アプリを活用したデータ取得など、企業にとって大きなメリットとなる。

○ 古田委員

- ・ 1 万人の参加者への直接アプローチの機会には価値がある。
- ・ 認知度の低さという課題に関して、ウェブ情報発信プラットフォーム構築（統一ホームページ、YouTube アカウント）が重要になる。
- ・ 企業が応援したくなるストーリー作り（人にフォーカス）も有効ではないか。

○ 藤原座長

- ・ 企業の健康経営・文化経営の PR として、企業から選抜されたシニアアスリートの参加も方向性としてあるのではないか。

5. 令和 9 年度ねんりんピックスピンオフイベント案

○ 目的・方向性

- 単なる縮小版ではなく、新たなねんりんピック実施方法のモデル的実証を目指す。
- エンターテインメント性を重視し、PR も含む。
- 団塊の世代の多様な趣味に即した新たなコンテンツを検討。
- 民間企業とのコラボ実施、他の大会・取り組みとの合同実施(食のイベントなど)も視野に入れる。
- 効果検証し、令和 10 年度以降のねんりんピックに生かす。

○ 概要案

- 基本方針:ねんりんピックの意義を維持しつつ、楽しく気軽に参加できる要素、PR を含むイベント。
- 名称お祭りのような名称を検討。
- 時期:秋口、2 日間程度。
- 会場未定
- 内容:オープニング、トークイベント、ステージイベント、スポーツ体験、多世代交流レク大会、企業ブースなど。

○ 今後のスケジュール

- 令和8年春までに概要発表、具体的な計画を策定。
- 効果検証を行い、令和 10 年度以降の本大会運営に活用

※各委員からのご意見等

○ 手塚委員

- 地方自治体の関わり方が気になるところ。協力したい。

○ 押見委員

- 略称で言えることも重要。
- トライアルの機会として、e スポーツの多世代型交流イベントを導入してみてもどうか。高齢者と子どもが同じフィールドで戦え、参加者のバリエーションが増えることに意義がある。

○ 古田委員

- 人にフォーカスを当てたトークイベントの開催なども面白そう。
- 東京開催であるため、地域文化伝承のような要素がない代わりに、健康に関心の高い参加者向けに「健康を学べる場」や「健康へのモチベーションを高める場」の提供という方向性も。

- スポンサーと連携したコンテンツ作りも魅力的である。

○ 渥美様(スポーツ庁健康スポーツ課健康・体力づくり係長、オブザーバー)

- イベントの成功には来場者増加が重要であるため、金曜日の午後開催という設定では一般参加者が来づらいのではないかと。土日開催など、日時設定の再検討が必要である。

○ 金原様(一般財団法人長寿社会開発センター審議役企画振興部長、オブザーバー)

- スピンオフイベントは厚労省 などが 主催となるため、これまでの県主導とは異なり、運営方法を工夫する必要がある。
- 広報戦略に関しては、民間企業の知見を借りて一体的に進めたい。

○ 清水修様(厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐)

- e スポーツは岐阜大会でも多世代交流として実施されており、オンラインでのつながり促進にも効果があると感じた。スポンサーもつきやすい可能性がある。
- 今後、各業界の企業へのヒアリングも予定しており、ブランド力やデザイン力に関する意見や協力を得たいと考えているところ

○ 藤原座長

- 30 数回続くねんりんピックの歴史を、展示や映像で振り返るコンテンツも面白い。
- 「人にフォーカス」する観点から、長年競技を続けてきた参加者を「ヒーロー・ヒロイン」としてクローズアップし、生きがいやライフスタイルを紹介する機会もなる。
- 日本が健康長寿大国であることを踏まえ、スピンオフイベントを日本の元気な高齢者とそれを支える施策を国際発信する機会にもなるのではないかと。海外からの評価が国内認知度向上にもつながる可能性がある。

○ 小山様(一般財団法人長寿社会開発センター企画振興部企画振興課課長、オブザーバー)

- 長寿社会開発センターでは毎年ねんりんピック選手の体験談集を作成・公開しており、愛媛大会では「人にフォーカス」した特別企画も実施しているので、協力できるとよい。

○ 黒田様(東京都スポーツ推進本部スポーツ総合推進部連携推進担当課長、オブザーバー)

- 委員からの意見を参考にし、令和 9 年度の厚労省イベントも含め、今後の東京大会の企画に活かしていく。

○ 小松様(埼玉県福祉部ねんりんピック推進課課長、オブザーバー)

- ねんりんピックの開催に向けた地方自治体と国(厚労省、長寿社会開発センター)との関係性の見直しが必要になると考えている。

- ホームページや協賛企業に関する課題は国主体で全体を見て進めるべきであり、これまで都道府県は財源や人材を負担してきたが、この機会に大会運営のやり方の見直しが必要ではないかと。

6. 閉会

- 次回の第 3 回有識者検討会は 12 月 19 日(金)に開催予定。

以上

令和7年度老人保健健康増進等事業 第3回有識者検討会(議事録)

日時: 2025 年12月19日(金)9:00~11:30

場所: TKP 新橋カンファレンスセンター 13B 会議室 + Teams

参加者: (資料2)第3回 有識者検討会 参加者名簿参照

1. 開会・挨拶

- 事務局挨拶(片岡章・株式会社 JTB 総合研究所)
 - ・ 配布資料確認(議事次第、資料 2~7、参考資料 4 点)
- 厚生労働省挨拶(清水修・厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐)
 - ・ 各委員への個別ヒアリングのご協力に感謝したい
 - ・ アンケート調査結果を踏まえた忌憚のないご意見を頂戴したい

2. アンケート調査報告

- 自治体向けアンケート
 - ・ 都道府県、政令指定都市、過去開催自治体、直近開催自治体、未開催自治体を対象に調査を実施した。
 - ・ ねんりんピックの魅力として、高齢者の社会参加促進、健康増進と生きがいづくり、参加者間の地域交流の活性化、地域経済文化振興への貢献、企業団体連携によるイベントの質の向上が挙げられた。
 - ・ 課題としては、開催時期の柔軟化、種目数や内容の分かりにくさ、総合開会式の時間短縮要望、開催場所の屋外・屋内選択に伴うリスク管理、都道府県持ち回り式による運営負担、選手募集の困難さ、企業団体との協賛連携の戦略的アプローチ不足が指摘された。
- 競技団体向けアンケート
 - ・ 競技者のモチベーション向上、交流促進、生涯スポーツとしての価値、競技の普及・振興が魅力として挙げられた。
 - ・ 課題としては、運営スタッフのノウハウ共有不足、参加者の経済的・物理的負担、開催地の利便性、運営の柔軟性不足、種目選定ルールへの不満、企業連携の未活用が示された。
- 一般向けアンケート
 - ・ 健康維持増進の機会、社会参加と交流の促進、生きがいと自己実現の提供、地域経済と観光の振興、新たな挑戦のきっかけが魅力として挙げられた。
 - ・ 課題としては、認知度の低さ、参加意向の低さ、参加の多様な障壁、プログラム内容とニーズの不一致が示された。
 - ・ ねんりんピック参加者は主観的健康度・生活満足度が高い傾向が見られた。

※有識者・オブザーバーからのご意見等

- 古田委員
 - ・ 満足度や期待が高い一方で、自治体の開催負担が大きいという課題がある。
 - ・ ノウハウ共有やホームページ作成などについて、仕組みを見直すことで負担軽減が可能。
 - ・ 宿泊に関する不満は大会の本質的な部分とは異なるが、全体の満足度に大きな影響を与えるため改善が必要。
 - ・ 94.6%に認知されていないのは大会規模と開催回数を踏まえると残念であり、改善が大きな課題。
- 押見委員
 - ・ 自治体アンケートにおける開催自治体と未開催自治体のギャップについて感じた部分はあるか。
- 事務局(臼井)
 - ・ 実際に開催した自治体の方が「思っていたよりも大変だった」と感じる傾向が見られた。
- 押見委員
 - ・ 未開催県と、開催件とのギャップは認識していった方が良い。
 - ・ 課題(宿泊、交通など)を抽出できたことは成果であり、スリム化・簡素化、雛形化が必要。
 - ・ スポンサー獲得は難所である。スポーツコミッションのような半官半民組織へのアウトソースも一案である。
 - ・ 認知度改善も必要だが、ねんりんピックのメインターゲットをどこに設定するか、どの層に情報を届けていくのかの議論も重要である。
 - ・ ねんりんピック参加者は元気であるという認識は当然だが、「参加することで活力を分けてもらえる」というメッセージングが大事である。
 - ・ 自治体にとって、類似イベントとねんりんピックは重複する部分があるかどうか、自治体にとってイベントが不足しているのであれば、ねんりんピックが魅力的なコンテンツになる。自治体のニーズについて気になった。
- 藤原座長
 - ・ 自治体の魅力として挙げられた「高齢者の社会参加促進」や「健康増進」が、ねんりんピックによるものなのか、あるいは日頃の各自治体の行政事情にどのくらい上乗せされているのか見えにくい点がある。
 - ・ スポンサー獲得に関して、JリーグやBリーグのようなプロフェッショナル団体が社会貢献活動として企業と連携している事例を参考に、社会貢献性のあるプロの団体を介する案もある。
 - ・ 開催自治体にとって、地域活動の集大成とすることのメリットと、運営の大変さというものの天秤がある。
- 手塚委員
 - ・ 自治体職員の経験からも、大会運営(特に組織づくり)が最も大変である。
 - ・ 一般の認知度は低いが、老人クラブ内ではねんりんピックはかなり認知されている。

- ・ ねんりんピックが直接健康増進に寄与しているとは言いにくい、日頃の地域活動の集大成としてのメリットはある。
- ・ 他県との交流は非常に期待しており、良いイメージを持っている。
- 金原様(一般財団法人長寿社会開発センター審議役企画振興部長、オブザーバー)
 - ・ 効率化の観点から、種目数の多さによる自治体の負担と、競技団体からの種目維持の要望のバランスが難しい。
 - ・ 運営ノウハウの引き継ぎについては、競技団体からも自治体からも意見があったので考えていけないといけない。
 - ・ 宿泊施設の問題(早朝出発の場合の朝食提供など)は工夫の余地がある。
- 押見先生
 - ・ スポーツイベントの評価について、オリンピックなどのメガスポーツイベントは、あまり大きなインパクト(経済的にも、社会的にも)を期待しすぎないほうがいい。
 - ・ ねんりんピックは、イベントをテコにして、その後の通常行政で高齢者の健康増進につながるような位置づけにすべき。
 - ・ イベントによるブースト効果の後が大事である。
 - ・ イベント後の普段の生活における高齢者の運動習慣やネットワークをいかに作るかがさらに重要である。
 - ・ ねんりんピックを通じて、通常の高齢者施策をより良くしていく、今まで動かなかったネットワークを動かしてあげられるような仕組みを、新たな企業とつなげるなどという位置づけが望ましい。
- 藤原先生
 - ・ イベント単体での効果だけでなく、レガシーとして何が残ったか(新たな参加者、若者の関心など)を行政評価としてヒアリングしていくということが重要。

3. 企業・省庁ヒアリング調査報告

- ⑤
 - ・ シニア層を中心とした健康増進・地域社会への貢献活動に積極的であり、ねんりんピック会場での健康測定や相談ブース設置、自治体・地域団体との健康イベント共同開催、企業 OB・OG の参画による地域活動活性化などの連携が考えられる。
- ⑥
 - ・ 地産地消や国産食材の PR イベントを全国各地で展開しており、ねんりんピックとの連携可能性として、健康食フェスや食育ワークショップ、多世代交流型イベントの開催が考えられる。
- ⑦
 - ・ 対象企業のコンセプトを活かし、スポごみとの連携、ユニフォーム提供、継続的なタイアップ、店舗ネットワークの活用などの連携が期待できる。

- 民間企業との連携モデルとして、厚生労働省の公的信頼性・政策推進力と企業のブランド力・ネットワークを掛け合わせることで、持続可能な連携モデルの構築を目指す。

※有識者・オブザーバーからのご意見等

- 手塚委員
 - 生命保険会社は地域貢献に積極的だが、単発で終わる傾向。継続的な取り組みが難しい。
 - ⑥は全国的な会社であり、ねんりんピックに冠などがつけば良いと注目している。
- 押見委員
 - 企業は多くのアイデアを持っている。
 - スポンサーメリットとして、ねんりんピックをスポゴミの「頂点を決める大会」の場として提供することも考えられる。
 - 大会のイメージと企業のイメージフィットが重要であり、ねんりんピックのブランドイメージ戦略が鍵。
 - 社会貢献はどの企業にも響きやすいが、「高齢者だけ」のイメージではなく、よりポジティブなイメージ発信が重要である。
 - 企業ヒアリングで OB・OG の参加という話があったが、スポンサー企業に参加してもらえば、企業としても一体感醸成というメリットに繋がるのではないかと。
 - ねんりんピックは、参加型なので参加する権利を広げていく方がファンも増えるのではないかと。
- 藤原座長
 - 企業の運動会様式での対抗戦（現役社員・OB・シニア社員が一緒に）も良いアイデア。レトロな競技も面白いのではないかと。
 - ブランドイメージについて、⑥との連携では、ユニフォーム提供だけでなく、日頃のファッションアドバイスなど、⑥ならではの期待したい。
 - 各社のブランドイメージで工夫していただけるとありがたい。
 - 企業にメリットが無いと継続的な参画に結びつきにくい。
 - ⑤との連携では、地域の郷土料理を子供たちと作ったり食べたりだけではもったいない。例えば、表彰制度や商品開発につながるような見せ方も重要である。最近、コミュニティビジネスとして地産地消の製品を通して高齢者の就労活動につなげる事例がある。
- 古田委員
 - 広告協賛に留まらないポジティブなアイデアが多く、スポンサー連携の潜在的可能性を感じた。
 - 具体的な推進には専門的な体制が重要である。
 - アンバサダーの起用は、認知度向上にシンプルだが非常に有効である。
- 小松様（埼玉県福祉部 ねんりんピック推進課課長、オブザーバー）
 - 埼玉県でも、他生命保険会社と包括連携協定を結び、広報協力を得ている。

- スポゴミにおいて、ユニクロとの連携に関心を寄せている。埼玉大会でも環境美化活動としてスポゴミを検討しており、コラボレーションできるとよい。
 - 企業の本部と現場の見解の相違が課題となるケースが多々あるため、厚生労働省が企業を引っ張って実施することを期待している。
 - ⑥には、大会運営スタッフボランティア、開会式参加の子どもたちのユニフォーム提供も協力を得られないかと考えているところ。
 -
4. 効率的・効果的な開催方法について
- ねんりんピックの開催コスト構造（岐阜大会例）、物価高騰・人手不足による経費増加、収入の主が県費・国費で協賛金は限定的である。今後はコスト構造の見直し、多様な財源確保が課題となる。
 - ブランド再構築（ロゴ・キャッチコピー刷新）、広報一元化（総合 Web サイト・SNS 統合）、運営マニュアル・パッケージ化、レガシーの可視化（評価指標設定・効果の見える化）が具体策として考えられる。

※有識者・オブザーバーからのご意見等

- 古田委員
 - リブランディングは重要である。前提として、ねんりんピックがどういう大会が明確でないと認知度を上げる施策も効率的に進まないのではないかと。
 - 現在のポジショニング（競技性重視と交流・健康志向の間）ゆえの課題があるため、ポジショニングの検討と課題改善は紐付いてくるのでは。
 - 情報発信プラットフォームの一元化は非常に効果が高い。サイトのボリュームと歴史が蓄積され、アクセスが集まりやすくなる。
- 押見委員
 - ブランディングについて、イコール「高齢者」ではなく、高齢者を含みつつも現役世代も含むような言葉だとよい（例：アクティブライフ）。現状の「健康寿命の延伸」「生きがいづくり」「世代間交流」のみでは「高齢者」イメージを払拭できない。
 - ポジショニングの「総合型」はコスト増に繋がる。簡素化との両立のため、オリンピック等を参考にしてコア種目とローカル種目に分けるなど柔軟性を持たせる仕組みも検討すべきではないか。
 - レガシーの評価指標は、専門的になりすぎず、測りやすいものから継続的に測定できる指標を選ぶことが重要である。
- 手塚委員
 - レガシーの話は重要である。大会終了後の事務局解散により、せっかく積み上げたものが引き継がれない課題がある。

- ホームページの一元化は良いアイデアである。どうやって事業成果を継続するかということが、各自自治体に任されているということが難しい。終わった後に何が残ったかを、報告書ではなく、事業化していくことが大事である。
 - 藤原座長
 - リブランディングの際、ロゴやキャッチコピーだけでなく、マスコットキャラクターも検討すると良い。若い世代が持つようなものを、この機会に作ってもよいのではないかと。
 - 海外に向けての SNS 発信も検討してもいいのでは。日本の健康長寿の取り組みは海外から注目されており、海外メディアの関心も引ける可能性がある。協賛企業も海外展開を視野に入れている場合もある。
 - 小松様（埼玉県福祉部 ねんりんピック推進課課長、オブザーバー）
 - 認知度向上について、埼玉県でも地道な PR でやっと県内の知名度が上がってきたところ。知ってもらえないと、参加してもらうことも難しい。ぜひ厚生労働省主導での全国的な PR を希望する。
 - 統一マニュアルについて、現在の大会運営は慣例に頼る部分が多い。種目についても慣例となっているという状況を踏まえて、ねんりんピックの開催要綱と実態の乖離の見直しをお願いしたい。
 - 毎年5月に開催自治体で実施している全国担当係長会議について、主催を厚生労働省に移管できないか。時期的に自治体の負担が大きいため、厚生労働省が ねんりんピック の運営について主体的に取り組むことを希望する。
 - 金原様（一般財団法人長寿社会開発センター審議役企画振興部長、オブザーバー）
 - 具体的な方向性は素晴らしいが、これをどう実行していくか、いつまでにやるかという点を考えると、非常に難しい作業である。
 - 企業連携において、国が全国的な企業と連携する場合の公募方法や、その連携が各開催県にどう波及するかのスキームを明確にする必要がある。
5. 令和9年度 ねんりんピック スピンオフイベント案
- 令和9年度スピンオフイベントの基本構想を説明。
 - 単なるイベントではなく、ねんりんピック の PR・魅力向上を目的としたイベントとして実施予定である。
 - 基本方針として、コンセプトを策定し、趣味や社会参加、やりがい、ワクワクする機会を創出することを目指す。具体的には、広報・ブランディング強化、アクティブな高齢者像に応じた企画、世代間交流イベント、企業・団体とのコラボ企画、地域活動への波及・レガシー活用が目標である。
 - イベントは令和9年に開催予定であり、令和10年度東京で開催への橋渡しとなる。
 - メインステージ、交流イベント、健康ブース、企業・他省庁・公益財団との連携、地方の関連イベントとの連動が構成要素となる。

※有識者・オブザーバーからのご意見等

- 手塚委員
- ・ スピンオフイベント実施を前提として、老人クラブとして何ができるか検討したい。
- ・ 東京都老人クラブ連合会や全老連への早めの連絡を希望する。ステージやブースでの協力は可能ではないか。
- 古田委員
- ・ これまでの議論を盛り込んだ素晴らしい企画である。リブランディングやスポンサー連携など、新しい取り組みを生かすチャンスでもある。
- ・ アンバサダー起用は非常に効果的(例: 三浦知良氏)であり、認知度向上に大きく貢献し得る。イベントのタイミングで発表みたいなことも、非常に大きな効果がねええるのではないか。
- 押見委員
- ・ ポジティブに捉えており、トライアルの場として様々なチャレンジをし、次につながる大会にすべきである。
- ・ 「遊び」のコンセプトは非常に良い。スポーツ界の「エンターテインメント化」のトレンドにも合致している。
- ・ 笹川スポーツ財団(スポーツ・フォー・オール、TAFISA)との連携、意見交換や、社会連携に積極的な B リーグなどのプロスポーツ団体に声をかけるのも良いのではないか。
- 藤原座長
- ・ 提案のあったネーミングは良い。ただし、漢字表記だと誤解を招く可能性もあるため、ひらがなやローマ字表記も検討してほしい。
- ・ 「楽しい、嬉しい、ワクワク」というサブコピーは非常に良い。
- 金原様(一般財団法人長寿社会開発センター審議役企画振興部長、オブザーバー)
- ・ 素晴らしいアイデアだが、集客が課題。誰に対して、どう集客するのかを考える必要がある。
- ・ 集客だけでなく、全国の大会(県版ねりんピック)を紹介する動画を制作し、ネットで発信するなど、各都道府県への発信に力を入れることも考えられるのではないか。

6. 閉会

- 次回の第 4 回有識者検討会は 2026 年 2 月 13 日(金)10:00~12:00 に開催予定。

令和7年度老人保健健康増進等事業 第4回有識者検討会(議事録)

日時:2026 年2月13 日(金)10:00~12:00

場所:TKP 新橋カンファレンスセンター 13B 会議室 + Teams

参加者:(資料2)第4回 有識者検討会 参加者名簿参照

1. 開会・挨拶

- 事務局挨拶(片岡章・株式会社 JTB 総合研究所)
- ・ 配布資料確認(議事次第、資料 2、3、4)
- 厚生労働省挨拶(清水修・厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐)
- ・ 本検討会が最終回となるということで、活発な議論をお願いしたい。

2. ヒアリング調査結果報告

○ ⑧

(概要)

- ・ シニア向けプラットフォームを運営。オンライン情報提供、企業と個人のマッチングに強みを持っている。

(ねんりんピックへの関与)

- ・ 過去に出展経験あり。直近大会では費用対効果、財政面から参加を見送った。

(課題認識)

- ・ ねんりんピックの認知度の低さ、現地参加に限定される点を懸念。オンライン参加形態の導入、認知度向上後の出口戦略の必要性を指摘。

(連携案)

- ・ オンラインコミュニティによる交流促進、試合配信・レポート発信による認知向上、デジタルバйд解消、健康教室連携、企業タイアッププロモーション。

(所感)

- ・ オンラインと企業タイアップのノウハウは新規参加層獲得、情報発信に有効である。費用対効果と事業戦略の整合性が連携の鍵となる。

○ ⑨

(概要)

- ・ e スポーツをスポーツとして社会に根付かせることを目指している。全国都道府県対抗 e スポーツ選手権など公的イベントの実績を保有。

(ねんりんピックへの関心)

- ・ 高齢者福祉、障害者支援、地方創生の文脈での活用に積極的である。ねんりんピックとの連携に非常に前向きで鳥取大会にも来場した。

(連携案)

- ・ 競技運営ノウハウの提供、シニア向けゲームタイトルの選定(太鼓の達人、ぷよぷよ、グランツーリスモなど)、有名 e スポーツプレイヤー招聘によるエキシビジョン・交流、オンライン配信、パブリックビューイング、都道府県代表としての位置づけによるモチベーション向上。

(所感)

- ・ 身体的制約を受けにくい多世代参加、オンライン発信との親和性が高い。都道府県代表という目標設定は高齢者の生きがい創出に繋がる。

○ ⑩

(概要)

- ・ 全国 290 拠点以上でスポーツクラブを展開し、自治体・地域団体と連携することで高齢者の健康づくり・社会参加を推進している。

(ねんりんピックへの関心)

- ・ 共感が非常に強い。

(連携案)

- ・ 冠競技の共同創設、地域イベントの同時展開、参加者の健康データ分析による介護予防アウトカムの可視化、店舗・人材を活用した地域コミュニティ形成支援。

(所感)

- ・ 店舗と自治体連携の実績は、ねんりんピックの認知拡大、参加者層拡大、持続的レガシー創出に貢献し得る。開催自治体側の具体的な協力要請・提案が Win-Win の関係構築に重要である。

○ 民間企業との連携モデル(再掲)

- ・ 行政と民間の強みを掛け合わせることで、参加者の多様性、社会的インパクト創出、地域コミュニティ活性化につながる。

※有識者・オブザーバーからのご意見等

○ 手塚委員

- ・ 企業によってスタンスが大きく異なる。利益に繋がらないと協力が難しい企業体質もある。

- ・ ⑨は、e スポーツがねんりんピックの種目として採用された際に積極的に関与してもらえるのではないか。

○ 押見委員

- ・ スポンサーシップ獲得には、ねんりんピック側が求める内容を整理し、カテゴリー化・パッケージ化(単発、長期など)について考えていく必要がある。

- ・ e スポーツは多世代型イベントとして良い入り口になり得る。若者と高齢者が一緒に競技でき、オンライン活用や年間シリーズ化も可能性がある。

- ・ 公式アプリのような統一プラットフォームの構築があるとよい。健康データ収集は企業にとって魅力的な要素であるため、データ提供をうまく絡めたスポンサーシップのあり方も検討すべきである。

(質問:長期的なスポンサーシップと単発スポンサーシップの見極め方についてどう考えていくとよいか)

- ・ 企業の目的(例: データ蓄積)によって、長期的な関与が必要になる。

- ・ スポンサーシップは、大会ごとのパッケージと、複数年契約(通年)のトップカテゴリーに分けるなど、カテゴリー化して発信していくと良い。

- ・ データは金銭だけではない、重要な観点である。

(質問:自治体が企業と連携を進める際、コーディネーターの役割をする人が入る場合がある、進め方について実際どのようにするとよいか)

- ・ 事務局体制を内政化するか外政化するかによる。国スポのようにスポーツ協会がマーケティング部署を持つパターン(内政化)や、アジア大会のように外部の民間のノウハウを取り入れるパターンがある。持続する組織体制の構築が課題である。

○ 古田委員

- ・ 多様な方向性の連携案が出てきたことが評価できる。ねんりんピックの理念への共感から、資金面以外の連携も模索可能である。

- ・ 特に民間企業は効果を求めるため、認知度向上が大きな課題であり、そこが連携の鍵となる。

- ・ ⑨からの、過去のねんりんピック優勝者との交流イベントというアイデアは、人にフォーカスした連携として、広報的にも非常に効果的なのではないかと。

○ 藤原座長

- ・ ヒアリング企業の中には、近視眼的なビジネス展開をする企業と、⑩のように社会を見据えて戦略的に取り組む企業がある。

- ・ スポンサーとしてだけでなく、アイデアも一緒に考えてもらうような企業との協賛・コラボが重要である。来年度以降も継続的なコミュニケーションを取りながら、連携の色々な整理を期待する。

3. 最終調査報告書案報告

○ 0 章 事業の目及び実施概要

- ・ 事業の目的と実施概要。
- ・ 高齢者の健康寿命延伸への貢献、効果的・効率的な開催方法という 2 つのテーマ。
- ・

○ 1 章 ねんりんピックの概要

- ・ 創立 50 周年記念事業、参加者数の増加、多岐にわたる内容、主催者構成。

○ 2 章 ねんりんピックの意義・期待される効果の整理

（参加高齢者）

- ・ 健康・交流・生きがいを力強く後押ししている。岐阜県のアンケート結果（参加者の 82.7% が自身の健康を良いと認識）を根拠に、心身の健康維持が好循環となっている。

（開催自治体）

- ・ 地域に多岐にわたる恩恵（レガシー、多世代交流、地域コミュニティの絆）がある。

（選手派遣自治体）

- ・ 代表選考会が地域の健康づくり事業の推進における原動力となっている。

（競技団体）

- ・ 競技の普及、新たなシニア層ファンの獲得が必要である。

（協賛企業）

- ・ アクティブシニア層へのアプローチ、マーケティング機会、社会貢献活動において非常に有用である。

（総括）

- ・ 健康寿命延伸、地域共生社会実現、官民連携による価値創造といった日本の重要課題に対する実践的な解となるポテンシャルがある。

○ 3 章 ねんりんピックの課題整理

（運営面）

- ・ 開催自治体と競技団体の運営負担が大きい（ノウハウの蓄積が困難、財政・人的負担増）。
- ・ 長時間の開会式、転倒リスクなど身体的負担への懸念がある。
- ・ 選手募集が困難（競技人口減少、費用負担、女性選手確保）である。

（参加面）

- ・ 一般市民における圧倒的に認知度が低い（9 割以上が「知らない」）。

- ・ 参加意向の低さ、体力・興味のある種目・情報不足といった参加への障壁がある。（根本的課題）
- ・ 「ねんりんピックとは何か」というブランドイメージが社会に浸透しきれていない。（総括）
- ・ 運営面の持続可能なモデルへの転換、参加面における新規参加者の呼び込み、ブランドイメージ浸透が急務である。

※有識者・オブザーバーからのご意見等

○ 古田委員

- ・ 参加者と一般高齢者の健康認識・生活満足度の差（30%程度高い）に注目している。
- ・ アクティブシニアのロールモデルとなる大会であり、存在意義が高い。
- ・ 経済波及効果の伸び（9 億から 13 億、30-40%増）に注目。
- ・ スポンサーやツーリズムの可能性が高く、ツーリズムはさらに経済波及効果を高める要素になる。

○ 押見委員

- ・ 構成について異論なし。
- ・ 膨大なデータのため、エグゼクティブサマリーの作成が重要。

○ 手塚委員

- ・ 運営する自治体の困難さを認識しつつも、1 万人の高齢者が動くことによる地域経済へのメリット（飲食、土産など）は大きい。

○ 4 章 ねんりんピックのあり方に係る検討の方向性

（大会の理念とブランドの再定義）

- ・ 認知度不足を解消するため、「誰のための大会か、どのような価値を提供するか」を言語化し、名称・ロゴ・キャッチコピーのリブランディング、ブランドストーリー構築が必要である。

（多様な関係者と価値を共創する大会モデルへの転換）

- ・ 参加者だけでなく、家族、地域住民、協賛企業、競技団体、観光関係者など、全てのステークホルダーが「参加してよかった」と思える大会を目指すべきである。スポーツ体験、デモンストラクション、地域交流、共同企画など多様な参加価値を創出する。

（価値を未来へつなぐ持続可能な開催モデルの構築）

- ・ 運営コスト・人的負担増、会場分散による一体感不足の課題を踏まえ、開催方式の見直し（集中・分散のメリット・デメリット比較）、運営マニュアル・広報ツールのパッケージ化による自治体負担軽減、レガシーの計画的創出・活用が必要である。
- ・

○ 5 章 ねんりんピックの開催方法の整理・提案

（広報 PR 戦略）

・ 課題

- ✓ 認知度低い
- ✓ 情報発信が大会ごとにバラバラ
- ✓ ウェブサイト・SNS 運用不十分
- ✓ ターゲット別発信不足。

・ 提案

- ✓ 総合的なポータルサイト構築（全国大会として一元的な情報発信、過去大会情報の蓄積、継続的な発信）。

・ 総合サイトの機能

- ✓ 参加者向け、来場者向け、メディア向け、運営関係者向けに機能を整備する
- ✓ 国スポや全国障害者スポーツ大会を参考に統一設計するべきである。

・ SNS 活用

- ✓ ターゲット別に媒体を使い分け（高齢者層に Facebook・YouTube、若年層に X・Instagram）
- ✓ 動画コンテンツの活用。

・ 現状の課題

- ✓ 検索エンジンの情報が整理されていない
- ✓ SNS フォロワー数が不足している
- ✓ 大会終了後にサイトが閉鎖し、情報を得ることが難しい

・ 解決策

- ✓ 国主導によるねんりんピック総合ウェブサイト整備（アーカイブの一元管理、継続性、地域連携、企業連携事例の蓄積）
- ✓

（魅力向上・ブランディング）

・ 課題

- ✓ 高齢者イベントのイメージが強く、広い層への訴求が難しい。

・ 提案

- ✓ ブランドの再構築（健康、生きがい、多世代交流など、高齢社会に求められる価値を全面に出す）。
- ✓ ロゴ・キャッチコピーの刷新（健康寿命延伸、多世代交流、生涯現役社会を伝えるデザイン）。
- ✓ ブランドストーリーの制作。

・ PR

- ✓ 参加者の声を活かした PR（体験談、成功事例）を推進する。

（効果的・効率的な実施方法）

- ・ 運営改善の四本柱
 - ✓ 広報強化
 - ✓ ブランド改革
 - ✓ マニュアル化・パッケージ化
 - ✓ レガシー活用
- ・ コスト構造
 - ✓ 開催費用が約 15～16 億円(市町村交流大会、開閉会式、宿泊・輸送費が大部分)かかっている。
 - ✓ 物価高騰・人手不足で効率化が急務である。
- ・ 総合開閉会式の改善
 - ✓ 大規模形式の見直し(屋内開催、時間短縮、演出簡素化)
 - ✓ 分散開催、代表者入場方式など柔軟な選択ができるようにする。
- ・ 宿泊・輸送の改善
 - ✓ シャトルバス効率化
 - ✓ ハブ拠点活用
 - ✓ 宿泊日数の最適化
 - ✓ 交通便の良い宿泊地の確保・提供
- ・ 競技会場の改善
 - ✓ 既存施設活用
 - ✓ 競技数の見直し
 - ✓ 催し物のパッケージ化
- ・ 市町村の役割分担
 - ✓ 担当市町村間の引き継ぎ・ナレッジ共有の制度化
 - ✓ データベース化
 - ✓ 定期的な共有会議

（マニュアル化・パッケージ化）

- ・ 再現性の低い運営体制から再現性の高い運営への移行が必要である。
- ・ 標準運営手順
 - ✓ 総合開閉会式標準仕様
 - ✓ 輸送計画テンプレート
 - ✓ 競技別必要人員・医療体制・備品レイアウトのパッケージ化
- ・ 中央ハブの標準化
 - ✓ 広報素材、マニュアル、チェックリスト、過去データなどを統一ポータルサイトに蓄積
- ・ レビュー会議の制度化

- ✓ 先催県、開催県、後催県の担当者によるレビュー会議を制度化するべきである。

（民間企業・協力団体の参加方法、協賛金募集の強化）

- ・ 背景
 - ✓ 高齢者市場拡大、多くの企業が健康・生きがいづくりに関心を持っている
 - ✓ ねんりんピックはアクティブシニアに直接アプローチできる非常に有用な機会である。
- ・ メリット
 - ✓ 企業にとっては社会貢献発信、ブランド価値向上、自治体との繋がりが強化、新たな市場の開拓に繋がる。
- ・ 協賛形態
 - ✓ ヘルスケア、スポーツ、アパレル、メディア、金融保険、交通・旅行など、業種に応じた継続的協業の可能性がある。
- ・ 協賛金の傾向例
 - ✓ 市民マラソン、Bリーグを参考に、協賛カテゴリーと権利の幅を参考として提示。
- ・ 参画モデル
 - ✓ パートナーからブースまで階層化し、企業が目的に応じて参加しやすい構造となっている。

（レガシーの活用）

- ・ 課題
 - ✓ 大会が一過性に終わり、地域活動に生かされていない。
 - ✓ 成功事例の共有不足。
- ・ 提案
 - ✓ レガシー活用イメージの共有(人の繋がりの活用、レガシー設計とアウトカム指標による効果検証)。
- ・ 地域活動への波及効果
 - ✓ 住民一体感醸成、地域イメージ向上、観光誘客強化、地域スポーツ・文化活動継続のきっかけとなり得る。
- ・ レガシー活用施策
 - ✓ 評価指標設定
 - ✓ 成功事例データベース化
 - ✓ 地域活動連携
 - ✓ 継続イベント実施
 - ✓ 栃木県宇都宮市の 3X3 世界大会事例を参考提示

※有識者・オブザーバーからのご意見等

- 手塚委員
 - ・ 総合開閉会式における安全性確保の重要性を再確認。老朽化した施設での階段など、高齢者への配慮が必要である。
 - ・ 先催県、開催県、後催県の三者共有の制度化は非常に自治体の負担軽減に繋がる良いアイデアである。
- 古田委員
 - ・ 今回の調査で課題と対策が洗い出されたことを評価している。
 - ・ ただし、予算やこれまでのやり方もあり、全ての対策実施は困難なため、優先順位付けが重要である。重要性和実現性の観点から、具体的な進め方を検討すべきである。
- 押見委員
 - ・ ポジショニングマップについて、現状だけでなく、今後多世代を巻き込む方向性を示すため、若年層への広がり性を示す表現を加えるべきではないか。
 - ・ ポジショニングマップの総合型はコスト増につながるため、分散開催も視野に入れた表現が必要である。今後のスポーツイベントは分散開催が当たり前になる。
 - ・ 図で表現する時に、イメージが大事である。
 - ・ レガシー活用について、ねんりんピックを一時的なイベントで終わらせず、自治体の総合計画やスポーツ振興計画にどう反映させ、中長期的に継続させるかということである。アジアゲームズは、イベントの4年後に KPI を設定しているため、1つの事例になる。
- 小松様(埼玉県、オブザーバー)
 - ・ 開催コストについて、15～16 億円という記載に対し、埼玉県は 21 億円を要求しており、さらにさいたま市をはじめとした市町村負担もあるため、実際の費用はもっと高額になる。物価高騰もあり、今後も開催費用は上がっていくと思われる点が懸念事項である。
 - ・ 人材確保も課題である。企業連携は、事業が増えれば人も必要となる。国や自治体は人手不足の状況で、さらに新しい取り組みを実施することが自治体への負担増になる。
 - ・ レガシー活用は重要だが、ねんりんピック主催部署(福祉部系)の旗振りだけでは他部局の協力が難しい。厚生労働省が国レベルで他省庁も巻き込み、ねんりんピックをどう変えていくかという流れができればうまくいくのではないかと。
- 黒田様(東京都、オブザーバー)
 - ・ 課題の整理等妥当である。
 - ・ 東京都は令和 10 年度開催に向け、各自治体で競技を実施する従来の枠組みで準備中であるところ。
 - ・ リブランディングや大会再設計、開催方式見直しの時間軸が不明瞭で気になっている。
 - ・ 厚生労働省として、式典簡素化など、今後の開催都道府県がどのような方向性で従来の大会と異なる形に見直しを進めていけばよいのかという羅針盤を示す予定があるか伺いたい。

（質問：民間企業ヒアリングでエクサウィザーズやウェルシア薬局への追加調査の有無について）⁴

- 清水修（厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐）⁴
 - ・ 今年度の調査研究事業での追加ヒアリングは想定していない。⁴
 - ・ 今後の優先順位や方向性を踏まえ、厚生労働省として検討を進める中で、さらなる民間企業との連携の機会は設けたいと考えている。⁴
- 森様（東京都、オブザーバー）⁴
 - ・ ねんりんピックの課題は可視化されたが、運営側、参加側、企業側など、視点が異なる事象が多く、それぞれの視点で整理しないと解決に至らないのではないかと。⁴
 - ・ 主催者・運営側としては、引き継ぎ作業の制度化や学び場の創設が必要であると感じている。区市町村レベルではまだ一部しか実施できていない。⁴
- 高橋様（岡山県、オブザーバー）⁴
 - ・ 令和 12 年度開催に向けて、まだ個別具体的な検討には至っていないが、見直しを踏まえてどういう形になるか心配している。⁴
 - ・ 先催県、後催県、開催県による三者共有が制度化すると非常にありがたい。ただし、令和 10 年度開催の東京都が、令和 12 年度の岡山県にどう引き継ぐのか、大会が終われば体制が変わってしまうため、イメージができないところ。⁴
- 金原様（長寿社会開発センター、オブザーバー）⁴
 - ・ やらなければならないことをやれる範囲で考えていく必要がある。⁴
 - ・ 認知度不足は地方レベルでも課題である。高齢化が進む中で、地方大会への参加者が減っている。効果的な啓発、広報 PR 戦略を地方レベルでもどう実施できるか考えていかないといけない。⁴
 - ・ レガシーとして、大会を毎年しっかり実施していくことも重要である。推進機構も1つのレガシーの表現ではあるが、体制に限られる中で、地方団体との連携も大切となる。⁴
- 小山様（長寿社会開発センター、オブザーバー）⁴
 - ・ 過去大会の引き継ぎとして、開催県が主催する後催県会議が年 2 回開催されており、情報交換が行われている。負担のない形で引き継ぎができる方法が望ましい。⁴
- 河野様（全国老人クラブ連合会、オブザーバー）⁴
 - ・ 老人クラブ連合会では福祉・生きがい関連イベントとして伝承館を行ってきた。スポーツ競技を中心に参加者として楽しむ方が多いなか、伝承館では、運営側として参加している。⁴
 - ・ 伝承館に関わった高齢者は、来館者との交流を通じて感動を得ているが、これは開催地の高齢者に限られるため、全国の高齢者がねんりんピックに思いを馳せるような広がりが必要である。⁴
 - ・ 報告書は多角的に掘り下げられており、今後の伝承館を考える上でも参考になる。⁴
- 渥美様（スポーツ庁、オブザーバー）⁴

- ・ 古田委員の意見と同様、優先順位付けが重要であり、実現可能性も踏まえるべきである。
- ・ 認知において 94.6%が詳しく知らないという点は問題である。周り的高齢者もねんりんピックを知らない人が多く、どうせ私たちは参加できないというイメージがある。自分ごととして捉えてもらう周知方法が大切となる。

4. 閉会

- 押見委員
 - ・ 半年間の検討会に感謝している。ねんりんピックに初めて参加して、素晴らしい大会があることを初めて知った。
 - ・ 運営サイドの視点として、何をやり、何をしないかを検討し、スリム化が重要である。オリンピックが持続可能な大会へ転換しているのと同様の状況。
 - ・ 再現性がキーワードとなる。デジタル活用（統一ホームページ、アプリ開発）は中長期的な課題である。
 - ・ 参加者の視点として、いかに魅力的な大会にするか（リブランディング）。ねんりんピックという名称の歴史を尊重しつつ、英語、カタカナなどのサブタイトルで全世代を巻き込む工夫が現実的である。
 - ・ 日本発信で、アジアのシニア版大会につながる可能性も夢見している。
- 古田委員
 - ・ 半年間の検討会に感謝している。ねんりんピックは素晴らしい大会で、岐阜大会での参加者の楽しそうな様子が印象的である。
 - ・ 開催負担と認知度が大きな課題だが、今回の事業でかなり洗い出された。
 - ・ デジタルマーケティングの活用は、特に認知度向上において改善できる余地が大きい。
- 手塚委員
 - ・ 岐阜大会で 10 回目のねんりんピック参加だった。令和 9 年と令和 11 年の開催について、報告書を見て各自治体に手を挙げてもらい、継続してほしい。
- 藤原座長
 - ・ 自治体の費用面・人材面での苦労を再認識した。厚生労働省が実態を把握し、できる範囲内で密な情報交換を進めることが重要である。
 - ・ 広報活動や企業スポンサーシップは、国が骨格を考え、地元がカスタマイズする形が現実的である。
 - ・ コンセプトについて、サブタイトルで示すことが重要である。「元気な人だけのイベントではない」というメッセージを発信するべきである。
 - ・ 多世代共生、異文化共生を含め、幅広い層から支持を得るべき。
 - ・ ボッチャや認知症の方とサポーターのウォーキングなど、多様な参加者を受け入れる事例を参考に、地域共生をプログラムにどう見せていくかが必要である。

- ・ スポーツだけでなく、文化活動の盛り上がりにも期待している。文化活動は健康維持だけでなく、改善にも寄与するデータがある。趣味サークルなど、地域の多様な活動にもっとクローズアップすべきである。
- 清水修（厚生労働省認知症施策・地域介護推進課課長補佐）
 - ・ 様々な視点からの意見で課題と方向性が明確になった。
 - ・ 民間企業との連携は新たな視点があり楽しい経験であった。目標・目的を重ね合わせる部分を見つけ、今後も企業と対話を進めていく。
 - ・ 費用面、実施体制（他省庁連携）、レガシー（残せる価値）という大きな宿題が課せられた。
 - ・ 優先順位をつけ、できることから進め、都道府県とも意見交換し、ねんりんピックの発展に努める。
 - ・ 引き続き、委員、オブザーバーの皆様へ相談させていただきたい。